

國澤新兵衛

正四位勳二等、工學博士
東京府在籍

妻 清 明五、三生、大分、士、野尻狂介姉
男 新太郎 明三、一〇生
男 貞子 明四、一〇生、長男新太郎妻、
大學校家政科出身
男 滿次郎 明四、一〇生

君は舊高知藩士國澤四郎右衛門の三男にして元治元年十一月を以て生れ明治二十五年分家して一家を創立す同十二年帝國大學工科大学土木科を出で九州鐵道會社に聘せられ同二十五年職を鐵道に奉じ後鐵道會社に聘せられ同三十九年南滿洲鐵道會社理事となり更に同副總理に擧げられ大正四年工學博士の學位を受け同八年其職を辭す曾て高知縣より衆議院議員に推される家族は尙三男陸郎(明四、一〇生)あり長女富美(同二五、二生)は京都府人日置藤夫長男雅章に二女貴美(同二九、一〇生)は茨城縣人近藤常明長男男爵に嫁せり(東京市外大久保町百人町二七〇電四谷一八六七)

國澤健雄

正五位勳四等、地方技師、大阪府
警察部衛生課長、高知縣在籍

妻 信 明二、三生、東京、士、堀口正
女 惠 明四、五生、跡見女學校出身

君は高知縣人國澤大策の長男にして明治九年一月を以て生れ大正二年家督を相続す先是明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し福島縣警視廳各技師となり次いで防衛官に轉じ關東廳廣島縣福岡縣各技師を経て大正十三年滿洲に出張す同年地方技師に任ぜられ現に大阪府警察部衛生課長たり家族は尙弟進(明一、二生)同妻千代喜(同二五、一〇生、高知、長瀬隆意二女)との間に一子あり長女愛(同三八、七生)は東京府人平原不二也に嫁し妹千鶴(同二七、二生)は分家せり(大阪、東、大手前ノ町府會)

國司伍七

從三位勳二等勳四級、豫備陸軍中
將、山口縣士族、
弘化三、七生、山口、士、三四信
一長女

君は山口縣人國司好三の弟にして明治三年五月を以て生れ同二十八年先代キクの養子となり家督を相続す夙に陸軍士官學校を卒業し同二十七年陸軍歩兵少尉に任じ爾來果して大正十一年陸軍中將に陞る其間參謀本部第四部長東京灣要塞司令官第七師團長等に歴補し大正十五年豫備役となり現時閑地にあり養姪サチ(明一三、一〇生)は鹿兒島縣人隈部又雄に嫁し同ハル(同二八、四生)は山口縣人隈部又雄の養子となり養明順熊(同二五、一〇生)は分家せり(山口、吉敷、山口町)

國島武一郎

中央土地(株)常務取締役、國島商
店(株)取締役、京都府在籍

妻 治 正 明一五、九生、養父順正長女
男 八重 明三〇、八生
男 彌久太郎 彌久太郎姉

國司直行

正四位勳六等、男爵、別格官幣社
豐榮神社司官、舊山口藩國老

妻 麗 明二、三生、山口、中島與九郎
女 都 明四、六生

君は山口縣人高戸好太郎の弟にして明治三年二月を以て生れ先代大三郎の養子となり同三十一年家督を相続す土地の有力者にして現に國山市會議長たり又就實高等女學校長として育英の事に從事す家族は尙四男都夫(明四、一〇生)五男佳壽郎(大二、八生)孫興一(同二一、二生)長男英寛長男同由紀子(同二五、一〇生)同長女あり二女櫻(明二六、一〇生)は廣島縣人藤生亮に嫁せり(岡山市紙屋町一四)

國友研介

鐵工業
大阪府在籍

妻 美子 明三〇、一〇生、養父芳太郎長女
男 康彦 大九、六生

君は岡山縣人高草素助の弟にして明治二十四年八月を以て生れ大正八年先代芳太郎の養子となり家督を相続す鐵工業を營む家族は尙長女壽賀(大一〇、一〇生)二女美枝子(同二五、一〇生)養母イト(明一四、一〇生)あり(大阪、浪速、南高岸町八七二電六九九)

國友末藏

中央電氣(株)事務取締役
京都府在籍

妻 ヒロエ 衛門七、七生、京都、藤村松雄姉
女 秀子 明四三、九生

國原勇造

廣島縣多額納稅者、農業
廣島縣在籍

妻 龍三 明三八、九生
女 秀子 明四三、九生

國廣清一郎

海苔及絹糸商
山口縣在籍

妻 マサヨ 明一三、九生、祖父清右衛門長女
母 良子 明三七、七生、奈良、高坂惣七姉
男 清彦 大九、九生

國友研介

鐵工業
大阪府在籍

君は岡山縣人高草素助の弟にして明治二十四年八月を以て生れ大正八年先代芳太郎の養子となり家督を相続す鐵工業を營む家族は尙長女壽賀(大一〇、一〇生)二女美枝子(同二五、一〇生)養母イト(明一四、一〇生)あり(大阪、浪速、南高岸町八七二電六九九)

ク三九

國武史郎

國武(名)支配人
福岡縣在籍

妻 菊枝 明二九、四生、養父金太郎長女
君は熊本縣人美作常太郎の四男にして明治二十三年七月を以て生れ國武金太郎の養子となる現時國武合名會社支配人たり家族は尙長女年子(大五、二生)二女道世(同七、二生)あり(久留米、日吉町七二)

國谷亨

興業銀行、山陰縣在籍、
鳥取縣在籍

妻 さた 明七、五生、鳥根、倉鋪善左衛門
國谷家は舊幕時代土地の庄屋役を勤め苗字帯刀を許されたる家柄なり君は鳥取縣人船田專造の三男にして慶應三年八月を以て生れ先代禮造の養子となり明治二十二年家督を相続す夙に大學預備門及東京專門學校に學び爾來農業を業とし傍ら前記銀行會社の重役に擧げられ縣下の多額納稅者たり同三十七年衆議院議員に當選し日露事件の功に依り勳四等に叙し旭日小綬章を賜はる家族は尙庶子千里(大八、一〇生、生母、鳥取、後藤たみ)あり(鳥取、西伯、庄内村)

國富友次郎

岡山市會議長、就實高等女學校長
岡山縣在籍

妻 精美 明四、一〇生、養父大三郎長女
男 英寛 明二九、八生
男 鶴野 明三五、四生、長男英寛妻、岡山
男 忠寛 明三五、九生
男 正勝 明三九、一〇生

柁蠶糸の輸入を兼ね拮据經營よく今日の産を成せり君は其孫にして明治三十四年八月を以て生れ大正十四年...

嫁せり(京都、上京、河原町通夷川上ル指物町三六電上五六六)

士族佐伯國彦に同キク(同二六 五生は同縣人堀清平に嫁せり(山口、熊毛、岩田村) 参照 大塚武松、佐伯國彦男爵井上惺三郎河上肇の項

國松眞三郎 從七位勳六等、陸軍二等藥劑官、千葉市會議員、千葉瓦斯工業(株)監査役、喜惣治藥舖、藥神商

君は愛媛縣人國松武雄の四男にして明治十三年十一月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す同四十年...

君は群馬縣人國峰萬吉の長男にして明治十七年十二月を以て生れ同四十五年東京帝國大學醫學部醫學科を卒業し九州藥學專門學校教授大阪衛生試驗所技師等を...

國松仙吉 京都府多額納稅者、京都商工會議所議員、丸國、材木商

君は山口縣人國松仙吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十五年家督を相繼す同二十九年千葉醫學專門學校を卒業し喜惣治藥舖と稱し藥種商を營み傍ら...

君は高知縣人島村只三郎の弟にして明治十六年十月を以て生れ窪田平吉の養子となり大正七年分家して一家を創立す...

國光五郎 正七位勳四等、山口縣多額納稅者(株)監査役、岩田村長

君は山口縣人國光五郎の長男にして明治十三年九月を以て生れ後先代佐一の養子となり同四十年家督を相繼す...

君は沖繩縣人國吉延禧の二男にして嘉永五年七月を以て生れ後先代モセイの養子となり大正九年家督を相繼す...

窪田圓平 從五位勳六等、農林技師、山林局勤務、山梨縣在籍

君は山口縣人窪田有忍の六男にして明治十九年一月を以て生れ同四十四年東京帝國大學農林學科を卒業し...

君は高知縣人島村只三郎の弟にして明治十六年十月を以て生れ窪田平吉の養子となり大正七年分家して一家を創立す...

窪田源一郎 仁壽生命保險(株)取締役兼支配人、東京府士族

君は福井縣人窪田源一郎の長男にして明治六年十二月を以て生れ大正九年家督を相繼す...

君は山梨縣人窪田有忍の六男にして明治十九年一月を以て生れ同四十四年東京帝國大學農林學科を卒業し...

窪田庫次郎 資産家、長野縣士族

君は舊信州飯田藩士窪田鑄太郎の弟にして明治二年三月を以て生れ同二十四年家督を相繼す...

君は山梨縣人窪田有忍の六男にして明治十九年一月を以て生れ同四十四年東京帝國大學農林學科を卒業し...

窪田勘六 審美書院(株)専務取締役、帝國發明協會監事、石川縣士族

君は石川縣人窪田勘六の長男にして明治十九年一月を以て生れ同四十四年東京帝國大學農林學科を卒業し...

君は山梨縣人窪田有忍の六男にして明治十九年一月を以て生れ同四十四年東京帝國大學農林學科を卒業し...

ね縣下の多額納税者たり家族は尙二男大次郎(大四、一
二生)三女タキ子(同六、二生)四女タカ子(同二、一〇、
六生)五女富士子(同二、一〇生)四男正三郎(昭三、
一生)の外弟太一(昭二六、一〇生)同妻モモカ(同三
一、六生、福岡、柳原喜太郎長女)との間に三男二女
あり妹ミツエ(同二九、一生)は福岡縣人城島正人に同
オトミ(同三五、一生)は同縣人鎌ヶ江信行に嫁せり
(福岡、三浦、大善寺村)
參照 城島正人の項

隈元金左衛門 鹿兒島縣多額納税者、農業
鹿兒島縣在籍
妻 ミツ 安政三、八生、鹿兒島、小島嘉次
郎長女
養子 一夫 明二、二生、養子ケサマツ夫、鹿
兒島、田井村金太郎四男
養子ケサマツ 明一九、二生、養子一夫妻、鹿
兒島、隈元三五郎二女
孫 明四一、三生、養子一夫妻長男
君は鹿兒島縣人隈元吉右衛門の長男にして嘉永五年四
月を以て生れ明治十九年家督を相続す農業を營み鹿兒
島縣多額納税者たり家族は尙孫武吉(明四四、一生、養
子一夫二男)同吉(大二、一生、同三男)同オチエ(同
三、一生、同二女)同重二(同六、三生、同四男)同
サヲ(同九、一生、同三女)同香(同二〇、一生、同
五男)同榮二(同三一、一〇生、同六男)あり同ク(明
三八、一生、同長女)は鹿兒島縣人東郷に嫁し弟藤
吉(文久二、一生)同妻スエ(慶應元、一生、鹿兒島、
福元五右衛門二女)は其一女を伴ひ分家せり(鹿兒島、
肝屬、鹿屋町)

隈元金六 鹿兒島縣多額納税者、陶器商
鹿兒島縣在籍
妻 チカ 明七、一生、鹿兒島、徳田キク養子
明三三、二生
男 正義 明三三、三三、長男正義妻、鹿兒
島、坂元新助七女
女 テイ 明二八、二生
女 フミ 明三一、五生
女 キヲ 明四〇、四生
女 ハル 明四〇、四生
女 キケ 明四〇、四生
君は鹿兒島縣人隈元庄吉の長男にして明治二年六月を

以て生れ同九年家督を相続す陶器商を營み鹿兒島縣多
額納税者たり姉チヨ(慶應二、四生)は鹿兒島縣人川久
保伊助に嫁し弟ミネ(昭二四、一〇生)は同縣人村善吉
に嫁し弟金八は同縣人徳田キクの養子となれり(鹿兒
島市柳町)

隈本熊被 神興業銀行(株)取締役
宮崎縣人
祖母 ツヤ 天保一三、二生、宮崎、士、平
島傳吉長女
父 時 治 元治元、一〇生、現戸主
文久二、五生、宮崎、士、外林庄藏
母 シメ 文久二、五生、宮崎、士、外林庄藏
女 ハル 明二一、五生、熊本、浦田彦太郎姪
明四三、五生
妻 クミ 明四三、五生
君は宮崎縣人隈本時治の長男にして明治十六年一月
を以て生れ同三十九年法政大學を卒業し現時神興業
銀行取締役たり家族は尙二女アヤ(大五、三生)弟義雄
(昭三一、一生)同妻スワ(昭三三、四生、宮崎、井
野重被二女)及其三子同末義(昭三六、一〇生)同妻カ
ツヨ(昭三六、八生、宮崎、植村總太郎二女)及其一子
あり同榮(昭二〇、四生)同重作(昭二三、八生)は各分
家せり(那覇、下泉町二ノ九)

隈本繁吉 從四位勳三等、大阪高等學校長
福岡縣在籍
妻 スメ 明一八、一生、福岡、士、隈本要
次郎長女
養子 季八郎 明四一、四生、妻スメ弟
明四一、四生
君は福岡縣人隈本季十郎の三男にして明治六年一月を以
て生れ後先代佐平の養子となり同二十九年家督を相続
す同三十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し圖書
審査官補文部省圖書審査官同視學官官非縣立圖書
井中學校校長東京高等師範學校教授同視學官官非國
語學校校長朝鮮總督府事務官同視學官官非總督府國
語學校校長同視學官官非同視學官官非同視學官官非同
學校長高松高等商業學校校長等に歴任し昭和二年現職大
阪高等學校長に轉ず(大正七年教育視察の爲歐米各
國に出張せり(大阪市大阪高等學校内))

熊善兵衛 大阪府在籍
大木商
妻 かつ 明一一、一生、養祖父善兵衛二女
明一一、一生

熊貞子 明三四、七生、養父善兵衛二女
善之助 大一四、一生
君は兵庫縣人古結益夫の兄にして明治二十八年十二月
を以て生れ大正十二年先代善兵衛の養子となり同十四
年家督を相続し前名周兒を改む當家は攝州出身先々代
善兵衛に始まり代々材木商を營み君亦祖業を繼ぐ家族
は尙二男忠雄(大一一、二生)及び養姉榮(昭一七、一
二生)同夫政治郎(昭二六、一生、大阪、野原正兵衛三
男)養妹文子(昭四二、五生)あり(大阪、西、西長堀北
通一ノ八七電新町二二三)

熊井常三郎 群馬縣多額納税者、吳服商
群馬縣在籍
妻 かの 慶應二、七生、群馬、茂原伸藏二女
明二三、一〇生
男 彦十郎 明二七、九生、長男彦十郎妻、群
馬、岩崎廣次長女
男 孝之 明二九、八生
男 芳三 明三一、六生
男 明三三、一〇生、三男芳三妻、埼
玉、塚本榮平三女
男 七郎 明三九、二生
養子 七郎 明三九、二生
君は群馬縣人熊井多平の長男にして慶應元年十二月を
以て生れ明治十七年家督を相続す吳服商を營み現に群
馬縣多額納税者たり家族は尙孫久恵(大八、四生、長
男彦十郎長女)同千恵(同二〇、六生、同二女)同常郎
(昭一一、一生、同長男)同美恵(昭一三、七生、三男
芳三長女)弟梅吉(昭一六、一生、妹スミ(昭一一、八生)
あり同と(昭四、六生)は群馬縣人茂原新吾に同つる
(昭六、六生)は同縣人長坂義太郎弟半六に嫁せり(高
崎、田町)

熊谷巖 從六位、衆議院議員(岩手縣選出)
岩手縣在籍
妻 新 大八、一生
明二九、一生、東京、士、伊庭
秀榮長女

熊谷皓平 北設樂銀行、土地山林各(株)取締
役、愛知縣在籍
妻 ちよ 明一九、二生、長野、松澤千代
治長女

熊谷次八 吳服商
京都府在籍
妻 さと 安政五、二生、京都、連水吉兵
衛二女
男 治 明三四、三生、京都、相原兼次郎
二女

熊谷順之助 京都府多額納税者、砂糖商
京都府在籍
妻 幸三 明二九、八生、京都、宮井房次郎
三女
男 幸三 大六、二生

熊谷信太郎 監甲商
大阪府在籍
參照 岩野口安左衛門の項

熊谷榮三郎 小間物商
大阪府在籍
男 菊治郎 明三九、一〇生
女 シナ 明三六、四生
君は大坂府人熊谷覺兵衛の弟にして同信太郎の叔父な
り明治三年十一月を以て生れ同二十七年分れて一家を
創立す宗家と同じく小間物商を營み同業者中第一流を
以て知らる美術に興味を有す家族は尙四男正也(明四
二、八生)あり(大阪、東、南久寶寺町一ノ一六電船場
二五七四)

熊谷強助 正五位、愛知醫科大學教授
秋田縣在籍
妻 ユキ 元治元、二生、東京、士、辻村清
三女
男 幸次郎 明一六、一生、養父幸之輔長女
明四三、一〇生
女 登志 明三九、一〇生

熊谷五右衛門 勳四等、衆議院議員(福井縣選出)、
西宮金山(株)取締役、農業
福井縣在籍
妻 さき 元治元、二生、福井、高島より四女
明三七、五生
男 淳二郎 明二六、五生
女 吉野 明三七、五生、二男淳二郎妻、福
井、筒井仙助長女

熊谷五右衛門の長男にして慶應元年六月
を以て生れ明治十三年家督を相続す農業を營み傍ら前
記會社の重役を兼ね又明治四十五年以來衆議院議員に
當選する事四回現に其任に在り茲に福井縣會議員同參
事會員同副議長同議長等に擧げられ尙福井日報社長た
りし事あり家族は前記の外孫苞(大一一、九生、二男
淳二郎長男)同瑞瑠子(昭一四、五生、同長女)同惠美子
(昭二六、六生、同二女)あり長女貞子(昭二二、四生)は
福井縣人近藤善太郎長男由太郎に養子に(昭一七、八
生、福井、中島信近姉)は同縣人名村忠治に妹この五

君は京都市人熊谷源次郎の長男にして明治二十六年十
月を以て生れ同三十八年先代との養子となり同四十
年家督を相続し前名源次郎を改む吳服商を營む家族は尙
長女泰子(大一一、二生)あり(京都、下京、室町通五
條上ル電下三三七七)

君は京都市人熊谷得之助の長男にして明治二十五年二
月を以て生れ大正二年家督を相続す砂糖商を營み京都
府多額納税者たり家族は尙長女延子(大九、一生)二男
俊三(昭一一、五生)二女重子(昭一三、八生)三女保子
(昭一五、九生)弟建之助(昭三六、二生)同道之助
(昭四二、一生)あり同直之助(昭二九、二生)は分家
せり(京都、上京、西堀川通下長者町下ル榊屋町五電
西陣八三八)

君は秋田縣人熊谷東市の長男にして明治十四年一月を
以て生れ先代幸之輔の養子となり大正十二年家督を相
續す明治四十一年東京帝國大學醫學科大學を卒業し愛知
醫學專門學校教授に歴任し後愛知醫科大學教授
に任ぜられ現時に至る家族は尙二女久美(大七、九生)
あり父東市(嘉永二、一生、秋田、士、松村英壽二男)
は妹テイ(昭一八、一〇生)弟用藏(昭二二、九生)同妻
あい(昭二三、一生、京都、辻村三子松養子)及び其
子女を伴ひ分家し妹カウ(昭一七、七生)も亦同夫政之
助(昭一四、五生、秋田、菊地宮藏弟)と共に分家せり
(名古屋、中、堅三ツ蔵町五三電本局九八七)

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

正七位、醫學博士、大阪市立桃山
病院院長大阪府技術師、山形縣在籍
病院長兼大阪府技術師、山形縣在籍
母 きき 明四、一生、山形、森屋助長女

熊野與太郎

日本電機製造(株)社長、大阪電機製作所(株)専務取締役、黒崎電機製作所(株)専務取締役、大坂電機製作所(株)専務取締役、石川縣在籍

熊野芳太郎

廣島縣多額納稅者、山陽鐵道(株)監査役、糸物商、廣島縣在籍

熊原重太郎

宮崎縣多額納稅者、日向水力電氣(株)取締役、吳服商、宮崎縣在籍

熊原莊次

宮崎縣多額納稅者、日向水力電氣(株)代表取締役、日向水力電氣(株)監査役、宮崎縣在籍

熊原理平

宮崎縣多額納稅者、金融業

熊平源藏

廣島縣多額納稅者、廣島商工會議所、廣島縣在籍

熊本謙二郎 正四位勳三等、早稻田大學教授、東京府在籍
熊本 久兵衛 嘉永三、四生、現戶主
熊本 貞江 明二七、七生、兵庫、士、平野尙長女

熊本專治

奈良漢商、大阪府在籍

糸田幸次郎

取締役、日光社、フオード自動車、東京府在籍

ク之部 熊(本)糸、雲、倉(岡、垣、崎)

倉岡彦助

從四位勳三等、醫學博士、臺灣總督府醫院院長兼臺灣總督府技術師、臺灣總督府中央研究所技術師、臺北醫院院長、福岡縣士族

倉又左衛門

越又倉庫部、倉庫業

雲井憲二郎

川喜田商店(株)副社長、百五銀行(株)専務取締役、菱川(合)代表社員、三重縣在籍

倉垣為藏

安田銀行(株)伏見支店長、兵庫縣在籍

倉崎喜作

佐賀縣多額納稅者、祐徳軌道、徳島屋商店、養共同肥料、濱藤詰商會各(株)取締役、佐賀縣士族(株)監査役、農業、佐賀縣在籍

君は東京府人熊本春道の二男にして慶應三年十一月を以て生れ明治二十年家督を相續す凡に帝國大學法科大學に於て生れ同三十年家督を相續す凡に帝國大學法科大學高等師範學校各教授等に任ぜられ現に早稻田大學教授たり其學業として知られ著書數種あり家族は尙孫和喜子(昭二、三生、長男伸一郎長女)あり二男武彦(昭三、五生)は分家せり(東京市外高田町雜司ヶ谷旭出四三電牛込三九四五)

君は廣島縣人熊原莊次の長男にして明治十五年六月を以て生れ同三十三年家督を相續す廣島縣多額納稅者にして金庫商を營み廣島商工會議所副頭たり家族は尙長女初子(昭三、五生)は廣島縣人相野田彌平に嫁せり(廣島市市屋町二二)

君は福岡縣人倉垣久兵衛の五男にして明治二十年三月を以て生れ同四十三年山口高等商業學校を卒業し同年百三十銀行に入社し其後同行の安田銀行に合併せらるるや引續き就職し現に同行伏見支店長たり家族は尙長女梅子(大八、一一生)二男登同一〇、(二生)三女康子(同一四、七生)兄久四郎(明一三、一一生)同妻みね(同一六、三生、兵庫、岸本重吉長女)は共に分家し同弘治(同一七、三生)も亦分家し兄久四郎長女靜江(同三八、七生)は兵庫縣人三原隆二に嫁せり(京都、紀伊、伏見町安田銀行支店)

し前名一を改む農業者を養ひ傍ら前記諸會社の重役にし... 倉敷福太郎

倉敷福太郎

從四位勳四等、學習院教授... 倉品廣吉

倉品廣吉

新瀧縣多額納稅者、與板町長、新瀧縣... 倉島瀧之助

倉島瀧之助

長野縣多額納稅者、信濃絹絲紡績... 倉田重四郎

倉田重四郎

川崎第百銀行(株)下谷支店長... 倉田信太郎

倉田信太郎

廣島瓦斯電氣、防石鐵道各(株)取... 倉田泰藏

倉田泰藏

つちや足袋(名)代表社員... 倉田猛郎

倉田猛郎

倉田家は久留米市土着の商家にして代々つちやと稱し... 倉田幾藏

倉田幾藏

廣島縣多額納稅者、山陽鐵道(株)... 倉田恒太郎

倉田恒太郎

日本興業(株)取締役、酒類食品... 倉田藤四郎

倉田藤四郎

豐川鐵道(株)事務取締役、風來鐵... 倉田猛郎

倉田猛郎

倉田組鐵工所、廣濱塗工商會各... 倉田誠夫

倉田誠夫

三越吳服店(株)事務取締役... 倉谷晋三郎

倉谷晋三郎

大同銀行(株)取締役... 倉知誠夫

倉知誠夫

三越吳服店(株)事務取締役... 倉田繁太郎

倉田繁太郎

東京府人倉田繁太郎の長男にして明治十四年八月... 倉田謙

倉田謙

正四位勳四等、九州帝國大學技師... 倉田敬三

倉田敬三

大日本紡績(株)取締役... 倉知鏡吉

倉知鏡吉

正四位勳二等、錦旗勳章、貴族... 倉知善一

倉知善一

書記官統監府書記官外務省政務局長外務次官等に歴任し後官を罷め貴族院議員に勅選せられ錦鶏閣祇候仰付けらる現時貴族院議員にして錦華紡績東亞勸業會社の各社長たる外前記諸會社の重役として實業界に重きをなす長女光子(明三、二生)は神奈川縣人三留鑑兄喜之助の養子となり二女英子(同三五、九生)は同縣人上野吉二郎の養子となり三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり二十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり三十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり四十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり五十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり六十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり七十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり八十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十一女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十二女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十三女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十四女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十五女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十六女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十七女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十八女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり九十九女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり百女雅子(同三八、一八)は同縣人上野吉二郎の養子となり

倉塚 良夫

從四位勳三等、北海道帝國大學教授、工學部勳務、福岡縣士族。母 ヤエ 嘉永六、三三、福岡、土、竹内與内三女。妻 ムラ 明一七、六六、福岡、白石英治長女。男 憲一 明四二、一八。女 千代子 明四一、一八。女 フミ子 明四四、四三。女 フミ子 明二六、六六。

倉富 鈞

從五位、朝鮮銀行(株)検査役、福岡縣華族。父 勇三郎 嘉永六、五七、現戸主。妻 フチ 明二六、五七、貴族院議員兼井賢太郎長女。男 幹郎 大六、一〇。女 春美 明四四、三三。

倉林 香三

正五位勳三等功五級、陸軍少將、近衛師團軍醫部長、群馬縣在籍。妻 ツヤ 明二一、三三、栃木、船田三四郎長女。男 正尚 大八、八八。女 春美 明四四、三三。

倉持 正之助

栃木縣多額納税者、農業。妻 タネ 明二三、一〇、生、栃木、三澤虎一。男 正平 大八、一八。女 春美 明四四、三三。

倉持 隆藏

三倉商會、靴商。妻 隆藏 明二二、一〇、生、千葉、鶴岡郷毒妹。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

倉持 精市

倉持本店、造花材料並雜類商。妻 精市 明二七、一〇、生、栃木、大橋平藏。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

倉持 要一

從五位勳四等、衆議院議員(静岡縣選出)、文部大臣秘書官、瀧松市。妻 要一 明二二、一〇、生、静岡、土、本田。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

倉持 長吉

東京府多額納税者、南洋貿易信用(株)監役、豊田屋、玩具商。妻 長吉 明二二、一〇、生、千葉、鶴岡郷毒妹。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

郎(同六一、五生)は分家せり(福岡市橋口町一四電三三)。

倉橋 惣三

從五位、東京女子高等師範學校教授、静岡縣士族。妻 惣三 明二六、一〇、生、東京、内田アサ。男 正雄 大八、一〇。女 正 大七、二二。

倉橋 直次郎

雜穀肥料商。妻 直次郎 明一五、六六、養父方五郎長女。妻 銀藏 明二四、一〇、生、實父内田鈴次郎。男 正 大八、一〇。女 正 大七、二二。

倉林 源四郎

正五位勳五等、東京高等師範學校教授、埼玉縣在籍。妻 源四郎 明一八、一〇、生、養父元次郎二女。妻 美代子 明四二、一〇。女 正 大七、二二。

倉本 周誓

廣島瓦斯電氣(株)取締役、山口縣在籍。妻 周誓 明一三、一〇、生、山口、土、三輪。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

倉本 彦五郎

勸業銀行(株)取締役、東京府在籍。妻 彦五郎 明二四、一〇、生、東京、川島常太郎。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

倉本 周誓

廣島瓦斯電氣(株)取締役、山口縣在籍。妻 周誓 明一三、一〇、生、山口、土、三輪。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

倉本 彦五郎

勸業銀行(株)取締役、東京府在籍。妻 彦五郎 明二四、一〇、生、東京、川島常太郎。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

倉本 彦五郎

勸業銀行(株)取締役、東京府在籍。妻 彦五郎 明二四、一〇、生、東京、川島常太郎。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

倉本 彦五郎

勸業銀行(株)取締役、東京府在籍。妻 彦五郎 明二四、一〇、生、東京、川島常太郎。女 正 大七、二二。女 正 大七、二二。

栗田包吉 鞍手銀行、鞍手軌道各(株)取締役
 養子 鏡 郎 明一〇、六生、福岡許斐洗三郎二男
 明二五、九生、養子鏡郎妻、福岡
 君は福岡縣人栗田伴藏の弟にして明治元年三月を以て
 生れ同四十二年家督を相続す現時銀行會社の重役
 たり家族は尙孫哲次(大八、三三、養子鏡郎二男)同正
 人(同二〇、八生、同三男)同ハルエ(同二四、三三、
 同長女)及亡兄伴藏妻イハ(文久元、六生、福岡、中西
 友治長女)あり(福岡、鞍手、御村)

栗田儀藏 タカラヤ商店、毛皮室内裝飾品商
 岐阜縣在籍
 母 弘化二、一〇生、岐阜、栗田ちせ
 妻 八重 明三一、八生、愛知、板倉元姉
 男 利一 大一一、八生、
 君は岐阜縣人栗田太郎の二男にして明治二十一年六
 月を以て生れ大正十年家督を相続すタカラヤと稱し毛
 皮室内裝飾品商を営む家族は尙長女照子(大七、一〇
 生)二女秀子(同九、二生)二男治雄(同二二、一〇生)
 四女美代子(同二四、一〇生)あり妹も(明二二、六
 生)は岐阜縣人鶴岡時太郎に嫁せり(神戸、元町通二
 七二)

栗田金太郎 東京石川島造船所、石川島飛行機
 製作所各(株)取締役、東京府土族
 母 弘化二、一〇生、長崎、土、戸田鐵
 治二女
 妻 マサ 明一四、九生、佐賀、栗田正治二女
 男 寅 明三三、六生、府立第三高等女
 女 松子 明四一、一〇生、府立第三高等女
 女 純江 大一一、一〇生、
 君は東京府土族栗田丹藏の長男にして明治六年十一月
 を以て生れ同十九年家督を相続す同二十六年東京高等
 工業學校機械科を卒業し現時東京石川島造船所並に同
 飛行機製作所取締役たり家族は尙二男健一(大六、八
 生)あり長女直子(明三七、一〇生)岡山縣人土光菊
 次郎二男敏夫に嫁し弟正巳(同二五、一〇生)同進(同二
 七、一〇生)は各分家せり(東京市外千駄ヶ谷町原宿一

栗田末松 日本ラバーシート(株)監査役、土
 木建築請負業、愛知縣在籍
 母 伸之助 大九、一〇生、
 妻 てる 慶應三、一〇生、愛知、平野松兵
 男 仲之助 大九、一〇生、
 君は愛知縣人先代末松の長男にして明治二十三年十一
 月を以て生れ大正八年家督を相続す現時末松を改め
 め養子す土木建築請負業を営み現時日本ラバーシート
 會社監査役たり家族は尙長女一子(大七、四生)二男泰
 吉(同二〇、九生)二女光子(同二二、一〇生)姉じやら
 (明二二、一〇生)妹秋子(同三三、一〇生)あり弟桂市
 (同二五、一〇生)は同妻あや子(同三三、七生、愛知、

七〇電青山二六八
 參照栗田進の項

栗田敬治郎 大洲銀行、新谷銀行各(株)取締役
 大洲縣在籍
 母 キクノ 元治元、七生、愛媛、安達玄香長女
 妻 キヨ 明二一、一〇生、愛媛、佐伯文五郎
 長女
 男 文夫 大二、一〇生、
 女 梅子 大二、一〇生、
 君は愛媛縣人栗田熊雄の二男にして明治二十一年九月
 を以て生れ大正十四年家督を相続す現時各銀行の
 重役たり家族は尙二女積子(大八、八生)三女幸子(同
 六、五生)四女君子(同八、八生)五女俊子(同二一、八
 生)弟温雄(明三〇、一〇生)亡父邦住妻タカコ(弘化二、
 九生)あり弟徳輔(明三二、六生)は分家せり妹梅子(同四
 一、六生)は愛媛縣人池田鐵太郎に嫁せり(愛媛、喜多、
 天神村)

栗田眞治郎 毛織物商
 大阪府在籍
 母 トヨ 喜永六、三生、廣島、栗田茂助妹
 男 一男 大九、一〇生、
 君は大阪府人栗田トヨの庶子にして明治十七年十二月
 を以て生れ同三十一年家督を相続す毛織物商を営む家
 族は尙長女久子(大四、三三)二女好恵子(同六、四生)
 三女千鶴子(同七、一〇生)あり姉ヨネ(明一一、一〇
 生)は分家せり(大阪、東、横堀二ノ四九電本局二六九
 二)

栗田眞太郎 静岡縣多額納税者、農業
 静岡縣在籍
 妻 まさ 明三一、四生、静岡、栗田安太郎
 長女
 男 明三三、四生、
 君は静岡縣人栗田榮太郎の長男にして明治三年二月を
 以て生れ同十七年家督を相続す農業を営み静岡縣多額
 納税者たり養子みね(明二二、一〇生)は静岡縣人大石清
 五郎に嫁し叔父安太郎(慶應元、八生)は同妻ゆき(明

井田我孫雄姉)及び其一女を伴ひ分家し同東一(同二
 八、七生)從妹ハツエ(同四一、九生)も亦各分家せり
 (名古屋、西、志摩町五九電青六二八)

栗田進 正五位勳五等、專賣局參事、宇都
 宮地方專賣局長、東京府在籍
 妻 藤江 明二九、四生、佐賀、草場猪之吉
 二女
 男 藤 大六、七生、
 君は東京府土族栗田金太郎の弟にして明治十七年十二
 月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す明治四十二
 年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大正二年司稅
 官に任ぜられ同五年稅務監督局事務官同十年大藏事務
 官となり同十三年專賣局參事に任じ高崎地方專賣局長
 を經て現時宇都宮地方專賣局長たり家族は尙長女道子
 (大四、一〇生)二女久子(同九、三三)四女歌子(同二
 二、五生)あり(宇都宮、專賣局長官舎)
 參照草場猪之吉、栗田金太郎の項

栗田鶴之助 高知縣多額納税者
 高知縣在籍
 妻 壽美衛 明三三、六生、高知、森榮三女
 男 鶴一郎 明四三、一〇生、
 女 みづ 明四五、五生、
 君は高知縣人先代鶴之助の長男にして明治二十五年四
 月を以て生れ大正二年家督を相続す前名鶴之助を改め
 名才豪商にして縣下の多額納税者たり家族は尙二男(同
 二二、四三)二女節子(同七、二二)三女節子(同
 一三、四三)あり弟熊三郎(明三二、二生)同鶴雄(同三
 七、七生)は各分家せり(高知市浦戸町)

栗田貞太郎 静岡縣多額納税者、農業
 静岡縣在籍
 妻 まさ 明三一、四生、静岡、栗田安太郎
 長女
 男 明三三、四生、
 君は静岡縣人栗田榮太郎の長男にして明治三年二月を
 以て生れ同十七年家督を相続す農業を営み静岡縣多額
 納税者たり養子みね(明二二、一〇生)は静岡縣人大石清
 五郎に嫁し叔父安太郎(慶應元、八生)は同妻ゆき(明

五、六生、静岡、平野甚太郎三女)及其三子を伴ひ分
 家せり(静岡、周智、大居村)

栗田傳兵衛 從七位勳八等、鎌倉銀行(株)頭取
 都府縣在籍、津、監査役
 妻 キク 嘉永六、一〇生、神奈川、小山五
 兵衛長女
 男 傳 明六、九生、養父傳兵衛養子
 女 作 明二二、四生、
 君は神奈川縣人村田久四郎の二男にして明治元年十一
 月を以て生れ後先代傳兵衛の養子となり同二十五年家
 督を相続し前名彌次郎を改め養子す現時鎌倉銀行頭取
 たる外前記銀行の重役たり家族は尙孫喜勢(大八、八
 生、長男傳作二女)同傳三郎(同二〇、二生、同長男)
 同文四郎(同二一、一〇生、同二男)同秀之介(同二四、
 三三、同三男)同彦之介(同二五、一〇生、同四男)あ
 り長女ケイ(明二五、一〇生)は神奈川縣人小西正和に
 養妹ミナ(同九、一〇生)は同縣人仙田友吉長男謙之助に
 嫁し養弟昇平(同二四、一〇生)は同縣人栗田佐次郎の
 養子となり三男順道(同三五、六生)は前記昇平の養子
 となれり(神奈川、鎌倉、小坂村)
 參照小西正和、酒井繁の項

栗田嶺助 東山銀行(株)取締役
 長野縣在籍
 母 しの 嘉永五、一〇生、長野、青木兵吉
 妻 ふさ 明一三、一〇生、長野、赤沼良右衛
 門三女
 男 文雄 明三四、一〇生、
 男 文雄 明四〇、一〇生、長男文雄妻、長
 男 仁 明三六、一〇生、
 君は長野縣人栗田長藏の長男にして明治七年一月を以
 て生れ同十五年家督を相続す現時東山銀行取締役たり
 (長野、更級、東福寺村)

栗田茂兵衛 愛知縣多額納税者、栗田家(名)代
 表社員、美濃屋、吳服商
 愛知縣在籍
 妻 達子 明三六、九生、海軍中將舟越樺四
 郎長女
 男 太郎 大一二、四生、
 君は横濱の生糸商栗田多助の長男にして明治十九年十
 月を以て生れ同三十九年家督を相続す同四十二年東京

栗田勇作 静岡貿易(株)社長、江尻銀行(株)
 取締役、静岡縣在籍
 妻 てる 明元、二生、神奈川、小西正和叔母
 女 久一 明一九、一〇生、現戸主
 男 須磨 明二五、七生、長男久一妻、静岡、
 女 エツ 大二、五生、長男久一長女
 君は静岡縣人高尾作次郎の長男にして安政六年一月を
 以て生れ同三十七年家督を相続し前名清次郎を改め美
 濃屋と稱し吳服商を営み栗田家の代表社員にして同縣
 多額納税者たり家族は尙四男(大六、五生)孫美代
 子(同二五、一〇生)長男茂長女あり二女も(明二
 九、六生)は愛知縣人大池庄太郎に嫁せり(名古屋、
 中、門前町二ノ一〇電本局一五三三)

栗田庸太郎 三菱銀行(株)調査部部長
 東京府在籍
 母 ふさ 安政五、一〇生、群馬、宮崎鷹吉
 長女
 妻 達子 明三六、九生、海軍中將舟越樺四
 郎長女
 男 太郎 大一二、四生、
 君は横濱の生糸商栗田多助の長男にして明治十九年十
 月を以て生れ同三十九年家督を相続す同四十二年東京

栗田源次郎 中島屋、銅眞鍮商
 東京府在籍
 妻 正 明一七、四生、東京、福崎和吉妹
 女 柳 明四四、二〇生、
 君は東京府人先代源次郎の長男にして明治十一年九月
 を以て生れ同十二年家督を相続す中島屋と稱し銅眞鍮
 商を営む家族は尙孫吉(明三〇、一〇生)あり同孫三
 郎(同二四、一〇生)は分家せり(東京、神田、東今川
 町九電蓮花一八九〇)

栗野慎一郎 正二位勳一等、子爵
 東京府華族
 妻 ヒテ 慶應二、一〇生、福岡、奥村七郎
 養姉
 男 齊次郎 明一九、一〇生、從五位、文學士
 女 サチ 明三〇、五生、二男齊次郎妻、福
 岡、増田種美妹
 男 達三郎 明二一、一〇生、大連相生農場在勤
 女 美節 明三〇、八生、三男達三郎妻、從
 兄栗野義惠妹
 男 義六郎 明二六、四生、工學士
 女 淑子 明三五、一〇生、六男義六郎妻、島
 根、依孫一長女
 女 才子 明四〇、四生、雙葉高等女學校出身
 當家は南朝の忠臣栗田氏の末裔にして後醍醐藩主栗田
 氏に仕へ先代小右衛門に至る君は其長男にして嘉永四
 年十一月を以て生れ明治十四年外務省に出仕し外務少
 書記官外務省取調局長長官選信大臣秘書官選信書記官兼
 東京郵便電信學校校長長官選信大臣秘書官選信書記官兼
 同二十七年特命全權公使に親任せられ米伊佛露諸國
 に駐劄し同三十九年特命全權大使に陞り佛露諸國に
 付同四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ後子
 爵に陞る家族は尙孫綾子(大八、四生、三男達三郎
 長女)同連一(同二二、一〇生、同長男)同文字(同二五、

前一等書記官となり白耳義國在勤を命ぜられて今日に至る家族は尙長女カヨ(大二三、一一生)二女ミヨ(昭二、一一生)あり(在白耳義國日本大使館内)

栗原省三

銘酒喜久社丹醴造元、酒造業 廣島縣在籍 母 ます 明八、一一生、岡山、田邊爲三郎 妻 幹子 明四二、七生、陸軍中將奥田俊藏 君は廣島縣人先代省三の長男にして明治三十年五月を以て生れ昭和二年家督を相續し前名幸一を改め襲名す大正十四年京都帝國大學經濟學部を卒業し祖業を継ぎ銘酒喜久社丹醴造元として知らる姉文字(明二八、八生)は名古屋高等商業學校教授文學士河合逸治に嫁せり(廣島、世羅、西大田村)

栗原宗治

稲布金市商 東京府在籍 妻 ムメ 明一七、三生、東京、石原繁三郎 養子 二三吉 明二一、三生、養子よね夫、埼玉大島源之丞弟 養子 よね 明二六、五生、養子二三吉妻、東明二六、五生、養子三三四女 君は埼玉縣人栗原代八の二男にして明治十年二月を以て生れ同三十五年分家して一家を創立す稲布金市商を營む家族は尙孫健太郎(大八、一〇生、養子二三吉長男)同富子(同一〇、五生、同長女)あり(東京、日本橋、通靈町一二電漢花一四六六)

栗原彦三郎

衆議院議員(栃木縣選出)、東京市 妻 うめ 明二一、二生、茨城、厚綿兼次郎 君は栃木縣人栗原喜藏の二男にして明治十二年三月を以て生れ雑誌中外新報社を經營して知られ東京市會議員並に赤坂區會議員に選ばれ昭和三年栃木縣より推されて衆議院議員に當選す立憲民政黨所屬なり家族は尙二女義(大三、七生)三女道子(同五、四生)兄定貞(明四、三生、現戸主)同妻ツラ(同一、一一生、群馬、石

島文十郎二女)あり養弟與之助(同三一、五生、群馬、河内信三郎弟)は群馬縣人山口石作の養子となれり(東京、赤坂、氷川町二八電雲山五八三六)

一生、宮城、栗田充信長女)は宮城縣人村田文司に嫁す(同二〇、二生)は同縣人里見良長長男良臣に同まつよ(同二五、一一生)は同縣人互理晋二に從妹はつよ(同二八、一一生)は茨城縣人松山市太郎弟健次郎に嫁せり(京都、上京、吉田河原町一九)

栗原武右衛門

東京府在籍 妻 セキ 嘉永六、四生、埼玉、富岡彌五右衛門二女 母 テツ 明一二、一〇生、東京、梅田梅太郎 妻 武英 明三三、五生 妻 ハル 明三六、一〇生、長男武英妻、東京、新田新藏二女 男 武之助 明三五、九生 女 ケイ 明四四、七生 君は東京府人栗原武右衛門の二男にして明治九年二月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名廣吉を改む製粉業を營む家族は尙三男武三郎(明四二、五生)四女チカ(大四、一一生)四男武志郎(同六、一一生)五男武樹(同一〇、七生)孫武弘(昭二、二生、長男武英長男)あり(東京市外中野町三三二電中野四四)

君は埼玉縣人栗原和市の二男にして明治六年十一月を以て生れ同二十四年分れて一家を創立す製糖業を營み現に縣下の多額納税者たり家族は尙孫久(大二三、一〇生、長男光次長男)同育雄(同一五、一〇生、同二男)同敏子(同一三、一一生、養子幸二郎長女)あり長女なを(明三五、一一生)は富山縣人出澤久松に嫁せり(埼玉、北足立、鴻巣町)

栗原基

正五位勳四等、第三高等學校教授 宮城縣在籍 妻 やし 嘉永四、一〇生、宮城、土、櫻田治郎八長女 母 まりや 明一一、一一生、宮城、大阪徳治 妻 俊子 明三九、九生 女 照子 明四三、一一生 女 照子 大元、一一生 君は宮城縣人栗原長教の二男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十四年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し大學院に入る同三十六年廣島高等師範學校教授に任ぜられ後第三高等學校教授に轉す大正七年南洋諸島に出張し同九年英語及英文學研究のため英米に留學す古城と號し譯著からず家族は尙四女喜美子(大四、九生)二男健(同七、一〇生)あり弟武(明一四、九生)は其妻みと(同二〇、七生、宮城、土、油井郎叔母)と共に其一女を伴ひ分家し從弟久(同一六、九生)も亦分家し養妹とく(同一四、一

君は北海道人藤島爲吉の三男にして明治六年七月を以て生れ栗原朝三郎の養子となり同三十九年分家して一家を創立す運送業を營み傍ら小樽合同運送會社社長にして栗山組代表社員たり家族は尙五女芳子(大一一、一一生)あり(小樽、花園町西二七八)

栗山寛一

大洋軒(株)社長、日出紡織、内外 妻 シゲ 明二九、一一生、大阪、土井安雄姉 妻 甲子郎 大一一、一一生 妻 拾三 明二四、六生、和歌山、栗山長兵衛四男、正六位、九州帝國大學工學部助教 妻 ハル 明三五、三生、養子拾三妻、佐賀、大串誠三郎四女 妻 智恵子 明四四、四生、和歌山、上田賢次郎三女 君は和歌山縣人栗山吉右衛門の三男にして元治元年正月を以て生れ先代治保の養子となり明治十三年家督を相續す凡に和歌山縣師範學校を卒業し小學校教員たりしが後實業に志し來阪す現時大洋軒社長たる外前記諸會社の重役として知らる家族は尙長女秀子(大八、七生)二女美子(同一〇、四生)孫淳子(同一三、三生、養子拾三長女)同君子(同一五、三生、同二女)あり養子みづえ(明二一、七生、和歌山、土、美山廣太郎妹)は同夫隆造(同一九、一〇生、和歌山、根本剛之助弟)と共に一男一女を傍ひ分家せり(大阪、天王寺、烏ヶ辻町三四電南四三三五)

君は福島縣人栗原虎之丞の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す現時第一電化工業會社取締役たり家族は尙庶子清(大一一、二生、生業會社取締役たり)あり(京都、宇治、西醍醐村)

栗山吉兒

第一電化工業(株)取締役 大阪府在籍 妻 ふし 明二、正生、和歌山、青山儀兵衛 妻 一雄 大八、一〇生、生母、京都、杉本ハル 君は京都府人栗原虎之丞の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す現時第一電化工業會社取締役たり家族は尙庶子清(大一一、二生、生業會社取締役たり)あり(京都、宇治、西醍醐村)

君は福井縣人栗山俊一の弟にして明治十九年十月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す同二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し外交官及領事官試驗合格す任官して領事官補となり外交官補大使館三等書記官同二等書記官等に歴任し佛國米國に在勤す歸朝して外務書記官となり條約局第一第三各課長を経て昭和二

栗山五郎

從五位勳五等、判事、東京區裁判 妻 まつ 安政三、一一生、東京、土、照山孫右衛門長女 君は東京府人栗山五郎の五男にして明治七年三月を以て生れ大正十年先代ひさの夫となり家督を相續す同明治十九年東京帝國大學法科大學英文科を卒業し同四十二年判事に任じ爾來函館區同地方新瀉地方木更津區千葉區同地方東京地方同區土浦區太田區前橋區各裁判所判事に歴任し大正十三年東京區裁判所判事に轉じ現在に至る家族は尙妻叔母ゆ(嘉永四、九生)あり(東京、牛込、北町八)

君は福井縣人栗山俊一の弟にして明治十九年十月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す同二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し外交官及領事官試驗合格す任官して領事官補となり外交官補大使館三等書記官同二等書記官等に歴任し佛國米國に在勤す歸朝して外務書記官となり條約局第一第三各課長を経て昭和二

栗山茂

從五位勳五等、大使館一等書記官 妻 房子 明三一、六生、子爵内藤政道姉 君は福井縣人栗山俊一の弟にして明治十九年十月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す同二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し外交官及領事官試驗合格す任官して領事官補となり外交官補大使館三等書記官同二等書記官等に歴任し佛國米國に在勤す歸朝して外務書記官となり條約局第一第三各課長を経て昭和二

君は福井縣人栗山俊一の弟にして明治十九年十月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す同二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し外交官及領事官試驗合格す任官して領事官補となり外交官補大使館三等書記官同二等書記官等に歴任し佛國米國に在勤す歸朝して外務書記官となり條約局第一第三各課長を経て昭和二

栗山兼吉

從五位勳六等、朝鮮總督府檢事、 妻 ハルエ 明二二、一一生、群馬、森島直幸 妻 英雄 明四五、一一生 君は高知縣人栗山寅太郎の弟にして明治十四年六月を

君は高知縣人栗山寅太郎の弟にして明治十四年六月を

あり長女君子(同二六、九生)は長崎縣人山崎喜藏に養子アイ(同三一、一一生、福岡、能美一治妹)は福岡縣人宮井校長男親造に嫁せり(大分市地方裁判所官舎) 参照 ※不確確確の項

栗本庸勝

從三位勳二等、特許消毒(株)社長、 妻 ハナ 明二三、三生、福島、味岡禮實五女 妻 芳男 明二七、一〇生 妻 きよし 明二七、一〇生 妻 邦男 明二七、一〇生 妻 芳子 明二七、一〇生 君は東京府人栗本庸勝の二男にして慶應元年八月を以て生れ後栗本家に入る栗本節安の養弟なり大正五年分家して一家を創立す明治二十年帝國大學醫學科大學を卒業し警察醫長警視廳衛生部長東京鐵道病院院長等に歴任し現時中央衛生會委員たる外特許消毒會社社長たり(東京市外巢鴨町一八二八電大塚七二)

栗本又五郎

從五位、醫學博士、南洋總醫院醫 妻 きよ 明一八、一〇生、高知利兵衛長女 妻 ソウ 明四四、二生 君は東京府人栗本秀二郎の從弟にして明治十三年二月を以て生れ同十四年分家して一家を創立す同三十九年東京帝國大學醫學科大學醫學科を卒業し同校副手東京高等工業學校講師同校海軍醫學官に歴任し大正十一年南洋總醫院醫長に任じ同年醫學博士の學位を授けられ現にサイパン醫院長たり家族は尙三女恭子(大二三、九生)四女エイ(同八、一〇生)あり(南洋、サイパン醫院長官舎)

栗山喜三郎

小樽合同運送(株)社長、栗山組 妻 ヤス 明一三、四生、養父朝三郎長女 妻 正吉 明三〇、一一生 妻 健吉 明三二、九生 妻 幸吉 明三五、五生 妻 英吉 明三七、一一生 君は高知縣人栗山寅太郎の弟にして明治十四年六月を

年前現職に轉ずるに巴里講和會議華盛頓會議に參列の全權委員隨員として同會議に列席す(在佛國帝國大使館内)

參照 子爵内藤政道、栗山俊一、伯爵野宮公麿、子爵野宮政道、子爵内藤政光の項

栗山重信 正六位、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務、宮内省御用掛、東京府在籍

妻 光 明三、一〇生、東京、岩田正清庶子

女 喜美 明四三、八生

君は東京府人幸橋立齋の三男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十年先代光の入夫となり同四十五年家督を相続す同年東京帝國大學醫學部卒業し大正九年醫學博士の學位を授けらるる現に東京帝國大學教授にして宮内省御用掛たり家族は尙二女俊一(一〇生)一(一〇生)あり(東京、本郷、駒込西片町一〇にノ四一電小石川五一三〇)

栗山俊一 正五位勳五等、臺灣總督府技師兼臺灣總督府交通局技師

妻 千代 明二三、六生、神奈川、六角謙吉長女

君は福井縣人栗山英哉の長男同茂の兄にして明治十五年六月を以て生れ大正八年家督を相続す先是明治四十二年東京帝國大學工學部卒業し名古屋高等工業學校講師同校教授兼朝鮮總督府調査事務囑託東京帝國大學技師北海道帝國大學技師等を経て大正八年臺灣總督府技師に任じ同十四年同府交通局技師を兼任し今日に至る同十五年歐米各國に出張す家族は尙二男秀雄(四三、三三)長女久(同五、三三)三男勝(同六、三三)四男明(同九、二一)五男治(同三、一三)一(一〇生)六男渡(昭二、三三)あり弟實(明七、四生)は東京府人片桐加代の入夫となり同茂(同九、一〇生)は分家し同俊雄(同八、一〇生)も亦其妻キ(同三〇、一〇生)一(一〇生)北海道、石井義一(養子)及び二子を伴ひ分家せり(臺北、書院町二ノ二電一四四四)

參照 栗山茂、栗山順次郎の項

栗山善四郎 八百善、割烹業、東京府在籍

妻 ゲン 明二、二生、東京、小園清次郎女

女 富美 明四二、一〇生

君は東京府人竹内善次郎の三男にして明治十六年一月を以て生れ先代善四郎の養子となり同三十八年家督を相続し前名鏡三を改む八百善と稱し割烹業を營む家族は尙二女善基子(大四、一〇生)三女美惠子(同二、一〇生)四女智恵子(同四、九生)あり(東京、京橋、築地二ノ二四電京橋九八)

栗山善之助 竹内金庫店代表社員、東京府在籍

妻 鏡 明元、六生、石川、木下可松妹

女 善子 明三六、一〇生、東京、渡邊清次郎男

君は鳥取縣人栗山滋馬の二男にして明治四年十月を以て生れ先代善之助の養子となり同十八年家督を相続す現に朝鮮銀行に入り現時同銀行東京總裁秘書役たり(東京、赤坂、青山北町六ノ四七電青山一四〇九)

栗山虎治 朝鮮銀行秘書、東京府在籍

妻 精一 明三六、一〇生、東京、渡邊清次郎男

女 善子 明三六、一〇生、東京、渡邊清次郎男

君は鳥取縣人栗山滋馬の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は兵庫縣人小西新二郎の弟にして元治元年三月を以て生れ栗山藤作の養子となり同三十二年家督を相続し前名修藏を改め大正十五年退隱す林業を營み奈良縣多額納稅者にして前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫康(大、一五、七生)長男耕作長女あり妹作(明三六、一〇生)は愛知縣人關戸守彦長男有彦に二女種(同二、一〇生)は滋賀縣人森五郎兵衛に四女民(同二三、九生)は三重縣人小津清左衛門に嫁せり(奈良、宇智、五條町)

栗山虎治 朝鮮銀行秘書、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は鳥取縣人栗山滋馬の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は東京府人栗山銆次郎の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は東京府人栗山銆次郎の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は東京府人栗山銆次郎の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は東京府人栗山銆次郎の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は東京府人栗山銆次郎の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は東京府人栗山銆次郎の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

女 龍太郎 明二七、一〇生、千葉、池田友雄

君は東京府人栗山銆次郎の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し醸造試験場囑託となり大正四年稅務監督局技師に任ぜられ大藏技師兼釀造試験場技師を経て稅關監督官兼大藏技師となり横濱稅關に勤務す現に外務省の囑託を受け北米及英領加奈陀朝鮮印度支那等に出張せり(東京、北多摩、武蔵野村吉祥寺五六九)

栗山正雄 從五位勳六等、稅關監督官兼大藏技師、東京府在籍

妻 龍太郎 嘉永元、一〇生

年東京帝國大學工學部卒業し大正五年内務技師に任ず爾來東京仙臺秋田仙臺各土木出張所勤務を経て昭和二年地方技師に轉じ現に東京府土木部長の職にあり家族は尙二男良雄(大、三三)長女とみ(同八、二生)四男信雄(同五、一〇生)一(一〇生)弟三郎(明四、二生)あり養妹たか(同三、一〇生)は山口縣人後藤間一に同(同四、八生)は福島縣人齊藤榮松の養子となり同菊野(同三、一〇生)は同夫聰明(同二、八、六生)福島、眞壁惣太郎(二男)及び其子女と共に分家し養弟拾六(同四、一〇生)も亦分家せり(東京市外代々木幡町幡ヶ谷一電四谷三九一)

君は本邦統計學の泰斗故吳文聰の長男にして醫學博士吳秀三の甥なり明治十六年十月を以て生れ大正三年家督を相続す明治四十四年十二月東京帝國大學醫學部卒業し同四十四年心臓病學研究のため獨逸兩國に留學す大正三年醫學博士の學位を受けた同八年東京帝國大學助教授に任ぜらるる現に三井善善病院内科醫局主任たりしが後九州帝國大學教授を経て現時東京帝國大學教授醫學部勤務たり我國に於ける心臓病學界の權威として知らるる家族は尙長女重子(大、三、九生)二男文二(同八、一〇生)四女幸子(同四、一〇生)五女博子(同二、一〇生)一(一〇生)四男信夫(同四、一〇生)弟文柄(明三、一〇生)同妻慈(同三、一〇生)弟榮三(同二、一〇生)一(一〇生)同貞(同三、一〇生)二生あり(東京、神田、駿河臺袋町一〇電神田二二三)

君は静岡縣人榎松恒平の長男にして明治四年十二月を以て生れ同二十五年家督を相続す現に袋井銀行頭取たる外前記銀行會社の重役を兼ねるに静岡縣參事會員に擧げらるる家族は尙二男準二(明四、六生)三男三郎(大、一〇生)あり長女千代(明三、一〇生)は静岡縣人鈴木吉藏に二女なかつ(同三、一〇生)は同縣人伊藤龜久郎に三女喜久(同三、一〇生)は同縣人堀内庄吉に四女とし(同三、一〇生)は同縣人鈴木友三郎に嫁し(五、五)平治(同三、一〇生)は分家し同善三友(同三、一〇生)は同縣人館石七郎平の養子となれり(静岡、磐田、上淺羽村)

れ大正十二年獲得す明治四十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し...

黒木 治作 宮崎縣多額納税者、農業

黒木 重也 從五位、鹿兒島高等農林學校教授

黒木 福次 妻 銀行(株)常務取締役

黒坂 静一 從五位勳三等功四級、陸軍歩兵大尉

黒木清五郎 宮崎縣多額納税者、日向銀行(株)取締役、肥料商

黒木 福次 妻 銀行(株)常務取締役

黒坂 静一 從五位勳三等功四級、陸軍歩兵大尉

黒崎 延次郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

黒崎 延次郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

月を以て生れ大正五年家督を相続す明治三十四年陸軍士官學校を卒業し...

黒崎 定三 從四位勳三等、法制局參事官、第二部長

黒崎 延次郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

黒崎 延次郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

黒崎 延次郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

築三郎(明二、一〇生)は其妻ノブ(同二、一〇生、星政右衛門二女)及子女を併ひ分家し...

黒澤 千城 ライト商會(株)取締役

黒澤 千代子 明二、七生、男爵周布兼道妹

黒澤 次久 正四位勳三等、日本火災保險(株)常務取締役

君は長野縣土族黒澤次是の長男にして明治十三年八月を以て生れ大正十年家督を相続す...

東信濃町二八電四谷二〇〇 男爵周布兼道、金井清の項

黒澤 恒太郎 長野縣多額納税者、酒造業

黒澤 貞次郎 タイプライター器具商

黒澤 利重 長野縣多額納税者、第十九銀行、長野縣在籍

君は東京府人黒澤慶助の長男にして明治八年一月を以て生れ同三十五年家督を相続す...

母 ます 嘉永六、一、生、長野、小宮山新七郎三女

黒澤 彦三郎 福安商會(株)監査役

黒澤 秀造 福島縣多額納税者、農業

君は福島縣土族黒澤逸八の三男にして安政六年四月を以て生れ後家督を相続す...

及其一男同秀(同二九、五生)同俊祐(同三二、九生)...

黒澤松五郎

君は宮城縣の人にして明治八年一月を以て生れ...

君は宮城縣の人にして明治八年一月を以て生れ...

黒澤陸之助

君は長野縣人黒澤利左衛門の四男同利重の叔父にして...

君は長野縣人黒澤利左衛門の四男同利重の叔父にして...

同縣人黒澤景一の養子となり三男午作(同二七、一一生)...

黒須辰之助

君は埼玉縣人黒須金七の弟にして明治十三年六月を以て...

君は埼玉縣人黒須金七の弟にして明治十三年六月を以て...

黒住成章

君は岡山縣人黒住秀治の長男にして明治八年十二月を以て...

君は岡山縣人黒住秀治の長男にして明治八年十二月を以て...

黒住治章

君は岡山縣人黒住虎太郎の長男にして明治二十五年九月を以て...

黒瀨義一

君は岡山縣人黒瀨谷虎太郎の長男にして明治二十五年九月を以て...

黒瀨弘志

君は岡山縣人黒瀨鐵次郎の二男にして明治二十三年九月を以て...

久賀

君は熊本縣土族黒瀨又雄の長男にして明治十六年一月を以て...

黒瀨房吉

君は廣島縣多額納税者、糸織製粉(株)社長、糸織倉庫土地(株)取締役、...

黒瀨増太郎

君は廣島縣人黒瀨助の二男にして慶應三年五月を以て生れ...

君は廣島縣人黒瀨助の二男にして慶應三年五月を以て生れ...

黒瀨與重郎

君は香川縣人高田恵八郎の四男にして安政元年九月を以て...

黒田伊勢松

君は愛媛縣人黒田保太郎の長男にして明治十一年十一月を以て...

黒田延太郎

君は大阪府人黒田仁右衛門の長男にして明治十四年九月を以て...

君は大阪府人黒田仁右衛門の長男にして明治十四年九月を以て...

黒田市之助

君は栃木縣人板橋半次郎の四男にして明治七年一月を以て...

黒田吉郎

君は静岡縣人黒田鐵次郎の二男にして明治二十三年九月を以て...

學法科大學經濟學科を卒業し翌六年山口銀行に入り果...

黒田 清 東京府華族 從四位、伯爵...

黒田 清秀 東京府士族 妻 つぎ 明一四、四生、山梨、大木齋策妹...

黒田 四郎 宮崎縣在籍 妻 きよ 明三二、一一生、北海道、土田次...

黒田 銀次郎 富山縣在籍 妻 ツタ 明九、六生、富山、田近忠正長女...

黒田 馨介 帝國火災保險(株)常務取締役、東京府士族...

黒田 小源治 埼玉縣多額納税者、村木商 祖母 こと 弘化元二生、黒田治郎左衛門長女...

妻 よし 明二七、一一生、叔父寛之助長女...

黒田 左武郎 垂水土地(株)取締役、帝國キヤ...

黒田 定七郎 静岡縣多額納税者、農業 妻 かね 明八、三生、静岡、鈴木亮之助長女...

一(郎)同一〇、八生)は同縣人松本文治に各養子となれ...

黒田 重助 法衣商 京都府在籍 養子 太市郎 明一三、一一生、三女千代夫、京...

黒田 重平 黒田藥品商會(株)社長、黒田藥品 妻 タツル 明一三、四生、高知、士、遠近武...

黒田 重兵衛 静岡縣多額納税者、下田銀行(株) 妻 はち 叔母、一〇生、静岡、仁田大八郎...

君は静岡縣人足立清次郎の三男にして文久二年九月を...

黒田 静 從五位、製鐵所醫官、衛生課長兼病 妻 ヌキエ 明一九、一一生、和歌山、妹背野...

黒田 仙太郎 永昌銀行(株)取締役 妻 きき 文久三、一一生、静岡、高橋彦太...

君は静岡縣人黒田仙右衛門の長男にして安政三年二月...

黒田 善太郎 東京市材木倉庫各 妻 芳枝子 明二五、八生、埼玉、渡邊漫二女...

黒田 善太郎 國光堂、帳簿製造業 妻 マサ 明一九、一一生、大阪、中野要蔵妹...

を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同三十五年早稲田大學政治經濟科卒業後農務省東京大阪各商...

桑田徳太郎

大阪府在籍 乾物商 妻 サダコ 明一八、一三、廣島、唐川榮三...

桑田 知明

企業家 東京府士族 妻 イノ 慶應元、九生、東京、士、鈴木武...

桑田 豊吉

技師 名古屋通信局海部部長 鳥取縣在籍...

君は鳥取縣人桑田徳太郎の長男にして明治十三年一月を以て生れ同四十年兄松助方より分れて一家を創立す...

桑田彦三郎

廣島縣多額納税者、桑田銀行(株) 廣島縣在籍...

桑田 正一

兵庫縣在籍 神戶商組合長、板硝子商 妻 しづ 明二八、五生、兵庫、中井重太郎...

桑田 安常

鳥取縣多額納税者 妻 とし 明二一、七生、鳥取、河本徳藏妹...

族は尙二女泰子(大四、二生)三男正造(同一、四生)三女久美子(同一、八生)四女照榮(昭二、七生)あり...

桑田松次郎

桑田本店(株)社長、桑田商事(株) 取締役、乾物商、大阪府在籍...

桑田安三郎

正四位勳二等功四級、豫備陸軍中 將、廣島縣士族...

桑田 久任

從四位勳三等、奈良女子高等師範 學校教授、東京府士族...

桑田 良信

千葉縣多額納税者、瀧尾商事(株) 取締役、農業、千葉縣在籍...

桑田 芳藏

從五位、文學博士、東京帝國大學 教授、文學部勤務、鳥取縣在籍...

桑名 伊之吉

正五位勳四等、農學博士、農林技 術局勤務、神奈川縣在籍...

桑名 榮三郎

西陣織物商 妻 榮助 明一八、一三、京都、中西甚三郎妹...

桑野 猛

大分縣多額納税者、日田實業銀行、 日田製材各(株)取締役、農業...

桑田 義備

從五位、理學博士、京都帝國大學 教授、理學部勤務、大阪府在籍...

桑野 久任

從四位勳四等、奈良女子高等師範 學校教授、東京府士族...

桑畑 芳藏

電氣機械器具製造業 妻 とし 明二一、七生、鳥取、河本徳藏妹...

桑畑 芳藏

電氣機械器具製造業 妻 とし 明二一、七生、鳥取、河本徳藏妹...

君は兵庫縣人桑原三郎の長男にして明治六年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す...

桑原猪之助

君は滋賀縣人桑原喜六の二男にして明治十九年五月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す...

桑原一郎

君は山口縣人桑原熊太の長男にして明治十六年四月を以て生れ同四十四年家督を相続す...

桑原馬吉

君は山口縣人桑原熊太の長男にして明治十六年四月を以て生れ同四十四年家督を相続す...

君は佐賀縣人桑原庄太郎の二男にして明治十七年八月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す...

桑原益太郎

君は元岐阜縣會議長たりし桑原孫太郎の長男にして明治十年九月を以て生れ桑原孫之右衛門の養子となり...

桑原三之助

君は故沼田貯蓄銀行頭取桑原三之助の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正九年家督を相続す...

桑原貫一

君は静岡縣人桑原庄三の三男にして明治三十年五月を以て生れ大正四年福助足袋會社に入社し...

桑原小三郎

君は静岡縣多額納税者、桑原商事(株)取締役、静岡縣在籍、桑原小三郎、鈴木藤七、四女、妻、きせ、明一、四、六、生、静岡、鈴木藤七、四女

桑原善吉

桑原家は土地の舊家にして代々材木商を営む君實は岐阜縣人林市郎兵衛の二男にして安政五年八月を以て生れ...

桑原莊吉

君は岐阜縣人桑原庄左衛門の長男にして文久元年六月を以て生れ明治二十七年家督を相続す...

桑原太一郎

君は東京府人桑原太一郎の長男にして文久元年六月を以て生れ明治二十七年家督を相続す...

桑原宅太郎

君は愛知縣人横井左衛門の長男にして明治六年一月を以て生れ桑原源左衛門の養子となり...

桑原次郎

君は愛知縣人横井左衛門の長男にして明治六年一月を以て生れ桑原源左衛門の養子となり...

桑原甚六

君は福井縣人先代甚六の長男にして慶應三年一月を以て生れ明治十四年家督を相続す...

君は静岡縣人桑原秀次郎の三男にして明治十一年十二月を以て生れ同三十三年分家して一家を創立す...

桑原三之助

君は故沼田貯蓄銀行頭取桑原三之助の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正九年家督を相続す...

桑原七兵衛

君は東京府人吉野作右衛門の二男にして嘉永元年五月を以て生れ後先代七兵衛の養子となり...

桑原保子

君は東京府人吉野作右衛門の二男にして嘉永元年五月を以て生れ後先代七兵衛の養子となり...

桑原次郎

君は愛知縣人横井左衛門の長男にして明治六年一月を以て生れ桑原源左衛門の養子となり...

桑原宅太郎

君は愛知縣人横井左衛門の長男にして明治六年一月を以て生れ桑原源左衛門の養子となり...

桑原次郎

君は愛知縣人横井左衛門の長男にして明治六年一月を以て生れ桑原源左衛門の養子となり...

桑原甚六

君は福井縣人先代甚六の長男にして慶應三年一月を以て生れ明治十四年家督を相続す...

桑原甚六

君は福井縣人先代甚六の長男にして慶應三年一月を以て生れ明治十四年家督を相続す...

桑原竹治郎

中之銀行(株)取、質商
群馬縣在籍
妻 慶應元、七生、養父重郎衛二女
男 雄一郎 明二、七生、現戸主
男 雄三郎 明三、三三、長男雄一郎妻、群
馬、小林善之助長女
女 ちか 明四、二、八生

桑原虎治

上海製造絹絲(株)副社長、藤本ビ
ルプロカー銀行、東京ゴム工業
東亞セメント各(株)監査役
東京府士族
妻 ヤス 明四、二生、大分藤田仙次郎長女
健之助 明四五、六生
男 朝 明二六、二生
女 喜久 明四〇、四生

桑原弘道

明見銀行(株)取締役
山梨縣在籍
妻 かつ 安政二、一〇生、山梨、水田常右
衛門長女
妻 すぐ江 明二六、一五、山梨、桑原徳長二女
君は山梨縣人桑原玄叔の四男にして明治十八年三月を
卒業し現時前記銀行會社の重役たり(東京、芝、君
塚町一九電高輪二六八四)

桑本澄

松尾螺子製作所(株)社長、日本國
産(株)常務取締役、ヒールンダ工
業(株)取締役、日本スタ自動車
(株)監査役、日本軟球協會關東本
部長、東京府士族
妻 しげ 明二六、六生、埼玉、増田俊三妹
實 大五、六生

桑山貞次郎

大東鐵道(株)常任監査役
東京府士族
妻 満 明二七、二生、養父敏子、東京
中村恒久二女
男 圭 一 大七、四生

桑山鐵男

從四位勳三等、逓信次官
愛媛縣在籍
父 吉輝 安政四、三三、愛媛、土、寺田至
短弟、現戸主
妻 タミ 明二三、一二生、鹿兒島、土、森
三木長女
男 孝男 明四三、一一生

桑山茂作

山岸商會(株)取締役
新潟縣在籍
妻 トキ 明八、二生、養父太郎七長女
明二四、四生
男 太市朗 明三二、五生、長男太市朗妻、栃
木、相羽那津二女
男 誠一 明三三、九生
女 アキ 明三〇、一二生、二男誠一妻、新
潟、吉岡善治長女

桑原守道

千代田生命保險(互)神戸支部長
東京府在籍
妻 清野 明二八、三三、新潟、小野澤梅吉
二女
君は新潟縣人桑原良道の二男にして明治二十年二月を
以て生れ大正三年兄良貞方より分家して一家を創立す
現時千代田生命保險會社神戸支部長たり家族は尙二女
英(大四、三三)三女惠美(同六、一五)四女瑠璃子(同
一三、一五)五女和子(同二七、七生)あり(兵庫、武庫、
精道村打出折ノ上一四電青屋一〇四一)

桑原安二

第一相互貯蓄銀行(株)支配人
和歌山縣在籍
父 五郎兵衛 安政二、一〇生
母 ヒサヘ 安政五、七生、和歌山、岡田惣山
長女
妻 ミサヲ 明二六、一五、北海道、牛捲觀意
長女
男 安平 大三、一二生
女 八重 大二、七生

桑原芳樹

皇典講究所國學院大學事務理事
東京府在籍
妻 まさ 明一〇、一五、養父謙甫二女
明二八、五生
男 藤一郎 明三二、四生、長男藤一郎妻、福
岡、小林俊村妹
男 澄江 明三三、一一生
男 愛二郎 明三三、一一生
男 明三、一一生
男 明三、一一生
男 明三、一一生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

桑原羊次郎

鳥根縣多額納稅者、鳥根縣水産
(株)取締役、鳥根縣在籍
妻 ツネ 明一六、一五、鳥根、馬場愷輔妹
君は鳥根縣人桑原豊三郎の二男にして明治元年四月を
以て生れ同二十二年家督を相続す同年中央大學を卒業
し現時鳥根縣水産會社取締役にして同縣多額納稅者た
り(東京市外入新井町新井宿子母澤九七電高輪一
〇六)

桑山茂作

山岸商會(株)取締役
新潟縣在籍
妻 トキ 明八、二生、養父太郎七長女
明二四、四生
男 太市朗 明三二、五生、長男太市朗妻、栃
木、相羽那津二女
男 誠一 明三三、九生
女 アキ 明三〇、一二生、二男誠一妻、新
潟、吉岡善治長女

桑山茂作

山岸商會(株)取締役
新潟縣在籍
妻 トキ 明八、二生、養父太郎七長女
明二四、四生
男 太市朗 明三二、五生、長男太市朗妻、栃
木、相羽那津二女
男 誠一 明三三、九生
女 アキ 明三〇、一二生、二男誠一妻、新
潟、吉岡善治長女

桑山茂作

山岸商會(株)取締役
新潟縣在籍
妻 トキ 明八、二生、養父太郎七長女
明二四、四生
男 太市朗 明三二、五生、長男太市朗妻、栃
木、相羽那津二女
男 誠一 明三三、九生
女 アキ 明三〇、一二生、二男誠一妻、新
潟、吉岡善治長女

桑山茂作

山岸商會(株)取締役
新潟縣在籍
妻 トキ 明八、二生、養父太郎七長女
明二四、四生
男 太市朗 明三二、五生、長男太市朗妻、栃
木、相羽那津二女
男 誠一 明三三、九生
女 アキ 明三〇、一二生、二男誠一妻、新
潟、吉岡善治長女

桑山茂作

山岸商會(株)取締役
新潟縣在籍
妻 トキ 明八、二生、養父太郎七長女
明二四、四生
男 太市朗 明三二、五生、長男太市朗妻、栃
木、相羽那津二女
男 誠一 明三三、九生
女 アキ 明三〇、一二生、二男誠一妻、新
潟、吉岡善治長女

桑山茂作

山岸商會(株)取締役
新潟縣在籍
妻 トキ 明八、二生、養父太郎七長女
明二四、四生
男 太市朗 明三二、五生、長男太市朗妻、栃
木、相羽那津二女
男 誠一 明三三、九生
女 アキ 明三〇、一二生、二男誠一妻、新
潟、吉岡善治長女

桑原芳樹

皇典講究所國學院大學事務理事
東京府在籍
妻 まさ 明一〇、一五、養父謙甫二女
明二八、五生
男 藤一郎 明三二、四生、長男藤一郎妻、福
岡、小林俊村妹
男 澄江 明三三、一一生
男 愛二郎 明三三、一一生
男 明三、一一生
男 明三、一一生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

桑原利市

千代田生命保險(互)福岡支部長
福岡縣在籍
父 嘉四良 嘉永五、一一生、多胡佐吉六男
妻 トミ 明二、九生、京都、高島源次郎
長女
男 利夫 大四、三三
女 登志 明四二、一〇生

ク之部 桑(木、山)郡(司、場)

※印は姻族關係

帝國大學教授に任じ現に理學部に勤務し大興記念京都植物園長を兼任す家族は尙二男正之(大四、四生)三男良明(同五、六生)五男是行(同二、三生)長女佐和子(同三、二生)の外弟徹(明三〇、四生)同妻はま(同三一、二生)青森、桂井正三郎長女との間に二女あり(京都、上京、小山堀池町一)

郡谷照一郎

衆議院議員(静岡縣選出) 静岡縣在籍 妻 ユキ 生一六、六生、徳島、濱口トメ私女 米子 大元、一〇生 君は東京府人志村廣吉の二男にして明治九年十一月を以て生れ後先代ユキの入夫となり家督を相続す現時衆議院議員たり曾て歐米に遊ぶ(静岡、賀茂、松崎町)

ケ之部

毛塚 源藏

毛塚商工會議所會頭、紙商 叔母 叔父 妻 キイ 門養子 男 芳太郎 明四〇、七生 女 貞子 明四二、一一生 女 操 明四五、三生 君は栃木縣人毛塚堅の長男にして明治五年二月を以て生れ同十六年家督を相続す夙に實業界に入り義に兩毛印刷會社の重役たりしことあり紙商を營み現時推されて栃木商工會議所會頭たり家族は尙二男修次(大三、一〇生)あり長女麗(明二六、二生)は栃木縣人早乙女丈右衛門に弟千代三郎(同八、四生)は同縣人坂本重藏に同哲(同二一、五生)は東京府人松岡専助に各養子となり同妻(同二九、九生)は同府人朝田せんの入夫となり二女愛子(同二九、九生)は同府人毛塚貢に三女フミ(同三四、一一生)は栃木縣人佐藤政喜に嫁し弟三郎(同二〇、二生)は分家し姉ケン(慶應二、九生)も亦其夫新七(萬延元、一一生)と共に其二男を伴ひ分家せり(栃木、下都賀、栃木町)

毛塚 源藏

君は兵庫縣人毛戸勝右衛門の長男にして明治七年三月を以て生れ同三十三年家督を相続す同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し大學院に入り商法を専攻す同三十三年京都帝國大學法科大學助教授に任じ商法研究の爲め獨逸英各國に留學し歸朝後同大學教授に任じ法學博士の學位を授けらる大正五年教授を辭して辯護士と爲り傍ら安田信託會社取締役の外前記會社の重役たり義に大阪商業會議所特別議員に擧げらる(兵庫、武庫、大庄村)

毛塚 源藏

君は鹿兒島縣士族郡谷重之の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治十六年家督を相続す現時鹿兒島電氣會社社長たり家族は尙姉ヤス(萬延元、一一生)あり妹ヒサ(明四、五生)は鹿兒島縣人兒玉實充に嫁し弟重孝(同六、二生)は同縣人藤崎スガの各家督を相続し同重治(同九、七生)同妻ヨシ(同二六、一一生)鹿兒島、士、伊集院與助長女)及其一女を伴ひ分家し同重弘(同二二、三生)は同縣人山下岩次郎に養明宗嗣(同二二、二生)は同縣人川崎セイに各養子となり(鹿兒島市春日町四一) 參照 三宅重孝の項

毛塚 源藏

君は大阪府人食滿藤藏の長男にして明治十一年五月を以て生れ先代ヨネの養子となり同三十年家督を相続す現時桃谷順天館支配人たり家族は尙三男文平(大四、一〇生)四女正子(同六、三生)四男悦三(同二一、一〇生)あり(大阪、天王寺、藤山通四ノ一四電南四六〇九) 參照 桃谷政次郎、桃谷幹次郎、桃谷順一、※馬場義興、※藤井甚兵衛、※横山利藏の項

毛戸 勝元

法學博士、安田信託、株、取締役、日本毛織、兵庫農工銀行、松本商店各株、監査役、辯護士 兵庫縣在籍 母 みつ 安政元、八生、兵庫、井口源左衛門長女 妻 しん 明一二、四生、兵庫、小野山善太郎 男 勝治 明四一、一〇生 女 順子 明三九、一〇生 女 敦子 明四四、一〇生

ケ之部 毛、祁、食、氣、系

(※印は姻族關係)

氣賀 勤重

法學博士、慶應義塾大學教授、労働保險調査會、中央統計委員會各委員、静岡縣在籍 妻 ヤス 明一二、二生、養父敬太郎長女 男 眞一郎 明三六、九生 男 健三 明三九、九生 女 光 大元、一〇生 君は静岡縣人三輪幸一郎の二男にして明治六年三月を以て生れ後先代敬太郎の養子となり同三十一年家督を相続す先是同二十八年慶應義塾文學部卒業後獨逸ライプツヒ、ゲッティンゲン、ベルリン各大學に學び後法學博士の學位を授けらる現時慶應義塾大學教授にして又中央統計委員會労働保險調査會各委員其他數種の委員に擧げらる大正十三年静岡縣より推されて衆議院議員に當選す家族は尙四男英吉(明四三、七生)三女八重(大六、三生)四女純(同八、一一生)あり(東京市外濠谷町伊達九七電高輪七八〇〇)

氣賀 勤重

君は富山縣人氣賀清太郎の二男にして明治十五年十二月を以て生る同四十年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同四十一年鐵道監事主任に任ぜられ次で同參事鐵道書記官同參事鐵道監察官鐵道局參事同書記官大臣官房保健課長に歴任し大正十五年鐵道局長に任ぜられ現に札幌鐵道局長たり家族は尙兄清作(明一三、二生)同妻巳八子(同二一、四生)長野、伊藤大八長女)及其三男弟義次(同二七、九生)同良次(同二九、一〇生)同妻波(同二二、一一生)及其一男あり姉ナホ(同二二、四生)は富山縣人太田庄藏に妹タニ(同二二、七生)は同縣人林兵之助に嫁し同節(同二七、一〇生)は同縣人谷野重信の養子となり弟修次(同二九、二生)は分家せり(札幌、鐵道局長官舎)

氣賀 勤重

正五位勳四等、鐵道局長、札幌鐵道局長、富山縣在籍 父 清太郎 安政六、五生、現戸主 妻 キミ 明二〇、四生、愛媛、松岡文吉女 男 達郎 明四三、一一生 女 道代 大二、五生 君は富山縣人氣賀清太郎の二男にして明治十五年十二月を以て生る同四十年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同四十一年鐵道監事主任に任ぜられ次で同參事鐵道書記官同參事鐵道監察官鐵道局參事同書記官大臣官房保健課長に歴任し大正十五年鐵道局長に任ぜられ現に札幌鐵道局長たり家族は尙兄清作(明一三、二生)同妻巳八子(同二一、四生)長野、伊藤大八長女)及其三男弟義次(同二七、九生)同良次(同二九、一〇生)同妻波(同二二、一一生)及其一男あり姉ナホ(同二二、四生)は富山縣人太田庄藏に妹タニ(同二二、七生)は同縣人林兵之助に嫁し同節(同二七、一〇生)は同縣人谷野重信の養子となり弟修次(同二九、二生)は分家せり(札幌、鐵道局長官舎)

氣賀 勤重

法學博士、慶應義塾大學教授、労働保險調査會、中央統計委員會各委員、静岡縣在籍 妻 ヤス 明一二、二生、養父敬太郎長女 男 眞一郎 明三六、九生 男 健三 明三九、九生 女 光 大元、一〇生 君は静岡縣人三輪幸一郎の二男にして明治六年三月を以て生れ後先代敬太郎の養子となり同三十一年家督を相続す先是同二十八年慶應義塾文學部卒業後獨逸ライプツヒ、ゲッティンゲン、ベルリン各大學に學び後法學博士の學位を授けらる現時慶應義塾大學教授にして又中央統計委員會労働保險調査會各委員其他數種の委員に擧げらる大正十三年静岡縣より推されて衆議院議員に當選す家族は尙四男英吉(明四三、七生)三女八重(大六、三生)四女純(同八、一一生)あり(東京市外濠谷町伊達九七電高輪七八〇〇)

氣賀 勤重

正五位勳四等、鐵道局長、札幌鐵道局長、富山縣在籍 父 清太郎 安政六、五生、現戸主 妻 キミ 明二〇、四生、愛媛、松岡文吉女 男 達郎 明四三、一一生 女 道代 大二、五生 君は富山縣人氣賀清太郎の二男にして明治十五年十二月を以て生る同四十年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同四十一年鐵道監事主任に任ぜられ次で同參事鐵道書記官同參事鐵道監察官鐵道局參事同書記官大臣官房保健課長に歴任し大正十五年鐵道局長に任ぜられ現に札幌鐵道局長たり家族は尙兄清作(明一三、二生)同妻巳八子(同二一、四生)長野、伊藤大八長女)及其三男弟義次(同二七、九生)同良次(同二九、一〇生)同妻波(同二二、一一生)及其一男あり姉ナホ(同二二、四生)は富山縣人太田庄藏に妹タニ(同二二、七生)は同縣人林兵之助に嫁し同節(同二七、一〇生)は同縣人谷野重信の養子となり弟修次(同二九、二生)は分家せり(札幌、鐵道局長官舎)

行理事井内勇に嫁せり(東京、小石川、小日向臺町二ノ二六電小石川一七四)

小池 正彪 三井銀行(株)本店外國營業部長

妻 初 明二〇、一一生、千葉、佐藤直次

女 正 宜 大六、一〇生

女 郁子 明四三、七生

女 惠子 大元、九生

君は男爵小池正彪の弟にして明治十八年十月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し三井銀行に入り大正六年英國に留學し同八年歸朝次で同行銀行支店長に任じ現に本店外國營業部長たり家族は尙三女喜久子(大三、一〇生)三男正邦(同九、八生)あり(東京、小石川、小日向臺町二ノ一五電小石川六八八)

小池 安之 正三位勳二等功三級、豫備陸軍中將、茨城縣在籍

妻 しな 明三、七生、三重、宮川保長女

男 安正 明二五、五生、陸軍歩兵大尉

女 ツル子 明三三、六生、長男安正妻 栃木、大槻管長女

君は茨城縣人小池安之左衛門の二男にして元治元年三月を以て生れ大正元年分家して一家を創立す明治十四年陸軍教導團に入り陸軍大學校を卒業す夙に陸軍歩兵少尉に任じ大正五年陸軍中將に累進す其間參謀本部々員大本營滿洲軍各參謀第七師團參謀長歩兵第十二旅團長獨立守備隊司令官近衛歩兵第二旅團長憲兵司令官第六師團長等に歴補し大正十年豫備役編入付らるる家族は尙孫安忠(大〇、四生、長男安正長男)同富子(同一五、一一生、同長女)あり二男安三(明三三、三三)は分家し二女操(同四四、八生)は千葉縣人加瀬俊武長男武一に嫁し四男安士(同四四、一一生)は三重縣人宮川きしの死跡を相続せり(東京市外千駄ヶ谷町六五八)

小石 季一 從五位勳五等、北海道廳技師、産業部水産課長、秋田縣土族

妻 よし 明二〇、一〇生、千葉、八幡きよ長女

君は秋田縣土族小石宗右衛門の長男にして明治八年十二月を以て生れ同三十三年家督を相続す同二十八年秋田縣尋常小學校本校科正教員となり同三十二年農林省水産講習所を卒業し秋田縣水産事業手千葉縣鴨川水産講習所を経て同四十四年富山縣技師となり富山縣水産講習所長高知愛媛長崎各縣技師水産試験場長を経て大正十五年北海道廳技師に轉じ現に産業部水産課長たり家族は尙二男正夫(大元、八生)あり姉シケ(明一三、一一生)は秋田縣人富士盛閣宗に養子キクノ(同三一、七生)愛媛、長井幸太郎(明一三、一一生)は石川縣人原康治郎に嫁せり(札幌、北一條西五電二六五)

小泉 伊兵衛 滋賀縣多額納稅者、吳服商

妻 やさ 明一九、一一生、滋賀、高田善右衛門五女

男 秀雄 明三八、八生

女 きぬ子 明四二、六生

女 ひろ子 明二五、一〇生

女 子 明二五、一〇生

君は滋賀縣人先代伊兵衛の二男にして明治十四年十一月を以て生れ同二十二年家督を相続し前名孝次郎を改め眞名孝次郎を名に滋賀縣多額納稅者たり家族は尙四男房次郎(明四三、一〇生)五男準之助(大六、三三)六男正之助(同四一、一一生)あり姉あき(明九、一〇生)は其夫知三郎(同二、三三)滋賀、土、上田安常(弟)と共に分家し姪はつ(同三一、七生)は其家籍に入れり(滋賀、神崎、旭村)

君は秋田縣土族小泉宗右衛門の長男にして明治二十年十一月を以て生れ同三十一年分家して一家を創立す魚類商を營む家族は尙二男英志(明四三、五生)あり(大阪、西、京町堀上通五ノ一電土佐堀七八)

小泉 啓三 小泉製菓(株)取締役

母 すゑ 明六、九生、滋賀、松居龜右衛門二女

妻 千代子 明三二、八生、東京、小林翁治郎妹

男 通吉 大一一、一一生

君は東京府人小泉嘉兵衛の長男にして明治二十七年一月を以て生れ大正三年家督を相続す同七年早稲田大學商科を卒業し現時製菓會社取締役たり家族は尙長女昭子(大九、二生)二女淑子(同二〇、六生)三女郁子(同二一、一一生)の外弟孝三(明三七、一一生)同昌三(同四一、七生)あり姉ひさ(同三三、三三)日本女子大學校家政科出身)は滋賀縣人小林吟右衛門弟拾次郎に同わか(同三五、三三)は三重縣人小津六三郎弟延之助に嫁せり(兵庫、武庫、西郷町電御影一三三)

小泉 源一 從五位、理學博士、京都帝國大學助教授、理學部勤務、山形縣土族

妻 たか 慶應元、一一生、祖父翁吉二男、現慶應元、一一生

母 ふみ 平三女、七生、山形、土、梅澤運貞姉

女 幹雄 大三一、一〇生

君は山形縣土族小泉清次の長男にして明治十六年十一月を以て生れ叔父清藏の養子となる同三十一年札幌農學校林學科を卒業し同四十四年東京帝國大學理學科大學植物學科を卒業す大正五年理學博士の學位を受け同八年京都帝國大學助教授に任じ同十三年英米瑞典露各國に留學を命ぜられ歸朝後現在に至る家族は尙三女静子(大六、一一生)二男憲治(同九、一一生)の外弟秀雄(明一八、一一生)同妻サオ(同三五、六生)福井、清水清藏(二女)との間に子女あり養妹なみ(同二二、一一生)は東京府人幸田稻男に同ころ(同二五、七

君は秋田縣土族土屋密禪に同い(同二七、九生)は同府人石川利久に同を(同三一、六生)は熊本縣人野藤七郎治八に嫁せり(京都帝國大學内)

小泉 五兵衛 秋田縣多額納稅者、羽後銀行(株)

妻 ウタ 明五、九生、秋田、伊藤慶太郎妹

女 セキ 明二〇、一〇生、長女セキ、秋田、島田平兵衛弟

君は秋田縣人小泉五兵衛の長男にして慶應元年十月を以て生れ明治十八年家督を相続し眞名三十五年法政大學を卒業し現時羽後銀行取締役たり秋田縣多額納稅者たり家族は尙孫國太郎(大二、三三)養子金八郎(同二、三三)同正三郎(同五、一一生)同英四郎(同七、一一生)同四郎(同九、一一生)同五郎(同五、一〇生)同六郎(同二、三三)あり二女サヨ(明二五、九生)は秋田縣人松浦二郎に三女ムツ(同二七、九生)は同縣人近藤誠之に五女リツ(同三三、一〇生)は同縣人尾尾良助三男高藏に嫁し四女キチ(同二八、九生)は同縣人岡田市兵衛の養子となり(秋田、平鹿、増田町)

小泉 策太郎 勳三等、衆議院議員、静岡縣選出、大連株式會社取引所(株)理事長

妻 やす 明三、一一生、静岡、齋藤久三郎妹

女 清子 明四五、五生

君は静岡縣人小泉策太郎の長男にして明治五年十一月を以て生れ同四十五年家督を相続す夙に操縦界に入り静岡日報自由新聞各記者九州新聞經濟新聞各社長となり又四谷區區議員東京市會議員東京商業會議所議員等に擧げらる明治四十五年以來憲政黨より推されて衆議院議員に當選する事六回現に立憲政友會所屬として黨内に重きをなす傍ら大連株式會社取引所理事長たり家族は尙三男二虎三郎(大三、八生)二女澄子(同七、一〇生)四女珠子(同九、七生)五男新策(同一、九生)六男淳作(同一、一〇生)七男正(同一、八生)庶子仲五(同一、一〇生)生母、京都、榊木ヲヨ孫昭昭(二、

る現に縣下の多額納稅者たり家族は尙長女一枝(大一〇、九生)二女京子(同一、四生)二男吉明(昭二、七生)あり(埼玉、南埼玉、越ヶ谷町)

小泉 岩吉 神奈川縣多額納稅者、土木建築請負業、神奈川縣在籍

妻 たき 明四〇、一一生、養子勇妻、神奈川、齋藤由太郎四女

君は神奈川縣人小泉由兵衛の三男にして同父次郎の弟なり慶應三年十月を以て生れ明治二十七年分家して一家を創立す土木建築請負業を營み現に神奈川縣多額納稅者たり家族は尙庶子政子(大一一、一一生)生母、東京、杉山タカ(孫榮子(同一、一〇生)養子勇長女)あり弟金三(明一三、一一生)は同妻しま(同一、二生)千葉、庄司恒治姉)及其一女を伴ひ分家せり(横須賀、稻町)

小泉 丑治 砂盤興行(株)専務取締役、多摩川砂利木材鐵道(株)監査役

妻 脩 大一一、一一生、茨城、小泉康二男

君は茨城縣人小泉新七郎の三男にして慶應元年四月を以て生れ明治三十四年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり夙に國際活動映畫會社取締役たりし事あり庶子ムメ(明二三、三三)は東京府人根岸濱男の母にして同綾子(同三六、三三)生母、東京、根岸ゑいは同府人松村良三に嫁せり(東京、淺草、諏訪町六電淺草三五八六)

小泉 馬吉 相模銀行(株)取締役

妻 眞子 明七、九生、養父市五郎二女

君は神奈川縣人飯塚慶藏の弟にして明治四年十二月を以て生れ後小泉市五郎の養子となり同三十四年分れて一家を創立す現時相模銀行取締役たり家族は尙二男昇(大六、四生)あり長女俊子(明三五、七生)は神奈川縣人和田好藏弟龜太郎に嫁せり(神奈川、中、東森野村)

小泉 勝五郎 栃木縣多額納稅者、絲類商

妻 タツ 明元、一一生、群馬、金子ヨシ長女

男 新太郎 明一八、八生

女 タケ 明二〇、六生、長男新太郎妻、栃木、牛窪惣吉三女

男 賢三 明三三、三三

女 良之輔 明四一、三三

孫 千代 明四三、八生、長男新太郎長女

君は栃木縣人小泉勝五郎の長男にして文久二年二月を以て生れ明治七年家督を相続す絲類商を營み現に栃木縣多額納稅者たり家族は尙孫榮一郎(明四二、二生)長男新太郎(同四三、一〇生)同善四郎(昭二、三三)同喜美(同一〇、三三)同二女(同善四郎)昭二、三三、同四男(同四男)あり長女チカ(明二〇、八生)は埼玉縣人秋山熊藏に二女ナミ(同二五、一一生)は栃木縣人早川佐四郎に養子廣忠に四女ミツ(同三〇、四生)は東京府人中澤清に五女タキ(同三四、一一生)は鹿兒島縣人川野清隆に養子トモ(同二四、一〇生)群馬、石淵喜一郎(五女)は群馬縣人大谷要藏に嫁し三男茂作(同三二、七生)は同妻ヨシ(同三九、一〇生)栃木、天田佐助(三女)を伴ひ分家せり(栃木、足利、毛野村)

小泉 金之助 東京府會議員、小泉館、旅館業

父 喜三郎 元治元、四生、現戸主

妻 かの 明一七、二生、埼玉、鈴木勘藏長女

女 加津子 明四四、四生

小泉 三橋 從五位勳五等、檢事、下妻區裁判所檢事兼水戸地方裁判所下妻支部長、秋田縣士族、安政四、三、秋田、土、高橋實、妻、初、明一七、五、生、茨城、莊司博姉、男、明四一、五、生、女、明四三、一、生、一、生

君は秋田縣士族小泉重記の弟にして明治十二年八月を以て生れる同三十七年法政大學法律科專門部を卒業し翌三十八年判事登用試験に合格し同四十年判事に任じ大曲横手一關各區裁判所山形地方裁判所同區裁判所各判事に歴補し大正二年判事に任じ福島長崎佐賀鹿兒島山形各區地方裁判所所長を経て同十五年平區裁判所所長兼福島地方裁判所平支部所長に補せられ現時下妻區裁判所所長兼水戸地方裁判所下妻支部所長に任じ族は尙三女春子(大四、三、生)女(同六、三、生)二男武男(同八、一、生)四男芳男(同二、六、生)の外兄重記(明五、八、生、現戶主)同妻スエ(同八、九、生、秋田、佐藤勘左衛門孫)及其子女第四郎(同三、四、生)同妻ヤサ(同三、八、一、〇、生、秋田、伊藤和吉長女)あり(茨城、眞壁、下妻町)

小泉 三太郎 茨城縣多額納稅者、農業、茨城縣在籍、妻、ヒテ、嘉永元、四、生、茨城、田澤澤作二女、男、重、信、明四〇、一、生、女、友、信、明四〇、一、生

君は茨城縣人小泉重藏の長男にして明治六年十一月を以て生れる同三十年家督を相続す農を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尙三男國文(明四三、一、生)二女須美子(大三、四、生)三女滿子(同六、一、生)四女美津子(同二、一、八、生)五女富子(同二、四、四、生)弟藤之介(明二、九、九、生)同妻むめ(同二、五、一、生、茨城、田澤澤作二女)あり(茨城、眞壁、下妻町)

妹(同四郎(同一四、九、生)同妻こう(同一九、六、生、茨城、田口利兵衛三女)との間に各子女あり長女つる(同三、七、〇、生)は茨城縣人河合米吉弟沖に嫁く(同一七、一、生)は神奈川縣人新橋東三郎に嫁し姉ちよの(同五、二、生)は同夫辰之介(同元、四、生、茨城、小名瀬英之介)及其子女と共に分家せり(茨城、那珂、木崎村)

小泉 治兵衛 實商、東京府在籍、妻、よし、明一八、九、生、東京、峰島松太郎姉、男、信一、明四〇、八、生、女、愛、明四三、六、生

君は東京府人先代治兵衛の長男にして明治十一年五月を以て生れる大正四年家督を相続し前名繁之助を改む實商を營む家族は尙二男榮(明四三、六、生)二女富子(大四、二、生)三女阿都(同七、一、生)あり(東京、牛込、細工町一)

小泉 重助 滋賀縣多額納稅者、吳服商、滋賀縣在籍、妻、福、明二一、五、生、滋賀、辻惣兵衛叔母、男、伊、助、大元、一〇、生

君は滋賀縣人布施嘉七の二男にして明治十一年四月を以て生れる同三十五年先代重助の死跡を相続し前名義之助を改め義之助と改稱す吳服商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙長女綾子(大三、七、生)二男文助(同六、五、生)三男吉助(同九、八、生)四男圭助(同二、三、四、生)あり(滋賀、神崎、旭村)

小泉 新造 織物商、京都府在籍、妻、シツ、安政三、一〇、生、京都、伴四良兵衛、男、か、つ、明二六、一、生、京都、井上治兵衛、女、衛、明二六、一、生

君は京都府多額納稅者小泉新七の長男にして大正五年三月を以て生れる昭和三年家督を相続し織物商を營む家族は尙姉美津(大四、二、生)妹かず(同一〇、一〇、生)あり(昭二七、七、生)あり(京都、下京、四條通烏丸西入ル電七二)

小泉 米藏 土佐縣常務取締役、南海、和歌山、山形、山梨、各(株)取締役、南、北、海、各(株)取締役、和歌山縣士族、妻、房、子、明四三、五、生、女、友、子、明四三、五、生

君は和歌山縣人田中善吉の弟にして明治六年八月を以て生れる同三十六年同縣士族小泉こととの入夫となり家督を相続す凡に實業界に入り現時土佐縣常務取締役代表取締役たる外前掲各會社の重役たり(和歌山、市豊原町三ノ三)

小泉 新兵衛 滋賀縣多額納稅者、三角興業(株)代表取締役、京都府在籍、妻、ツ、明二三、一、生、滋賀、渡邊長兵衛三女、男、慎、逸、大五、三、生

當家は滋賀縣の舊家にして夙に京都に於て吳服商を營みたり君は先代新兵衛の長男にして明治十一年四月を以て生れる同三十四年家督を相続す同三十四年東京高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役として知られ滋賀縣多額納稅者たり家族は尙三女和(大九、一、生)あり姉きた(明一、二、一、生)は其夫重之助(文久元、八、生、滋賀、福原九右衛門三男)及其一子と共に分家し妹文(明二六、三、生、津田英學出身)は愛知縣人久野寧に嫁せり(兵庫、武庫、魚崎村)

小泉 澄 五斯管販賣、大阪縣商俱樂部各(株)取締役、兵庫縣士族、妻、澄、弘化三、三、生、男、文、明三〇、一〇、生、養父澄平長女、女、融、明三二、九、生、東京帝國大學理學部出身、男、功、明四〇、一、生

君は岡山縣人松尾友馬の長男にして慶應二年十二月を以て生れる先代澄平の養子となり大正五年家督を相続す大阪舊泰西學館の出身にして現時前記會社の重役たり大正大阪シヤリング尾崎實業實用自動車製造各會社監査役たり大正十三年より十四年に渡り世界漫遊視察を遂げて歸朝す家族は尙四男進(明四四、五、生)四女縁(大四、八、生)あり二女薫(明三四、一、生)は静岡縣人京都帝國大學法學部教授宮本英雄に三女嫁(同三七、一〇、生)は福井縣人伊藤實次郎長男元子に嫁せり(兵庫、武庫、今津町高湖七四電西宮四六二)

小泉 尙助 小泉製糖(株)取締役、兵庫縣在籍、妻、い、明二八、一、二、生、兵庫、塚原昌吉、養子、神戸女學院出身

小泉家は古くより滋賀縣下旭村に住し染吳服商を營む舊家なり君は同縣人小泉利助の長男にして萬延元年十月を以て生れる先代清吉の養子となり明治十六年家督を相続す祖業を承けて染吳服商を營む家族は尙孫一雄(大二、九、生、長男利太郎長男)同利雄(同一四、一、二、生、同二男)同昌子(同八、八、生、二男元三長女)同みどり(同一一、六、生、同二女)あり長女あり(明二六、二、生)は滋賀縣人上田善一郎に二女すみ(同三七、六、生、京都府立第一高等女學校出身)は京都府人西村仁兵衛二男常次郎に嫁せり(京都、下京、錦小路通烏丸西入ル電中四八四)

小泉 良助 小泉製糖、三角興業各(株)取締役、滋賀縣在籍、妻、ふ、明元、四、生、滋賀、小泉嘉兵衛長女、男、道、子、明二八、二、生、東京、小林治郎姉、女、徳、一、大、二、七、生

君は滋賀縣人小泉助次郎の長男にして明治十五年九月を以て生れる同三十八年家督を相続す同四十二年京都帝國大學法學部大學を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男健二(大三、一〇、生)あり弟尙助(明二三、一、二、生)は分家せり(兵庫、武庫、西郷町六甲)

小泉 六一 正四位勳二等功四級、陸軍中將、妻、ア、サ、明一、九、九、生、養父彌一長女、君は廣島縣士族秋山恂一の三男にして同雅之助の弟同正八の兄なり明治八年三月を以て生れる同二十二年先代リウの養子となり同二十三年家督を相続す同二十九年陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉に任じ同三十六年陸軍大學校を卒業し爾來第一師團參謀陸軍省軍務局課員兼陸軍歩兵學校研究部員青島守備軍副官青島軍政署附陸

小泉 興吉 東京府在籍、妻、は、ま、明一三、一〇、生、東京、小泉常吉、養母、さ、と、嘉永四、九、生、千葉、穴倉辰五郎、二女

君は千葉縣人穴倉興三の二男にして明治十年三月を以て生れる同三十一年先代常吉の養子となる地主たり家族は尙養弟桃太郎(明三二、四、生、現戶主)同妻壽恵子(同三三、九、生、東京、宮崎米藏三女)及其一女あり(東京市外大森町谷島二〇四電大森一九二六)

小泉 又次郎 勳三等、衆議院議員(神奈川縣選出)、神奈川縣在籍、妻、ナ、ツ、慶應元、四、生、神奈川、綾部幸吉、養子、コ、ウ、明一、九、生、鈴木徳三郎四女、女、芳、江、明四〇、一、生、生母、神奈川、山口ハツ

君は神奈川縣人小泉由兵衛の二男にして同若吉の兄なり慶應元年五月を以て生れる明治三十八年家督を相続す義に横須賀市會議員同議長神奈川縣會議員横須賀市長に推される衆議院議員に選ばる、事七回會て同議長長に舉げられ現に立憲民政黨に屬し同幹事たり養子ちよ(明二五、九、生、千葉、鈴木亮一姉)は神奈川縣人三橋藤太郎に嫁せり(東京、芝、伊豆子町六三電高輪六八)

小泉 達 三、大七、八、生、君は滋賀縣人小泉良助の弟にして明治二十三年十二月を以て生れる大正八年分家して一家を創立す東京高等工業學校機械科を卒業し現に小泉製糖會社取締役たり家族は尙長女信子(大、一〇、五、生)二男若三(同一二、一、生)二女中子(同一五、三、生)あり(兵庫、武庫、西郷村)参照：小泉良助の項

小泉 又次郎 勳三等、衆議院議員(神奈川縣選出)、神奈川縣在籍、妻、ナ、ツ、慶應元、四、生、神奈川、綾部幸吉、養子、コ、ウ、明一、九、生、鈴木徳三郎四女、女、芳、江、明四〇、一、生、生母、神奈川、山口ハツ

小泉 興吉 東京府在籍、妻、は、ま、明一三、一〇、生、東京、小泉常吉、養母、さ、と、嘉永四、九、生、千葉、穴倉辰五郎、二女

小泉 良俊 從五位勳五等、地方技術師兼地方農林技術師、東京府在籍、妻、コ、ウ、明一七、二、生、東京、山崎良吉姉、男、良、雄、明三九、六、生

君は滋賀縣人漢見快良の二男にして明治十二年一月を以て生れる福井縣士族小泉久時の養子となり同四十一年

軍兵器本廠々員歩兵第十三旅團長等に補せられ大正十四年陸軍中將に累進し支那駐屯軍司令官を経て現時第十一師團長たり...

小坂橋倉太郎

原市銀行(株)頭取 群馬縣在籍 明二五、一、一、東、稻川富治 妻 明二七、九、九、養子四郎妻、群馬、...

小坂橋彦太郎

群馬縣多額納税者、吳服商 群馬縣在籍 明一、八、八、群馬、山谷半七二女 妻 明二七、七、七、...

小出丑松

大阪府多額納税者、鐵商 大阪府在籍 明一、二、二、大阪、稻田福造妹 妻 明一、二、二、...

小出治郎吉

長野縣多額納税者、魚介藻類販賣 長野縣在籍 明一六、六、六、長野、倉田小一郎 妻 明三三、三、三、...

小出庄兵衛

正八位勳六等、陸軍歩兵少尉、十 一屋吳服店(株)取締役、名古屋銀行 行名古屋貯蓄銀行各(株)監査役 愛知縣在籍 明二〇、一〇、一〇、愛知、中村祐平 妻 明三三、三、三、...

君は愛知縣人瀧定助同廣三郎の弟にして同六郎同義郎の兄なり明治十五年三月を以て先代との養子となり...

養子 太一郎 明三六、七、七、兄源次郎長男 君は大阪府人小出市松の長男にして明治十年七月を以て生れ同十四年家督を相続す鐵商を營み現時大阪府...

小出浦助

岡山縣多額納税者、岡山縣農工銀行(株)取締役、農業、岡山縣在籍 行(株)取組、岡山、橋本小二郎 母 明二二、二、二、岡山、...

小出收

玉川製米(株)社長、日本形染(株) 取締役、購買組合共榮社理事 岡山縣在籍 明九、七、七、岡山、...

小出善兵衛

大阪府市議員、天王寺實業組合頭 大阪府在籍 明一四、三、三、大阪、小出末次郎 妻 明三三、三、三、...

小出範治郎

西武鐵道(株)支配人兼臨時建築部 長、宮城縣在籍 明元、四、四、伏見信平長女 妻 明三三、三、三、...

小出廣太郎

正五位勳四等、熊本高等工業學校 教授、徳島縣士族 日本女子大學校文科出身 明一六、一〇、一〇、...

君は宮城縣人小出市郎治の三男にして明治元年三月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同二十三年中央大學を卒業し現に西武鐵道會社支配人兼臨時建築部長たり...

一〇生、福岡、法學士荒木静夫長女)の外兄圓(安政五、七生、現戶主)同妻さく(明元、一、二、岡山、土、御供又藏三女)あり三女朝子(同三四、三、三、女子美術學校出身)は工學士古河製業會社員加藤三松に四女澄子(同三五、六、六、御茶水高等女學校出身)は法學士警視廳調停課長有松外に嫁せり(東京、本郷、駒込西片町一〇電小石川一九九六)

小出熊治郎

石津酒製糖(株)取締役、小出屋 石津縣在籍 明一三、九、九、養父熊治郎二女 妻 明四〇、二、二、...

小出五郎

勳四等、サイト一棟瓦(株)社長、 大正電氣製煉所(株)監査役、辯護 士、東京府在籍 明二一、一、一、長野、神津道一妹 妻 明二一、一、一、...

小出英延

從三位、子爵、掌典 舊丹波國藩 明四一、八、八、生、子爵細川立興姪 妻 明四一、八、八、...

小出義彦

岡山縣多額納税者、醫師 岡山縣在籍 明二七、五、五、岡山、神坂昇妹 妻 明二七、五、五、...

君は岡山縣人小出作善の長男にして明治十六年十月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學農學部醫學科を修め後同校醫學科大學に學び大正八年卒業す醫師にして岡山縣多額納税者たり家族は尙長女みつ(大九、九、九、二女幾代(同二四、一、一)の外弟治彦(明二二、四、四)同妻ハル(同二四、三、三、奈良、...

辻保造(長女)及其一男あり(岡山、上房、豊野村)

參照 神坂昇の項

小岩 三郎 住友銀行(株)青山支店長

妻 チョウ 明二、三、多巻觀瀾二女

君は若手奮奮一團藩士小岩昌の三男にして明治六年十一月を以て生れ同二十八年分家して一家を創立す夙に北米合衆國に渡航しウキルンビジネスカレッジに學び歸朝後住友銀行に入り大阪本店及び神戸東京各支店を経て現に同行青山支店長たり(東京、麻布、岸町一五五電青山五五九)

小岩 井兼輝 從五位勳六等、弘前高等學校教授

妻 きん 明二、六、英城、士、關想二女

君は茨城縣人小岩井清三の二男にして明治二年一月を以て生れ同三十年分家して一家を創立す同二十五年東京帝國大學理學部卒業し石川縣尋常師範學校助教授石川縣中學校新設縣北浦原中學校校長野野中學校同松本中學校各教諭を経て東北帝國大學理學部に入學し大正四年同大學地質科卒業爾來農商務省鐵務技手朝鮮總督府技手同技師京城工業專門學校教授等に任じ大正十年現職弘前高等學校教授に任ぜらるる家族は尙五男直(明四四、七、六男進(大五、一、一)三女霞(同八、九)あり(弘前市外清水村官舎三號)

參照 茨河幹明の項

小岩 井潤一 長野縣多額納稅者、陸軍製絲(株)取締役、酒造業、長野縣在籍

母 とめ 安政五、一、生、長野、小岩井庄

君は長野縣人小岩井善次の長男にして明治十六年四月を以て生れ大正二年家督を相続す酒造業を営み長野縣多額納稅者にして現時陸軍製絲(株)取締役たり(家族は尙二女美伊子(大一一、六)三女喜久子(昭二、五)あり(長野、東筑摩、里山邊村)

小岩 井宗作 長野縣多額納稅者、保證責任信用販賣利用組合及社組合長

妻 みよの 明四、一、生、長野、青木清之助

君は長野縣人小岩井宗三の二男にして明治七年十月を以て生れ大正八年家督を相続す先是明治四十二年養蠶業に造作多きを慨し蠶種消毒普及會を創立し大正六年同志と共に組合製絲普及社を創設し組合長として引續き其任にあり現に長野縣多額納稅者として知らるる家族は尙二男宗治(明四二、二)四男宗義(大二、八)四女英子(同五、一〇)五男宗弘(同八、一)孫翠(昭二、一)生、長男宗忠(昭一、一六、一〇)生、同妻はまゝ(同二、八)生、長男山口淺吉(長女)及び其子女を伴ひ長野縣人小岩井つやの養子となり長女よし(明三三、八)生、同縣人合和太郎に嫁せり(松本市)

小浦 梅次郎 朝鮮窒素肥料販賣(株)監査役、國勢肥料(名)代表社員、肥料商

妻 かね 慶應二、七、生、祖父六兵衛長女

君は和歌山縣人小浦駒吉の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同三十五年家督を相続す肥料商を営み現時朝鮮窒素肥料販賣(株)監査役國勢肥料(名)代表社員たり妹こう(明一八、一)生、は和歌山縣人谷山駒吉に嫁し弟駒次郎(同二二、六)生、は同妻よし(同二四、一)生、及び其一男を伴ひ分家せり(大阪、西、報上通二二一電土佐堀一六二五)

小貝 甚三郎 魚類商

妻 和子 明四、一、八、生、愛知、加藤宗太郎

君は東京府人小貝末吉の長男にして明治七年一月を以て生れ同二十六年家督を相続す縮緬商を営み傍ら高田商會取締役たり家族は尙孫久子(大一一、一)生、養子貞一郎(長女)あり(東京、上京、兩替町通小路上下ル柿本町三九ノ七電中三八二九)

小久 江成一 日清印刷(株)常務取締役、早稻田大學出版部(株)取締役

妻 ふみ 明七、〇、生、東京、前島喜平二女

君は東京府土族小久江成經の長男にして元治元年八月を以て生れ明治九年家督を相続し前名武三郎を改む現時前掲各會社の重役たり家族は尙孫眞一(大二三、九)生、長男眞雄(長男)同(同五、五)生、同長女同(同二、一)生、同三女あり長女梅代(明二三、一)生、は埼玉縣土族斯波至弟敬助に嫁し二男勇策(同三〇、四)生、は兵庫縣人山中アいの養子となり(東京、牛込、矢來町三山里二四電牛込四七五)

小久 江美代吉 衆議院議員、静岡縣選出、東京市會議員、神田區會議員、辯護士

妻 はつ 明一三、五、生、静岡、青野香吉長女

君は静岡縣人小久江利平の長男にして明治十三年二月を以て生れ同三十一年家督を相続す同三十四年明治大學を卒業し辯護士を開業し今日に至り東京市會議員神田區會議員に當り昭和三年郷里静岡縣より推され衆議院議員に當選し立憲民政黨に屬す家族は尙二男利輔(大五、四)生、長女静子(同九、六)生、同弟豊次(明一八、三)生、は同妻よし(同二二、六)生、静岡、鈴木桂次郎(長女)及其二女を伴ひ分家せり(東京、神田、松住町一〇電下谷六二〇一)

小風 亥真穂 小風商事(株)社長、第一(五株)社長、東京府土族

父 知 依 嘉永三、二、生、現戸主

君は新潟縣人小風知依の長男にして明治八年六月を以て生れる同三十九年明治大學を卒業し現時小風銀行頭取の外前記各會社々長たり家族は尙弟義二郎(明二一、一)生、同妻すみ(同三六、一)生、鹿兒島、吉永直彦二女)及其一男同平三郎(同二三、三)生、同妻マツ(同二七、一)生、栃木、瀧田景一(妹)及其二女あり妹柳(同二五、三)生、は新潟縣人鈴木周壽計三男欽哉に嫁せり(東京、赤坂、傳馬町一ノ一二電青山三六二五)

小金 忠次郎 松田銀行(株)頭取

妻 イマ 明七、一、生、神奈川、武尾彌十

小金家は遠く其祖を甲斐源氏に發す中世に至り歸農し傍ら酒造業に従事せり君は先代仁右衛門の長男にして明治四年八月を以て生れ同四十二年家督を相続す夙に酒田村長に擧げられ又神奈川縣會議員に選ばる現時松田銀行頭取たり家族は尙弟義照(明三一、二)生、法學士)同妻カツ(同三七、五)生、下山芳太郎(長女)及其一子あり妹ノブ(同六、一)生、は神奈川縣人近藤萬次郎に同キマ(同八、一)生、は同縣人米山豊太郎に同キマ(同四、一)生、は同縣人武藤太郎に同キマ(同一九、三)生、は同縣人渡邊幸造に嫁し弟静之助(同二一、一)生、は同縣人鈴木兼次郎に同(同二四、一)生、は同縣人菅沼テウに各養子となり(神奈川、足柄上、酒田村)

小金 井良精 正三位勳一等、醫學博士、帝國大學院會員、東京帝國大學名譽教授

妻 キミ 明三、一、生、故文學博士醫學博士森林太郎妹

君は茨城縣人小久保藤吉の長男にして慶應元年三月を以て生れ明治十年家督を相続す年少中島撫山に學び漢學を修め夙に自由民権の爲めに盡して名あり曾て茨城縣會議員同副議長に選ばれ又自由通信社社長に就任す同四十四年以來茨城縣より推されて衆議院議員に當選する事六回に及び義に選任官に任ぜらる現時自由通信社相談役たり城南と號して詩文を能くす養子千代(明二二、八)生、埼玉、小島良達(長女)は熊本縣人牧野殿馬弟義智に嫁せり(東京市外大森町山谷二四六二電高輪四七〇)

小久 保喜七 正五位勳三等、自由通信社相談役

妻 まさ 元治元、二、生、埼玉、古谷米吉四女

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二男博二(昭二、九)生、弟政雄(明四〇、八)生、あり姉すむ(同二七、六)生、は東京府人川野濱吉長男長藏に嫁し(同三三、四)生、は同府人吉川福之助に嫁せり(東京、南葛飾、松江町)

小久 保松保 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

君は東京府人小坂駒吉の二男にして倉田龜吉の弟なり明治六年十一月を以て生れ同三十一年家督を繼承し松本樓大松閣を經營し刺染業を営み現時東京市參事會員京橋區會議員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙三女照子(大三、一)生、四女鶴子(同四、九)生、二男俊雄(同七、六)生、五女登代子(同二〇、五)生、三男俊雄(同四三、三)生、生母、東京、土、相澤つづ(同秀雄(同四

小坂 梅吉 東京市參事會員、京橋區會議員、大正製米(株)專務取締役、磐城炭礦(株)監査役、新橋演舞場(株)相談役、松本樓、大松閣、刺染業

妻 千代 明四〇、三、生

北保造(長女)及其一男あり(岡山、上房、豊野村)

參照 神坂昇の項

小岩 三郎 住友銀行(株)青山支店長

妻 チョウ 明二、三、多巻觀瀾二女

君は若手奮奮一團藩士小岩昌の三男にして明治六年十一月を以て生れ同二十八年分家して一家を創立す夙に北米合衆國に渡航しウキルンビジネスカレッジに學び歸朝後住友銀行に入り大阪本店及び神戸東京各支店を経て現に同行青山支店長たり(東京、麻布、岸町一五五電青山五五九)

小岩 井兼輝 從五位勳六等、弘前高等學校教授

妻 きん 明二、六、英城、士、關想二女

君は茨城縣人小岩井清三の二男にして明治二年一月を以て生れ同三十年分家して一家を創立す同二十五年東京帝國大學理學部卒業し石川縣尋常師範學校助教授石川縣中學校新設縣北浦原中學校校長野野中學校同松本中學校各教諭を経て東北帝國大學理學部に入學し大正四年同大學地質科卒業爾來農商務省鐵務技手朝鮮總督府技手同技師京城工業專門學校教授等に任じ大正十年現職弘前高等學校教授に任ぜらるる家族は尙五男直(明四四、七、六男進(大五、一、一)三女霞(同八、九)あり(弘前市外清水村官舎三號)

參照 茨河幹明の項

小岩 井潤一 長野縣多額納稅者、陸軍製絲(株)取締役、酒造業、長野縣在籍

母 とめ 安政五、一、生、長野、小岩井庄

君は長野縣人小岩井善次の長男にして明治十六年四月を以て生れ大正二年家督を相続す酒造業を営み長野縣多額納稅者にして現時陸軍製絲(株)取締役たり(家族は尙二女美伊子(大一一、六)三女喜久子(昭二、五)あり(長野、東筑摩、里山邊村)

小岩 井宗作 長野縣多額納稅者、保證責任信用販賣利用組合及社組合長

妻 みよの 明四、一、生、長野、青木清之助

君は長野縣人小岩井宗三の二男にして明治七年十月を以て生れ大正八年家督を相続す先是明治四十二年養蠶業に造作多きを慨し蠶種消毒普及會を創立し大正六年同志と共に組合製絲普及社を創設し組合長として引續き其任にあり現に長野縣多額納稅者として知らるる家族は尙二男宗治(明四二、二)四男宗義(大二、八)四女英子(同五、一〇)五男宗弘(同八、一)孫翠(昭二、一)生、長男宗忠(昭一、一六、一〇)生、同妻はまゝ(同二、八)生、長男山口淺吉(長女)及び其子女を伴ひ長野縣人小岩井つやの養子となり長女よし(明三三、八)生、同縣人合和太郎に嫁せり(松本市)

小浦 梅次郎 朝鮮窒素肥料販賣(株)監査役、國勢肥料(名)代表社員、肥料商

妻 かね 慶應二、七、生、祖父六兵衛長女

君は和歌山縣人小浦駒吉の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同三十五年家督を相続す肥料商を営み現時朝鮮窒素肥料販賣(株)監査役國勢肥料(名)代表社員たり妹こう(明一八、一)生、は和歌山縣人谷山駒吉に嫁し弟駒次郎(同二二、六)生、は同妻よし(同二四、一)生、及び其一男を伴ひ分家せり(大阪、西、報上通二二一電土佐堀一六二五)

小貝 甚三郎 魚類商

妻 和子 明四、一、八、生、愛知、加藤宗太郎

君は東京府人小貝末吉の長男にして明治七年一月を以て生れ同二十六年家督を相続す縮緬商を営み傍ら高田商會取締役たり家族は尙孫久子(大一一、一)生、養子貞一郎(長女)あり(東京、上京、兩替町通小路上下ル柿本町三九ノ七電中三八二九)

小久 江成一 日清印刷(株)常務取締役、早稻田大學出版部(株)取締役

妻 ふみ 明七、〇、生、東京、前島喜平二女

君は東京府土族小久江成經の長男にして元治元年八月を以て生れ明治九年家督を相続し前名武三郎を改む現時前掲各會社の重役たり家族は尙孫眞一(大二三、九)生、長男眞雄(長男)同(同五、五)生、同長女同(同二、一)生、同三女あり長女梅代(明二三、一)生、は埼玉縣土族斯波至弟敬助に嫁し二男勇策(同三〇、四)生、は兵庫縣人山中アいの養子となり(東京、牛込、矢來町三山里二四電牛込四七五)

小久 江美代吉 衆議院議員、静岡縣選出、東京市會議員、神田區會議員、辯護士

妻 はつ 明一三、五、生、静岡、青野香吉長女

君は静岡縣人小久江利平の長男にして明治十三年二月を以て生れ同三十一年家督を相続す同三十四年明治大學を卒業し辯護士を開業し今日に至り東京市會議員神田區會議員に當り昭和三年郷里静岡縣より推され衆議院議員に當選し立憲民政黨に屬す家族は尙二男利輔(大五、四)生、長女静子(同九、六)生、同弟豊次(明一八、三)生、は同妻よし(同二二、六)生、静岡、鈴木桂次郎(長女)及其二女を伴ひ分家せり(東京、神田、松住町一〇電下谷六二〇一)

小久 保喜七 正五位勳三等、自由通信社相談役

妻 まさ 元治元、二、生、埼玉、古谷米吉四女

君は茨城縣人小久保藤吉の長男にして慶應元年三月を以て生れ明治十年家督を相続す年少中島撫山に學び漢學を修め夙に自由民権の爲めに盡して名あり曾て茨城縣會議員同副議長に選ばれ又自由通信社社長に就任す同四十四年以來茨城縣より推されて衆議院議員に當選する事六回に及び義に選任官に任ぜらる現時自由通信社相談役たり城南と號して詩文を能くす養子千代(明二二、八)生、埼玉、小島良達(長女)は熊本縣人牧野殿馬弟義智に嫁せり(東京市外大森町山谷二四六二電高輪四七〇)

小久 保松保 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二男博二(昭二、九)生、弟政雄(明四〇、八)生、あり姉すむ(同二七、六)生、は東京府人川野濱吉長男長藏に嫁し(同三三、四)生、は同府人吉川福之助に嫁せり(東京、南葛飾、松江町)

小久 保梅吉 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二男博二(昭二、九)生、弟政雄(明四〇、八)生、あり姉すむ(同二七、六)生、は東京府人川野濱吉長男長藏に嫁し(同三三、四)生、は同府人吉川福之助に嫁せり(東京、南葛飾、松江町)

小久 保梅吉 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二男博二(昭二、九)生、弟政雄(明四〇、八)生、あり姉すむ(同二七、六)生、は東京府人川野濱吉長男長藏に嫁し(同三三、四)生、は同府人吉川福之助に嫁せり(東京、南葛飾、松江町)

小久 保梅吉 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二男博二(昭二、九)生、弟政雄(明四〇、八)生、あり姉すむ(同二七、六)生、は東京府人川野濱吉長男長藏に嫁し(同三三、四)生、は同府人吉川福之助に嫁せり(東京、南葛飾、松江町)

小久 保梅吉 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二男博二(昭二、九)生、弟政雄(明四〇、八)生、あり姉すむ(同二七、六)生、は東京府人川野濱吉長男長藏に嫁し(同三三、四)生、は同府人吉川福之助に嫁せり(東京、南葛飾、松江町)

小久 保梅吉 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二男博二(昭二、九)生、弟政雄(明四〇、八)生、あり姉すむ(同二七、六)生、は東京府人川野濱吉長男長藏に嫁し(同三三、四)生、は同府人吉川福之助に嫁せり(東京、南葛飾、松江町)

小久 保梅吉 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二男博二(昭二、九)生、弟政雄(明四〇、八)生、あり姉すむ(同二七、六)生、は東京府人川野濱吉長男長藏に嫁し(同三三、四)生、は同府人吉川福之助に嫁せり(東京、南葛飾、松江町)

小久 保梅吉 農業

妻 さだ 明四、一、生、東京、川野濱吉妹

君は東京府人小久保重次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す農を營む家族は尙長女操子(大一一、三)生、二

五、六生、生母同上）同園子大三、二生、生母同上）あり庶子光雄（明三七、六生、生母、東京、武田てつ）養妹タイ（同一八、二生、東京、永峰平兵衛四女）は各分家せり（東京、京橋、尾張町二ノ二電線座六〇七）

小坂 協 朝日館主 兵庫縣士族 妻 明七、三三、生、兵庫、藤原藤四郎二女

君は兵庫縣士族小坂正巳の長男にして明治三年三月を以て生れ同三十八年家督を相続す資産家に於て活動寫眞館朝日館主として知らるる家族は尙庶子道子（六一〇、一生、生母、兵庫、西村イカノ）同務（同一二、六生、生母同上）同隣子（同一五、三生、生母同上）あり長女は（明二五、六生）は其一子を伴ひ分家せり（神戸、楠谷町二七三ノ一電元町三五〇六）

小坂 久真太 大阪三品取引所取引員 大阪府在籍 妻 明二、一、生、大阪、酒屋長之祐

君は岡山縣人小坂喜三の三男にして明治十四年八月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す現時大阪三品取引所取引員たり曾て戸田商店取締役たりし事あり家族は尙二男哲三（大二、五生）あり（大阪、住吉、天王寺町八二〇電元一四三）

小坂 三十郎 岐阜縣多額納税者、美濃銀行（株）取締役、大井電氣、東濃電化各（株）監査役、工業、岐阜縣在籍 妻 明二、一、生、岐阜、小坂助三女

君は岐阜縣人先代やらの三男にして明治十三年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続し前名光好を改む工業を營み傍ら美濃銀行取締役たる外前記各會社の重役にして岐阜縣多額納税者たり姉ら（慶應三、一生）は分家し同むら（明一、一〇生）は岐阜縣人櫻井貞之助に妹と（同一五、五生）は東京府士族大塚隆太郎

に嫁し同とく（同一八、四生）は姉ららの養子となれり（岐阜、武儀、美濃町） 参照 高橋慶太郎の項

小坂 順造 正五位勲四等、衆議院議員（長野縣選出）長野電氣信濃毎日新聞各（株）社長、東信電氣、村川電力、天龍川電力、長野瓦斯各（株）取締役、安田銀行、渡瀬同族各（株）監査役、國光生命保險（互）監査役 長野縣在籍 妻 明一、一、生、長野、落合重右

小坂家は往時より信州御原村に在り代々地主を營み里正の役を勤めたる家柄なり先代善之助に京都に出で行政學經濟學を修め縣會議員衆議院議員等に推され正八位に敘せらるる君は其長男にして明治十四年三月を以て生れ大正二年家督を相続す先是明治三十七年東京高等商業學校を卒業し日本銀行に入る次で歐米に漫遊して各國の實業界を視察す歸朝後各種の事業に參畫し現時長野電燈會社社長たる外前記銀行會社の重役を兼ぬ尙先代の遺志を継ぎ政界に奔走して衆議院議員に當選する事四回現に立憲民政黨に屬す農務大臣秘書官に任ぜらるる家族は尙二男善次郎（大三、三生）三男徳三郎（同一五、一生）及弟武雄（明二八、一生）あり姉ら（同一二、一生）は長野縣人花岡俊夫先代次郎に妹は（同一七、三生）は日本銀行理事深井英五に同國（同一九、二生）は埼玉縣士族關根善作に同菊江（同一〇生、七生）は陸軍少將津野田是希に同信（同一三、一〇生、雙葉高等女學校出身）は長野縣人人工學士今井文平に同平（同一三、八生、出身校同上）は衆議院議員田中隆三長男工學士隆一郎に嫁し弟義雄（同一三、九生、法學士）は同族小坂才兵衛の養子となれり（東京市外湯谷町金王一八電書山二四三三） 参照 今井文平、小坂武雄、關根善作、田中隆三、花岡俊夫、深井英五の項

小坂 平 正五位勲三等功五級、陸軍少將、教育總監部騎兵監部附、東京府在籍

妻 明二〇、六生、男爵大寺藏先代千代田郎妹 男 太郎 明四四、九生 女 智恵子 明四二、一生

君は三重縣人小坂義男の弟にして明治十一年十一月を以て生れ大正十四年分家して一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十二年陸軍騎兵少尉に任じ大正十二年陸軍少將に累進し騎兵第四旅團長を経て教育總監部騎兵監部附に補せられ現時に至る家族は尙二男二郎（大三、六生）二女正子（同一六、一生）三女喜喜子（同九、一生）三男三男（同一一、九生）四男四男（同一五、四生）あり（東京市外湯谷町青山北町七丁目） 参照 男爵大寺藏の項

小坂 武雄 信濃毎日新聞 株 常務取締役 長野縣在籍 妻 明三七、一〇生、伯爵中川久任二

君は故衆議院議員小坂善之助の三男にして當主順造の弟なり明治二十八年一月を以て生れ大正八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに古河鐵業會社に入る後之を辭し信濃毎日新聞社に轉じ現時同社常務取締役たり家族は尙長女楊子（大一四、二生）あり（長野市立町電七七七） 参照 伯爵中川久任、小坂順造今井文平宗關根善作 田中隆三 花岡俊夫 深井英五の項

小坂 傳之助 長岡商業銀行 株 取締役 新潟縣在籍 妻 明一八、九生、新潟、伊倉長三二女

君は新潟縣人小坂松五郎の長男にして明治十八年三月を以て生れ同三十五年家督を相続す現時長岡商業銀行取締役たり家族は尙孫せつ（大一五、二生、養子常吉長女）あり姉ら（明九、一生）は三子を伴ひ分家し弟榮次（同一二、一生）も亦分家し妹ミス（同一〇、八生）は新潟縣人小坂榮藏に嫁し（同三二、一生、姉トヤ二女）は同縣人堀井忠作に嫁せり（長岡、千手町二ノ

六五七

参照 伊倉善藏の項

小坂 彌之助 カイホンペーパー（株）専務取締役 大阪府在籍 妻 明二、一、五、生、養母ヤス私生子

君は和歌山縣人林豊吉の長男にして明治十六年三月を以て生れ同二十一年先代タミの死跡を相続す現時カイホンペーパー會社専務取締役たり家族は尙三女津留榮（大五、四生）四女律子（同七、一生）五女郁子（同八、九生）あり（大阪、天王寺、小宮町五二電元六九九八）

小坂 井嘉八 松尾鐵骨橋梁（株）取締役、小坂井組（名）代表社員、土木建築請負業 大阪府在籍 妻 明二〇、八、生、愛知、加藤由三郎

君は大坂府人小坂井嘉十郎の長男にして明治十五年十二月を以て生れ大正三年家督を相続す土木建築請負業を營み小坂井組代表社員にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男正夫（大七、九生）三女愛子（同一、一、一生）四女信子（同一四、二生）あり（大阪、北、小松原町四三電北三五九五）

小酒 井五郎 新湯社、出版業 新潟縣在籍 妻 明一四、一〇、生、新潟、永井庄吉

君は新潟縣人小酒井貞吉の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正三年分家して一家を創立す夙に東京にて出版業を營み雜誌英語研究初等英語等を刊行し英語研究社と稱せしが後研究社と改め諸種の書籍雜誌を出版し斯界に知らるる家族は尙五男益三郎（大五、一生）二女朝子（同九、四生）あり（東京、龜町、富士見町六ノ五一電九段四〇二）

小崎

安藏 住友銀行 株 博多支店長 埼玉縣在籍 妻 明二六、一生、埼玉、今泉清五郎

君は埼玉縣人小崎彌三郎の二男にして明治十九年十月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す現時住友銀行博多支店長たり家族は尙二女和子（大四、三生）三女美代子（同八、二生）四女輝子（同一四、九生）あり（福岡市船津町七三ノ一電四〇六）

小崎 八郎右衛門 貴族院議員、神奈川縣多額納税者、神奈川縣農工銀行 株 取締役、神奈川縣在籍 妻 明二、三、生、神奈川、宮田寅治

當家は神奈川縣下の名門にして四代の祖左門に至り家を起し其子八郎右衛門徳望あり名主總代に擧げられ先代寛政利殖の途に明らか一躍巨富を致せり君は其長男にして慶應元年十一月を以て生れ明治十六年家督を相続し前名堅作を改む漢籍を小笠原東洋に學び縣會議員農會副會長に擧げられ衆議院議員に當選すること二回現時神奈川縣多額納税者貴族院議員にして神奈川縣農工銀行頭取たり長女ロク（明二四、九生、實踐女學校出身）は神奈川縣人永野毅に三女エイ（同一九、四生、横濱フェリス女學校出身）は同縣人原清一に四女キミ（同三五、一生、實踐女學校出身）は同縣人萩原隆文弟健二に妹サキ（同一二、三生）は同縣人川邊庄之助に同マス（同四、七生）は同縣人熊坂辨藏に同キク（同六、七生）は同縣人甘利清左衛門長男林平に同キク（同八、五生）は同縣人川邊儀三郎に同マサ（同一三、一生）は同縣人大貫彌七二男太三郎に嫁し五女コウ（同三七、三生、東京女學館出身）は同縣人藤岡善左衛門に六女八年（同四〇、一生）は同縣人落合太一郎に各養子となり弟元保（同一〇、七生）は分家せり（神奈川、中、相川村） 参照 永野毅 小野重行の項

小柴 卯之七 從五位勲五等、鐵道局參事、東京鐵道局上野運輸事務所長 新潟縣在籍

君は石川縣士族小柴與次郎の長男にして明治八年三月を以て生れ同三十七年家督を相続す同三十一年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し獨逸語及語學教授法研

小柴

錦侍 東洋インキ製造（株）取締役、製版印刷業、洋畫家、東京府在籍 妻 明三〇、一、生、佛國人フランソワ

君は東京府人小柴英の二男にして明治二十二年三月を以て生れ大正十二年小柴秋子方より分れて一家を創立す先是明治十四年東京高等工業學校圖案科を卒業し洋畫家として知られ製版印刷業を營み傍ら東洋インキ製造會社取締役たり（東京、神田、東松下町一六電濱花三九一）

小柴 大吉 東金銀行 株 取締役、千葉縣在籍 妻 明一三、一〇、生、養父萬吉長女

君は千葉縣東金町の人佐瀬哲次郎の叔父にして明治二年四月を以て生れ後先代萬吉の養子となり大正七年家督を相続す養に吳服商を營みしも現時前記各銀行の重役たり（千葉、山武、東金町）

小島 伊左美 正四位勲三等、第五高等學校教授 石川縣士族 妻 明一八、七、生、熊本、土、中原淳

君は石川縣士族小島與次郎の長男にして明治八年三月を以て生れ同三十七年家督を相続す同三十一年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し獨逸語及語學教授法研

究の爲獨來に留學し現に第五高等學校教授たり家族は...

小島逸平

君は大阪府人小島太助の五男にして同太左衛門の弟なり...

小島榮吉

君は東京府人小島茂三郎の長男にして明治十九年十二月...

小島榮左衛門

君は東京府人小島佐兵衛の長男にして安政三年六月を以て...

小島金藏

君は東京府人小島佐兵衛の長男にして安政三年六月を以て...

小島金兵衛

君は東京府人小島佐兵衛の長男にして安政三年六月を以て...

小島倉吉

君は茨城縣人先代倉吉の長男にして明治十四年三月を以て...

小島源三郎

君は東京府人小島源三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島憲

君は愛知縣人小島浦三郎の長男にして明治三十四年八月を以て...

小島孝三郎

君は東京府人小島孝三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島源三郎

君は東京府人小島源三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島憲

君は愛知縣人小島浦三郎の長男にして明治三十四年八月を以て...

小島孝三郎

君は東京府人小島孝三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島源三郎

君は東京府人小島源三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島憲

君は愛知縣人小島浦三郎の長男にして明治三十四年八月を以て...

小島孝三郎

君は東京府人小島孝三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島源三郎

を以て生れ明治十八年家督を相続す織物商を営み傍ら...

小島兼次郎

君は東京府人小島兼次郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島完吉

君は東京府人小島完吉の長男にして明治十四年九月を以て...

小島完吉

君は東京府人小島完吉の長男にして明治十四年九月を以て...

小島喜三郎

君は東京府人小島喜三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島喜三郎

君は東京府人小島喜三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島憲

君は愛知縣人小島浦三郎の長男にして明治三十四年八月を以て...

小島孝三郎

君は東京府人小島孝三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島源三郎

君は東京府人小島源三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島憲

君は愛知縣人小島浦三郎の長男にして明治三十四年八月を以て...

小島孝三郎

君は東京府人小島孝三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島源三郎

君は東京府人小島源三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島憲

君は愛知縣人小島浦三郎の長男にして明治三十四年八月を以て...

小島孝三郎

君は東京府人小島孝三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島源三郎

君は東京府人小島源三郎の長男にして明治十四年九月を以て...

小島憲

君は愛知縣人小島浦三郎の長男にして明治三十四年八月を以て...

小島孝三郎

を以て生れ昭和二年家督を相続す先代別は夙に蠶絲貿易商を営み横濱取引所取引員として名あり君其後を承く東京高等商業学校専門部の出身にして現時朝鮮農林會社取締役たり家族は尙第猛之助(明三九、五生、第八高等學校出身)妹鶴子(同四〇、九生、縣立第一高等女學校出身)同春子(同四三、四生、同上校在學)あり同富美子(同三七、七生、出身同上)は分家せり(横濱、中、根岸町三三五五番本局一五八五)

參照 内田慎太郎の項

小島 庄吉

從五位勳六等、島根縣書記官、内務部長、靜岡縣在籍

父 爲吉 嘉永二、三、生、靜岡、松浦小平次
母 幸吉 明二〇、四生、靜岡、山崎新助妹

小島 昌治

東京府在籍

母 キン 明二一、一〇生、東京、杉浦鐵五

君は東京府人小島半次郎の孫にして大正三年一月を以て生れ同十三年家督を相続す家主たり(東京市外千駄ヶ谷町八三〇)

小島 省三

日新自動車、島貿易、島商店、極東製菓、三同各(株)取締役

和歌山縣在籍

妻 ヌイ 長女 明一八、二生、大阪、中村静之助
男 一郎 明四五、一生

君は和歌山縣人小島由之助の長男にして明治十四年八月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十八年早稲田大學政治經濟科を卒業し現に前記諸會社の重役たり家族は尙二男二女(大三、三生)長女静子(同五、一生)二女數惠(同八、一〇生)三女アヤ子(同三、三生)あり(堺、五町八七二)

小島 新一

正六位、商工書記官兼商工大臣秘書官大臣官房秘書課勤務

父 新平 弘化二、九生、現戶主
母 あさ 昭二女
妻 高子 明三三、八生、東京、岡松參太郎

小島 甚太郎

工學博士、大阪製煉(株)社長、古河(名)理事、貴族院議員大津

父 勝 明一四、一〇生、貴族院議員大津
母 俊文 明三四、四生、農學士、東京帝國大學農學部助手
妻 文子 明四一、四生、長野、石田安治長
男 兼文 明三五、五生、九州帝國大學工學部在籍

小島 大治郎

田澤炭礦、上田温泉電氣各(株)社長、信濃電氣、丸ノ内鐵道、依田銀行(株)監査役、長野縣在籍

父 富佐子 明四五、五生、養子礎一郎長女
母 須磨子 明四三、一生、養子礎一郎長女
妻 富佐子 明四五、五生、養子礎一郎長女

小島 武雄

正五位勳五等、山口高等學校教授

父 誠 大六、七生

君は熊本縣士族小島時雄の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十二年家督を相続す同三十四年東京帝國大學文藝學科を卒業し爾來松山中學校教員馬鹿立織物學校長同中學校各教諭小谷中學校校長米澤高等工業學校教授等に歴任し大正八年山口高等學校教授に任

小島 長藏

小島印(株)社長

父 幸 明三、一生、和歌山、士、小池
母 初夫 明二七、一〇生、慶應義塾商工學校出身

君は東京府人吉岡勇平の二男にして慶應三年四月を以て生れ明治十六年先代ふくの養子となり家督を相続す父勇平風長崎に於て航海術を究む偶々江川太郎左衛門の知るところとなり萬延元年遣米使節護衛として米國に航し功あり後同志と共に尊王攘夷を唱へて國事に奔走せり君夙に秀英會に入り後獨立して印刷業を營む實に本邦紙力印刷術の嚆矢たり大正八年之を株式組織に更め現時その社長として社務に携はり本邦印刷界に於ける先驅者として知られその重鎮たり長女ハマ(明二五、六生、東京女學館出身)は東京府人森江有三に二女文子(同三〇、七生、出身同上)は秋田縣人山下太郎に嫁せり(東京、芝、芝公園一四號一九電芝一〇

小島 謙二

正五位勳六等、臺灣總督府醫學專門學校教授、東京府在籍

父 周 明二四、三生、叔父六長女

君は東京府士族小島堅吉の長男にして明治十二年八月を以て生れ同四十二年叔父周六方より分れて一家を創立す同四十年京都帝國大學醫學科を卒業し同大醫學助手臺灣總督府醫學教授兼同府衛生官兼同府技師に歴任し現に同府醫學專門學校教授たり家族は尙二男二女(六一、一生)あり妹收(明二三、一生)は新潟縣人岩崎莊治郎第四郎に嫁せり(臺北、御成町二〇二三)

小島 右衛門

愛知縣多額納税者、一宮商工會議所會頭、協同土地、小島商店各(株)取締役、愛知縣在籍

父 明五、六生、愛知、今井三郎姉

君は愛知縣人小島太助の四男にして明治三年三月を以て生れ同二十八年家督を相続す綿絲商を營み傍ら協同土地會社取締役たる外前掲諸會社の重役にして縣下の多額納税者に列し又一宮商工會議所會頭たり義に紺綬褒章を賜ふ長女しず(明二三、一〇生)は其夫克實(同二〇、一〇生、愛知、其浦庄吉三男)と共に分家し弟逸平(同六、一一生)も亦分家し孫二郎(同四二、三生、養子克實二男)は前記逸平の養子となれり(一宮、上本町)

參照 小島逸平の項

君は舊金澤藩士小島甚七郎の長男にして明治八年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続す同三十四年東京帝國大學工學科探検冶金科を卒業し直に古河合名會社の足尾銅山技師となり靜岡縣久根製鐵所長古河合名會社製鐵部長を経て大正十二年同社理事に擧げられ同時大阪製煉會社社長に推される先是同九年選擧に關する論文を提出して工學博士の學位を授けらるる曲曲藝に趣味あり長女淑子(明三六、九生)は貴族院議員笠井信一長男法學士律成に妹外久(同六一、八生)は熊本縣士族内田司馬彦に嫁し三男輝三(同三九、七生、東北帝國大學醫學部在籍)は金澤市に於て廢家水島氏を再興せり(東京、四谷、三光町二五電四谷六九二)

參照 内田司馬彦、大津淳一郎、笠井信一、岡野昇の項

小島 誠三郎

大阪府在籍

父 昌太郎 明二一、一生
母 サク 明三〇、一〇生、長男昌太郎妻、明三三、一〇生、木村勲兵衛四女

君は大坂府人橋本誠太郎の養父にして萬延元年十一月を以て生れ先代くすの養子となり明治十年家督を相続す文具商として知らるる家族は尙孫正也(大八、三生、長男昌太郎長男)同智子(同二〇、六生、同長女)同誠(同二四、八生、同二男)同弘(同二一、一生、養子)同武次長男(同二四、四生、同長女)あり(大阪、南、九郎右衛門町二四電南三五八)

參照 橋本誠太郎、天野熊三の項

小島 善之助

東京府在籍

父 屋 安政三、二生、東京、石井丹次
母 武男 明四二、七生

君は東京府人小島竹之助の長男にして明治十年五月を以て生れ同二十四年家督を相続す地主として知らるる家族は尙妹きく(明二六、一〇生)あり長女かね(同三四、六生)弟豐吉(同二五、一生)同鐵吉(同二八、一生)同

小島 長一

從七位勳六等、陸軍二等主計、橫濱正金銀行員、兵庫縣在籍

父 和 明四一、二生
母 多壽 大元、一〇生

君は兵庫縣人小島長四郎の長男にして明治十四年七月を以て生れ大正十三年家督を相続す義に日露戰役に從軍し陸軍二等主計となる現時橫濱正金銀行員たり家族は尙三女富喜子(大六、一生)あり姉ふん(明九、九生)は兵庫縣人下山英五郎に妹りき(同二七、二生)は同縣人澤野貞次郎に同季子(同二二、七生)は同縣人山口峯治郎に嫁し弟勢三郎(同三三、二生)は分家せり(神戸、山本通五ノ七二電元町七二)

參照 子爵西勝男、澤野貞次郎、下山英五郎、若尾謙之助の項

小島 大治郎

田澤炭礦、上田温泉電氣各(株)社長、信濃電氣、丸ノ内鐵道、依田銀行(株)監査役、長野縣在籍

父 富佐子 明四五、五生、養子礎一郎長女
母 須磨子 明四三、一生、養子礎一郎長女
妻 富佐子 明四五、五生、養子礎一郎長女

小島 武雄

正五位勳五等、山口高等學校教授

父 誠 大六、七生

君は熊本縣士族小島時雄の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十二年家督を相続す同三十四年東京帝國大學文藝學科を卒業し爾來松山中學校教員馬鹿立織物學校長同中學校各教諭小谷中學校校長米澤高等工業學校教授等に歴任し大正八年山口高等學校教授に任

小島 長藏

小島印(株)社長

父 幸 明三、一生、和歌山、士、小池
母 初夫 明二七、一〇生、慶應義塾商工學校出身

君は東京府人吉岡勇平の二男にして慶應三年四月を以て生れ明治十六年先代ふくの養子となり家督を相続す父勇平風長崎に於て航海術を究む偶々江川太郎左衛門の知るところとなり萬延元年遣米使節護衛として米國に航し功あり後同志と共に尊王攘夷を唱へて國事に奔走せり君夙に秀英會に入り後獨立して印刷業を營む實に本邦紙力印刷術の嚆矢たり大正八年之を株式組織に更め現時その社長として社務に携はり本邦印刷界に於ける先驅者として知られその重鎮たり長女ハマ(明二五、六生、東京女學館出身)は東京府人森江有三に二女文子(同三〇、七生、出身同上)は秋田縣人山下太郎に嫁せり(東京、芝、芝公園一四號一九電芝一〇

小島 右衛門

愛知縣多額納税者、一宮商工會議所會頭、協同土地、小島商店各(株)取締役、愛知縣在籍

父 明五、六生、愛知、今井三郎姉

君は愛知縣人小島太助の四男にして明治三年三月を以て生れ同二十八年家督を相続す綿絲商を營み傍ら協同土地會社取締役たる外前掲諸會社の重役にして縣下の多額納税者に列し又一宮商工會議所會頭たり義に紺綬褒章を賜ふ長女しず(明二三、一〇生)は其夫克實(同二〇、一〇生、愛知、其浦庄吉三男)と共に分家し弟逸平(同六、一一生)も亦分家し孫二郎(同四二、三生、養子克實二男)は前記逸平の養子となれり(一宮、上本町)

參照 小島逸平の項

瀧藏(同二〇、一生)は各分家し同鈴之助(同二二、四生)同妻かく(同二四、七生、東京、石井重吉二女)も亦共に分家し姉むめ(同二一、一〇生)は埼玉縣人高橋庄三郎に妹かよ(同二四、一生)は山口縣人新庄廣助弟金吾に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町八六六)

參照 小島鐵吉の項

小島 惣右衛門

百五銀行、三重合同電氣各(株)取締役、三重縣在籍

父 保吉 明二四、一〇生
母 伊坂又右衛門妹

君は三重縣人先代惣右衛門の二男にして嘉永六年七月を以て生れ明治六年家督を相続し號名す夙に實業界に入り巖に百五銀行頭取關西製絲會社々長等に就任し又津商業會議所副會頭特別議員に擧げられしが現時百五銀行及三重合同電氣會社各取締役たり家族は尙孫謙子(大一〇、一生)二男保吉長女(同二二、八生、同二女)同節生(同二四、八生、同長男)同昭夫(昭二、三生、同二男)あり長女さだ(明一九、八生)三男慶次郎(同二九、二生)は各分家し二女こう(同二八、一生)は三重縣人小島朋男に養子せり(文久三、九生、三重、梅本慶太郎妹)は同縣人山本太兵衛三男角藏に嫁せり(津、玉置町)

參照 伊坂又右衛門、小島朋男、伊坂市右衛門、伊坂秀五郎の項

小島 太左衛門

愛知縣多額納税者、一宮商工會議所會頭、協同土地、小島商店各(株)取締役、愛知縣在籍

父 明五、六生、愛知、今井三郎姉

君は愛知縣人小島太助の四男にして明治三年三月を以て生れ同二十八年家督を相続す綿絲商を營み傍ら協同土地會社取締役たる外前掲諸會社の重役にして縣下の多額納税者に列し又一宮商工會議所會頭たり義に紺綬褒章を賜ふ長女しず(明二三、一〇生)は其夫克實(同二〇、一〇生、愛知、其浦庄吉三男)と共に分家し弟逸平(同六、一一生)も亦分家し孫二郎(同四二、三生、養子克實二男)は前記逸平の養子となれり(一宮、上本町)

參照 小島逸平の項

小島 武雄

正五位勳五等、山口高等學校教授

父 誠 大六、七生

君は熊本縣士族小島時雄の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十二年家督を相続す同三十四年東京帝國大學文藝學科を卒業し爾來松山中學校教員馬鹿立織物學校長同中學校各教諭小谷中學校校長米澤高等工業學校教授等に歴任し大正八年山口高等學校教授に任

甥にして安政二年十二月を以て生れ明治二年叔父佐太郎の養子となり同八年家督を相続す...

小玉源一

君は兵庫縣人小玉久治の長男にして明治十七年一月を以て生れ同四十三年家督を相続す...

小玉與兵衛

君は宮崎縣土族小玉彌平の弟にして明治十九年一月を以て生れ同四十三年先代カツの入夫となり...

小塚貞義

君は兵庫縣土族小塚次郎の長男にして明治十年四月を以て生れ同三十八年家督を相続す...

小寺源吾

君は岐阜縣人西松高の弟同友吉の兄にして明治十二年九月を以て生れ同縣人小寺成蔵の養子となり...

小寺佐平

君は兵庫縣人小寺助治郎の弟にして明治三年一月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す...

職し後辭して實業界に入り埔里社製糖臺灣鹽業日本膠土大正ゴム大洋汽船立山水電氣鐵道等諸會社の重役たりしが現時前記各會社の重役たり家族は尙孫や...

小妻理之助

君は京都府人河原崎利兵衛の二男にして文久二年四月を以て生れ後小妻市兵衛の養子となり...

小寺久吉

君は兵庫縣人小寺助治郎の弟にして明治三年一月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す...

小寺新

君は徳島縣人小寺萬助の長男にして明治六年七月を以て生れ同三十八年家督を相続す...

小寺房治郎

君は大阪府人小寺麻治郎の弟にして明治三年十二月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す...

小寺敬

君は石川縣土族小寺宗休の二男にして元治元年三月を以て生れ後先代知郷の養子となり...

小寺謙吉

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺文次郎

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺謙

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺文次郎

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺謙

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺文次郎

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺謙

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺文次郎

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺謙

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺文次郎

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

三女京子(大四、二生)四女登史子(同九、八生)四男豊(同二、七生)あり長女登榮(明三四、七生)は大阪府人堀口香治郎長男尙太郎に嫁せり(大阪、西、本町通三ノ四五電西二五八)

小寺敬一

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺花野

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

小寺敬

君は兵庫縣土族小寺成蔵の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続す...

君は島根縣士族小藤治生の長男にして安政三年三月を以て生れ明治十三年家督を相続す同十二年東京大學理學部を卒業し同十四年獨逸に留學し文部省御用掛帝國大學教授東京帝國大學理學部教授等に歴任し義に官を辭して東京帝國大學名譽教授に推され又帝國學士院會員仰付けられ現時に至る同二十一年理學博士の學位を受け會て韓清兩國に差遣せられし事あり弟繁造(明治八、一、二生)は分家せり(東京、牛込、二十時町二電牛込三三〇)

君は長崎縣士族小島井孫一の二男にして明治十七年二月を以て生れ同三十九年家督を相続す現に大村灣眞珠會社事務取締役たり家族は尙三男卓(大九、九生)弟謙(明二、三、八生)同妻アハ(同三、二、六生)長崎、田崎(元妹)及其二子あり弟士郎(同二、〇、七生)は長崎縣人深町亭の養子となれり(長崎、東彼村、竹松村)

君は埼玉縣人小島繁太郎の弟にして明治元年五月を以て生れ先代萬藏の養子となり同二十一年家督を相続し前名徳次郎を改む綿絲商を營む家族は尙孫康弘(大一一、四生)三男源太郎(長男)あり二女と(明三、四、二生)は東京府人久住タツ養子榮太郎に嫁せり(東京、淺草、元吉町一〇電淺草一〇九三)

君は千葉縣人小藤田磯吉の二男にして明治十年三月を以て生れ同三十六年家督を相続す農業を營み千葉縣多額納税者たり家族は尙三男公文(明四、三、七生)四男徳義(同四、四、九生)三女敦子(大三、二生)四女貞子(同五、四生)五女孝子(同八、一、一)五男明治(同九、一、一)六男幸康(同三、七、七)六女昭子(昭二、一、一)あり長女しづ(明三、五、三)は千葉縣人清宮敬太郎に嫁せり(千葉、君津、楡葉村)

君は長崎縣士族小島居周民の長男にして嘉永四年九月を以て生れ後家督を相続し大正二年隱退す現時波佐見銀行取締役たり家族は尙孫マチ子(大三、七生)長男才吾(三女)同秋子(同二、一、〇)同四女あり二男安雄(明一九、五生)は長崎縣人小島中村一郎に四男情(同二、七、一〇)は同縣人朝永丈吉に各養子となれり(長崎、東彼村、下波佐見村)

君は兵庫縣人光齋勇治郎の長男にして元治元年五月を以て生れ明治二十二年家督を相続し同二十八年前姓光齋を改め復姓す現時淡河銀行取締役たり長男謙一(明二、二、四生)同妻しづ(同二、五、一〇)生、兵庫、清水(地治郎長女)は其子女と共に分家し妹なを(同八、六生)は兵庫縣人石井文太郎に嫁し弟貞一郎(同三、一、〇)は同縣人岩崎五兵衛長女むさの入夫となれり(兵庫、美濃、淡河村)

君は京都府人小堂佐市郎の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ同三十一年家督を相続す縮緬商を營む家族は尙長女知(大九、八生)二女喜代(同四、一、一)あり姉フサ(明一、七、一)は其夫藤吉(同七、三、三)生、滋賀、山田藤平(三男)と共に分家せり(京都、下京、富小路通三條下ル電中三五七二)

君は静岡縣人小長谷鐵藏の弟にして明治元年六月を以て生れ同三十七年分家して一家を創立す現時記各會社の重役たり家族は尙孫子武一(大四、一、一)生、生母、静岡、杉村けん(孫長江(同六、六生)亡養子昌太郎長女)あり(東京市外濠谷町向山三六電高輪七〇六七)

君は滋賀縣人小西傳左衛門の長男にして嘉永三年十二月を以て生れ明治二十二年家督を相続す藥種商を營み現に静岡縣多額納税者たり家族は尙孫傳治(明四、三、五)生、長男傳藏(長男)同す(大六、一、一)生、同六女(同

君は京都府人小堂佐市郎の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ同三十一年家督を相続す縮緬商を營む家族は尙長女知(大九、八生)二女喜代(同四、一、一)あり姉フサ(明一、七、一)は其夫藤吉(同七、三、三)生、滋賀、山田藤平(三男)と共に分家せり(京都、下京、富小路通三條下ル電中三五七二)

君は香川縣人板谷善平の男にして慶應三年一月を以て生れ先代品三の養子となり明治二十年家督を相続す義に讃岐織布會社取締役たりしが現時前記會社の重役として知らるる家族は尙四男武夫(明四、五、四)五男典夫(大四、九生)孫潤一(同五、一、一)生、長男善太郎長男(あり)三女益榮(明三、七、七)は香川縣人淺野繁三の養子となり二男忠一(同三、五、二)は前記淺野繁三の死跡を相続せり(高松、新材木町一六)

君は大阪府人錦源兵衛の長男にして明治七年一月を以て生れ先代喜兵衛の養子となり同三十七年家督を相続し前名靜次郎を改む現時前記各會社の重役にして大阪府多額納税者たり家族は尙養子ヒロ(大六、三、三)生、大阪、西利兵衛(四女)は弟喜三郎妻ヨシ(同二、〇、四)生、大阪、稻垣政七(妹)あり妹キキ(同五、七、七)は大阪府人淺野利兵衛養子鹿之助に養子愛(同三、七、一)生、大阪、大幡半七(女)は同府人稻垣政七養子英三に嫁せり(大阪、東、道修町三、二〇電本局九五二)

君は香川縣人板谷善平の男にして慶應三年一月を以て生れ先代品三の養子となり明治二十年家督を相続す義に讃岐織布會社取締役たりしが現時前記會社の重役として知らるる家族は尙四男武夫(明四、五、四)五男典夫(大四、九生)孫潤一(同五、一、一)生、長男善太郎長男(あり)三女益榮(明三、七、七)は香川縣人淺野繁三の養子となり二男忠一(同三、五、二)は前記淺野繁三の死跡を相続せり(高松、新材木町一六)

君は香川縣人板谷善平の男にして慶應三年一月を以て生れ先代品三の養子となり明治二十年家督を相続す義に讃岐織布會社取締役たりしが現時前記會社の重役として知らるる家族は尙四男武夫(明四、五、四)五男典夫(大四、九生)孫潤一(同五、一、一)生、長男善太郎長男(あり)三女益榮(明三、七、七)は香川縣人淺野繁三の養子となり二男忠一(同三、五、二)は前記淺野繁三の死跡を相続せり(高松、新材木町一六)

君は香川縣人板谷善平の男にして慶應三年一月を以て生れ先代品三の養子となり明治二十年家督を相続す義に讃岐織布會社取締役たりしが現時前記會社の重役として知らるる家族は尙四男武夫(明四、五、四)五男典夫(大四、九生)孫潤一(同五、一、一)生、長男善太郎長男(あり)三女益榮(明三、七、七)は香川縣人淺野繁三の養子となり二男忠一(同三、五、二)は前記淺野繁三の死跡を相続せり(高松、新材木町一六)

君は大阪府人元藥種商小西徳藏の長男にして明治九年四月を以て生れる夙に住友銀行に入り現時同行備後町支店長たり家族は尙三男尙雄(大二、三、三)あり長女富美子(明三、六、三)は大阪府人藤田徳弟英太郎に嫁せり(兵庫、武庫、精道村片屋電番屋七四七)

君は大阪府人小西勝兵衛の長男にして安政五年八月を以て生れ明治十五年家督を相続す同十三年大阪朝日新聞社に入り漸次果進してその取締役役に擧げられ現に大阪朝日新聞營業局長として知らるる家族は尙三男克己(大元、一、一)生、大元、大手通二ノ八五電東六九三)

君は東京府人小森マキの兄にして小西巖太同安次郎の養兄なり明治五年十二月を以て生れ小西安兵衛の養子となり大正十年養弟安兵衛の跡を承け家督を相続す現時小西安兵衛商店社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙三男茂(明四、五、三)生、養妹イク(同二、九、一)生、あり同うた(同二、六、五)生、其夫長治郎(同二、九、八)生、と共に分家せり(東京市外品川町北品川宿御殿山七一八電高輪三二一七)

君は大阪府人小西勝兵衛の長男にして安政五年八月を以て生れ明治十五年家督を相続す同十三年大阪朝日新聞社に入り漸次果進してその取締役役に擧げられ現に大阪朝日新聞營業局長として知らるる家族は尙三男克己(大元、一、一)生、大元、大手通二ノ八五電東六九三)

君は大阪府人小西勝兵衛の長男にして安政五年八月を以て生れ明治十五年家督を相続す同十三年大阪朝日新聞社に入り漸次果進してその取締役役に擧げられ現に大阪朝日新聞營業局長として知らるる家族は尙三男克己(大元、一、一)生、大元、大手通二ノ八五電東六九三)

君は東京府人小森マキの兄にして小西巖太同安次郎の養兄なり明治五年十二月を以て生れ小西安兵衛の養子となり大正十年養弟安兵衛の跡を承け家督を相続す現時小西安兵衛商店社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙三男茂(明四、五、三)生、養妹イク(同二、九、一)生、あり同うた(同二、六、五)生、其夫長治郎(同二、九、八)生、と共に分家せり(東京市外品川町北品川宿御殿山七一八電高輪三二一七)

君は大阪府人小西勝兵衛の長男にして安政五年八月を以て生れ明治十五年家督を相続す同十三年大阪朝日新聞社に入り漸次果進してその取締役役に擧げられ現に大阪朝日新聞營業局長として知らるる家族は尙三男克己(大元、一、一)生、大元、大手通二ノ八五電東六九三)

君は大阪府人小西勝兵衛の長男にして安政五年八月を以て生れ明治十五年家督を相続す同十三年大阪朝日新聞社に入り漸次果進してその取締役役に擧げられ現に大阪朝日新聞營業局長として知らるる家族は尙三男克己(大元、一、一)生、大元、大手通二ノ八五電東六九三)

君は東京府人小森マキの兄にして小西巖太同安次郎の養兄なり明治五年十二月を以て生れ小西安兵衛の養子となり大正十年養弟安兵衛の跡を承け家督を相続す現時小西安兵衛商店社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙三男茂(明四、五、三)生、養妹イク(同二、九、一)生、あり同うた(同二、六、五)生、其夫長治郎(同二、九、八)生、と共に分家せり(東京市外品川町北品川宿御殿山七一八電高輪三二一七)

小西 泰造 明三〇、一〇生
 妻 明三〇、二生、四男泰造妻、鳥取、
 女 明三三、九生
 君は滋賀縣人北村三三の長男にして安政四年五月を以て生れ先代義助の養子となり明治二十一年家督を相續す藥種並洋酒食料品商を營み傍ら前記各會社の重役にして推されて大阪市會議員東區會議員たり家族は尙孫幸一(大四、二生、亡養子清治長男)同淑子(同八、六生、同長女)同久夫(同二〇、八生、同二男)同博子(同三、八生、同二女)同信一(同二、一〇生、同四男)同長男(同五、七生、同長女)あり長女(同二、八、九生)及其子女を伴ひ分家し三男敏夫(同二八、九生)も亦分家し三女愛(同二七、一〇生)は大阪府人北村傳次郎に嫁し庶子義人(同三六、六生)同孝三(同三九、六生)は共に其生母大阪府人田中カツの家籍に入れり(大阪、東、道修町二ノ六電本局三九三〇)
 參照 北村傳次郎の項

小西 久兵衛 大阪府多額納稅者、次亞燐本舖、藥種商、大阪府在籍
 妻 ヨシエ 明六、四生、大阪、村山鐵之助長女
 君は大阪府人小西久兵衛の五男にして明治二年八月を以て生れ同二十八年家督相續と共に先代を襲名す藥種商を營み次亞燐本舖として知らるる現に大阪府多額納稅者たり(大阪、東、道修町二ノ四電本局五〇四)

小西 恭介 從五位勳六等、朝鮮總督府道務事務官、江原道内務部長、京都府在籍
 妻 フミ 明三〇、七生、山口、關谷寛治妹
 男 恭一 大一一、八生

小西 兵衛 廣島縣多額納稅者、帆布商、廣島縣在籍
 妻 ヨシエ 明二、三、長男準三妻、愛媛、前谷久太郎二女
 君は廣島縣人先代庄兵衛の長男にして慶應元年七月を以て生れ大正四年家督を相續し前名庄藏を改め徳名帆布商を營み廣島縣多額納稅者たり家族は尙孫辨次郎(明四三、二生、長男準三長男)同正夫(大三、一〇生、同二男)同寛三(同八、六生、同三男)あり長女ヒデ(明二、一〇生)は其夫悦三(同二、三、三、廣島、平田眞一郎五男)と共に其四子を伴ひ養兄助七(弘化四、三三、廣島、國近多三郎二男)は其子女を伴ひ妹タマ(明二、三、一〇生)は其夫繁尾(同二、一〇生、廣島、三吉太郎二男)と共に各分家し同ウラ(同二七、一〇生)は岡山縣人岡本龜男に嫁せり(尾道、土堂町)
 參照 小西常吉の項

小西 謙一 大阪府在籍
 妻 明二、三、長男準三妻、愛媛、前谷久太郎二女
 君は大阪府人山口新一の三男にして明治二十四年一月を以て生れ小西又助の養子となり大正十三年分家して一家を創立す毛織物商を營む家族は長女美代子(大五、四生)二女千鶴子(同六、一〇生)三女千代子(同八、八生)四女光子(同二〇、一〇生)五女八重子(同二一、三、二生)あり(大阪、東、伏見町五ノ一六電本局八七)

小西 新右衛門 兵庫縣多額納稅者、日本相互貯蓄銀行(株)頭取、本辰酒造、大日本鐵道(株)社長、阪神電氣鐵道、鴻池信託(株)社長、阪神電氣鐵道、電氣(株)監査役、銘酒、白鶴酒造、元、酒類醸造業、兵庫縣在籍
 妻 完子 明二〇、三、子傳大河内正倫妹
 君は兵庫縣人先代新右衛門の長男にして明治八年十一月を以て生れ同三十九年家督を相續し前名利右衛門を改む同三十六年東帝國大學法科大學政治科を卒業し大藏省理財局に勤務し後辭して實業界に入り現時日本相互貯蓄銀行頭取たる外前記銀行會社の重役にして兵庫縣多額納稅者たり酒類醸造業を營み銘酒白鶴酒造元として知らるる現に歐米各國を巡察す家族は尙長女静

小西 熊次郎 福助足袋(株)取締役、大阪府在籍
 妻 信子 大元、九生
 君は大阪府人小西善四郎の二男にして明治十七年一月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す現時福助足袋會社取締役たり(堺、神明町東一ノ三三)

小西 元 香川縣多額納稅者、農業、香川縣在籍
 妻 マツ子 明二六、五生、香川、長尾昌榮三女
 男 公藏 大八、一〇生
 君は香川縣人小西熊太郎の長男にして明治十八年三月を以て生れ同三十二年家督を相續す同三十九年早稲田大學專門部法科を卒業し農業を營み香川縣多額納稅者たり家族は尙三女千枝(大六、一〇生)二男良夫(同九、一〇生)三男富平(同二〇、一〇生)五女智(同二一、一〇生)四男明(同二四、九生)五男敏博(昭二、四生)あり姉ミネ(明一三、九生)は香川縣人小西甚之助長男雄太郎に嫁し養兄岩太(文久二、九生、香川、鶴見喜藤太三男)は同妻タネ(明九、八生、香川、小西甚之助長女)及其二子を伴ひ分家せり(香川、大川、長尾町)

小西 孝治 小西光澤堂本店、株、社長、時計商、東京府在籍
 妻 きやう 衛三女
 男 孝信 明四〇、一〇生

小西 佐次郎 關東織物商、京都府在籍

小西 誠一 正八位、兩館商工會議所議員、兩館菓子製造(株)監査役、兩館毎日新聞社副社長、北海道在籍
 妻 富美 明二五、三、北海道、金澤彦作長女
 女 清三 大二、七生

小西 善次郎 從五位勳六等、樺太廳内務部長、樺太廳在籍
 妻 よし 長女
 男 健一 昭二、二生

小西 善七 正五位勳六等、元兩館稅關長、宮城縣在籍
 妻 芳江 明二三、九生、東京、堀毛助二女

小西 政喜 從五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍
 妻 モト 明二四、三、養父猛夫長女
 男 達夫 大八、二生

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 新兵衛 武田長兵衛商店、ラヂウム製藥各株、監査役、藥種商、京都府在籍
 妻 みや 明一〇、五生、大阪、武田長兵衛妹
 男 專一 明四〇、八生

小西 兵衛 大阪府人小西新兵衛の長男にして明治二年二月を以て生れ同十八年家督を相續し同三十七年前名駒太郎を改む藥種商を營み武田長兵衛商店ラヂウム製藥會社各株監査役たり弟時三(明九、四生)は分家し長女春子(同三二、一〇生)は岐阜縣人原三右衛門に嫁せり(東京、麹町、下六番町六電九段三三五)

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 政喜 從五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍
 妻 モト 明二四、三、養父猛夫長女
 男 達夫 大八、二生

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 新兵衛 武田長兵衛商店、ラヂウム製藥各株、監査役、藥種商、京都府在籍
 妻 みや 明一〇、五生、大阪、武田長兵衛妹
 男 專一 明四〇、八生

小西 兵衛 大阪府人小西新兵衛の長男にして明治二年二月を以て生れ同十八年家督を相續し同三十七年前名駒太郎を改む藥種商を營み武田長兵衛商店ラヂウム製藥會社各株監査役たり弟時三(明九、四生)は分家し長女春子(同三二、一〇生)は岐阜縣人原三右衛門に嫁せり(東京、麹町、下六番町六電九段三三五)

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 政喜 從五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍
 妻 モト 明二四、三、養父猛夫長女
 男 達夫 大八、二生

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 新兵衛 武田長兵衛商店、ラヂウム製藥各株、監査役、藥種商、京都府在籍
 妻 みや 明一〇、五生、大阪、武田長兵衛妹
 男 專一 明四〇、八生

小西 兵衛 大阪府人小西新兵衛の長男にして明治二年二月を以て生れ同十八年家督を相續し同三十七年前名駒太郎を改む藥種商を營み武田長兵衛商店ラヂウム製藥會社各株監査役たり弟時三(明九、四生)は分家し長女春子(同三二、一〇生)は岐阜縣人原三右衛門に嫁せり(東京、麹町、下六番町六電九段三三五)

小西 重直 從四位勳三等、文學博士、京都帝國大學教授、文學部勤務、福島縣在籍
 妻 みつ 萬延元、七生、福島、五ノ井辰三郎妹
 男 啓一 明三九、四生
 女 恭子 明四二、九生

小西 閔三 篠山電燈(株)取締役、兵庫縣在籍
 妻 ハルエ 明二五、二、大阪、萩森四郎養子
 男 謙之助 大九、六生

小西 善七 正五位勳六等、元兩館稅關長、宮城縣在籍
 妻 芳江 明二三、九生、東京、堀毛助二女

小西 政喜 從五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍
 妻 モト 明二四、三、養父猛夫長女
 男 達夫 大八、二生

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 新兵衛 武田長兵衛商店、ラヂウム製藥各株、監査役、藥種商、京都府在籍
 妻 みや 明一〇、五生、大阪、武田長兵衛妹
 男 專一 明四〇、八生

小西 兵衛 大阪府人小西新兵衛の長男にして明治二年二月を以て生れ同十八年家督を相續し同三十七年前名駒太郎を改む藥種商を營み武田長兵衛商店ラヂウム製藥會社各株監査役たり弟時三(明九、四生)は分家し長女春子(同三二、一〇生)は岐阜縣人原三右衛門に嫁せり(東京、麹町、下六番町六電九段三三五)

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 政喜 從五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍
 妻 モト 明二四、三、養父猛夫長女
 男 達夫 大八、二生

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 新兵衛 武田長兵衛商店、ラヂウム製藥各株、監査役、藥種商、京都府在籍
 妻 みや 明一〇、五生、大阪、武田長兵衛妹
 男 專一 明四〇、八生

小西 兵衛 大阪府人小西新兵衛の長男にして明治二年二月を以て生れ同十八年家督を相續し同三十七年前名駒太郎を改む藥種商を營み武田長兵衛商店ラヂウム製藥會社各株監査役たり弟時三(明九、四生)は分家し長女春子(同三二、一〇生)は岐阜縣人原三右衛門に嫁せり(東京、麹町、下六番町六電九段三三五)

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 政喜 從五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍
 妻 モト 明二四、三、養父猛夫長女
 男 達夫 大八、二生

小西 助松 甲州屋、砂糖商、東京府在籍
 妻 あか 明四、一〇生、養祖父伊助長女
 男 正一 大八、一〇生

小西 新兵衛 武田長兵衛商店、ラヂウム製藥各株、監査役、藥種商、京都府在籍
 妻 みや 明一〇、五生、大阪、武田長兵衛妹
 男 專一 明四〇、八生

小西 兵衛 大阪府人小西新兵衛の長男にして明治二年二月を以て生れ同十八年家督を相續し同三十七年前名駒太郎を改む藥種商を營み武田長兵衛商店ラヂウム製藥會社各株監査役たり弟時三(明九、四生)は分家し長女春子(同三二、一〇生)は岐阜縣人原三右衛門に嫁せり(東京、麹町、下六番町六電九段三三五)

理事務官鹿島縣書記官同警察部長に歴任し昭和二年...

小早川四郎

從三位勳二等、男爵、宮中顧問官...

當家は毛利元就の第三子中納言小早川隆景の後なり...

君は山梨縣人小早川甚八の長男にして明治六年一月を以て...

小林愛三

大阪機器(株)専務取締役...

君は大阪府人小林政治の弟にして明治二十二年七月を以て...

君は長野縣人小林嘉重の長男にして元治元年五月を以て...

小林一三

阪神急行電鐵(株)社長、東京電鐵(株)副社長、山陽中央水電(株)取締役...

君は山梨縣人小早川甚八の長男にして明治六年一月を以て...

小林市松

森永製菓(株)社長、大黒屋、菓子商、東京府在籍...

君は東京府人先代市松の二男にして明治十七年八月を以て...

小林巖

正五位勳四等、東北帝國大學教授...

君は元文郡權大書記官東京府士族小林小太郎の三男にして...

小林丑三郎

從四位勳三等、法學博士、明治大學政治經濟學部長、專修大學監事...

君は群馬縣人小林清七の弟にして慶應二年六月を以て...

小林運重

從五位勳四等、製鐵所副參事、總務部主計課長、長野縣在籍...

君は山口縣人小林和市の五男にして明治三十年九月を以て...

小林織衛

大阪三河屋菓子(株)代表取締役、三河屋本店、菓子商、東京府在籍...

君は東京府人先代織衛の長男にして明治十九年三月を以て...

小林英

東京府在籍...

君は東京府人小林忠兵衛の長男にして明治七年四月を以て...

小林盈一

正五位勳四等、學習院教授...

君は山梨縣人小林文太郎の弟にして明治十一年三月を以て...

小林榮吉

日本製菓(株)取締役、小林製菓所...

コ之部 小林

（索引は姻族關係）

たり家族は尙長女徳子(大一一、六生)二女愛同一三、八生)三女滋(昭二、二生)姉マサ(昭二六、四生)同夫...

小林嘉平治

君は三重縣人山川眞源の長男にして明治九年一月を以て生れ...

小林戒三

君は廣島縣人原藤吉の弟にして明治十五年九月を以て生れ...

小林寛

君は大阪府土族小林傳の弟にして明治九年七月を以て生れ...

小林喜太郎

君は滋賀縣人島田藤兵衛の弟にして明治九年一月を以て生れ...

小林儀一郎

君は新潟縣人小林儀平の男にして明治十七年一月を以て生れ...

小林儀三郎

君は新潟縣人小林儀平の男にして明治十七年一月を以て生れ...

小林海音

君は滋賀縣人山本藤右衛門家の出にして明治十五年十月を以て生れ...

小林克己

君は長野縣人小林貞治郎の長男にして明治二十年十一月を以て生れ...

小林鎌太郎

君は東京府人小林六三郎の二男にして明治八年三月を以て生れ...

小林儀三郎

君は宮城縣人小林豊治の長男にして明治十五年一月を以て生れ...

小林吉右衛門

君は岡山縣人小林九郎右衛門の二男にして故郷密爾門官仲小路...

小林完一

君は山梨縣人小林彦太郎の長男にして明治十一年九月を以て生れ...

小林完三

君は兵庫縣人小林文藏の三男にして明治二十四年十月を以て生れ...

小林貫一郎

君は新潟縣人小林平吉の長男にして明治六年十月を以て生れ...

小林久吉

君は静岡縣人小林忠平の二男にして安政三年五月を以て生れ...

小林久四郎

君は東京府人小林藤太郎の長男にして明治十一年一月を以て生れ...

生)は分家せり(東京、麻布、并町一八〇ノ四電番山三
四三三)

小林久七 長野商工會議所會頭、長野實業銀行(株)頭取、信濃日々新聞(株)社長、長野貯蓄銀行、長野電燈(株)社長、野製絲各(株)取締役、長野縣在籍

小林久平 工學博士、早稻田大學理工學部教授、日本石油(株)顧問、新潟縣在籍

小林清 長野實業銀行(株)調査部長、長野縣在籍

小林金重 土木建築請負業、山梨縣在籍

小林金平 東京府土族大竹宗保の四男にして慶應三年十一月を以て生れ先代つるの養子となり明治十四年家督を相続す同二十九年内務技師に任ぜられ同三十四年米佛獨逸各國に出張を命ぜらるる同三十七年臨時製菓製造準備局長技師となり大正十四年警備局技師に任ぜられ現に監督課長の職に在り傍ら専攻局技師を兼ね(東京、四谷、笹塚町五六電番四三九四)

小林金平 東京府土族大竹宗保の四男にして慶應三年十一月を以て生れ先代つるの養子となり明治十四年家督を相続す同二十九年内務技師に任ぜられ同三十四年米佛獨逸各國に出張を命ぜらるる同三十七年臨時製菓製造準備局長技師となり大正十四年警備局技師に任ぜられ現に監督課長の職に在り傍ら専攻局技師を兼ね(東京、四谷、笹塚町五六電番四三九四)

小林金平 東京府土族大竹宗保の四男にして慶應三年十一月を以て生れ先代つるの養子となり明治十四年家督を相続す同二十九年内務技師に任ぜられ同三十四年米佛獨逸各國に出張を命ぜらるる同三十七年臨時製菓製造準備局長技師となり大正十四年警備局技師に任ぜられ現に監督課長の職に在り傍ら専攻局技師を兼ね(東京、四谷、笹塚町五六電番四三九四)

小林吟右衛門 滋賀縣多額納稅者、近江鐵道、丁商店各(株)取締役社長(小林名)代表社員、吳服商、滋賀縣在籍

小林吟三郎 丁商店(株)監査役、小林(名)社員、滋賀縣在籍

小林國次 東京府在籍、東京府土族、小林次郎長女

小林熊吉 伊勢貯蓄銀行、近藤紡織所、鷺津紡織各(株)取締役、静岡縣在籍

小林熊次郎 井藤製菓(株)社長、茨城縣在籍

小林熊太郎 宮崎縣多額納稅者、日向水力電氣、北諸縣郡製絲各(株)取締役、實業並吳服商、宮崎縣在籍

小林熊太郎 宮崎縣多額納稅者、日向水力電氣、北諸縣郡製絲各(株)取締役、實業並吳服商、宮崎縣在籍

小林熊太郎 地久庵、養蚕商、東京府在籍

小林桂助 群馬縣在籍

小林桂助 群馬縣在籍

小林賢一郎 茨城縣多額納稅者、米穀商、茨城縣在籍

小林賢太郎 埼玉縣多額納稅者、農業、埼玉縣在籍

小林賢太郎 埼玉縣多額納稅者、農業、埼玉縣在籍

生れ同二十九年先代ムメの夫となり家督を相続す同三十四年東京帝國大學文科大學國史學科の出身にして陶器商を営み傍ら日本商工會社の重役を兼ね會て安成川水力電氣會社取締役たりしことあり(大阪、西、立賣堀南通一ノ一六電新町三六九)

小林 庄平

君は石川縣人小林庄太郎の長男にして明治三十五年九月を以て生れ昭和二年家督を相続す農業を營む家族は尙弟外喜雄(明四一、五生)妹貞子(同四四、二生)同操(大五、一生)あり(石川、石川、三馬村)

小林昇太郎

君は東京株式界に雄飛せる小林市太郎の長男にして明治二十五年七月を以て生れ大正十二年家督を相続す夙に明治大學に學び現時金半商店取締役たり家族は尙長女吉子(大一一、三生)弟虎三郎(明三五、六生)同經四郎(同三八、四生)同重五郎(同四〇、九生)同進六郎(同四三、二生)あり同武次郎(同二七、九生)は分家し妹みつ(同三〇、三生)は理學博士藤澤利喜太郎長男親姉に同たか(同三二、二生)は佐賀縣人一瀬四次に嫁せり(東京、麻布、本村町二二電高輪七三四)

小林省一郎

君は長野縣士族小林道太郎の長男にして明治四年七月を以て生れ大正十一年家督を相続す現時石油興業會社々長たる外前記會社の重役たり(東京、赤坂、青山高)

小林 甚助

君は愛知縣人先代甚助の長男にして明治七年十月を以て生れ同三十四年家督を相続し其に舊名徳次郎を改め襲名す名古屋米穀取引所引員たり家族は尙三男昇之助(明四二、二生)四男敏之助(大二、〇生)四女民(同八、六生)あり(名古屋、中、米濱町三電南三三四)

小林 壽美太

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

小林 清一郎

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

君は廣島縣人小林年藏の長男にして文久三年七月を以て生れ明治三十年家督を相続す久しく大崎商業銀行頭取に擧げられしが現時之を辭し閑地に在り家族は尙六男(明四二、六生)六女キクヨ(大三、九生)孫新一(同二、三生)長男嘉一(同八、二生)同二(同二、二生)同三(同二、七生)同四(同二、四生)同五(同二、四生)同六(同二、四生)同七(同二、四生)同八(同二、四生)同九(同二、四生)同十(同二、四生)同十一(同二、四生)同十二(同二、四生)同十三(同二、四生)同十四(同二、四生)同十五(同二、四生)同十六(同二、四生)同十七(同二、四生)同十八(同二、四生)同十九(同二、四生)同二十(同二、四生)同二十一(同二、四生)同二十二(同二、四生)同二十三(同二、四生)同二十四(同二、四生)同二十五(同二、四生)同二十六(同二、四生)同二十七(同二、四生)同二十八(同二、四生)同二十九(同二、四生)同三十(同二、四生)同三十一(同二、四生)同三十二(同二、四生)同三十三(同二、四生)同三十四(同二、四生)同三十五(同二、四生)同三十六(同二、四生)同三十七(同二、四生)同三十八(同二、四生)同三十九(同二、四生)同四十(同二、四生)同四十一(同二、四生)同四十二(同二、四生)同四十三(同二、四生)同四十四(同二、四生)同四十五(同二、四生)同四十六(同二、四生)同四十七(同二、四生)同四十八(同二、四生)同四十九(同二、四生)同五十(同二、四生)同五十一(同二、四生)同五十二(同二、四生)同五十三(同二、四生)同五十四(同二、四生)同五十五(同二、四生)同五十六(同二、四生)同五十七(同二、四生)同五十八(同二、四生)同五十九(同二、四生)同六十(同二、四生)同六十一(同二、四生)同六十二(同二、四生)同六十三(同二、四生)同六十四(同二、四生)同六十五(同二、四生)同六十六(同二、四生)同六十七(同二、四生)同六十八(同二、四生)同六十九(同二、四生)同七十(同二、四生)同七十一(同二、四生)同七十二(同二、四生)同七十三(同二、四生)同七十四(同二、四生)同七十五(同二、四生)同七十六(同二、四生)同七十七(同二、四生)同七十八(同二、四生)同七十九(同二、四生)同八十(同二、四生)同八十一(同二、四生)同八十二(同二、四生)同八十三(同二、四生)同八十四(同二、四生)同八十五(同二、四生)同八十六(同二、四生)同八十七(同二、四生)同八十八(同二、四生)同八十九(同二、四生)同九十(同二、四生)同九十一(同二、四生)同九十二(同二、四生)同九十三(同二、四生)同九十四(同二、四生)同九十五(同二、四生)同九十六(同二、四生)同九十七(同二、四生)同九十八(同二、四生)同九十九(同二、四生)同一百(同二、四生)

小林 丈七

君は廣島縣人小林年藏の長男にして文久三年七月を以て生れ明治三十年家督を相続す久しく大崎商業銀行頭取に擧げられしが現時之を辭し閑地に在り家族は尙六男(明四二、六生)六女キクヨ(大三、九生)孫新一(同二、三生)長男嘉一(同八、二生)同二(同二、二生)同三(同二、七生)同四(同二、四生)同五(同二、四生)同六(同二、四生)同七(同二、四生)同八(同二、四生)同九(同二、四生)同十(同二、四生)同十一(同二、四生)同十二(同二、四生)同十三(同二、四生)同十四(同二、四生)同十五(同二、四生)同十六(同二、四生)同十七(同二、四生)同十八(同二、四生)同十九(同二、四生)同二十(同二、四生)同二十一(同二、四生)同二十二(同二、四生)同二十三(同二、四生)同二十四(同二、四生)同二十五(同二、四生)同二十六(同二、四生)同二十七(同二、四生)同二十八(同二、四生)同二十九(同二、四生)同三十(同二、四生)同三十一(同二、四生)同三十二(同二、四生)同三十三(同二、四生)同三十四(同二、四生)同三十五(同二、四生)同三十六(同二、四生)同三十七(同二、四生)同三十八(同二、四生)同三十九(同二、四生)同四十(同二、四生)同四十一(同二、四生)同四十二(同二、四生)同四十三(同二、四生)同四十四(同二、四生)同四十五(同二、四生)同四十六(同二、四生)同四十七(同二、四生)同四十八(同二、四生)同四十九(同二、四生)同五十(同二、四生)同五十一(同二、四生)同五十二(同二、四生)同五十三(同二、四生)同五十四(同二、四生)同五十五(同二、四生)同五十六(同二、四生)同五十七(同二、四生)同五十八(同二、四生)同五十九(同二、四生)同六十(同二、四生)同六十一(同二、四生)同六十二(同二、四生)同六十三(同二、四生)同六十四(同二、四生)同六十五(同二、四生)同六十六(同二、四生)同六十七(同二、四生)同六十八(同二、四生)同六十九(同二、四生)同七十(同二、四生)同七十一(同二、四生)同七十二(同二、四生)同七十三(同二、四生)同七十四(同二、四生)同七十五(同二、四生)同七十六(同二、四生)同七十七(同二、四生)同七十八(同二、四生)同七十九(同二、四生)同八十(同二、四生)同八十一(同二、四生)同八十二(同二、四生)同八十三(同二、四生)同八十四(同二、四生)同八十五(同二、四生)同八十六(同二、四生)同八十七(同二、四生)同八十八(同二、四生)同八十九(同二、四生)同九十(同二、四生)同九十一(同二、四生)同九十二(同二、四生)同九十三(同二、四生)同九十四(同二、四生)同九十五(同二、四生)同九十六(同二、四生)同九十七(同二、四生)同九十八(同二、四生)同九十九(同二、四生)同一百(同二、四生)

小林 襄一

君は岡山縣人小林貞三の長男にして明治十八年七月を以て生れ同二十六年家督を相続す同四十年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し川崎造船所に入り後鐵道院技師に轉じ同技師に進み大正十三年末國に出張す歸朝後鐵道技師となり工務局に勤務し現時前掲の

小林 清吉

君は岡山縣人小林清吉の長男にして明治二十六年二月を以て生れ先代清吉の養子となり同三十八年家督を相続し前名清太郎を改む現時大垣商會社監査役に就き、小林榮治郎長女あり(大垣、竹島町)

小林 清造

君は廣島縣人小林清造の長男にして明治二十二年二月を以て生れ大正十四年家督を相続し舊名直樹を改む製絲業を營み長野縣多額納稅者たり家族は尙三男重卿(明三三、八生)同啓卿(同三八、三生)あり(長野、小縣、丸子町)

小林 善吉

君は滋賀縣人小林庄平の長男にして元治元年十二月を以て生れ後家督を相続す現時前記會社の重役たり長女かね(明二六、一生)は滋賀縣人岡村峯三郎に二女愛(同三三、五生)は同縣人杉本好一に嫁し二男庄次郎(同三七、一生)は分家し姉善(文久元、〇生)も亦其二男を伴ひ分家せり(滋賀、大上、河瀬村)

小林 善太郎

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

小林 善吉

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

小林 善太郎

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

小林 善吉

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

小林 善吉

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

小林 善吉

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

小林 善吉

君は岡山縣人西井房吉の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代久吉の養子となり大正十二年家督を相続す菓子商を營む家族は尙三女佐嘉惠(大四、一生)二男康男(同二、九生)五女澄子(同二、五、七生)あり(大阪、西、京町堀通一ノ一八電土佐堀六八二〇)

一生、同二男）同源之助（同一五、四生、同三男）あり
二女エサノ（明三六、二生）は福島縣人藤澤元吉長男得
治に嫁せり（郡山、増越町）

小林 長輔 從五位、製鐵所技師、製鐵所二瀬
出張所勤務 大阪府在籍

母 ナヲ 嘉永三、七生、小林常右衛門女
妻 ヒテ 明二、八生、大阪、兒島清次郎
男 康 幸 大一一、四生
女 順子 明四五、六生

君は大阪府人小林作五郎の二男にして明治十一年七月
を以て生れ大正二年家督を相続す明治四十二年京都帝
國大學理工科大學機械工學科を卒業し日韓瓦斯株式會
社技師同技師を経て大正五年現職製鐵所技師に任ぜら
れ現に製鐵所二瀬出張所勤務たり（福岡、嘉穂、穂波
村製鐵所二瀬出張所官舎）
參照 高柳松一郎の項

小林 長兵衛 青森縣多額納稅者、米穀商
妻 妻とわ 明一四、一一生、父長兵衛長女
妻 キヨ 明三八、一一生、青森、横山喜佐
久三女

君は青森縣人小林長兵衛の長男にして明治三十二年九
月を以て生れ後養父長兵衛の養子となり大正十五年家
督を相続し前名末策を改め養父米穀商を營み青森縣
多額納稅者たり家族は尙二女孝子（大一一、八生）の外
妹きぬ（明四一、八生）弟正三（大元、八生）同長四郎
（同五、二生）同長吉（同六、九生）あり姉きよ（明三〇、
三生）は熊本縣人下川金作長男友喜に養母とよ（同二
七、七生）は同縣人深浦久雄に同い（同三〇、二生）
は青森縣人戸日佳英に嫁せり（青森市新町）

小林 長兵衛 陽東殖産、日工商事、利原鐵山各
（株）取締役、大和サツシ（株）監
査役、中央木材（株）相談役、日本
工業（資）代表社員、土木業
兵庫縣在籍

妻 妻 五よ 明一二、一一生、養父長兵衛庶子
明三五、三生、兵庫、濱地甚兵衛
三男、英國留學中
君は兵庫縣人中川政吉の二男にして明治五年八月を以

て生れ同三十七年先代長兵衛の養子となり家督相続と
共に前名政右衛門を改む夙に朝鮮に於て土木業を營み
後日本工業會社を設立し現時代表社員にして傍ら前
記諸會社の重役たり（神戸、山本通三ノ七二電氣舎三
三三〇）

小林 暢 貴族院議員、長野縣多額納稅者、
六十三銀行（株）頭取、長野農工銀
行、信濃電氣各（株）取締役、長野
貯蓄銀行（株）監査役、長野縣士族
男 國威 明三七、五生
妻 明一〇、六生、長野、士、小林營成姉
女 三枝子 明四一、五生

君は長野縣人小林元辰の長男にして明治十二年十月
を以て生れ同二十年家督を相続す現時六十三銀行頭取
たる外前記銀行會社の重役たり又縣下の多額納稅者に
して貴族院議員に互選せらるる家族は尙四女元子（大三、
三生）四男國正（同五、一一生）庶子秋男（同九、九生）、
生母、東京、芝田（明一、一一生）は長野縣人伊藤文七
に姉しん（同四、一一生）は前記小林營成に從姉はな
（同五、一一生）は長野縣人笠井彌之輔に二女田鶴子（同
三五、三生）は岐阜縣人間李右衛門長男運吉に嫁し從
姉ふで（同二、五生）は絶對小林氏を再興し庶子春男
（同四、五生）生母、東京、芝田（明一、一一生）は分家せり（長
野市縣町八）
參照 小林營成、間李右衛門の項

小林 功 從七位勳八等、紀南銀行（株）頭取
妻 妻 功 神川郵便局長、三重縣在籍
男 正樹 明三七、一一生、養父貞藏長女
女 文惠 重、小林信太郎三女
男 裕 明三五、一一生

君は三重縣人田垣内久米吉の弟にして明治七年二月を
以て生れ先代貞藏の養子となり同二十九年家督を相続
す夙に日本法律學校を卒業し郡會議員に擧げられ現時
紀南銀行頭取にして神川郵便局長たり家族は尙四男武
夫（明四三、九生）五男芳雄（大一一、九生）あり養妹やす

小林 傳次郎 東京府多額納稅者、貴金屬時計商
妻 妻 忠 明八、八生、養父傳次郎長女
男 忠 承 明二八、三生
女 多喜子 明三〇、一一生
男 茂 紀 明三三、三生
小林家は數百年來東京に定住し勤業を業とせしが享和
年間先代傳次郎始めて時計商を營み將軍家並に諸大
名に出入して家業大に振へり君は東京府人井上萬吉の
二男にして萬延元年三月を以て生れ後先代傳次郎の
養子となり明治三十五年家督を相続し前名忠三郎を改
む夙に祖業貴金屬時計商に携はりて専ら店務に執掌し
現時東京府多額納稅者たり家族は尙養弟源次郎（明八、
三生）、亡養妹喜美子（東京、竹内治右衛門弟）及び其
三女あり長女富博子（同二四、九生）は愛媛縣人鈴木
權藏長男安一に嫁せり（東京、京橋、八官町九電鐘座
八四五）

小林 戶四郎 小島屋爲（株）監査役、醫師
妻 妻 次郎 明八、七生、神奈川、小島政五郎姉
男 次郎 明四二、一一生

君は大分縣人島村矢三郎の弟にして明治六年九月を以
て生れ先代モトの入夫となり同三十六年家督を相続す
醫師にして現時小島屋爲會社監査役たり家族は尙三男
三郎（明四三、八生）四男四郎（大一一、二生）あり（横濱、
神奈川、神奈川十番町二四八）
參照 小島政五郎、小島政八の項

小林 藤一郎 石見商事（株）社長、石州銀行（株）
妻 妻 藤 監査役、島根縣在籍
男 藤 萬延元、二生、大伯父善助長女
女 藤 明一二、一一生、島根、若間路一長女
孫 藤 助 大一一、九生、離養子恭助長男

妻（明一二、八生）は三重縣人渡上定之助長男善一郎に
嫁せり（三重、南牟婁、神川村）

小林 恒一郎 茨城縣多額納稅者、筑波鐵道、筑
妻 妻 久三郎 安政二、三生
母 慶三 明二二、一一生、祖父恒七二女
妻 恒夫 明四四、二生

君は茨城縣人小林久三郎の長男にして明治十五年三月
を以て生れ大正十年家督を相続す夙に東京專門學校に
學び少壯筑波町長に擧げらるる後實業界に入り曩に筑波
電氣會社取締役たり現時筑波鐵道會社を經營して専務
取締役に擧げられ傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は前
記の外弟修次郎（明一八、一一生、早稻田大學出身）同淳
吉（同二六、九生、農林省勤務）同妻光子（同三七、八生、
茨城、大川新助二女）及其一男同茂（同三二、一一生、中
外商業新報社員）同妻松子（同三三、五生、茨城、酒井
爲太郎長女）あり姉とも（同二九、三生）は千葉縣人
邊榮三郎に嫁せり（茨城、筑波、筑前町）
參照 酒井爲太郎、邊榮三郎の項

小林 貞次郎 三井銀行（株）検査課長
妻 妻 信 安政元、七生、山形、高橋市郎長女
妻 廣 明四三、一一生、岐阜、西松喬妹
男 信 雄 明四二、一一生

君は山形縣人小林萬次郎の長男にして明治十二年七
月を以て生れ大正五年家督を相続す明治三十五年東京
高等商業學校を卒業し三井銀行に入り専務を経て現に
検査課長たり家族は尙二男幸雄（大四、二生）二女慶子
（同七、六生）あり（東京市外港谷町大和田八電青山
一一四八）
參照 西松喬、小寺源吾、高橋三省、西松友吉の項

小林 藤右衛門 きん藤、漆器商
妻 妻 藤 安政元、一一生、東京、苗村又右
衛門妹
母 藤代 明四一、一〇生、東京、横地慶助
女 藤代 明四一、一〇生、東京、横地慶助

君は東京府人小林藤右衛門の孫にして明治四十二年三
月を以て生れ大正六年家督を相続し前名藤一を改め
現に漆器商を營む叔母ツネ（明一八、
四生）は同夫治亮（同二〇、一〇生、千葉、岡野春治郎
長男）及其三男一女と共に分家せり（東京、日本橋、通
二ノ一八電日本橋五〇六）
參照 苗村又右衛門、松田登三郎の項

小林 藤平 茨城縣多額納稅者、酒造業
妻 妻 藤 文久二、九生、茨城、鈴木善右衛
門四女
女 藤 明二〇、九生、栃木、荒井福次郎
女 宮 明四一、一一生
女 茂 明四五、五生

君は茨城縣人小林政助の長男にして明治十九年七月を
以て生れ同四十年家督を相続す酒造業を營み茨城縣多
額納稅者たり家族は尙二男貞次郎（大四、一一生）三女ま
ち（同六、九生）四女廣子（同八、三生）三男清一（一
一生）四男亨（同一一、二生）及び養母とよ（明一四、
四生、東京、飯塚眞吉長女）あり養妹とよ（同二八、一
生、茨城、渡邊武人孫）は茨城縣人白井貞治郎に嫁し
弟圭助（同二三、九生）は分家し伯父智有（慶應三一〇
生）も亦同妻とよ（明二一、一〇生、茨城、初見重右衛門
二女）及び其子女を伴ひ分家せり（茨城、猿島、幸島村）

君は千葉縣士族小林慶禮の長男にして明治五年二月を
以て生れ同四十四年家督を相続す同三十四年東京帝國
大學法科大學英法科を卒業し現時前記各會社の重役に
して曩に臺灣銀行監査役たり家族は尙六女八重子（大
五、三生）七女梅子（同八、一一生）弟賢明（一五、一一生）同妻
タエ（同二四、五生、東京、士、石橋健作五女）及其子
女あり長女富美（同三四、六生）は兵庫縣人六岡周三に
二女芳枝（同三七、一一生）は富山縣人新田宇一郎に嫁せ
り（兵庫、武庫、御影町郡家電影二五五）

小林 哲司 從五位勳六等、帝室林野局技師
妻 妻 ハツ 慶應二、八生、小林岩太郎長女
妻 シツ 明二二、二生、新潟、八村四郎作
女 昭一 明四五、七生

君は新潟縣人小林策太郎の長男にして明治十八年三月
を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十二年東京帝
國大學農科大學林學科を卒業し農商務省に入り大正十
三年宮内省に轉じ現時帝室林野局技師たり家族は尙二
男弘（大一一、一一生）長女ミツ子（同六、三生）三男亨（同
一〇、五生）二女美代子（同一一、二生）弟小義男（明三
一、四生）同妻嘉代（同三六、五生、京都、小林カツ養
子）及其一女あり（東京市外大久保町百人町二二七）

小林 哲三 紀陽製絲（株）代表取締役
妻 妻 綾子 和歌山縣在籍
妻 克郎 明一七、一〇生、和歌山、戸川吉
男 克郎 明四一、一一生
女 キヌ 明四一、一一生

君は和歌山縣人小林齋三郎の長男にして明治十二年十
二月を以て生れ同三十一年家督を相続す現時紀陽製絲
會社代表取締役たり家族は尙四女一枝（大一一、七生）あ
り二女壽賀（明三九、九生）は和歌山縣人松下龍之助長
男丈夫に嫁せり（和歌山、伊都、橋本町）

小林 照旭 西備製絲（株）専務取締役、備後藍
妻 妻 美津 耕、善戸漁網各（株）取締役
明一五、一一生、岡山、鹽飽定次郎
三女

學專門學校教授に任じ現に京城帝國大學教授兼朝鮮總督府醫院技師にして醫學部勤務を命ぜらるる義に大正七年醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二女和子(大九、一生)あり(京城帝國大學醫學部内)

小林半兵衛 茨城縣多額納稅者、製茶業
 母 文久二、二生、茨城、櫻井傳三郎
 妻 好 明二、一〇生、茨城、宇賀田新次郎長女
 男 一夫 大四、二生

小林秀一 棉花商
 妻 明一、七生、養父平九郎女
 妻 次 明三、七生
 養子 誠三郎 明三〇、一〇生、三女貞夫、靜岡平野多藏二男
 女 千 明三、一〇生、養子誠三郎妻
 女 貞 明三、一〇生、養子誠三郎妻
 女 千 明三、一〇生、養子誠三郎妻

小林秀雄 從六位、鐵道局技師、東京鐵道局勤務、三河縣土族
 妻 彰 明三、六生、京都、横山慶朝二女
 君は舊長州藩士小林八郎の長男にして明治二十九年七月を以て大正八年家督を相続す同年東京帝國大學工科大学機械學科を卒業し鐵道省に入り鐵道局技師に任じ現に東京鐵道局勤務たり家族は尙長女淑子(大二、七生)弟武次(明三一、一〇生、工學士、法學士、名古屋鐵道局勤務)及び其妻みさを(同三六、五生、東京、金原巳三郎三女)ある外同三郎(同三六、三三、法政大學在學)同四郎(同三九、五五)妹篤子(同四三、六六、第二高等女學校出身)あり姉のぶ子(同四三、六六、第二高等女學校出身)あり姉のぶ子(同四三、六六、第二高等女學校出身)あり姉のぶ子(同四三、六六、第二高等女學校出身)あり

二七年生)は東京府人三浦二郎に妹淑子(同三四、一生、靜岡縣立濱松高等女學校出身)は同府人經濟學士井上伸治に同貞子(同四〇、一〇生、日本女子大學校家政科出身)は工學博士國澤新兵衛長男新太郎に嫁せり(東京、牛込、筑土八幡町三四電牛込三八五五)參照 國澤新兵衛の項

小林福三 旭家具裝飾、株專務取締役
 妻 ね 明一、七、八生、埼玉、鎌田角次郎
 養子 共 明三、六、六生、東京、皆川駒藏六男
 君は埼玉縣人小林源三郎の長男にして明治十年三月を以て生れ同四十二年家督を相続す現時旭家具裝飾會社專務取締役に長女勝子(明三八、六生)は兵庫縣人足立建次に嫁し弟吉(同二二、七生)同妻を(同一、七生、埼玉、鎌田角次郎長女)は其三男一女を伴ひ分家せり(東京、芝、琴平町一電銀座三七四八)

小林平左衛門 福井縣多額納稅者、農業
 妻 せ 明一、七、八生、福井、小島甚右衛門長女
 母 せ 明一、七、八生、福井、小島甚右衛門長女

小林正直 三井物産(株)常務取締役、松島炭礦、基隆炭礦各(株)取締役、東洋レヨン、朝鮮無煙炭各(株)監査役、京都府土族
 妻 かつ 明一、八、四生、京都、岡野源三郎妹
 妻 太 明三、七、一〇生、東京農業大學在學
 女 淑子 明四〇、七生、山陽高等女學校出身
 女 ふじ子 明四四、九生、自由學園在學
 君は京都府土族小林敬直の長男にして明治十六年四月を以て生れ大正七年家督を相続す先是明治二十六年同志社普通學校文學部政治科を卒業し三井物産會社に入り長崎支店支店長本店石炭部長等を経て參事長となり紐育支店長に就任し次で常務取締役に擧げられ(春江村)

以て今日に及ぶ傍ら前記各會社の重役を兼任す家族は尙二男香次(明四二、一〇生)三女千穂子(大六、二生)三男正三(同七、七生)四女貞子(同八、八生)五女雄子(同二二、二生)六女恵子(同三一、七生)あり妹しん(明一五、一〇生)は兵庫縣人野澤幸三郎に嫁せり(東京市外濠谷町大和田七五電青山九八八)參照 野澤幸三郎の項

小林政治 小林政治商店、大阪製器各(株)社長、毛織物商、大阪府在籍
 妻 くに 安二女
 妻 けい 明一、三、五生、靜岡、藤尾熊吉二女
 妻 基治 明四一、九生
 妻 美彌子 明三八、三、九生、倫敦ベツトフォードカレッジ在學
 女 迪子 明三九、三、三、同志社大學文學部在學
 女 千賀子 明四三、八、八、同志社女子學院在學
 女 千賀子 明四四、八、八、同志社女子學院在學
 當家は兵庫縣北條町に住せし舊家に至りて現住地に移る君は先代達二郎の二男にして明治十年七月を以て生れ同二十八年家督を相続す姫路中學校を出で大阪に來り數年間某毛織物商に修業の後明治三十三年獨立開業毛織物商及舶來毛織物輸入業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙五女千賀子(大四、五生)あり弟愛三(明二二、七生、工學士)は分家し同貞造(同二五、七生、神戸高等商業學校出身)も亦分家して兵庫縣人品川源兵衛長女正乃の養子となり妹しん(同一、一〇生)は大阪府人高井覺太郎に嫁せり(大阪、東備後町四〇三五電本町四〇六)

小林政太郎 三重縣多額納稅者、オブライト製
 妻 くら 明八、一、一、三、三重、土屋源十郎妹
 妻 春生 明四〇、一〇生
 妻 可也 明四〇、一〇生
 君は三重縣人小林藤十郎の長男にして明治五年十月を以て生れ同二十九年家督を相続すオブライト製造業を營み現に三重縣多額納稅者たり家族は尙六男公平(明四四、三三)七男實(大二、一〇生)三女文子(同五、三三)あり(廣島市西白島町四七)

小林岑太郎 朝日興業(株)社長、廣島生絲(株)取締役、東京府在籍
 妻 トヨコ 明二、一〇生、廣島、松川フサ
 妻 勝 大六、二生
 君は德島縣人小林順吉の弟にして明治十九年十一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す現に朝日興業會社社長たる外廣島生絲會社取締役たり家族は尙長女俊美(大四、一〇生)二女春美(同八、一〇生)三女清美(同一〇、二生)あり(廣島市西白島町四七)

生)あり長女千鶴(明三七、七生)は三重縣人荒木彦十郎に嫁し庶子弘之(同二七、一生、生母、埼玉、風間なを)は分家せり(三重、度會、田丸町)

小林雅一 内外織物(株)常務取締役
 妻 千壽 明三一、六生、東京、清水由松二女
 男 惠太郎 大〇、一〇生
 君は山梨縣人小林雅治の弟にして明治二十一年十一月を以て生れ昭和二年分家して一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は尙二男義郎(大一一、三三)あり(東京、赤坂、青山北町六、四八電青山四八九六)

小林増作 從四位勳三等、後備海軍藥劑大佐
 妻 鏡 長四、九生、岐阜、土、菊池良長女
 男 健夫 明四〇、七生
 女 よね 明四五、三三
 君は東京府土族小林好愛の長男にして明治四年五月を以て生る義に横濱海軍病院藥劑部長たりし事あり日下全國購買組合聯合會の囑託に依り有効家庭薬を製する上共誠社の代表として供給するの外新製劑強壯藥ノイロジンの製造に従事し好評あり家族は尙三男英二(明四二、九生)三女和子(大八、七生)あり弟茂(明九、三三)同愛雄(同一四、一〇生、文學士)は各分家し姉こう同元(二生)は男爵青山徹藏先代醫學博士胤通に嫁せり(東京市外濠谷町柏木三一九電四谷四三三三)工場 東京市外野町雜色一六七)參照 男爵青山徹藏の項

小林又七 勳六等、兵用圖書(株)社長、日清印刷、日本製紙、東京書籍各(株)取締役、川流堂、出版業
 妻 滿壽 明九、二生、養父不忠養子
 男 勇太郎 明三一、七生、慶應義塾出身
 男 良二 明三二、七生、英國留學中
 男 隆三 明三八、二生、慶應義塾大學出身
 男 秀雄 明四〇、三、三、東京女學館出身
 女 紀子 明四二、三、三、東京女學館出身
 君は和歌山縣人金崎伊八郎の二男にして慶應三年正月

を以て生る明治二十七年先代不忠の養子となり同三十年家督を相続し前名熊之助を改む川流堂と稱し出版印刷業を營み陸軍省御用達たる事五十餘年傍ら前記會社の重役たり四女光(明三四、一〇生)は東京府人室田金壽に五女秋子(同三六、一〇生、東京女學館出身)は東京府人西園寺龜次郎二男謙次郎に嫁し(同三八、一〇生)は靜岡縣人太田治平弟信三に嫁し養弟謙三郎(同二二、二生)は分家せり(東京、麹町、車町三電九段四一九)參照 西園寺龜次郎、室田金壽の項

小林又七郎 日本綿花(株)横濱支店長
 妻 伊世 嘉永三、九生、岡山、片山喜藏二女
 妻 品子 明三一、一〇生、大阪、祇園清次郎
 男 敏一 大六、一〇生
 君は岡山縣人小林金次郎の長男にして明治二十一年五月を以て生れ同二十六年家督を相続す同四十二年神戸高等商業學校を卒業し直に日本綿花會社に入り果して大正八年紐育出張所長となり更に同十四年横濱支店長に抜擢せられ現に其職に在り家族は尙二男次郎(大一一、四、五生)三男又雄(同一五、七生)あり姉梅(明二、一〇生)は其夫庸次郎(元治元、五生、岡山、井上清次郎二男)と共に其二男を伴ひて分家し同銀(明五、六生)は岡山縣人北村謙吉に同光(同一〇、四生)は同縣人族入江順に嫁せり(横濱、中、青木町一八五三電本局三三四四)參照 祇園清次郎、佐藤慶太郎の項

小林松助 正五位勳四等、理學博士、東北帝國大學教授、理學部勤務
 妻 なを 明二八、六、六生、京都、藤井永向四女
 君は京都府人林松助の長男にして明治十九年五月を以て生れ同二十七年先代キマの養子となり家督を相続す同四十二年京都帝國大學理工科大學純正化學科を卒業し大正八年理學博士の學位を授けらるる現に東北帝國大學教授理學部勤務たり家族は尙長女淑子(大八、六生)二女雅子(同一、三三)三女實子(同一四、五五)あり(仙臺、北四番町一四三、一)

小林家は防州岩國町土着の商家にして代々酒造業を營む君は山口縣人羽村助之丞の二男にして貴族院議員江木翼の從兄に當る嘉永六年四月を以て生れ後先代七兵衛の養子となり明治十二年家督を相続す祖業を承けて酒造業を營み傍ら前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙孫淳一(大四、五生、長男來三長男)同節子(同一〇、六生、三男六造長女)同博子(同一四、一〇生、同一〇、九、七生)は山口縣人重村豊太郎に二女リウ(同一、一〇生)は同縣人小林吾作に三女リウ(同二二、一一、一〇生)は同縣人森本壽一に嫁し四男完(同二五、四生)は同縣人笠井建太郎の養子となり(山口、玖珂、御庄村)參照 荒川五郎、江木翼、笠井建太郎の項

女 清子 明四二、三生
 女 千代子 大八、八生
 君は岐阜縣土族白井鐵次郎の弟にして明治元年四月を以て生れ同二十三年先代よねの養子となり家督を相続す同年東京高等商業學校を卒業し多年日本郵船會社に勤務大正十一年職を辭し爾來日清汽船會社監査役たり家族は尙三男正雄(明四二、三生)四男芳男(同四四、三生)あり三女伊豫子(同三八、一〇生)三輪田高等女學校出身は神奈川縣人龜田清一に嫁せり(東京市外大久保町西大久保四一九電四九四一)

小松忠五郎 小松屋、雜穀乾物商
 妻 眞一郎 明一九、二生、養父忠五郎長女
 男 眞一郎 大八、一〇生

君は埼玉縣人石川忠右衛門の二男にして明治十二年八月を以て生れ同三十七年小松家の養子となり大正元年分れて一家を創立し忠五郎を襲名して前名倉次郎を改む祖業雜穀乾物商を營み小松屋と稱す家族は尙三女(同六一、八生)二男忠三(同九九、三生)三男正夫(同一一、九生)四女ふみ子(同四四、九生)あり長女きよ(明三八、二生)は東京府人穂谷藤藏に嫁せり(東京、京橋、北船屋町一六電京橋五三三〇)

小松 二男 有馬鹽泉土地建物(株)取締役
 妻 かめ 明二七、四生、大阪、神山桂藏妹
 男 邦男 大六、四生

君は大阪府人小松壽作の二男にして明治二十年九月を以て生れ大正八年家督を相続す現時馬場鹽泉土地建物會社取締役たり家族は尙二男孝次(大九、一〇生)三男一夫(同一一、六生)あり姉タネ(明一一、七生)は廣島縣人井川常太郎に嫁せり(大阪、常磐町一)

小松 輝久 從三位勳一等、侯爵、海軍中佐、貴族院議員、北白川宮家御一門
 妻 薫子 明二九、一〇生、公爵島津忠永姉
 男 彰久 大八、九生

君は故大勳位陸軍大將北白川宮能久親王の第四子北白川宮永久王竹田宮恒徳王の叔父伯爵上野正雄の兄にして明治二十一年八月を以て生れ同四十三年七月情願に因り一家を創立し小松の姓を賜ひ華族に列し侯爵を授けらる同年十二月海軍少尉に任じ果進して海軍中佐に陞る義に軍事研究の爲め英國に留學し昭和二年歸朝す貴族院議員たり家族は尙二男豊久(大一一、七生)長女舒子(同二二、七生)あり(東京市外澁谷町常務松一〇二電青山五)

君は高知縣人小松助右衛門の二男にして明治八年七月を以て生れ同四十五年分家して一家を創立す夙に海軍兵學校を卒業し果進して海軍中將に任ぜらる其間第三艦隊參謀長吳鎮守府參謀長霞ヶ浦航空隊司令兼海軍艦政本部技術會議々員等に歴補し現時豫備役に於て帝國飛行協會理事たり家族は尙二男俊夫(明四三、一〇生)三女貞子(大五、九生)四女孝子(同九九、五生)あり長女八重(明三七、九生)は東京府人陸軍歩兵中尉山口進に嫁せり(東京市外西巢鴨町池袋大原一三九六)

小松直幹 正四位勳二等功五級、豫備海軍中將、帝國飛行協會理事、高知縣在籍
 妻 由樹 明一四、八生、高知、土、谷流水姪
 男 幹彦 明四〇、三生
 女 操子 大元、九生

小松初太郎 兵庫縣立神戸病院眼科醫長、醫師
 妻 熊野 明二二、九生、高知、岡元徳長女
 男 一男 大四、三生
 女 一子 明四三、一〇生
 女 恒子 明四四、一〇生
 女 壽子 明四五、四生

君は高知縣人小松友太郎の長男にして明治十年七月を以て生れ同二十六年家督を相続す同三十六年京都帝國大學醫科大學を卒業し現時兵庫縣立神戸病院眼科醫長たり家族は尙二男次郎(大六、八生)あり(神戸、梅元町一〇〇電元町三三六六)

小松武右衛門 富山縣多額納稅者、水橋銀行、水橋商會各(株)取締役、東水橋町長
 富山縣在籍

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時富山縣多額納稅者にして東水橋町長に推され尙前記銀行會社の重役たり妹チヨ(明一四、五生)は富山縣人藤木次郎平長男治三郎に同ハルエ(同二二、八生)は同縣人金子清次郎に嫁し弟定次郎(同二八、五生)は同妻アヤ(同二八、三生)富山、山村清秀(四女)及其一子を伴ひ分家し同武五郎(同二〇、二生)も亦分家せり(富山、中新川、東水橋町)
 參照 茨百武庄太郎の項

小松福太郎 長野縣多額納稅者、製絲業
 妻 ふさ 明三三、一〇生、長野、味澤重治郎妹
 男 今朝司 明三〇、二生、二男今朝司妻、長男今朝司
 女 ますよ 明三〇、二生、三村木彦長女
 男 秀雄 明三三、一〇生、三男秀雄妻、長野、永井隆造二女
 男 幸子 明三三、一〇生、四男五郎妻、長野、藤森幸作長女

君は長野縣人小松勝左衛門の三男にして萬延元年十一月を以て生れ明治十年分家して一家を創立す製絲業を營み長野縣多額納稅者たり家族は尙孫祐一郎(大一一、七生)三男秀雄長男(同四一、四生)四男三郎(同四二、四生)同廣江(同一一、五生)三男秀雄二女(同きく枝(昭二、一〇生)四男五郎長女)あり長女けきよ(明二六、一〇生)は長野縣人福島文十郎長男市左衛門に二女かねよ(同二九、二生)は同縣人味澤常藏に嫁せり(長野、諏訪、平野村)
 參照 茨百武庄太郎の項

小松 倍一 從四位勳三等、第六高等學校長
 妻 し 嘉永六、九生、長野、中島清七長女

君は長野縣人小松信助の長男にして明治六年九月を以て生れ大正八年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し岐阜縣大垣中學校山口縣豊浦中學校各教諭静岡縣掛川中學校石川縣金澤第一中學校各校長福岡縣立修猷館第五高等學校教授松江高等學校長等に歴任し大正十三年第六高等學校長に任じ今日に至る家族は尙五女和子(大八、六生)六女小夜子(同一一、六生)あり長女しげ(明三五、四生)は静岡縣人望月專一に嫁せり(岡山市第六高等學校内)

小松 道彌 大日本鹽業(株)取締役
 妻 美 應 明四一、三生、高知、大川澄澄長女
 男 悅彌 明四〇、八生

君は高知縣人小松義雄の弟にして明治九年五月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す現に大日本鹽業會社取締役たり家族は尙長女喜代(大七、二生)あり(高知、土佐、小高坂村)

小松茂藤治 福島縣多額納稅者、郡山銀行(株)頭取、本宮銀行、本宮電氣、本宮肥料、東部電力各(株)取締役、農業、福島縣在籍
 妻 トメ 明二五、一〇生、福島、本間忠謙妹
 男 功 大一一、五生

君は福島縣人小松茂藤治の八男にして同四郎治の養甥なり明治二十一年十二月を以て生れ後ち亡兄茂藤治の養子となり大正八年家督を相続し前名功治を改む農業を營み傍ら郡山銀行頭取たる外前掲各銀行會社の重役を兼ね同縣多額納稅者たり家族は尙長女千代(大五、四生)二女シゲ(同六一、八生)の外弟重一(明二五、五生)同妻絳(同三六、一〇生)山口、新庄球生妹)と其一男二女及同重四郎(同二九、一〇生)同妻ハル(同三三、三生)福島、野崎安次郎長女)と其二男あり亡兄茂八妻壽和(同三〇、九生)酒井良明(六女)は其一男一女と共に弟茂十(同二三、五生)は同妻リカ(同三三、一〇生)福島、佐久間正衛長女)と共に各分家し姉キク(同二六、

八生)は福島縣人本間忠に嫁せり(福島、安達、本宮町)參照 小松四郎治、酒井良明、本間忠、大河内千代太郎、岡百世、鈴木一、來、鈴木久次郎、本多忠之の項

小松八十助 山形縣多額納稅者、農業
 妻 鏡 嘉永四、二生、山形、土、久松治
 男 一 敬 明二〇、三生、山形、加藤一郎叔母
 女 順 明四〇、一〇生

君は山形縣人小松清之七の長男にして明治十四年二月を以て生れ同三十二年家督を相続す農業を營み山形縣多額納稅者たり家族は尙二男重孝(大五、三生)及弟武多(同二三、五生)あり二女幸生(同三六、四生)は山形縣人日野宣弘に姉妹(同八、三生)は同縣人阿部長太二男幸作に妹ミヨ(同一九、四生)は同縣人村上龍介長男岩雄に同キミ(同二七、一〇生)は同縣人奥山右衛門弟保次郎に嫁し叔母安(文久二、一〇生)は分家せり(山形、飽海、中平田村)

小松 行一 從四位、男爵、掌典
 妻 澄 榮 明二七、一〇生、京都、小野時叙長女

當家は權中納言石井行弘の三男從五位行敏の立つる所なり行敏初め南都興福寺に入り不動院の住職となる明治元年勅命に依り復歸し一家を立て姓を小松と稱し後華族に列せられ明治十七年男爵を授けらる先代行正は子爵平松時陽の祖父時言の八男にして入りて當家を襲ぎ後實家に復歸す君は行正の三男にして明治二十六年七月を以て生れ同三十二年家督を相続し製糖仰付けらる義に侍從に任じ現時掌典たり家族は尙長女利子(大五、九生)二女重子(同七、一〇生)三女豐子(同一一、一〇生)四女英子(同一一、五生)叔母富子(明九、九生)あり母ハナ子(同四、一〇生)祖父行敏長女)は分家せり(東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇電青山一七)參照 子爵平松時陽、公府近衛文麿、男爵木下俊哲の項

小松 吉久 從四位勳四等、日本拓殖(株)專務取締役、臺灣電氣興業、宜蘭礦産、中興鐵道各(株)取締役、社團法人臺灣礦業會社、東京府土族
 妻 芳子 大元、一〇生
 男 直 明一九、一〇生、島取、土、門脇
 女 芳子 大元、一〇生

君は神奈川縣土族小松吉晴の長男にして慶應三年五月を以て生れ明治二十七年家督を相続す司法屬臺北監獄典獄臺灣彰化廳長宜蘭廳長等に歴任し大正九年退官後實業界に入り現に日本拓殖會社專務取締役たるの外前掲各會社の重役を兼ね又臺灣礦業會社長臺灣總督府史料編纂委員會顧問及臺北州協議會委員たり家族は尙二女久八(大四、一〇生)二男吉郎(同七、七生)三女富子(同八、一〇生)四女米(同二二、九生)あり(臺北、大正町二ノ一二)

小松美一郎 錢屋商會(株)社長、鐵礦銀行、愛宕山鐵道(株)監査役、鐵礦町鐵會、玉山鐵道(株)監査役、鐵礦町鐵會、町信用組合理事、京都府在籍
 妻 シヅ 明二〇、一〇生、京都、西川吉兵衛二女

當家は代々舊鐵礦郷土にて家系二十九世先代喜平治は元衆議院議員にして維新の際徳王の軍に加はり功績あり君は其長男にして明治九年十月を以て同三十八年家督を相続す義に郡會議長京都府會議員京都府參事會員郡市計畫委員長京都府地方森林會議員鐵礦町長等に數回擧げられ現に前記諸會社の重役たり養子マサ(明二四、五生)京都、遠藤平左衛門二女)は男爵有地藤三郎に嫁せり(京都、葛野、鐵礦町電五)
 參照 男爵有地藤三郎の項

女 明三七、七生、岡山高等女學校及岡山實科女學校專攻科出身
君は岡山縣人小山萬龜造の長男にして明治八年七月を以て生れ同十二年父死亡同年十月祖父志賀二の後を襲ひ家督を相続す地主にして岡山縣多額納稅者たり資性温厚にして常に勤儉を説き躬行實踐以て郷黨の師表となる家族は尙二男諱二郎(明四五、五生、第一岡山中學校在學)叔母直(文久二、八生)あり(岡山市大供三三三ノ一)

小山 兼吉

靜岡縣多額納稅者、製茶業
靜岡縣在籍
孫 英一 明四二、一、生、亡長男彌吉長男
男 利兵衛 明三〇、一、生
女 利子 明三八、一、生、三男利兵衛妻、靜岡縣在籍
女 利子 明三七、七、生

君は靜岡縣人小山九兵衛の二男にして安政四年八月を以て生れ明治十一年分家して一家を創立す製茶業を營み靜岡縣多額納稅者たり家族は尙孫一(大二三、九生、三男利兵衛長男)あり二男金作(明一六、七生)は同妻つね(同二二、五生、靜岡、岡村仁吉二女)を伴ひ分家し長女しづ(同二二、一、生)は靜岡縣人小山與作二男鐵造に四女(同二七、八生)は同縣人鈴木木義一に嫁し三女かつ(同二六、二生)は同縣人山本政治郎の養子となれり(靜岡市藤町)

小山 完吾

勤四等、時事新報社(株)社長、明治生命保險(株)取締役
長野縣在籍
女 昌 明四四、三、生
女 明四二、一、生

君は長野縣人小山謙之助同三の弟にして明治八年五月を以て生れ同三十三年分家して一家を創立す同三十四年慶應義塾大學法律科を卒業し時事新報社に入り同三十九年同社通信員として英國に渡航し倫敦大學に於て政治經濟學を修め又歐米各國を巡歴する處あり同四十二年歸朝す大正五年同社を辭して明治生命保險會社に入社總務主任の職を經て常務取締役にして選任せられ又時事新報社取締役をも兼ねる處ありしが大正十

五年六月福澤捨次郎氏の後を受けて時事新報社長となり現時に至る傍ら慶應義塾交詢社等の評議員たり義に依り勳四等に叙せられ瑞寶章を賜ふ巴里平和會議の節には帝國首席全權西園寺公の隨員として渡佛し平和條約成立に依り金杯一個を賞賜せらる(東京、芝、三田四ノ三一電高橋三三八)

小山 寬藏

勤八等、衆議院議員(廣島縣選出)、農業、廣島縣在籍
養母 カメ 安政五、一、生、廣島、高津善五
妻 セン 明一六、二、生、廣島、桐谷惣助叔母
男 一 大一〇、五、生
女 治 明四二、一、生

君は廣島縣人内藤重之輔の長男にして明治十五年三月を以て生れ先代豊三郎の養子となり大正二年家督を相続す明治四十一年中央大學を卒業し農業を營み昭和三年衆議院議員に當選し政友會に屬す義に廣島縣會議員佐原町長等に擧げらるる家族は尙四女秀(大六、七生)あり長女高子(明三七、一、生)は廣島縣人村哲二に二女知恵子(同四〇、一、生)は同縣人山田盛二に嫁せり(廣島、比婆、庄原町)

小山 儀助

靜岡縣多額納稅者、共盛銀行(株)取締役、實業、油類商、靜岡縣在籍
養母 くめ 萬延元、三、生、養祖父儀助二女
妻 こう 明三三、一、生、靜岡、小山多郎長女
男 光 一 大七、七、生

君は靜岡縣人小山快次郎の三男にして明治二十六年二月を以て生れ後先代儀助の養子となり大正十年家督を相続し前名儀百次を改む實業及び油類商を營み傍ら共盛銀行取締役にして同縣多額納稅者たり家族は尙二男文造(大一〇、二、生)三男陽三(同一四、一、〇、生)あり養母こと(明八、二、生)は分家し同(同二、二、生)も亦其夫多郎(慶應元、二、生、靜岡、横山太郎八二男)と共に其子女を伴ひて分家せり(靜岡、志太、藤枝町) 參照 小山快次郎の項

小山 菊次郎

牛鐵組、運送業
東京府在籍

妻 とよ 明七、七、生、東京、加藤萬吉妹
男 喜三郎 明二九、八、生
男 明二八、一、二、生、二男喜三郎妻、東京、松野榮太郎長女
男 卯之助 明三二、四、生
男 明三三、一、生、三男卯之助妻、東京、中村市太郎庶子
男 榮造 明四一、七、生
女 明四四、二、生
女 ね 大二、一、二、生

小山 邦太郎

衆議院議員(長野縣選出)、長野縣多額納稅者、東信社(株)社長、小諸製糖廠、中央鐵道各(株)取締役、製絲業、長野縣在籍
妻 嘉永三、一、生、長野、小山重右衛門長女
母 りん 嘉永三、一、生、長野、小山重右衛門長女
妻 むめじ 明元、一、生、長野、掛川市之丞三女
妻 玉枝 明二九、一、生、長野、市村善輔七女

君は長野縣人小山久左衛門の長男にして同五郎の甥なり明治二十二年十一月を以て生れ大正七年家督を相続す凡に神戸高等商業學校を卒業し義に長野縣會議員同縣參事會員たりしことあり製絲業を營み長野縣多額納稅者にして現時前記會社の重役たり昭和三年衆議院議員に當選す家族は尙長女春江(大九、三、生)二男邦幸(同二一、三、八、生)及弟敬三(明三三、〇、八、生)あり養母(同八、九、生、長野、清水三郎叔父)同妻よし(同五、一、一、生、長野、清水三郎二女)は其子女を伴ひて分家し(同三二、九、生)同夫八郎(同二六、一、生、長野、井出五六三男)は其女を伴ひて分家し(同三三、九、生)同夫二郎(同二五、一、生、長野、渡邊元之助三男)は其子女を伴ひて分家し(同三五、一、〇、生)は山口縣人三好敬藏に嫁せり(長野、北佐久、小諸町) 參照 小山五郎、小山善三郎、伊原五郎兵衛の項

小山 熊治郎

從五位、逓信局技師、廣島逓信局電氣課長、京都府在籍
妻 榮 明二六、五、生、京都、大野政次郎長女

君は京都府人小山長兵衛の弟にして明治二十年五月を以て生れ大正元年分家して一家を創立す同四年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し同大學講師となり次いで大阪電燈會社に入り歐洲各國に出張視察す歸朝後同社設計部長となりし大正八年官界に轉じ逓信省臨時調査技師兼逓信技師を経て同十四年逓信局長に任ぜられ現に廣島逓信局電氣課長たり家族は尙長女紀子(大二、二、生)あり(廣島市廣島逓信局電氣課内)

小山 倉之助

衆議院議員(宮城縣選出)、日本七メント(株)取締役、九州林業、荒井組各(株)監査役、宮城縣在籍
父 長兵衛 弘化三、七、生、若手、三浦清左衛門二男、現戸主
母 とめの 安政元、七、生、宮城、金澤彌惣治三女
妻 トメ 明二五、一〇、生、東京、佐野理八妹

君は宮城縣人小山長兵衛の二男にして明治十七年三月を以て生れ同十二年東京帝國大學法政學科大學政治學科を卒業し現時前記會社の重役たり昭和三年宮城縣より衆議院議員に當選し現に立憲民政黨に屬す家族は尙弟清之助(明一九、一、生)同妻冬子(同三〇、六、生、若手、照井善吉養子)同長吉(同二九、四、生)同妻チヨ(同三三、一、二、生、宮城、武田金治孫)及各子女並に姪喜美子(同四一、一、生、亡兄東助長女)あり姉くら(同四、一〇、生)は宮城縣土族根本秀貞長男の妹よしの(同二五、六、生)は同縣人齋藤直吉長男の妹よしの(同三三、一、六、生)は新潟縣人今井榮次郎孫長太郎の嫁し姉いせの(同九、一〇、生)は同夫辰治郎(同二二、一〇、生、宮城、佐々木平右衛門弟)と共に其子女を伴ひて分家せり(東京市外品川町南品川宿一ノ二九電高橋三三八)

小山 五郎

長野縣多額納稅者、東信社(株)取締役、穀類商、長野縣在籍
妻 うら 明五、七、生、長野、岡崎末二姉

君は長野縣人小山長兵衛の三男にして明治八年十二月を以て生れ同三十二年分家して一家を創立す現に小山セルロイド會社社長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙三男正二(大二、一、〇、生)あり長女智子(明三四、一、生)は大正府人桂善助長男善治郎に嫁せり(大阪、住吉、天王寺町四三三電一七八) 參照 桂善助の項

小山 三省

埼玉縣多額納稅者、煙草元賣捌業
埼玉縣在籍
妻 貞 明二九、三、生、養父文藏二女
男 文 平 大六、一、一、生

君は埼玉縣人太田元章の三男にして明治二十二年六月を以て生れ先代文藏の養子となり大正十一年家督を相続す煙草元賣捌業を營み現に埼玉縣多額納稅者たり家族は尙養妹玉子(明三七、一〇、生)あり(川越、川越八六〇)

小山 三藏

靜岡縣多額納稅者
靜岡縣在籍

小山 定助

小山セルロイド(株)社長、日本七メント(株)取締役、市岡商事(株)監査役、大阪府在籍
妻 みと 明一、一、二、生、兵庫、横田藤兵衛二女
男 貴次郎 明三六、一、二、生
男 貴三 明四一、三、生
女 富美子 明四三、一、二、生

君は和歌山縣人小山清八の三男にして明治八年十二月を以て生れ同三十二年分家して一家を創立す現に小山セルロイド會社社長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙三男正二(大二、一、〇、生)あり長女智子(明三四、一、生)は大正府人桂善助長男善治郎に嫁せり(大阪、住吉、天王寺町四三三電一七八) 參照 岡崎末二、小山邦太郎の項

小山 三郎

從四位勳五等、臺灣總督府交通局長、東京府在籍
妻 政孝 明二二、九、生、東京、柏村次郎姉

君は東京府人小山政治の弟にして明治十八年三月を以て生れ現に東京府立高等科を経て同四十二年東京帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し臺灣總督府阿里山作業技師同鐵道技師を経て大正十三年同交通局長に任じ鐵道部汽車課長にして工務課勤務を兼ねる家族は尙長女保子(大三、四、生)兄政治(明一四、一、二、生、現戸主)同妻ルリ(同二四、一、一、生、大分、熊野御堂松長女)及び其二女あり妹種(同二二、一、生)は愛知縣人島田義治に嫁せり(臺北、鐵道部官舎) 參照 島田義治の項

小山 重右衛門

九五商店(株)社長、東信社(株)取締役、小諸銀行(株)監査役
長野縣在籍
妻 威雄 明一八、五、生、長野、西澤深志妹
男 威雄 明三八、七、生

君は長野縣人先代重右衛門の長男にして明治十五年四月を以て生れ大正四年家督を相続し前名邦太郎を改む現時九五商店社長たる外前記會社の重役たり義に布引鐵道會社の重役にして長野縣方面委員營業稅調査委員等に推されし事あり家族は尙二男達雄(明四二、一、〇、生)三男謙彌(同四五、七、生)四男悠紀雄(大四、一、二、生)五男鐵雄(同九、一、一、生)三女壽美(同一四、五、生)あり叔母よし(明元、正生)は長野縣人高山永三郎に嫁せり(同二九、一、二、生)は同縣人宮川源太に嫁せり(長野、北

佐久、小諸町電六)

參照 高山永三郎(武居正文の項)

小山 松壽

正五位勳三等、衆議院議員(愛知縣選出)、名古屋新聞社社長、長野縣在籍

妻 幸子

明一七、一〇生、岡山、士、森一兵衛

女 千鶴子

明四四、五生

君は長野縣人小山與右衛門の長男にして明治九年一月を以て生れ同二十一年家督を相続す同二十八年東京專門學校法律科を卒業し操縦界に投じ大阪朝日新聞記者となり同社南滿洲通信員名古屋支局長主任を経て名古屋市長議員となり現に名古屋新聞社を主宰す大正四年以來衆議院議員に當選すること五回立憲民政黨に屬し曾て農林政務次官の任にあり家族は尙二女百合子(大三、一〇生)あり(名古屋、東、富士塚町二ノ一電東六八)參照 森一兵衛の項

小山 新

日本ブドウ酒株式專務取締役、東京府在籍

父 新助

文久元、一二生、現戸主

母 幸子

慶應元、二生、神奈川、新藤孝次郎

妻 君子

明二八、七生、東京、高橋金十郎

女 新香

大六、一〇生

小山家は代々江戸に定住し質商を家業として其始祖より十七代を經たる舊家なり當主新助に至り祖業を廢し土木建築請負業を始め漸次發展して當家今日の産を爲せり君は其二男にして明治二十年十二月を以て生れ大正二年東京高等商業學校を卒業し山梨縣に於て父新助の經營になる葡萄酒に入り葡萄酒の栽培及び葡萄酒の製法を研究す現時日本ブドウ酒會社常務取締役たり家族は尙長女和子(大八、四生)の外弟謙之助(明二四、九生、早稻田大學出身)同金(同二六、二生)同繁(同三四、八生)同秀男(同三七、三生)妹百合子(同四四、三生)あり(東京、四谷、霞ヶ丘町一七電書山四四四)

小山甚三郎

布引電氣(株)取締役、小諸銀行、信濃製粉(株)監査役、長野縣在籍

父 甚三郎

天保八、三生、長野、小林茂吉二男

小山 谷藏

正五位勳四等、衆議院議員(和歌山縣選出)、城東土地、中野商店、三日月商事各(株)取締役、和歌山縣在籍

妻 ミツ

明一八、四生、栃木、早川覺兵衛

君は和歌山縣人小山政次郎の長男にして明治九年八月を以て生れ大正二年家督を相続す明治三十一年東京專門學校英語政治科を卒業し後渡米してコロムビア及びインプ大學に修學す歸朝後臺灣總督府專賣局翻譯官に任ぜられ歐米各國に出張す現時前記諸會社の重役に擧げらる明治四十五年以來和歌山縣に在り議に衆議院議員に當選すること三回現に其職に在り文部省副參政官に任ぜらる家族は尙長女尚子(大四、三生)あり父政次郎(弘化四、七生)は繼母たか(文久三、一二生、和歌山、目良久助妹)妹房枝(明二六、一〇生)弟芳良(同三〇、一一生)を伴ひ分家せり(東京、本郷、向ヶ丘彌生町三電小石川二〇八)

小山 忠兵衛

賣藥並化粧品商、大阪府在籍

女 隆子

明四二、五生

君は大阪府人先代忠兵衛の長男にして明治六年三月を以て生れ同二十八年家督を相続し號名が當家は三百年以前より家傳の賣藥ひぜん御湯藥を販賣す君亦祖業を繼承し傍ら化粧品製造販賣に従事し今日に至る長女富美子(明三八、六生)は大阪府人科野米藏長男要蔵に二女晴子(同三九、一〇生)は東京府人水落貞三に嫁せり(大阪、東、南久賣寺町一ノ五四電船場三〇〇五)參照 科野米藏の項

小山 恒男

醫師、大阪府在籍

妻 正

明三七、一〇生、大阪、西崎傳一郎

當家は舊藩の世に於て父健三に至る健三夙に文部省に出仕し次で高等商業學校長文部次官に任ぜしが後實業界に入り三十四銀行頭取南滿洲鐵道會社監事たり關西實業界の重鎮を以て目せらる君は健三の二男にして明治二十四年一月を以て生れ大正十五年先代兄健男の後を承けて家督を相続す先是同五年府立大阪醫科大學

妻 ことじ

明二一、三生、長野、掛川清兵衛

女 ゆり

明四四、一〇生

君は長野縣人小山忠次郎の長男にして明治十七年四月を以て生れ同三十三年家督を相続し前名豊二郎を改む現時前記銀行會社の重役として知らる姉ゆゆ(明一五、一〇生)は長野縣人川口泉に嫁す(同二六、一〇生)は同縣人掛川清水に嫁す(同二〇、五生)同妻きん(同二七、三生)長野、小山勝次(同二七、一〇生)を伴ひ叔父七郎(同六、七生)同妻きき(同二二、一〇生)長野、小林左平治(同二六、一〇生)を伴ひ同末次郎(同二四、三生)同妻くり(同二六、一〇生)長野、小山民之助(同二四、三生)を伴ひ各分家し同庄太郎(同四、九生)は長野縣人倉澤テルの入夫となり叔父八五郎(同八、九生)は長野縣人小山邦太郎先代久左衛門の養子となり(長野、北佐久、小諸町)參照 小山邦太郎(津井井田一郎)の項

小山 介藏

正五位勳三等、陸軍少將、關東憲兵隊長、山口縣在籍

父 九甫

嘉永五、八生

妻 九甫

安政五、七生、兵庫、土、渡邊均

女 ユキ

明一八、一〇生、山口、福田文之助妹

君は山口縣人小山九甫の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十四年祖父久右衛門の後を襲ひ家督を相続す現に陸軍士官學校を卒業し同三十二年陸軍歩兵少尉に任じ同三十九年憲兵科に轉科し大正十五年陸軍少將に累進す其間滿洲軍政署附屬神戶東京各憲兵分隊長憲兵練習所教官憲兵副官憲兵隊長の職にあり弟隆亮(明二四、一〇生)は分家し妹信子(同二八、六生)は山口縣人時政宮助七男順助に嫁せり(旅順、鐵道町)參照 西崎傳一郎、津村秀松、津村英三郎の項

小山 誠次

判事、兵庫縣在籍

母 リ

嘉永三、一〇生、京都市、磯山長女

妻 せつ

明一九、四生、京都、土、磯山助

小山 鶴太郎

河野鐵道(株)取締役、長野縣在籍

母 たけ

天保九、一〇生、長野、山口清兵衛

學を卒業し竹尾結核研究所に入りしが現時有馬研究所に於て結核の研究に従事す家族は尙兄健男妻芳(明二八、一〇生、東京、難波一三女)あり姉久子(同二九、三生)は法學博士津村秀松に嫁せり(大阪、東、大手通二ノ三電東二八〇)參照 西崎傳一郎、津村秀松、津村英三郎の項

小山 禎三

賣藥(五)常務取締役兼大阪支店長、長野縣在籍

妻 みつ

明一七、一〇生、長野、佐藤尾之

女 龍太郎

明三三、一〇生

君は長野縣人小山謙之助の弟同完善の兄にして明治三十年十月を以て生れ同二十七年分家して一家を創立す同二十五年慶應義塾正科を卒業し現時千代田生命保險會社常務取締役兼大阪支店長にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尙二女夏子(大四、七生)二男春彦(同六、四生)三男大三(同二〇、三生)三女みさを(同二二、七生)あり(名古屋、東、大曾根町一九五電東三一八九)參照 小山完善の項

小山 藤吉

醫師、東京府在籍

母 いち

文久三、一〇生、東京、諏訪加平次

妻 五

明二一、一〇生、東京、小山秀次郎長女

君は兵庫縣人小山孫右衛門の三男にして明治十二年二月を以て生れ同三十七年京都帝國大學法學科法律科を卒業し同三十九年判事に任じ爾來奈良地方同區五條區大阪府同地方安藝區高知地方和歌山地方各裁判所判事に歴補し大正十三年現職大阪府同區判事に轉ず家族は尙二男秀夫(大七、五生)三男勇夫(同二〇、一〇生)の外兄武一郎(明六、九生)現戸主)同妻たつ(同七、四生)兵庫、藤原貞一郎(同三、一〇生)同妻たつ(同四、四生)あり長女あや(同三七、九生)は岡山縣人伊賀文三に嫁す(同四〇、一〇生)は兵庫縣人高谷健藏長男實太郎に嫁す(同二二、六生)は同縣人小山重兵衛長男彌造に嫁す(同三三、四生)兄武一郎(同長女)は同縣人鈴木龜藏長男康吉に嫁す(同二五、八生)は其妻りら(同二〇、一〇生)兵庫、岡本弘造長女)及其二子を伴ひ分家せり(大阪、住吉、阿部野町)

小山 宗吉

袋物商、京都府在籍

妻 たき

明二六、三生、京都、長谷川金次郎長女

男 宗治郎

大三、六生

君は京都府人小山竹治郎の長男にして明治二十二年十月を以て生れ昭和二年家督を相続す袋物商を營む家族は尙二男已之助(大五、六生)三男徳三郎(同八、六生)四男松治郎(同二〇、八生)あり弟安次郎(明二七、二生)は分家せり(京都、下京、四條通寺町東入御旅町四四電中三〇四)

小山 太吉

山形縣多額納稅者、農業、山形縣在籍

妻 もと

明二五、一〇生、山形、和島茂兵衛長女

君は山形縣人先代太吉の長男にして明治二十二年三月を以て生れ同四十三年家督を相続し後襲名して前名泰一郎を改む農業を業とし現に縣下の多額納稅者たり家族は尙長女光子(大三、二生)及び妹とも(明三三、三生)同夫嶺三(同二四、一〇生)山形、高田嘉兵衛(三男)との間に二男二女あり姉竹恵(同二八、二生)は山形縣人本間光三に同(同二〇、三生)は千葉縣人岩野治平長男誠一郎に妹みね(同二五、三生)は同縣人岩野俊次に嫁せり(山形、飽海、酒田町)

秀 秀

明四二、一〇生

女 千代子

明四五、一〇生

君は東京府人小山善吉の長男にして明治十六年十二月を以て生れ同四十四年家督を相続す賣藥器械商を營む家族は尙三男實(大五、九生)あり弟善吉(明二二、五生)同妻さく(同二六、二生)壺玉、鹽野佐吉(長女)一男二女を伴ひ分家し同彦次郎(同二五、三生)同浦吉(同三四、六生)も亦分家し妹さく(同三一、三生)は東京府人方傳藏に嫁せり(東京市外香取町小村井五一九電墨田二〇八)

小山 豊安

長崎商工會議所常務議員、長崎實業(株)理事、長崎縣在籍

妻 ナヨ

明一九、一〇生、長崎、士、三上政次妹

女 カツ子

明四二、一〇生

君は熊本縣人小山東林の二男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十九年兄仁壽方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして長崎商工會議所常務議員たり家族は尙三女ヤス(大三、一〇生)あり(長崎市東嶺町五三)

小山 正之助

日本大學商學部講師、名古屋綿絲布取引所常務理事、東京府在籍

妻 かね

明二二、八生、東京、士、三宅美明四女

男 元一

大八、二〇生

女 高茂

明三四、一〇生

男 信

明三七、一〇生

女 菊代

明四五、五生

君は東京府人高瀬俊平次の三男にして前東京感化院長

古賀甚四郎

日田實業銀行(株)頭取、日本實業銀行(株)社長、日田製材(株)代表取締役、實業貯蓄銀行(株)専務取締役、九州村木(株)取締役、大分縣在籍

妻 シケヨ 明元、一、生、福岡、佐藤恒次長女
男 西二 明三〇、六生、二男西二妻、福岡、安元格十女

古賀善次

沖繩縣多額納稅者、海産物砂糖商、君は福岡縣人古賀辰四郎の長男にして明治二十六年四月を以て生れ大正七年家督を相続す海産物砂糖商を營み沖繩縣多額納稅者にして同縣砂糖商同業組合評議員其他各種の公職に在り(那覇、西本町四一)

妻 ミキ 明二、二生、佐賀、土、大島重義五女

古賀善兵衛

古賀銀行(株)頭取、佐賀縣在籍

妻 ミキ 明二、二生、佐賀、土、大島重義五女

古賀達朗

山一商行(株)取締役、古賀組(資)代表社員、福岡縣在籍

妻 邦 治 明四〇、五生

古賀平八

佐賀縣多額納稅者、醸造業、君は佐賀縣人先代平八の二男にして明治十一年八月を以て生れ大正六年分家して一家を創立し前名嘉六を改む醸造業を營み佐賀縣多額納稅者たり(佐賀、三養基旭村)

妻 ヨシ 明一三、一、生、佐賀、迎代助三女

古賀政一

長崎縣多額納稅者、佐世保汽船(株)取締役、佐世保商業銀行(株)監査役、九善醫社(名)社長、長崎縣在籍

妻 カメ 安政元、三、生、福岡、石橋嘉一、二女

古賀三千人

臺灣商工銀行(株)頭取、臺北鐵道(株)社長、臺灣貯蓄銀行(株)頭取、臺灣銀行(株)頭取、臺灣地産(株)頭取、日東製米(株)頭取、臺灣肥料(株)頭取、電燈、太平洋炭礦各(株)監査役、福岡縣在籍

妻 エン 明一七、五、生、熊本、土、福田東風長女

古賀忠平

熊本縣多額納稅者、酒造業、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ミツ 文久三、一、生、熊本、土、岩下彦十郎四女

古賀文吾

門司銀行(株)取締役、福岡縣在籍

妻 リウ 元治元、四、生、福岡、矢野久平二女

古賀由直

從三位勳二等、農學博士、東京帝國大學校長、京都府土族、君は福岡縣人先代文吾の長男にして文久元年十二月を以て生れ大正四年分家して一家を創立す現時山一商行取締役にして古賀組代表社員を兼ね家族は尙二男照造

妻 ヒテ 嘉永四、二、生、長崎、東甚三郎二女

古賀正雄

五位勳四等、鐵道局技師、仙臺鐵道局工作部長、長崎縣土族、君は長崎縣人古賀達郎の長男にして明治十三年一月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十七年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し日本車輛製造會社九州鐵道會社各技師となり同四十二年鐵道院技師に任ぜらる大正十一年英國へ出張を命ぜられ歸朝後仙臺鐵道局工作部長となり東北帝國大學工學部講師を囑託せられ現在に及ぶ家族は尙三男立夫(同五一、一、生)長女キク(同二〇、二、生)四男英太郎(同五一、一、生)弟正之(明四二、九生)あり妹ヤエ(同三一、四、生)は佐賀縣人平野養次に嫁し弟善朋(同三一、四、生)は長崎縣人若林シチの養子となり(仙臺、鐵道局官舎)

妻 タツ 明一五、五、生、長崎、土、鹿兒島虎雄姉

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀德太郎

長崎縣多額納稅者、農業、君は長崎縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 サン 弘化四、一、生、長崎、野中判十長女

古賀春一

松島炭礦、大日本炭礦各(株)社長、佐賀縣土族

妻 フサ 明一六、五、生、養父善兵衛長女

古賀福太郎

福岡縣在籍

妻 セツ 明四、一、生、福岡、草刈茂三三女

古賀千代

明三二、四、生、大阪、井上梅吉三女

古賀武德

明二四、一、生、福岡、古賀甚市三女

古賀敬子

明三一、五、生、養子武德妻、山口、十川嘉太郎長女

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀千城

明二六、二、生、養子スキ夫、福岡、鷹取四八三男

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

古賀文一

熊本縣土族、君は熊本縣人古賀善平の孫にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十五年家督を相続す農業を營み長崎縣多額納稅者たり二男明三(明二、九生)は同妻トエ(同二六、六生、長崎、緒方温平四女)及其一女を伴ひ分家し長女トヨ(同二四、八生)は長崎縣人本田繁作孫輝矩に嫁せり(長崎、北高來、小長井村)

妻 ツル 元治元、七、生、佐賀、土、大石元昌長女

男 由正 明二六、九生、從六位、工學士、鐵道技師
 澄江 明三五、九生、長男由正妻、文學博士幣原坦二女
 當家は舊京都所司代與力の家柄なり君は京都府人柳下仙藏の長男にして元治元年十二月を以て生れ先代柳之助の養子となり後家督を相続す明治十九年駒場農學校を卒業し同二十二年東京農林學校教授に任ぜられ同二十三年農科大學助教授となり同二十八年獨逸に留學を命ぜられ同國ライプツヒ大學を卒業しドクトル・フイロフイの學位を得て白耳義に遊び歸朝す同二十二年農學博士の學位を受け帝國大學農科大學教授に任じ同三十六年農事試験場技師兼東京帝國大學教授に任じ同三十九年東京帝國大學農科大學教授に任ぜられ現在に至る家族は尙四男由信(明四四、七生)孫由子(六一五、三生、長男由正長女)あり二男由重(明三四、五生)は分家せり(東京、小石川、駕籠町一九七電大塚二一〇四)

參照 幣原坦二男幣原重喜郎の項

古島 安二

名古屋棧橋倉庫(株)社長、矢作開墾(株)常務取締役、矢作泰造、桃(株)理事、新潟縣在籍
 妻 ヨシ 明一七、二生、新潟、玉川覺平長女
 男 信 明四四、四生
 君は新潟縣人山崎正八の二男にして明治十五年一月を以て生れ後先代理業の養子となり同四十年家督を相続す同三十八年早稲田大學專門部政治經濟科を卒業し現時名古屋棧橋倉庫社長たる外前記各會社の重役たり家族は尙長女由子(六一五、二女麗子)同六、三(四男清一、一、九生)あり(東京市外落合町下落合三六七)

古城 菅堂

山東省實業、朝鮮火災海上保險、仁川米豆取引所各(株)取締役
 大分縣在籍
 養子 貞 明一五、一〇生、父玄洲五男
 妻 都幾江 明二一、二生、養子貞妻、長崎、國分象太郎長女
 君は大分縣人古城玄洲の長男にして安政四年七月を以て生れ明治二十年家督を相続す現時前記各會社の重役

たり曾て朝鮮實業銀行頭取東洋生命保險會社取締役たりし事あり家族は尙孫也(明四四、一〇生、養子貞長男)同倫次(大四五、五生、同二男)同公子(同一〇、三生、同長女)同伊都(同一五、二生、同二女)あり弟龜之助(明六、一〇生)は同妻よし(同一六、二生、東京、長嶺ひき養母)と共に其三子を伴ひ分家し同梅溪(萬延元、三生)も亦分家せり(京城、杏林洞一七一)

孫 德之輔 明三八、四生、長男富太郎長男
 孫 ヨシエ 明四一、六生、長男富太郎長女
 孫 サタ 明四二、一〇生、亡二男龍平長女
 君は大分縣人古城福太郎の長男にして弘化四年十二月を以て生れ明治元年家督を相続す現時同縣多額納稅者たり家族は尙孫清(明四三、三生、長男富太郎二男)同泰三(大元、九生、同三男)同政四郎(同四、五生、同四男)同美代(同六、一〇生、同二女)同千代子(同九、三生、同三女)同君子(同一五、四生、同四女)同秀三郎(明四四、一一生、亡二男龍平長男)同ハナ(大三八、八生、同二女)同晴(同八、一一生、同三女)同宏一(同一二、三生、三男龍平長男)あり二女タカ(明二五、三生)は熊本縣人巖龜吉に嫁せり(那覇、上ノ蔵町二)

古城 鴻一

從五位、京都高等工務學校教授
 熊本縣在籍
 妻 須惠與 明二四、一〇生、熊本、士、虎口、芥太郎妹
 男 鴻介 大三、二生
 君は熊本縣人古川貞吉の甥にして明治十六年十二月を以て生れる同十四年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し朝鮮總督府中央試驗所技師京城專門學校教授等に歷任し大正八年京都高等工務學校教授に轉じ同年英米獨各國に留學し同十一年歸朝し現時に至る家族は尙二男鴻二郎(大七一、一一生、熊本、西廣次長女)との間に一妻晴(同三八、一一生、熊本、西廣次長女)との間に一及叔父貞吉(慶應二、五生、現戸主)同妻竹(明一〇、三生、熊本、士、鹽津信義二女)との間に子女あり從妹フジ(同三三、八生、叔父貞吉長女)は山口縣人徳田茂實に同婚す(同二六、四生、同二女)は同縣人栗屋東一に妹那珂上(同二八、六生)は熊本縣人高木信四郎長男(同三三、一一生)は同縣人池松信夫に同婚す(同二二、一一生)は熊本縣人西崎一に嫁し弟鴻二(同二二、一一生)は熊本縣人名和セキの養子となり(京都、上京、等持院北町五八)

古城 梅溪

朝鮮實業銀行、京城證券信託、朝鮮製糖、朝鮮土地經營各(株)取締役、京城家査(株)監査役
 大分縣在籍
 妻 シケ 明一、二生、神奈川、三毛嘉教三女
 養子 憲治 明二、九生、養子シケ夫、鳥根、原田哲一弟、醫學博士、養化病院
 養子 シフ 明一九、一一生、養子憲治妻、父玄洲五女
 君は大分縣人古城玄洲の二男にして同菅堂の弟なり萬延元年三月を以て生れ明治九年分れて一家を創立す同十六年大分縣甲種醫學校を卒業し同十九年京城日本公使館醫として渡鮮し後辭して養化病院を開業し同時に日本公使館醫を勤め傍ら種痘館を養成す同三十三年官立醫學校總教習に任ぜられ次いで清國直隸總督府衛生顧問に備せられて赴任す後辭して歸朝し引續き養化病院を経営せしが養嗣子憲治に委譲し爾來前記銀行會社の重役となり今日に至る家族は尙孫朝彦(大元、一一生、養子憲治二男)同雄二(同四、二生、同三男)同武俊(同六、四生、同四男)同豐文(同一〇、一〇生、同六男)あり(京城、本町二一六)

古城 德三郎

沖繩縣多額納稅者
 沖繩縣在籍
 妻 富太郎 明五、三生
 男 富太郎 明一八、一一生、長男富太郎妻、東京、中泰助長女
 男 莊平 明二一、二生
 男 照江 明二三、七生、三男莊平妻、沖繩、佐伯實業長女
 男 豐 明一三、一〇生、亡二男龍平妻、鹿兒島、士、吉見千晴叔母

古田 中正彦

西村同族、大阪アルカリ土地各(株)監査役、大日本人造肥料(株)大阪支店長、東京府土族
 參照 古城菅堂の項

妻 孝 明二三、四生、東京、西村直妹
男 鐵 明四四、二生
女 峯子 校出身
 君は東京府土族古田中瀧雄の長男にして明治十四年二月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し現時大日本人造肥料會社大阪支店長にして前記各會社の重役を兼ねる家族は尙二男正次(大元、八生)三男勝彦(同一〇、一〇生)弟博(明一九、九生)同妻順(同二六、六生、山梨、秋山喜藏長女)及其子女並に同妻文(同二四、一〇生)同妻ミキ(同二六、五生、神奈川、眞田三吉長女)同芳雄(同一五、二生)明善(大一一、七生、弟秀雄長男)同正(同一五、五生、同二男)あり弟秀雄(明三〇、四生)は同妻靜子(同三五、一一生、大阪、淺井百合子姉)を伴ひ其妻の生母淺井ヌエの養子となり(東京市外東洞布町田岡都市四五四)

生れ後先代素碧の養子となり同十五年家督を相続す同三十五年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し爾來札幌農學校教授帝國鐵道技術師鐵道技師等を歴任し現時北海道帝國大學教授にして農學部勤務たり獨英米佛各國に留學を命ぜらる(札幌、北海道帝國大學農學部)

君は福岡縣人古田惣四郎の長男にして明治二年八月を以て生れ同二十九年家督を相続す現時比良松銀行取締役たる外前記會社の重役を兼ねる家族は尙七女子(大一一、五生)あり養子フサ子(明三五、九生、福岡、森山清太五女)は福岡縣人本松茂樹に妹ケイ(同八、二生)は同縣人日野市郎平長男日賀に嫁す(同三二、一一生)弟光長(女)は同縣人森山登の養子となり弟與三(明一四、一〇生)は同縣人森山登の養子となり弟與三(明一四、一〇生)は同妻チアキ(同一七、九生、福岡、空閑廣海三女)及其一女と共に分家せり(福岡、朝倉、倉村)

古武 彌四郎

從四位勳四等、醫學博士、大阪醫科大學教授、岡山縣在籍
 妻 八重 明二二、六生、大阪、古武彌吉養妹
 男 彌 明三九、八生
 男 彌 明四一、一一生

君は岡山縣人古武彌津治の二男にして明治十二年七月を以て生れ同三十七年家督を相続す同三十五年大阪府立醫學校を卒業し同四十二年學術觀察のため獨逸に留學す藝に京都帝國大學助手大阪府立醫學校助教授大阪府立高等醫學校同府立醫學校各教諭等を歴任し大正二年醫學博士の學位を受く現時大阪醫科大學教授たり家族は尙三男彌正(大元、九生)長女春子(同四、三生)二女常子(同六、五生)亡弟彌之助妻滿左野(明二〇、七生、岡山、小西林藏長女)及其子女あり(大阪、北、常安町大阪醫科大學内)

君は島根縣人先代傳兵衛の長男にして明治二十二年一月を以て生れ大正十二年家督を相続と共に襲名して前名一大郎を改む農業を營み現に同縣多額納稅者たり家族は尙長女正枝(大五、七生)三男國郎(同一五、七生)四男良吉(同一〇、一一生)二女玉枝(同四一、六生)及弟吉郎(明三七、八生、早稻田大學法科在學)あり叔母リヨ(同一二、一一生)は分家せり(島根、能義、大塚村)

古藤 彌三郎

從四位勳四等、北海道帝國大學教授、農學部勤務、東京府在籍
 妻 コウ 明一八、六生、北海道、土、足立
 女 民治三女

君は神奈川縣人古西元次郎の弟にして明治五年七月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す凡に三井物産會社に入り後同社を退き現時大都會電氣會社事務取締役たり家族は尙二男龍次(大五、一一生)四女澄子(同六、一一生)三男和乎(同八、一一生)四男大也(同九、八生)五男邦造(同一三、一一生)あり長女美保子(明四〇、三生)は山口縣人田中誠吉弟誠二に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町八三六電四谷八七三)

君は大分縣人古堀彌吉の四男にして明治七年九月を以て生れ同三十二年分家して一家を創立す同三十六年安田銀行に入行し現に同行八尾支店長たり謙曲及俳句に興味を有す家族は尙三男豐夫(明四五、三生)あり長女貞子(同三四、一一生)は大分縣人古堀實之助三男彌之助に嫁せり(大阪、中河内、八尾町)

古藤 猛哉

從四位勳四等、北海道帝國大學教授、農學部勤務、東京府在籍
 妻 コウ 明一八、六生、北海道、土、足立
 女 民治三女

君は東京府人林種昭の二男にして明治九年一月を以て

君は大分縣人古堀彌吉の四男にして明治七年九月を以て生れ同三十二年分家して一家を創立す同三十六年安田銀行に入行し現に同行八尾支店長たり謙曲及俳句に興味を有す家族は尙三男豐夫(明四五、三生)あり長女貞子(同三四、一一生)は大分縣人古堀實之助三男彌之助に嫁せり(大阪、中河内、八尾町)

後藤 一郎

信美電力(株)代表取締役、後藤特許事務所主、後藤電業研究所長、元治元、五生、愛知、五藤治郎八長女

- 妻 子 明九、八生、愛知、士、永田信成
女 利 雄 明三三、七生、工學士、大同電力
女 眞 明三三、七生、五生
女 眞 明三三、七生、五生
女 眞 明三三、七生、五生
女 眞 明三三、七生、五生

後藤 市藏

大阪府多額納税者、丸萬本家、割

- 妻 武 美 明三三、七生、長男武美妻、京都
女 眞 明三三、七生、長男武美妻、京都
女 眞 明三三、七生、長男武美妻、京都

後藤 卯左衛門

高島鐵道(株)取締役、山形縣在籍

- 妻 子 明二、八生、養母よし二女
女 眞 明二、八生、養母よし二女
女 眞 明二、八生、養母よし二女

後藤 兼五郎

地主、東京府在籍

- 妻 子 明三、一八生、埼玉、富田治郎助妹
女 眞 明三、一八生、埼玉、富田治郎助妹
女 眞 明三、一八生、埼玉、富田治郎助妹

後藤 寛一郎

日本格魯漢鐵業(株)専務取締役、鳥取縣在籍

- 妻 子 明二、九三、三三、大阪、永井本二郎
女 眞 明二、九三、三三、大阪、永井本二郎
女 眞 明二、九三、三三、大阪、永井本二郎

後藤 喜四郎

大分土地建物、豊後土地各(株)取締役、大分縣在籍

- 妻 子 明一、六、八生、養父富藏長女
女 眞 明一、六、八生、養父富藏長女
女 眞 明一、六、八生、養父富藏長女

後藤 市藏

大阪府多額納税者、丸萬本家、割

- 妻 武 美 明三三、七生、長男武美妻、京都
女 眞 明三三、七生、長男武美妻、京都
女 眞 明三三、七生、長男武美妻、京都

後藤 卯左衛門

高島鐵道(株)取締役、山形縣在籍

- 妻 子 明二、八生、養母よし二女
女 眞 明二、八生、養母よし二女
女 眞 明二、八生、養母よし二女

後藤 吉太郎

天鹽銀行(株)頭取、岐阜縣在籍

- 妻 子 明三、一五、五生、長男氏隆妻、岐阜
女 眞 明三、一五、五生、長男氏隆妻、岐阜
女 眞 明三、一五、五生、長男氏隆妻、岐阜

後藤 吉太郎

延岡銀行、大分土木各(株)取締役、宮崎縣在籍

- 妻 子 明二、六、二生、長男彦四郎妻、宮崎
女 眞 明二、六、二生、長男彦四郎妻、宮崎
女 眞 明二、六、二生、長男彦四郎妻、宮崎

後藤 熊雄

熊本縣多額納税者、金融業、熊本縣在籍

- 妻 子 明三、一〇生、熊本、宇田悟一郎
女 眞 明三、一〇生、熊本、宇田悟一郎
女 眞 明三、一〇生、熊本、宇田悟一郎

後藤 桂太郎

宮口銀行(株)専務取締役、静岡縣在籍

- 妻 子 明一、六、一〇生、静岡、中村富治郎
女 眞 明一、六、一〇生、静岡、中村富治郎
女 眞 明一、六、一〇生、静岡、中村富治郎

後藤 丑之助

博多鐵商、福岡縣在籍

- 妻 子 明一、九、二生、大分、是永新妹
女 眞 明一、九、二生、大分、是永新妹
女 眞 明一、九、二生、大分、是永新妹

後藤 脩

三重出版(株)代表取締役、笹川紡織(株)監査役、三重縣在籍

- 妻 子 明一、三、二生、三重、倉田駒之助二女
女 眞 明一、三、二生、三重、倉田駒之助二女
女 眞 明一、三、二生、三重、倉田駒之助二女

後藤 嘉太郎

宮崎縣多額納税者、農業、宮崎縣在籍

- 妻 子 明二、五、六生、宮崎、清水榮三三女
女 眞 明二、五、六生、宮崎、清水榮三三女
女 眞 明二、五、六生、宮崎、清水榮三三女

後藤 國彦

池上電氣鐵道(株)専務取締役、博多銀行、内閣通運、京成電氣軌道、北海道鐵道、日本商事、成田電氣軌道各(株)取締役、西武鐵道(株)監査役、東京府在籍

- 妻 子 明二、八、二生、東京、葛目成明長女
女 眞 明二、八、二生、東京、葛目成明長女
女 眞 明二、八、二生、東京、葛目成明長女

後藤 熊雄

熊本縣多額納税者、金融業、熊本縣在籍

- 妻 子 明三、一〇生、熊本、宇田悟一郎
女 眞 明三、一〇生、熊本、宇田悟一郎
女 眞 明三、一〇生、熊本、宇田悟一郎

後藤 桂太郎

宮口銀行(株)専務取締役、静岡縣在籍

- 妻 子 明一、六、一〇生、静岡、中村富治郎
女 眞 明一、六、一〇生、静岡、中村富治郎
女 眞 明一、六、一〇生、静岡、中村富治郎

男 三夫 六七、九生
 養子 幸雄 明二八、三生、長女きみと夫、靜岡、野澤喜久司二男、甲府高等女學校教諭
 女 きみと 明三五、一生、養子幸雄妻
 女 以志 明四〇、二生

君は靜岡縣人後藤正治の長男にして明治十二年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す現時前記銀行の重役にして血玉村信用組合理事組合長たり家族は尙四女美代(大四、一生)孫久(同一二、一生、養子幸雄長女)同洋(同一四、一生、同長男あり(靜岡、引佐、血玉村))

後藤 研 宮城縣多額納税者、金融業
 妻 しまね 明一九、三生、宮城、高橋熊治妹

君は宮城縣人後藤泰治の長男にして明治二年二月を以て生れ大正七年家督を相續す金銀業を營み宮城縣多額納税者たり家族は尙弟喜一郎(明二六、九生)同妻ちよ(同一三、七生、宮城、高橋熊治二女)及其三男一女あり(宮城、遠田、小牛田町)

後藤 謙三 第一銀行(株)大阪支店副支配人
 妻 きよ 明三一、三生、東京、村井知至三女

君は兵庫縣土佐後藤謙三の四男にして明治二十一年二月を以て生れ同十四年神戸高等商業學校を卒業し現時第一銀行大阪支店副支配人たり曾て同行より派遣せられて歐米各國を視察せしことあり家族は尙長女公子(大八、九生)二男陸男(同一二、一生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋中ノ内一〇二七)

後藤 幸三
 父 安太郎
 母 はな

君は大阪府人後藤幸三の二男にして明治十四年二月を以て生れ大正八年神戸の後を承け家督を相續し前名平治を改む明治三十五年大阪高等商業學校を卒業し現に本邦木材會社社長たり家族は尙長女滿子(大三、一〇生)二女澄子(同一〇、九生)三女淳子(生年月同上)四女設子(同一二、七生)五女律子(同一五、二生)の外弟藤治郎(明一八、一生)同收養(同一二、八生)同妻タマ(同三〇、四生、新潟、齋藤音作長女)及其子女並に姪ノブ(同三四、三生)あり(大阪、中河内、大戸村)

後藤 七郎
 妻 ナミエ

君は福岡縣人後藤貞治の三男にして明治十四年九月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名治一郎を改め現に前記諸會社の重役たり家族は尙長女愛(大三、五生)二女ツギ(同一五、四生)の外妹花(同六、四生)あり(岩手、齋藤、水澤町)

男 啓一 明四四、一〇生
 君は岐阜縣人後藤安太郎の長男にして明治十四年六月を以て生れ同十四年東京帝國大學法政科を卒業し現時前記諸會社の重役たり(名古屋、中、御器所町東寺一〇一電南三二二)
 參照 後藤安太郎、八木平兵衛、小島直三郎、後藤裕平、後藤裕三郎、八木富三の項

後藤 治三郎
 妻 ナヲ

君は岩手縣人後藤治三郎の長男にして明治三十二年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名治一郎を改め現に前記諸會社の重役たり家族は尙長女愛(大三、五生)二女ツギ(同一五、四生)の外妹花(同六、四生)あり(岩手、齋藤、水澤町)

後藤 周藏
 妻 セン

君は大分縣人後藤靜の四男にして明治八年六月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十二年慶應義塾理財科を卒業し時事新報生に入り外報及經濟記者として三年間在社次で大倉組に入り大倉喜八郎氏秘書及内閣部参事として商業に従事す後獨立して後藤物産會を興し護謨の貿易業を創め今日に至る明治四十三年南洋護謨會社を發起し南洋にて護謨栽培業を創め以來十九年間繼續し現に同社の常務取締役たり又我國保險代理業の嚆矢なりと云ふ讀書を好み書畫を愛す家族は尙二男周次郎(明四三、三生)三男周三郎(大元、一生)三女きよ子(同三、五生)四男周四郎(同五、六生)五男周五郎(同七、六生)四女宮子(同九、七生)あり長女ハツ(明三九、二生、九段精華高等女學校出身)は東京府人大野千畝二男に嫁せり(東京、荏原、矢口町小林二六八商店)東京、神田、美土代町三ノ二電神田二四一)

後藤 正治
 妻 正勝

君は靜岡縣人久永信齊の四男にして明治十年九月を以て生れ先代佐一郎の養子となる同三十六年東京帝國大學工科大学探検冶金科を卒業し大学院に入り同三十八年大阪高等工業學校教授に任ぜられ同四十一年探検冶金學研究の爲英米獨に留學し大正六年工學博士の學位を受け同八年東京帝國大學教授に任ぜられ現在に至る著述合金學あり家族は尙長女きん江(大八、二生)二女淑子(同一一、八生)三女晶子(同一二、九生)二男亨(明二、七生)養弟貞良(明二八、一生、現戸主)同妻いよ(同三六、一〇生、靜岡、石川類平二女)養妹文江(同三二、四生)養弟愛作(同三三、四生)養妹たか(同三七、五生)養弟和延(同三九、七生)あり養妹えつ(同三四、八生)は茨城縣人福田保に嫁せり(東京、麹町、中六番町五一電九段二九二九)

後藤 省三
 妻 とめ

君は岐阜縣人豊田勘作の養子にして明治十四年七月を以て生れ後先代庄太郎の養子となり大正二年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學法政科を卒業し同四十二年検事に任じ爾來豊田勘作同族名古屋區金澤區同地方水戸區同地方東京區同地方福岡地方同族飯塚區佐世保區大阪區各裁判所検事に歴補し大正十五年現職に轉ず家族は尙三男恒夫(同四四、一生)長女まき(大三、三生)二女幾代(同四、二生)三女ゆかり(同九、二生)あり(下關、區裁判所官舎)

後藤 新助
 妻 金藏

君は岐阜縣人横山良助の二男にして安政三年七月を以て生れ後先代新助の養子となり明治二十九年家督を相續し前名喜作を改め現に漆商を營む家族は尙孫ヒテ(大七、九生、長男金藏二女)同正夫(同一〇、七生、同三男)同泰雄(同八、四生、三女きく)長男あり長女しん(明一三、二生)は愛知縣人鈴木富二に嫁せり(名古屋、中、下日置町九電一〇八)

後藤 正太郎
 妻 小鳥屋

君は同八年故森有禮の清國全權公使として赴任するや併はれて北京に赴き在留三年語學及び毛織染色學を修め米人ハリントンに師事す歸朝後同二十五年府下大井町に工場を設けて多年の宿望たる羊毛織人工毛革等の製造を始め業況亦揚る偶々日清日露の役に際し軍需品を請負ひ巨額の利を得し當家の基礎定まる大正七年營業を株式組織に改め後藤毛織會社と稱し是が社長として今日に至る家族は尙孫貞貞(大八、二生、長男)續長男(同逸子)同五、一生、同長女(同恕子)同八、九生(同二女)あり二男廣志(明二四、九生)三男持三(同二九、六生)四男又男(同三一、二生)は各分家し二女ツム(同二六、四生、東京女學館出身)は子爵橋本長後に三女藤枝(同二七、一〇生、出身校同上)は東京府人高羽憲次に嫁せり(東京市外大井町三五四五電高橋二二〇四)

後藤 信治
 妻 勝造

君は兵庫縣人後藤勝造の孫にして同鐵二郎の甥なり明治十五年五月を以て生れ同十四年分家して一家を創立す現に前記諸會社の重役として知らる家族は尙二女マサ(大三、二生)三女ソフ(同四、九生)四女アイ(同

後藤 新平
 妻 貴族院議員

君は同八年故森有禮の清國全權公使として赴任するや併はれて北京に赴き在留三年語學及び毛織染色學を修め米人ハリントンに師事す歸朝後同二十五年府下大井町に工場を設けて多年の宿望たる羊毛織人工毛革等の製造を始め業況亦揚る偶々日清日露の役に際し軍需品を請負ひ巨額の利を得し當家の基礎定まる大正七年營業を株式組織に改め後藤毛織會社と稱し是が社長として今日に至る家族は尙孫貞貞(大八、二生、長男)續長男(同逸子)同五、一生、同長女(同恕子)同八、九生(同二女)あり二男廣志(明二四、九生)三男持三(同二九、六生)四男又男(同三一、二生)は各分家し二女ツム(同二六、四生、東京女學館出身)は子爵橋本長後に三女藤枝(同二七、一〇生、出身校同上)は東京府人高羽憲次に嫁せり(東京市外大井町三五四五電高橋二二〇四)

京帝國大學法科大學法律科を卒業し大正元年文官高等試験に合格す同年陸軍三等主計鐵道局副參事等に任ぜられ同年英米に留學を命ぜらるる同年鐵道局參事に進み同十三年鐵道書記官となり現に鐵道局計課長たり家族は向二男徹(大、一〇、二生)あり(東京市外濠野川町田端西臺通六三三電小石川二〇〇三)

後藤鐵二郎 後藤デシ、みかどホテル各株社長、兵庫縣在籍

妻 勝 一 大八、一五、大阪、十妻彦一繼母
孫 理 江 明二六、三三、亡長男寬長男
女 鈴 子 明四四、一五、亡長男寬妻、奈良、
女 和 世 大、二、八、生

君は兵庫縣土族成瀬源一郎の弟にして後藤信治の叔父なり明治元年十月を以て生れ後ち先代勝彦の養子となり大正四年家督を相続す現時前記各會社の社長たり家族は向四女泰子(大、四、八、生)五女尚子(同、五、一、二、生)三男泰助(同、六、一、二、生)六女道子(同、八、五、一、生)四男尚平(同、一、一、一、生)孫昌子(同、九、三、三、亡長男寬長女)同曲子(同、一、三、五、生、同、三、女)あり二女直子(同、九、九、生)は大阪府人松田卯之松の養子となり庶子よし子(明、三、九、八、生、生母、東京、藤澤カヅ)は同府人田田英に養妹勝子(同、三、五、九、生、茨城、櫻村末吉孫)は長野縣人矢島武に同治子(同、三、六、一、一、生、同上孫)は同縣人長坂朝夫に嫁せり(神戸、中山手通七ノ六八電元町三四四五)

後藤傳五郎 京都府多額納稅者、京都工務所、土木建築請負業、京都府在籍

妻 一 明一六、一五、京都、淺田政三長女
男 富美子 明四三、九、生

君は岡山縣人後藤澤太郎の弟にして明治四年三月を以て生れ同三十四年淺田の夫となり大正四年家督を相続す現に土木建築請負業を營み京都府多額納稅者たり(京都、上京、丸太町通猪熊西入臺屋町五三六電西陣三三四)

後藤徳太郎 第一相互貯蓄銀行(株)常務取締役、岡山縣土族

妻 金 郎 明二、三、生、長女君代夫、岡山、
養子 潤 五 明二、八、三、生、養子潤五妻
女 君 代 明二、八、三、生、養子潤五妻

君は岡山縣土族後藤貞三の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治十二年家督を相続す同三十二年關西大學を卒業し同三十五年第一生命保險相互會社創立時代より入りて會計課長となり大正十一年第一相互貯蓄銀行設立するや入りて専務取締役となり現時同行常務取締役たり家族は向孫信子(大、四、四、生、養子潤五長女)同光子(同、六、一、二、生、同、二、女)同正夫(同、九、四、生、同、長男)あり二女静枝(明、三、一、三、生)は東京府人安部勇藏に妹岩(同、三、二、生)は岡山縣人服部勘六郎長男李三郎に嫁せり(神奈川、鎌倉、鎌倉町)

後藤富太郎 名古屋新市街(株)取締役、名古屋

妻 一 明一四、八、生、愛知、大橋かき女
女 しのぶ 明三九、一、生

君は愛知縣土族後藤三郎の長男にして明治八年九月を以て生れ同十五年家督を相続す現時名古屋株式取引所短期取引員にして傍ら名古屋新市街會社の取締役たり家族は向庶子典男(大、四、七、生、生母、愛知、澤田しやう)同宗示(同、一、〇、二、生、生母同上)あり母しやう(安政四、七、生、亡祖父新六長女)は分家し弟第十郎(明、一、二、四、生)も亦同妻(わ)同(一、七、一、一、生)及其一子(二、四、生)を伴ひ分家し庶子春枝(大、八、一、一、生、生母、愛知、澤田しやう)は其の生母の養子となり(名古屋、東、久屋町三ノ九電東三二八一)

後藤豊三郎 後藤木材店(資)代表社員、大分縣在籍

妻 一 慶應二、二、生、大分、桑野庄治長女
男 昇 平 大、五、一、〇、生

君は大分縣人後藤彦作の四男にして明治二十四年八月を以て生れ後先代豊三郎の養子となり大正十四年家督を相続し現に前名成一を改む後藤木材店を經營し其代表社員たり家族は向長女ヤス子(大、三、三、生)二女

後藤房吉 大和製紙(株)取締役、神奈川縣土族

妻 一 明三二、一、一、生、三重、後藤友之
男 有 輝 大、六、六、生

君は東京府人岡野伴之助の四男にして明治二十五年四月を以て生れ先代房吉の養子となり大正四年家督を相続し現に前名四郎を改め現に同二年早稲田大學商科を卒業し現に大和製紙社重役たり會社山崎商店監査役に就任せり家族は向二男雄雄(大、七、一、一、生)三男博隆(同、一、〇、九、生)四男隆治(同、二、二、生)養妹美智子(明、三、九、七、生、縣立神奈川高等女學校出身)あり(横濱、神奈川、青木町七九電本局四五六)

後藤文夫 從四位勳三等、臺灣總督府總務長官、大分縣土族

妻 一 明二五、八、生、子爵加納久朗妹
男 正 夫 大、二、六、生

君は大分縣土族後藤義知の五男にして明治十七年三月を以て生れ同二十五年家督を相続す同四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同四年高等試験に合格し爾來内務省參事官に任ぜられ現に同府總務長官内務書記官兼内務省參事官等に歴任し大正六年休職後歐米に出張し歐米時地方狀況調査を囑託せられ同八年再び内務省參事官に任ぜられ同九年内務大臣秘書官を兼任し同十年特殊財産管理局事務官を兼任し同十一年内務省警保局長となり同十二年社會局參與を仰付らるる同十三年臺灣總督府參事官に轉じ現に同府總務長官たり家族は向二男米夫(大、四、九、生)長女親子(同、六、三、生)二女保子(同、一、一、二、生)三女紀久子(同、一、三、二、生)あり弟義夫(明、二、四、四、生)は大分縣人立川求の養子となり(臺北、石防町二官舎)

後藤保彌太 從四位、伯爵、東京府華族

妻 一 明三、一、二、生、東京、若山鉉吉養子
男 省 三 大、一、二、九、生

當家は後藤又兵衛基次の後にして世々高知藩士として

スマ(同九、一、生)三男豊次(同、一、三、一、〇、生)三男照男(昭二、一、生)あり(大分、日田、日田町)

後藤尚五郎 岩手銀行(株)取締役、醫師、岩手縣土族

妻 一 嘉永三、一、一、生
父 祐 之 嘉永三、一、一、生
妻 一 明一三、一、一、生、岩手、土、山邊英太郎姉

君は岩手縣土族後藤祐之の長男にして明治七年十一月を以て生れ大正十四年家督を相続す明治三十一年東北帝國大學醫學專門部を卒業し醫師たる傍ら前記岩手銀行取締役たり家族は向二男尚武(大、五、一、生)あり(盛岡、仁王小路三四電一四八)

後藤仁兵衛 百五銀行(株)監査役、三重縣在籍

妻 一 慶應元、四、生、三重、土、原忠則
男 又 四郎 明三三、九、生
男 寛 明四〇、七、生
女 ふ さ 明四二、八、生

君は三重縣人先代仁兵衛の長男にして明治八年十一月を以て生れ同三十六年家督を相続し前名又次郎を改め現に時百五銀行監査役たり家族は向四女うら(大、七、一、生)あり長女ふみ(明、三、六、七、生)は三重縣人小島幾太郎に嫁せり(津、福樂町)

後藤 三越呉服店(株)本部調査課長、京都府在籍

妻 一 明三二、六、生、大分、加藤常治郎
女 あや子 明四一、一、生

君は京都府人後藤卯三郎の長男にして明治十六年二月を以て生る現時三越呉服店本部調査課長たり家族は向

先々代象次郎に至る象次郎に尊王の大義を唱へ藩の老職に擧げられ將軍慶喜に謁して大政奉還を勸説し維新の大業を翼賛す明治政府成るに及び參與に任じ參議院設立の建白をなし同二十一年大岡團圓を唱へ選ばれて領袖となる後選信大臣農商務大臣等に歴任し明治十七年華族に列し伯爵を授けらるる君は象次郎の嫡孫にして先代象次郎の長男なり明治二十九年五月を以て生れ大正二年家督を相続し現に時三越呉服店を出で米國に留學しプリンストン大學に學ぶ姉節節(同、一、八、一、生)は東京府人三輪龍揚に妹ナヲ(同、二、七、五、生)は兵庫縣人伊勢重に伯母苗(安政四、一、一、生)は男爵岩崎小彌太先代彌之助に叔母延子(明、三、〇、三、生)は男爵長與立吉先代稱吉に同五十子(同、二、〇、一、〇、生)は佐賀縣土族成富儀平二男公三郎に嫁し弟良輔(同、三、一、一、生)同三郎(同、三、一、二、生)叔父六彌(同、七、七、生)は各分家し弟紫郎(大、二、二、生)は高知縣人川添友平二男清磨の養子となり(東京市外日黒町下目黒八〇四)

後藤鋪太郎 千葉縣多額納稅者、農業、千葉縣在籍

妻 一 明一六、一、一、生、千葉、西山寅之助長女
男 晋一郎 明二二、九、生

君は千葉縣人後藤七郎兵衛の長男にして慶應元年五月を以て生れ明治三十七年家督を相続す現に千葉縣多額納稅者たり家族は向三女知恵子(大、四、八、生)孫七郎兵衛(同、八、一、生、長男晋一郎長男)同久良子(同、二、三、生、同、長女)あり長女セキ(明、二、八、七、生)は千葉縣人林左衛門に嫁し二男武男(大、元、一、〇、生)は分家せり(千葉、東葛飾、富勢村)

後藤 從三位勳三等、東京高等師範學校名譽教授、東京府在籍

妻 一 安政六、五、生、東京、土、西貞吉
孫 一 雄 大、二、九、生、亡二男慶二長男

君は三河の醫者後藤慶隆の長男にして嘉永六年十月を

二男欣一(大、六、八、生)三男勳一(同、八、一、〇、生)四女都(同、二、一、二、生)あり養姉ハツ(明、一、三、三、生)は京都府土族阿部忠雄に嫁せり(東京、麹町、元岡町二ノ一三)

後藤 後藤毛織(株)専務取締役、東京府在籍

妻 喜美 明三〇、七、生、東京、秋田太吉長女
男 大八郎 大、八、一、生

君は東京府人後藤惣作の二男にして明治二十四年九月を以て生れ同四十五年分家して一家を創立す現に慶應義塾に學び後獨逸に航し在留二年カーペットプラシム其他特に立毛類の技術を習得し歸朝後同事業を開始す本邦に於てカーペット市場を經營し其專務取締役として知らるる家族は向二男喜興(大、九、一、〇、生)三男惣三(同、一、五、三、生)あり(東京市外大井町四一〇電大森四二三)

後藤富賀美 漢口日本商工會議所會頭、日清汽船(株)漢口支店長、徳島縣土族

父 萬 藏 安政元、九、生、現戶主
母 キヤウ 嘉永六、五、生、徳島、高松又五郎長女
妻 とめ 明二四、四、生、千葉、佐々木貞庵
男 宏 平 大、六、二、生
女 雅子 大、元、一、〇、生

君は徳島縣土族後藤萬藏の二男にして明治十八年三月を以て生る同三十九年東亞同文書院を卒業し大阪商船會社に入社同四十年轉じて日清汽船會社に入り上海在勤を命ぜられ大正六年助役となり同八年漢口支店長に轉じ現在に至る又推されて漢口日本商工會議所會頭となる家族は向三女恒(大、四、三、生)四女克子(同、七、一、一、生)二男戒三(同、一、三、一、生)あり長女富美代(明、四、一、三、生)は徳島縣人増父竹三郎に姉ツキ(同、一、六、二、生)は同縣人岡本政太郎長男喜藏に嫁し叔父柳次郎(安政六、一、二、生)は同縣人西谷イワの夫となり(支那、漢口日清汽船會社支店)

以て生るるに慶應義塾に學び同年東京師範學校教員となり...

後藤 増平

後藤家は先々代増平によりて興る増平若年よく獨立して...

後藤 松太郎

君は静岡縣人後藤嘉十郎の長男にして明治十二年四月...

後藤 義三

君は東京府人後藤義三郎の三男にして明治二十三年七月...

後藤 利兵衛

君は愛知縣土岐下久兵衛の三男にして明治十一年七月...

後藤 和佐二

君は長野縣人水品安吉の二男にして明治十三年八月を...

後藤 元治

君は大分縣人後藤元治の三男にして明治十五年五月を...

後藤 元之助

君は岐阜縣人後藤元治の二男にして慶應三年六月を...

後藤 安太郎

君は静岡縣人後藤嘉十郎の長男にして明治五年四月を...

後藤 幸三

君は宮崎縣人後藤嘉十郎の長男にして明治二十五年六月...

後藤 康太郎

君は宮崎縣人後藤嘉十郎の長男にして明治二十五年六月...

後藤 幸正

君は静岡縣人後藤嘉十郎の長男にして明治五年四月を...

後藤 源次郎

君は長崎縣人肥塚源次郎の四男にして同源次郎の弟なり...

肥塚 源次郎

君は長崎縣人肥塚源次郎の四男にして同源次郎の弟なり...

肥塚 慶之助

君は東京府人河野傳次郎の三男にして明治十年一月を...

肥塚 隆之助

君は東京府人河野傳次郎の三男にして明治十年一月を...

肥塚 隆之助

君は東京府人河野傳次郎の三男にして明治十年一月を...

肥塚 隆之助

君は東京府人河野傳次郎の三男にして明治十年一月を...

肥塚 隆之助

君は東京府人河野傳次郎の三男にして明治十年一月を...

肥塚 隆之助

君は東京府人河野傳次郎の三男にして明治十年一月を...

肥塚 隆之助

君は東京府人河野傳次郎の三男にして明治十年一月を...

上坂 熊勝 正四位勳三等、岡山醫科大學教授
岡山縣在籍
妻 尚 長女 明一四、七生、岡山、難波庸太郎
女 眞 明四〇、八生
女 民子 明四三、二生

上月安重郎

君は石川縣土族織田幸民の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治二十年先代フサの死跡を相続す凡に醫學を修め同三十四年醫學博士の學位を受け大正二年學士院恩賜賞を授けらる現時岡山醫科大學教授の職にあり長女外譽(明三五、一生)は岡山縣人安井謙之助に嫁せり(岡山市二番町一八)

上坂興三吉

新庄製紙(株)取締役
福井縣在籍
妻 はな 明八、二生、福井、田中孫兵衛
男 忠七郎 明三〇、二生、現戸主
婦 ひさ 明三八、二生、長男忠七郎妻、福井、永宮幾孝長女
男 恒三 明三四、一生
女 ヌイ 明四四、一生

上月安重郎

兵庫縣多額納稅者、大志銀行(株)頭取、東播合同銀行、西脇商業銀行各(株)取締役、日出紡織(株)監査役、兵庫縣在籍

妻 かの 明五、一生、兵庫、石田藤治郎長女
男 章三 明二五、九生
婦 けい 明三二、五生、長男章三妻、兵庫、藤田敏吉二女
男 準二 明三二、四生、早稻田大學政治經濟科出身
婦 綾子 明三八、七生、二男準二妻、兵庫、高瀬藤次郎二女
女 ふさ 明三九、八生
男 貞 明四一、三生

上妻博

君は兵庫縣人先代安重郎の二男にして明治三年十一月を以て生れ同三十三年家督を相続し前名勇之助を改め製名す凡に實業界に入り現時大志銀行頭取たる外前記各銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は男五男三女(明四四、五生)孫清逸(大一一、二生)長男章三(明四四、五生)同文雄(同一四、二生)同初子昭二、七生、同長女同重雄(大一一、二生)二男準二(長男)あり長女よしを明二七、九生)は兵庫縣人鷲尾友之助に二女せり(同三〇、三生)は同縣人織田直澄に妹のふに(同一四、四生)は其養子となり弟孝之介(同六、七生)は同妻まさ(同九、六生)兵庫、小西池仁左衛門三女)及其四子と共に分家せり(兵庫、多可、黒田庄村)
參照 織田直澄、藤田敏吉、武岡豐太の項

上郎清助

貴族院議員、神奈川縣多額納稅者、横濱商工會議所議員、上信銀行(株)頭取、東神冷製米(株)代表取締役、横濱市街自動車、横濱製藥工業、大安全生命保險各(株)取締役、千代田機械製靴(株)監査役、神奈川縣在籍
妻 ヤチ 明七、二生、養父幸八長女
男 幸 明三四、一生
男 清 明三六、一生

甲賀卯吉

保熱板製造(株)社長、林汽船(株)取締役、兵庫縣土族
妻 徳 明一七、九生、澁賀宮脇三長女

君は舊攝州三田藩士甲賀政之進の長男にして萬延元年一月を以て生れ明治元年家督を相続す同六年工部省電信技手に任ぜられ同十二年之を辭し北海道に於て漁業に従事す同十七年大阪鐵工所に入り後榮進して同所總支配人となり専ら之を經營す大正二年同所の株式組織に變更さるや監査役となりしが同十一年之を辭し現時保熱板製造會社社長の外前記會社の重役たり家族は尙姉ふじ(安政四、一生)神戸女學院出身、南高輪幼稚園園長あり(兵庫、武庫、本山村田中二〇一電御影一)

甲賀英逸

靜岡縣多額納稅者、東海遠洋漁業(株)取締役、靜岡商業銀行、燒津水産銀行各(株)監査役、農務
靜岡縣在籍
妻 てつ 明一三、一生、靜岡、菊川徳藏
男 英 明四二、二生
女 綾子 明四二、二生

甲賀菊太郎

靜岡商工會議所副頭、靜岡商業銀行(株)頭取、靜岡貯蓄銀行、靜岡瓦斯、靜岡電氣鐵道各(株)取締役、東海遠洋漁業(株)監査役、靜岡縣在籍
妻 みね 明一四、一生、岐阜、谷九太夫二
女 百合子 明三五、九生

君は舊攝州三田藩士甲賀政之進の長男にして萬延元年一月を以て生れ明治元年家督を相続す同六年工部省電信技手に任ぜられ同十二年之を辭し北海道に於て漁業に従事す同十七年大阪鐵工所に入り後榮進して同所總支配人となり専ら之を經營す大正二年同所の株式組織に變更さるや監査役となりしが同十一年之を辭し現時保熱板製造會社社長の外前記會社の重役たり家族は尙姉ふじ(安政四、一生)神戸女學院出身、南高輪幼稚園園長あり(兵庫、武庫、本山村田中二〇一電御影一)

甲木長太郎

福岡縣多額納稅者、履物商
福岡縣在籍
妻 ハツ 明一〇、九生、福岡、石橋龜太郎
女 長女

甲田俊三

大阪機械工作所(株)設計課長
大阪府在籍
妻 下枝 明三九、五生、大阪、林利平長女
女 文久元、九生、大阪、山本藤兵衛
妻 壽美子 明三一、九生、岸和田高等女學校出身
君は大阪府人甲田恒太郎の三男にして明治二十三年三月を以て生れ大正十五年家督を相続す同六年帝國大學工科學機械學科を卒業し直に日本兵機製造會社に入り工場長次席たり同九年同社の大阪機械工作所と改稱さるや其設計課長に擧げらる家族は尙長女佐和子(大一一、五生)二女芳子(同一三、四生)あり弟秀夫(明二九、二生)は分家せり(大阪、此花、玉川町二ノ八六電土佐堀二八九)

甲能順

共済生命保險(株)取締役、第三十銀行(株)監査役、明治大學理事
東京府在籍
妻 常世 明四〇、二生、大分、深熊哲吉長女、福岡高等女學校出身
男 鶴子 明三〇、一生
女 明三〇、一生
君は東京府人甲能龍平の長男にして文久元年五月を以て生れ明治十年家督を相続す同十二年明治法律學校を卒業し現に共済生命保險會社取締役第三十六銀行監査役明治大學理事及び大分縣教育會監事たり家族は尙

三女龍子(大五、五生)四女多喜子(同九、一〇生)孫静子(同一、一生)亡養子勇長女(同澄子)同澄子(同一二、六生)同二女同英子(昭二、一生)同三女あり(東京、小石川、久堅町三七電小石川七七)

向後積善

千葉縣多額納稅者、農務
千葉縣在籍
妻 けい 安政元、六生、千葉、片岡佐右衛門二女
男 新一 明三三、六生
婦 かね 明三三、六生、亡長男宣緒妻、千葉縣人向後七兵衛の長男にして明治八年五月を以て生れ同二十八年家督を相続す農務を營み現に千葉縣多額納稅者たり家族は尙三男和雄(明四四、一〇生)四男彰(大三、七生)五男茂(同一〇、六生)あり妹きた(明一五、一生)は千葉縣人谷本嘉左衛門長男善四郎に同じ(同一七、一〇生)は前記竹蓋屋六長男源治の養子とされり(千葉、香取、東城村)

向後雅雄

千葉縣多額納稅者、農務
千葉縣在籍
妻 衛平 明二九、四生、父昇三男
婦 てる 明二九、四生、養子衛平妻、千葉、柴田菊治郎長女
養子 省三 明三八、一生、養子喜代夫、千葉、増田耕作弟
養子 喜代 明三七、一〇生、養子省三妻、千葉、川邊精司三女
君は千葉縣人向後昇の長男にして明治三年八月を以て生れ同二十二年家督を相続す農務を業とし千葉縣多額納稅者たり家族は尙孫茂夫(大四、一〇生)養子衛平長男(明一三、九生)あり同みき(同一九、二生)は千葉縣人宮本朋雄に同みよ(同一七、四生)は同縣人勝又増之助長男茂に嫁し弟精司(同一〇、三生)は同縣人川邊莊助の養子となれり(千葉、香取、神代村)
參照 宮本朋雄の項

幸喜令徳

神奈川縣多額納稅者、農務
神奈川縣土族

永昌 明三、六生、沖繩縣多額納稅者
マウシ 明三六、六生
庶子 シズ カメ 明三九、五生、生母、沖繩、仲本

幸島基太郎

母 マチ 安政三、一一生、栃木、吉澤淺太
妻 キク 明一三、一一生、栃木、永倉彌平
男 淳一 明四〇、九生
女 富美 明四三、六生

君は栃木縣人幸島孝平の長男にして明治七年三月を以て生れ同三十八年家督を相続す金融業を営み縣下の多額納稅者たり...

幸田 寅治

母 タン 明一三、二生、新潟、渡邊榮藏長女
妻 ミツ 明三三、二生
男 甲 明四一、一〇生
女 乙 明四一、一〇生

君は新潟縣人幸田寅治の長男にして明治三年十一月を以て生れ同三十二年家督を相続し前名啓次を改め署名す米穀商を営み現時前記銀行の重役にして新潟縣多額納稅者たり...

治長男聰治に嫁し弟慶三郎(同一三、二生)同妻イシ(同一九、一一生、新潟、石田二平治長女)は分家し五女カウ(同三八、七生)七女ケイ(同四四、三生)は共に其養子となれり(新潟、西蒲原、吉田町)

幸田 成行

母 文 明三七、九生、女子學院出身
妻 八代 明二、二生、長野、兒玉秀八郎四女
女 文 明三七、九生、女子學院出身

君は舊幕臣幸田成延の三男にして慶應三年七月を以て生れ明治二十四年兄成方より分れて一家を創立す夙に著述の事に従ひ露伴と號し「五重塔」「空うづ波」其他多くの傑作を出して故尾崎紅葉と共に明治文壇の双璧と稱せらるる同四十四年文學博士の學位を受け昭和二年帝國學士院會員に擧げらるる近時史劇「平將門」を上梓す又支那劇文學の造詣深く義に京都帝國大學文學科大學講師を囑託せられし事あり趣味廣く釣魚及將棋は其最なるものにして尙建築に於て一家を成す音楽家幸田延子安藤勝一郎氏夫人幸田幸二史は其令妹に當り往年千鳥列島の探検に其勇名を馳せたる故郡司成忠大尉は其令弟なり(東京、小石川、表町七九電小石川二〇三六)

泉田 美稻

母 キヤウ 明一三、二生、大阪、上田エイ養子
妻 莊太郎 明三四、六生
女 登代 明三六、一〇生

君は大阪府人泉田美稻の長男にして明治八年四月を以て生れ大正五年家督を相続す夙に器骨重頼を商ひ又石炭卸商を初めしが大正四年に至り是等を廢業し現に濱崎商店取締役たり家族は尙二男五一郎(四五、一一生)三女翠(同六、二生)四女幸(同八、一一生)あり長女良(明三三、五生)は大阪府人岩井松之助に嫁せり(大阪、北、眞砂町二七電北三四六八)

香西紀一郎

母 眞都 明五、四生、岡山、小橋忠明長女
妻 眞都 明五、四生、岡山、小橋忠明長女
女 眞都 明五、四生、岡山、小橋忠明長女

君は兵庫縣人香西紀一郎の長男にして大正九年十月を以て生れ同十二年先代祖父敬一の後を襲ひ家督を相続す金融業を営む(神戸、荒田町三二〇七電本局二〇五二)

香西藤太郎

母 達江 明一四、七生、岡山、間野嘉次郎
妻 ムツ 明三九、一一生
女 フミ 明四三、三生
女 ヌイ 明四五、二生

君は岡山縣人香西晉の叔父にして明治十一年二月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す縣下の豪商にして現に同縣多額納稅者たり義に岡山縣參事會員に選ばる(岡山、淺口、玉島町)

香坂伊右衛門

母 伊兵衛 明二五、六生
妻 伊兵衛 明二九、一一生、長男伊兵衛妻、山形、芳賀長内長女
女 たつ 明二二、六生
女 つる 明三五、九生
女 さた 明四一、九生

君は山形縣人木村藤右衛門の弟にして慶應元年十月を以て生れ明治二十九年先代伊右衛門の養子となり家督を相続し前名清三郎を改め署名す現時米澤興業銀行取締役たり家族は尙孫秀子(大七、一一生、長男伊兵衛長女)同一郎(同九、一〇生、同長男)同清同一二、三生、同二男)同澄子(同四、七生、同二女)あり養父伊右衛門(天保一三、四生、山形、中村與右衛門二男)は養母とら(同一三、一〇生、山形、香坂茂兵衛二女)と共に養母與吉(明七、九生)同妻し(同一〇、一〇生、山形、土、村山孝右衛門長女)及養妹し(同一〇、一〇生)同夫幸吉(同四、一一生、山形、中村與兵衛四男)を伴ひ分家し二女せい(同二七、一一生)は山形縣人芳賀長内長男芳藏に三女ま(同三二、一一生)は東京府人川邊長之助に嫁せり(米澤、桐町三三五六八)

香宗我部

母 マサ 明一八、一一生、福岡、服部文助
妻 マサ 明一八、一一生、福岡、服部文助
女 明四三、七生

君は東京府士族香宗我部展親の四男にして明治十五年

十月を以て生る同四十一年京都帝國大學醫學科大學を卒業し大正八年英米獨に留學し同十年北海道帝國大學學部教授に任じ同教授に進み今日に至る同十二年醫學博士の學位を受く家族は尙二男修(明四五、三生)三男節(大三、八生)四男守(同六、七生)の外兄孫(明四、一一生)同妻さん(同一〇、三生、滋賀、三上秀雄妹)同分、飯塚學也(同七、一一生)亡兄黃金妻シカ(同一六、七生、大分、飯塚學也)及同長男安(大六、二生、現戸主)を初め二男三女あり(札幌、南四條西一六一三〇六)

香月錠之助

母 品 明一五、七生、山住嘉助二女
妻 品 明一五、七生、山住嘉助二女
女 トシエ 明三六、二生
女 文子 明四一、一一生

君は東京府士族富澤熊次郎の弟にして慶應三年十二月を以て生れ先代一誠の養子となり明治三十一年家督を相続す夙に大阪商船會社に入り内航部船務部長同副部長となり現時大阪商船會社社長たる外前記會社の重役たり家族は尙孫義雄(大五、一一生、一男忠雄長男)あり三男孝之助(明三八、九生)は長崎縣人山田一誠の養子となり養子チヨ(同二三、一〇生、長崎、土、鹽谷富太郎三女)は石川縣士族族父順次に嫁せり(大阪、住吉、住吉町二七一ノ二電戎五六五八)

香村英太郎

母 さき 長女
妻 テイ 明二一、二生、大阪、志茂威三郎
男 昇二郎 明四二、四生
女 ひろ 明四四、二生

君は兵庫縣人香村文之助の長男にして明治十一年七月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十一年大阪高等商業學校を卒業し實業界に入り小樽市町内に於て米穀肥料魚油商を営み尙前記會社の取締役たり家族は尙三男文雄(大二、一一生)二女(同三、五生)三女サダ(同六、四生)四男英夫(同八、四生)四女八重(同

九、一一生)五女千恵子(同一三、一一生)六女登代昭元、二生)あり弟信二(明三二、一一生)は同妻安藝子同三三、三生、鹿兒島、川村宗吉妹)及其一子を伴ひ分家し妹テイ(同一五、二生)は大阪府人喜多又藏に同か(同一九、一一生)は兵庫縣士族田邊壯吉に嫁せり(小樽、富岡町一ノ二七電二一、兵庫、武庫、御影町郡家大蔵電御影一八二七)

香村 小録

母 春 明四二、三生、跡見女學校出身
妻 春 明四二、三生、跡見女學校出身
女 霞 明四二、三生、跡見女學校出身

君は石川縣士族香村金六の長男にして慶應二年十月を以て生れ明治四年家督を相続す同二十五年帝國大學工學科大學探險冶金科を卒業し工學博士の學位を授與され現に釜石鐵山會社常務取締役たり二女美穂(明三一、一〇生)は石川縣士族林正次二男千秋に四女(同三八、九生)は京都府士族鈴木文夫に嫁せり(東京、本郷、駒込淺草町六三電小石川七〇六)

香山 初次

母 佐平 安政二、五生、現戸主
妻 佐平 安政二、五生、現戸主
女 元治元、二生、兵庫、川端久七

君は兵庫縣人香山佐平の長男にして明治十七年十月を以て生る現時鹿谷金礦會社取締役たり家族は尙長女まき(大三、一〇生)二女吉子(同八、四生)三女福子(同一〇、一〇生)三男公平(同一三、四生)三男太平(昭二、七生)弟勇治(明三二、九生)あり同京次(同一九、七生)は兵庫縣人松岡木藏に同妻(同二六、三生)は同縣人清水政治に各養子となり妹かめ(同二二、八生)は同縣人大杉信次に同妻(同二四、二生)は同縣人百濟惠鶴に同妻(同三七、七生)は同縣人福岡義雄に嫁し弟正次(同二九、一〇生)は分家せり(兵庫、飾磨、鹿谷村)

洪 純一

母 佐平 明四四、五生
妻 佐平 明四四、五生
女 明四四、五生

恒太郎 安政三、六生、現戸主
母 スカ 安政五、五生、佐賀、土川原信敏妹
妻 しづ 明二三、九生、東京、川上昌保長女
女 悦郎 大三、三生

紅野善三郎

母 政次 明一八、一一生
妻 政次 明一八、一一生
女 明四一、六生、長男政次長男

君は大阪府人新村新五郎の四男にして安政五年四月を以て生れ後西宮市の素封家紅野平左衛門の養子となり明治二十九年分家して一家を創立す本家當主紅野平左衛門同太郎の養兄に當る酒造業を営み銘酒花紅を醸造し併せて醬油を醸造販賣し尙現時西宮銀行取締役を兼ね兵庫縣多額納稅者たり長女ひさ(明一五、一〇生)は大阪府人香野一太郎に二女文(同二四、五生、御影高等女學校出身)は同府人森與三郎長男與一郎に嫁し二男篤(同二一、一一生)は同府人中尾かつの養子となり四女惠美(同二八、三生、御影高等女學校出身)は同夫甚藏(同二七、三生、大阪、山本伊三郎弟)と共に其一子を伴ひ分家し三男善四郎(同三〇、五生、法學士)も亦分家せり(西宮、本町一三二電一八)

紅野 太郎

母 芳雄 明二六、四生
妻 芳雄 明二六、四生
女 明三〇、四生、長男芳雄妻、兵庫、島川小十郎二女

君は兵庫縣士族關治郎の兄にして紅野善三郎の養弟同平左衛門の養兄なり明治元年四月を以て生れ紅野平左

君は石川縣人高喜作の長男にして明治十年十月を以て生れ大正元年家督を相続す現時前記銀行會社の重役たり...

紅野平左衛門

兵庫縣多額納稅者、惠美酒銀行、日本橋酒造各(株)取締役、酒造業

君は大阪府人井上幾太郎の弟にして紅野善三郎同太郎の養弟に當り明治十年八月を以て生れ後先代平左衛門の養子となり同三十六年家督を相続し前名良太郎を改む...

紅村清之助

伊藤銀行(株)常務取締役、日本貯蓄銀行(株)取締役、愛知縣在籍

君は愛知縣人紅村常吉の弟にして明治六年九月を以て生れ同三十八年分家して一家を創立す現時前記各銀行の重役たり...

高喜久二

北陸企業銀行、北陸貯蓄銀行、能美電氣鐵道各(株)取締役

君は大阪府人高津久右衛門の三男にして同久次の弟なり明治三十九年三月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す現時京都帝國大學經濟學部に在學し資産家として知らる(大阪、住吉、天王寺町六七〇)

高津久次

日本砂糖貿易(株)監査役、大阪府在籍

君は大阪府人高津久右衛門の長男にして同久四郎の兄なり明治三十三年二月を以て生れ大正八年渡米ニューヨーク州ロレンスビル高等學校に入學後二年費府市ペンシルバニア大學高等科に入學同十四年卒業の上歸朝す現時日本砂糖貿易會社監査役たり趣味としてゴルフ、庭球登山等あり(東京市外入新井町新井宿一九二五電大森二四九六)

高津マツエ

大阪府在籍

君は大阪府人高津滿津平の長女にして明治十九年四月を以て生れ同三十二年家督を相続す大阪府中之島高等女學校を卒業し資産家として知らる家族は女セシ(大五、八生)あり妹ミ(ル)明二三、九生)は分家せり(大阪、住吉、天王寺町六七〇電大森三三〇)

高能貞次郎

東京洋傘骨原料(株)取締役、高能織物店、三象堂、高能洋傘骨店、高能ビルディング經營、東京府在籍

君は東京府人高能辰五郎の二男にして明治二十九年七月を以て生れ大正九年家督を相続す先々代住藏氏に飛脚問屋を營みしが後洋傘骨を創め同家今日の基礎を成すに至れり父辰五郎其遺志を継ぎ業務の發展を圖り外

高良宗七

山口縣多額納稅者、宇部鐵道(株)社長、宇部銀行、長門銀行、宇部鐵工所、日本製炭、宇部紡織、山口陽電氣鐵道、宇部セメント各(株)取締役、宇部、山口縣在籍

君は山口縣人國吉住藏の四男にして明治二十八年九月を以て生れ後先代吉太郎の養子となり同四十四年家督を相続す家業を継ぎ農業を營み山口縣多額納稅者たり家族は尙二男敬市(大一一、四生)三男正徳(同一四、九生)あり(宇部、小串一〇八四) 參照 高良宗七の項

高義一

穀物商、廣島縣在籍

君は德島縣人野上甚平の四男にして明治二十一年二月を以て生れ同三十四年先代重平の養子となり昭和二年家督を相続す穀物商を營み同地の資産家たり(廣島市地方町一四六)

高壯吉

正五位勳三等、工學博士、九州帝國大學教授兼製鐵所技師、工學部勳務、福岡縣在籍

君は東京府士族高於菟三の弟にして明治三年二月を以て生れ同三十八年分家して一家を創立す同三十年東京帝國大學工學部鐵道冶金科を卒業し印度南洋諸島東洲清國韓國等に差遣せられ同四十二年工學博士の學位を授け昭和二年再度歐米各國並に亞非利加に出張を命ぜらる現時九州帝國大學教授にして製鐵所技師を兼任す家族は前記の外三男秀雄(六九、一八生)あり長女みち(明三四、一〇生)は山口縣人西尾榮治に嫁せり(福岡市今泉七五)

高武公美

從五位勳六等、朝鮮總督府中樞院書記官兼朝鮮總督府事務官、福岡縣在籍

君は山口縣人高武政の長男にして明治十五年二月を以て生れ大正三年家督を相続す明治四十年早稻田大學商學部を卒業し現時伊豫米穀取引所專務理事にして松山瓦斯會社監査役を兼ねる伊豫米穀取引所支配人ととなり又松山市會議員同參事會員たりし事あり家族は尙二男實(明四四、一八生)三男大(大四、一八生)長女治子(同一〇、一八生)弟秀通(明大八、一八生)經濟學士、三重縣農工銀行副支店長(同ハルエ)同二八、五生、長時、松島金六五女)及其子女あり(松山、北八坂町電一三五)

高本秀雄

伊豫米穀取引所(株)專務理事兼支店長、松山瓦斯會社(株)監査役、愛媛縣土族

君は愛媛縣土族高本秀行の長男にして明治十五年二月を以て生れ大正三年家督を相続す明治四十年早稻田大學商學部を卒業し現時伊豫米穀取引所專務理事にして松山瓦斯會社監査役を兼ねる伊豫米穀取引所支配人ととなり又松山市會議員同參事會員たりし事あり家族は尙二男實(明四四、一八生)三男大(大四、一八生)長女治子(同一〇、一八生)弟秀通(明大八、一八生)經濟學士、三重縣農工銀行副支店長(同ハルエ)同二八、五生、長時、松島金六五女)及其子女あり(松山、北八坂町電一三五)

高良四郎

山口縣多額納稅者、農業

君は山口縣人國吉住藏の四男にして明治二十八年九月を以て生れ後先代吉太郎の養子となり同四十四年家督を相続す家業を継ぎ農業を營み山口縣多額納稅者たり家族は尙二男敬市(大一一、四生)三男正徳(同一四、九生)あり(宇部、小串一〇八四) 參照 高良宗七の項

高麗清次郎

漆器商、大阪府在籍

君は大阪府人高麗清次郎の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正四年實弟高良正義の後を襲ひ家督を相続す農業を營み高麗島縣多額納稅者にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙長女スミエ(大三、五生)養子ツギエ(同五、八生)鹿兒島、有馬照光(三三、男正純)同七、八生)二女幸子(同一〇、三三)四男純信(同一一、一八生)四女ノリ(同一五、九生)あり弟正義(同一七、一八生)は實家木原氏の家籍に入れり(鹿兒島、彌生、末吉町)

高麗清次郎

漆器商、大阪府在籍

君は大阪府人高麗清次郎の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正四年實弟高良正義の後を襲ひ家督を相続す農業を營み高麗島縣多額納稅者にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙長女スミエ(大三、五生)養子ツギエ(同五、八生)鹿兒島、有馬照光(三三、男正純)同七、八生)二女幸子(同一〇、三三)四男純信(同一一、一八生)四女ノリ(同一五、九生)あり弟正義(同一七、一八生)は實家木原氏の家籍に入れり(鹿兒島、彌生、末吉町)

高津勘太郎

神戸製麵製米(株)取締役、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人高津利右衛門の長男にして明治六年七月を以て生れ同二十八年家督を相続す現時神戸製麵製米會社取締役たり家族は尙孫芳久(大五、六生)養子來之助(長男)同壽子(同一三、一八生)同二女弟淺治(明八、七生)あり妹よう(同一、一八生)は奈良縣人福田末治郎に嫁せり(神戸、臨濱町三〇一五三電三宮四六七)

高津久右衛門

日本砂糖貿易(株)社長、大正製酒、日本住宅(株)監査役、大阪府在籍

君は大阪府人八丈彌吉の兄にして明治元年四月を以て生れ先代久右衛門の養子となり同三十八年家督を相続す大正十年三月米國を経て歐洲に遊び各地取引所を視察し爾來會員組織大阪砂糖取引所を創設し其理事長に推され現に日本砂糖貿易會社社長の外前記各會社の重役たり二男八三郎(明三七、七生)慶應義塾大學理財科出身)は實妹波多野イシの養子となり三男久四郎(同三

高麗政信

鹿兒島縣多額納稅者、岩川礦造、鹿兒島縣土族

君は山口縣人高麗政右衛門の長男にして明治五年一月を以て生れ同三十七年家督を相続す農業を營み縣下の多額納稅者にして宇部鐵道會社社長たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙四女隆子(大四、八生)あり長女ミツヲ(明二七、一八生)は山口縣人高麗清次郎に嫁せり(同二二、三三)山口、河村勇次(二女)は同縣人松永丈之進長男幸一に嫁せり(宇部、小串一八一六) 參照 高良四郎の項

高麗清次郎

漆器商、大阪府在籍

君は大阪府人高麗清次郎の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正四年實弟高良正義の後を襲ひ家督を相続す農業を營み高麗島縣多額納稅者にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙長女スミエ(大三、五生)養子ツギエ(同五、八生)鹿兒島、有馬照光(三三、男正純)同七、八生)二女幸子(同一〇、三三)四男純信(同一一、一八生)四女ノリ(同一五、九生)あり弟正義(同一七、一八生)は實家木原氏の家籍に入れり(鹿兒島、彌生、末吉町)

高麗清次郎

漆器商、大阪府在籍

君は大阪府人高麗清次郎の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正四年實弟高良正義の後を襲ひ家督を相続す農業を營み高麗島縣多額納稅者にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙長女スミエ(大三、五生)養子ツギエ(同五、八生)鹿兒島、有馬照光(三三、男正純)同七、八生)二女幸子(同一〇、三三)四男純信(同一一、一八生)四女ノリ(同一五、九生)あり弟正義(同一七、一八生)は實家木原氏の家籍に入れり(鹿兒島、彌生、末吉町)

高麗清次郎

漆器商、大阪府在籍

君は大阪府人高麗清次郎の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正四年實弟高良正義の後を襲ひ家督を相続す農業を營み高麗島縣多額納稅者にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙長女スミエ(大三、五生)養子ツギエ(同五、八生)鹿兒島、有馬照光(三三、男正純)同七、八生)二女幸子(同一〇、三三)四男純信(同一一、一八生)四女ノリ(同一五、九生)あり弟正義(同一七、一八生)は實家木原氏の家籍に入れり(鹿兒島、彌生、末吉町)

を伴ひ分家せり(岩手、二戸、福岡町)

國分勤兵衛 食料品商、三重縣在籍

妻 ちか 明一七、九生、養父勤兵衛長女
女 貞子 明四〇、七生
女 操子 明四三、三三
女 繁子 明四四、八生
女 あや子 大元、九生

國分家は往時伊勢國河内郡に仕へたる土分なりしも
後同國飯前郡和村に居を定め農を營み苗字帯刀を許
さる更に四代を経て正徳二年東京に商店を開き常陸國
土浦に醬油醸造業を開始し大國屋國分勤兵衛と號す養
父勤兵衛に至り醸造業を廢し専ら食料品の販賣に従事
し其商略機宜を得て遂に今日の大を爲せり君は三重縣
人山本伊兵衛の二男にして明治十六年一月を以て生れ
先代勤兵衛の養子となり大正十三年東京府相模と共に前
名秀次郎を改め養名を先是明治三十八年東京府高等商業
學校を卒業し十代勤兵衛として家業に従事す家族は
尙六女和子(大六、二生)あり三男新三郎(同一二、
一〇生)は三重縣人山本むめの養子となり養妹八重
(明二一、二生)は岐阜縣人渡邊甚吉に同温子(同三
直之助(同一七、七生)は分家叔父平次郎の死跡を繼ぎ養
名す(東京、日本橋、通一、一九電日本橋三七九)
參照 北川與平、國分平次郎、渡邊甚吉京松岡道治
の項

國分義助 馬淵川電氣株事務取締役

母 カク 安政五、八生、岩手、本田平七長女
妻 キヨ 明一、一〇生、岩手、下斗米與
男 義一 明三六、一〇生、長男義一妻、青森、
明四〇、一〇生、苦米地虎衛二女

君は岩手縣土族國分春松の長男にして明治九年二月を
以て生れ同二十八年家督を相続す現時馬淵川電氣會社
常務取締役たり家族は尙二男正夫(大五、一〇生)三男節

夫(同五、一〇生)四男義夫(同九、三三)の外弟義七郎
(明一九、一〇生)同妻を(同二六、六生、青森、岩岡
五郎治郎)及其子女同妻一(同六一、一〇生)同妻フ
チエ(同二〇、九生、岩手、佐藤太郎七三女)あり叔父
喜藏(安政六、九生)は同妻イノ元治元、七生、岩手、
國分奥之助養子及子女を伴ひ分家し妹キク(明一四、
七生)は岩手縣人平野龜次郎長男喜平に長女トミ(同三
一、四生)は三重縣人西村英三に二女トシ(同三三、一
一生)は東京府人榎本多喜造に嫁せり(岩手、同三、福
岡町)

國分三亥

正三位勳二等 橫濱倉庫株取締役
松學舎常任理事、東京府士族
明元、一〇生、東京、士、若松わ
か叔母
妻 峰 明三四、五生、長男輝妻、岡山、
明三四、四生、西川藤作三女

君は東京府士族國分胤之の長男にして文久三年十二月
を以て生れ明治十六年家督を相続す同年法學生徒を命
ぜられ後檢事補となり尋で檢事に任じ岡山横濱各地方
裁判所檢事甲府高知大阪各地方裁判所檢事正大阪控訴
院檢事國庫檢事總長監獄府總務府高等法院檢
事長兼司法部長官に歴任し久通宮宮務監督となり宮中
顧問官に任じ錦旗閣御付けられしが後之を罷め現
時横濱倉庫會社取締役外前記會社の重役にして二松學
舎常任理事たり家族は尙孫忍(大五、五生、長男輝長
男)同妻(昭二、一〇生)あり長女操(明二二、
一〇生)は京都府士族片山三郎に二女和(同二八、九
生)は同府人永井米藏弟工學士八郎に妹三美(同四、一
生)は東京府人能勢萬三女慶(同三三、八生)は前
記能勢萬三男男に妹茂野(同六、七生)は同府士族
及川又八郎に同領枝(同一〇、六生)は法學士辯護士松
岡辨に嫁し弟倅(同一四、七生)は岡山縣士族山本晴興
の死跡を相続せり(東京市外千駄ヶ谷町四二五電青山
六二〇)
參照 片山三郎、永井米藏の項

國分平次郎 國分商店(名)社員、醬油洋酒雜貨

檢事に任じ爾來島取區兼同地方廣島縣同地方下關區
山口地方兼同區各裁判所檢事廣島長崎各控訴院檢事熊
本地方福岡地方各裁判所檢事大阪控訴院檢事大審院判
事等に歴補し大正十五年現職水戸地方裁判所檢事正に
轉ず家族は尙三女美代子(大一一、一〇生)の外兄貞吉
(明三、九生、養父清吉養子、岡山、岡本連太郎)同
妻吉野(同一二、二生)岡山、養辰二郎三女及其子
女あり(水戸、水戸地方裁判所官舎)

國府一房 大阪毎日新聞(株)理事、大阪三品

妻 ひと 明二四、六生、大阪、士、久野幸
女 和歌子 明四三、一〇生

君は岡山縣土族國府豐の孫にして明治十五年十一月を
以て生れ同十六年家督を相続す現時大阪三品取引所取
引員にして大阪毎日新聞理事たり家族は尙養子美惠子
(大八、二生、岡山、三宅彌三郎二女)あり母秀(萬延
元、一〇生、祖父豊長)は岡山縣土族佐藤武に嫁せ
り(大阪、東、寺山町四九一電東一四八)

國府精一 住友生命保險(株)事務取締役、住

妻 春 明二一、二生、岡山、湧川幹妹
女 禮太郎 大四、一〇生

黒正太助 正五位勳四等、檢事、水戸地方裁

妻 清吉 現戸主
女 小梅 明二〇、五生、養父清吉養子、岡
山、米田新吉三女

君は岡山縣人國府代吉の長男にして明治十三年九月を
以て生れ同四十年家督を相続す同三十九年東京帝國大
學法科大學政治科を卒業し住友銀行に入り同行常務支
店及東京支店支配人本店支配人等を経て現在に至る家
族は尙二男雄次郎(大七、一〇生)二女米子(同九、二生)
三男三郎(同一二、一〇生)あり(兵庫、武庫、住吉村
觀音林一八七五ノ四六電御影四九七)

男 豐之助 明三五、九生、慶應義塾大學經濟

男 清三郎 明三六、七生、温室經營
當家の祖は補正成の家臣にして後世槍術を以て北畠家
に仕ふ尋で田畑を求めて地主となり苗字帯刀を許さる
正徳年間地を常陸國土浦町に相し醬油醸造業を創め東
京に販賣所を設け大國屋と號せり君は三重縣人國分勤
有の四男にして同勤兵衛の叔父なり明治二年七月を以
て生れ同二十九年兄平次郎の死跡を相続し前名直之助
を改む醬油洋酒雜貨問屋を營み國分商店出資社員とし
て東都新業界に其名を知らるる家族は尙三男恒夫(明四
四、八生)五女信(同一二、二生)六女元(同六、三三)
庶子敏(同一二、九生、生母、乾ら)あり長女鶴(明
三〇、七生、京都府立第一高等女學校出身)は三重縣
人竹川彦三郎に嫁せり(東京、日本橋、通一、一九電
日本橋三七九)
參照 國分勤兵衛北川與平宗渡邊甚吉の項

國分丸治

從五位勳五等、檢事、大阪控訴院
宮城縣士族
妻 ちか 明九、九生、國分高敬長女

君は宮城縣人佐々木健太郎の養子にして明治十六年四
月を以て生れ大正二年先代を承るの夫となり家督を
相続す明治三十八年日本大學を卒業し判檢事登用試験
に合格し檢事に任じ若松福島米澤横濱須賀東京札幌
大阪各裁判所檢事に歴補し大正十三年大阪控訴院檢事
に轉じ現在に至る又日本大學專門學校講師たり家族は
尙養子ミチ子(大一一、六生、宮城、小野齊次郎孫)あ
り妻叔母まつ(明一一、四生)は宮城縣人池田衛四郎
に嫁せり(大阪、天王寺、寺田町六)
參照 佐々木健太郎の項

國分靖三 津商工會議所副會頭

妻 はま 明二八、八生、三重、杉孫右衛門三女
養子 滋夫 明三一、一〇生、滋賀、佐脇清太
郎三男

君は三重縣人國分榮助の三男にして同市太郎の養兄な
り明治元年四月を以て生れ同三十六年國分市太郎方よ

越 壽三郎 長野縣多額納稅者、信濃電氣(株)

妻 泰藏 明二四、一〇生
女 まつ江 明三四、一〇生、長野、小林しん

君は長野縣人小田切新藏の三男にして元治元年四月を
以て生れ先代みのの養子となり明治十七年家督を相続
す製絲業を營み傍ら信濃電氣會社社長たる外前記會社
の重役を兼ね長野縣多額納稅者たり家族は尙養子英
之助(明四三、三三、長野、小高しん)庶子永四郎
(同四四、三三、生母、長野、越富志)あり三男榮藏(同二
七、八生)は同妻和代(同三二、五生、長野、島津崇姉)
及其子女を伴ひ分家し長女芳江(同一一、一〇生)も亦
同夫六郎(同一八、二生、長野、花岡俊夫叔父)及其子女
と共に分家し養子たけ(同三三、四生、長野、小林しん)
私生子は新潟縣人山田正一に同け(同三八、七生)
同上私生子は廣島縣人林半助弟三郎に嫁し庶子健
之助(同三〇、一〇生、生母、長野、小林しん)は同妻惠
子(同三六、九生、岩倉惠親長女)と共に長野縣人小林
吉人の養子となれり(長野、上高井、須坂町)
參照 越泰藏、花岡俊夫、林半助の項

越 泰藏 大倉製絲工場(株)事務取締役、信

妻 壽三郎 元治元、四生、現戸主
女 壽雄 明二七、五生、長野、井上勝秀妹

君は長野縣人越壽三郎の二男にして明治二十四年十一
月を以て生れる現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二
男泰雄(大五、七生)あり(長野、上高井、須坂町)
參照 越壽三郎の項

越 井醇三 富田林銀行(株)頭取、大阪鐵道、

妻 泰藏 元治元、七生、祖父庄右衛門三
女 泰藏 元治元、七生、養父庄次郎長女

君は愛媛縣人秋山儀作の二男にして明治八年五月を以
て生れ同三十九年黒正清吉の養子となる同三十五年和
佛法律學校を卒業し判檢事登用試験に合格同三十九年

越石 正直 絹織物商
 母 安政二、八生、兵庫、伊藤重右衛門長女
 妻 屋 惠 明二、四生、京都、野村幸次郎妹
 男 修 明三六、九生、長男修妻、徳島、阿部孫七長女
 女 正 明三八、九生
 男 功 明四〇、一〇生
 女 子 明四三、二生

君は兵庫縣土族越石齊の長男にして明治十一年十二月を以て生れ同二十八年家督を相続す絹織物商を営む家族は尙四男猛(大元、八生)五男凌(同三、八生)二女千鶴子(同五、九生)三女多枝子(同八、七生)孫昇(同一、五、七生、長男修妻あり)神戶、元町通二、一八六

越ヶ谷伊太郎 取引員、大阪株式取引所
 妻 サク 明一〇、九生、越ヶ谷壽太郎妹
 女 女 明四一、二生
 男 明三七、一二生

君は大阪府人奥本政次郎の三男にして明治二年九月を以て生れ先代ヤクの入夫となり同三十一年家督を相続す幼にして爲徳治郎の店員となり株式界に入出し後其援助に依りて獨立して取引員となり現在に至る傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男佳郎(大元、一〇生)あり

越野 嘉藏 中外爲替(株)取締役、東洋リノリ
 母 安政元、二生、大阪、藤田彌兵衛長女
 妻 ヨネ 明二〇、一一生、大阪、濱田治兵衛伯母
 男 健一 明四五、二生
 女 嘉子 明四二、七生

君は大阪府人越野嘉助の長男にして明治十四年十二月を以て生れ大正六年家督を相続す同三十七年大阪高等商業學校を卒業し實業界に入り現時前記會社の重役たり曾て室木製業會社取締役たりし事あり家族は尙妹ナカ(明二六、一〇生)同夫定徳(同二〇、五生、大阪、曾根三郎弟)との間に二男三女あり弟三藏(同二二、一〇生)養兄卯吉(同一二、二生)は各分家せり(大

越川百一郎 北海道多額納税者、日の出、金融
 妻 マキ 明九、三生、北海道、土、松崎半五郎妹
 養子 喜久馬 明三九、二生、北海道、土、松崎半五郎三男

君は北海道土族越川仙造の長男にして慶應二年六月を以て生れ明治二十七年家督を相続す日の出と號し金融並に雜貨商を營み北海道多額納税者にして兼に旭川商業會議所常議員たり妹ソヨ(明一一、一一生)は東京府人星野壽美に同シマ(同一七、六生)は北海道人木村長談養子正之助に嫁せり(旭川、宮下通八)

越田五一郎 大坂府在籍
 妻 泰一 明四四、四生

君は石川縣人越田仁三郎の長男にして明治二十年九月を以て生れ先代五兵衛の養子となり同三十二年家督を相続す誠商を營む家族は尙二男康治郎(大元、六生)あり(大阪、東、瓦町四、一四電本局二〇六八)

越部淺五郎 帝國種畜殖産(株)社長、越部相互
 妻 明一五、一一生、東京、越部留吉三女
 養子 百四三 明二八、三生、長女鐵夫、埼玉、新井三郎三男、早稲田實業學校出身
 女 明三三、一一生、養子百四三妻、東洋高等女學校出身

當家は東京府下瀧野川町に於ける最舊家にして同族親戚三十九名に達す君は先代淺五郎の長男にして明治九年五月を以て生れ同三十八年家督を相続し幼名半三郎を改む同年所得調査委員に當選し尋で町會議員郡會議員同副議長同町名譽助役學務委員長等に擧げられ大正六年町長に就任し同十一年滿期勇退す其間町政に貢獻せる處多く功に依り紺綬褒賞を授けらる現時前記の職に在り又觀世流謡曲を學ぶ家族は尙孫平八郎(大元、一五、六生、養子百四三長男)及亡弟金之助の二男一女あり姉かね(慶應元、二生)は東京府人江川藤吉に嫁せり(東京市外瀧野川町瀧野川一九五四電極橋七五)

越野 三藏 服部製作所(株)取締役、南太平洋
 妻 ツヤ 明二七、一一生、大阪、土、大川英太郎庶子

君は大阪府人越野嘉助の二男にして同嘉藏の弟同卯吉の養弟なり明治二十二年十月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同四十五年大阪高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙長女千鶴子(大元、三生)あり(東京市外中野町東中野一七五二、二電中野四九)

參照 大川英太郎、越野嘉藏、大川平三郎、田中榮八郎の項

越宗 太平 岡山縣多額納税者、醸造業
 岡山縣在籍

越村 興吉 石川縣多額納税者、金融業
 母 安政四、二生、石川、千木甚右衛門長女
 妻 しん 明二五、二生、石川、吉田市郎右衛門三女
 男 興一 大六、一一生

君は石川縣人越村興吉の二男にして明治十五年四月を以て生れ同四十三年家督を相続す前名興所太郎を改め眞名す金融業を營み同縣多額納税者たり家族は尙長女芳子(大元、四生)二女五月(同八、五生)三女千代(同一三、三生)及妹たけ(明二七、九生)あり(金澤、上野町一四九、一)

腰原 廣吉 大町銀行 株專務取締役
 妻 孝一 明一六、四生
 男 玉二 明二〇、二生
 女 公子 明三〇、一〇生、亡三男三妻、分家正松二女

君は長野縣人腰原利平の男にして安政五年九月を以て生れ明治十四年家督を相続す現時大町銀行專務取締役たり家族は尙孫仁(明四五、一一生、二男玉二長男)同美智子(大元、二生、同長女)同利夫(同一三、四生、同七男)同幸子(同九、一一生、同三男三長女)同純子(同一五、八生、同三女)あり弟正松(大元、二生)は其子女を伴ひ分家せり(長野、北安曇、大町)

駒井 伊八 大阪府多額納税者、袋物革貿易商
 妻 タツ 明一三、四生、大阪、岩田長三郎妹
 男 清次郎 明三四、一一生、東京商科大学出身
 女 貞子 明三五、二生、神戸高等商業學校出身

當家は大阪土着にして古より同地に店舗を構へ海部屋と稱し脇差商を以て渡世す先代伊八に至り祖業を廢し袋物商に轉じ今日の基礎を成す君は同府人田邊モトの長男にして明治九年八月を以て生れ同三十年駒井家の養子となり同四十五年家督を相続す前名として前名耕一を改む家業の外ヤンピ(山羊の皮)輸入を始め以て今日に至る家族は尙四男圭三(大元、二生)五女喜久子(同一〇、九生)あり二女あり(明三六、四生、夕陽丘高等女學校出身)は大阪府人漆器商田中平三郎六男六郎に嫁せり(大阪、東、博愛町四、四二電船場六三)

駒井 宇一郎 京濱電力(株)取締役、電氣器具商
 妻 リウ 明一三、三生、神奈川、金子重太郎養子
 男 健一郎 明三三、一一生

女 壽美 明三八、四生
女 イク 明四〇、一〇生
女 マス 明四二、六生

君は東京府士族駒井道義の長男にして慶應三年三月を以て生れ明治二十一年家督を相続す同二十二年工手學校電氣科を卒業し品川電氣會社主任技師三井鐵山會社技師及同社田川炭山器械主任を経て箱根水力電氣會社事務取締役となり現時辭して電氣器具商を營み傍ら京濱電力會社の重役たり家族は尙二男三女(明四三、一男、三男、三女)六女(一男、一男、一男、一男、一男、一男)三男(三男、三女)五女(一男、一男、一男、一男、一男)あり長女香枝(明三六、四生)は神奈川縣飯泉正作二男補助に妹とめ(明一五、一男)は大分縣人阿部常一長男貞夫に嫁し弟四郎(明二二、一男)は分家せり(横濱、神奈川、神奈川町二〇五電本局二〇八)

駒井龜治郎 西宮合同運送、多開興業各株、監査役、西宮銀行(株)支配人
兵庫縣在籍
妻 とを 明一六、一男、兵庫、津井宗兵衛
女 知子 明四〇、八生

駒井菊太郎 從四位勳三等功五級、豫備陸軍々醫監、奈良縣在籍
妻 とを 明一九、一男、大阪、上田清一
女 未太郎 明四一、四生

駒井久吉 高砂ゴム工業(株)事務取締役、高砂工業各株(株)取締役、熱帯産物山陽無煙炭礦各(株)監査役
奈良縣在籍
妻 覺三郎 安政五、三男、現戶主
養母 チエ 明六、二生、奈良、岡部市二女
妻 正 明二五、三男、大分、今山實妹

君は大阪府人島田久平の三男にして明治十四年二月を以て生れ駒井覺三郎の養子となる同四十年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し義に高砂企業高砂ゴム會社の社長にして現時前記各會社の重役たり家族は尙長女八重(大四、四生)二女多賀(同六、四生)三女泰(同八、五生)三男達男(同二〇、六生)の外養弟啓二郎(明三〇、一〇生)あり庶子俊子(同四〇、八生)は石川縣士族本多政好の養子となり養弟潤太郎(同二五、七生)叔母ナヲ(嘉永二、二生)は各分家せり(東京市外品川町北品川宿御殿山三二四電高橋一八九五)

駒井庄三郎 青森縣多額納稅者、酒造業
妻 とを 明一七、八生、長女リよ夫、青森、近江梅太郎弟
養子 岩吉 明一三、一男、養子岩吉妻
女 リよ 明一三、一男、養子岩吉妻

駒井竹三 硝子商
妻 とを 明三二、八生、大阪、安田源三郎
女 武 明二七、九生

駒井藤平 信實生駒鐵道(株)事務取締役、東大阪土地(株)取締役、奈良縣在籍
妻 藤太郎 嘉永六、六生
女 藤吉郎 明一八、五生、奈良、吉田良造二女
女 八重子 明四四、五生

君は奈良縣人駒井藤太郎の長男にして明治十八年三月を以て生れ大正二年家督を相続し前名藤雄を改む現時前記各會社の重役たり家族は尙二男三男(明四三、八生)二女島子(大九、一男)の外亡妹タマエ夫重俊(明二一、二生)及其二男あり三女榮子(大一二、二生)は奈良縣人田村榮治の養子となり(奈良、生駒、南生駒村)

駒井徳太郎 從四位勳四等、第四高等學校教授
奈良縣在籍
妻 ナラシケ 弘化二、一男
女 依 嘉永六、九生、奈良、士、吉川厚見長女
妻 依 明八、一男、富山、士、小池春香
女 知子 明四二、六生

駒井彌兵衛 北海道多額納稅者、操提水産(株)取締役、千島汽船(株)監査役、漁業、北海道在籍
妻 まつ 慶應元、六生、兵庫、藤井伊助長女
君は兵庫縣人駒井辰之助の兄にして明治二年七月を以て生れ同三十年分家して一家を創立すその年と稱し吳服商を營み津田常商店監査役たり(大阪、南、心齋橋筋二ノ一七電南三五五)

妻 タミ 明一三、四生、養父彌兵衛長女
男 彌助 明三八、一男
養子 康次 明三〇、四生、二女ヤエ夫、栃木、關谷伊一郎弟

君は若手縣人坂下伊八の二男にして明治八年一月を以て生れ後先代彌兵衛の養子となり大正十年家督を相続し前名龜太郎を改む漁業を營み北海道多額納稅者にして前記各會社の重役たり家族は尙孫恒子(大一二、一男、養子康次長女)同龜太郎(同二四、一男、二生、同長男)あり(函館、旅籠町七九)

駒形宇太七 新行各株、長岡商會、青島洋行各株、取締役、長岡縣在籍
妻 トキ 萬延元、四生、新潟、熊倉太郎七
女 キヨ 明四二、六生

君は新潟縣人先代宇太七の長男にして明治十六年十月を以て生れ大正十一年家督を相続し前名佐吉を改む醸造業を營み新潟縣多額納稅者にして前記各會社の重役たり姉キシ(明一一、一男)は新潟縣人鷺尾徳之助に妹タミ(同二一、一男)は同縣人佐久目吾八に同マキ(同二〇、六生)は長野縣人清水淑邦に同ムツ(同二四、九生)は新潟縣人坂井權吉に同ヨ(同二六、九生)は同縣人谷内田半藏長男寅三郎に同ヤイ(同二八、八生)は同縣人重澤桂藏に同トイ(同三七、七生)は其妻イシ(同二七、八生)は新潟、石井藤平長女)と共に同十吉(同三四、二生)は同妻クニ(同三七、一男、新潟、石井貞次郎七女)及其一子を伴ひ各分家せり(長岡、本町)

駒木治右衛門 岩手縣多額納稅者、盛岡銀行(株)取締役、花巻温泉(株)監査役、農業、岩手縣在籍
妻 カネ 吉二女
女 治太郎 明一八、一男、岩手、千葉庄八妹
妻 フク 明三三、一男
女 キミ 明三三、一男、岩手、長門六女

君は岩手縣人先代治右衛門の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正三年家督を相続し現時盛岡銀行花巻温泉會社重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙四男五女(明四三、九生)三女マサ(大三、八生)五男治郎(同五、六生)六男美士(同九、六生)孫一雄(同二五、四生)長男治太郎長男)あり長女イチ(明三五、四生)は青森縣人松原富男に妹ヤス(同二九、二生)は若手縣人田中兵市郎に同ヨシ(同三一、一男)は同縣人南館富次郎に嫁し弟徳三郎(同三四、二生)は同縣人觸澤忠次郎の養子となり(岩手、二戸、姉帯村)別邸(盛岡、馬場小路二)

駒崎圭介 洋酒商
妻 マサ 明一八、三男、東京、山本吉太郎
女 正介 明四一、一男
女 登志 明四三、七生

君は埼玉縣人駒崎支助の三男にして明治十五年四月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す洋酒商を營む家族は尙二男三樹之介(大元、九生)あり(東京、芝、白金田町一電高輪四七〇九)

駒田重義 從五位勳五等、判事、長崎控訴院部長、三重縣在籍
妻 よし 明二五、一〇生、三重、士、上田佐喜之進四女
女 駿太郎 大四、八生

君は三重縣人駒田元藏の長男にして明治十七年九月を以て生れる同四十四年京都帝國大學法科大學を卒業し司法官試補となり同四十四年判事に任ぜられ大分區兼同地方長崎地方兼同區長崎控訴院部長に現に其職事に任ぜられ大正十五年長崎控訴院部長に進み現に其職に在り家族は尙二男知彦(大六、一男)長女美代(同八、四生)二女康子(同二〇、三生)三女澄子(同二二、一男)あり弟淳藏(明二一、一〇生)は三重縣人増田保義の養子となり妹たつ(同二五、一〇生)は同縣人西岡兼七第七英吉に同イノ(同三二、一男)は愛知縣人伊藤徳亮に嫁し叔父保次郎(萬延元、一男)は三重縣人國府しゐの入夫となり(長崎市控訴院官舎)

駒田富三郎 駒田商店(株)社長
妻 トク 元治元、一〇生、神奈川、澁谷團藏妹
女 ひさの 明二一、一男、養父常三郎長女
女 浪子 明四二、四生
女 恒子 明二二、二生

君は愛知縣人野口文左衛門の長男にして明治九年七月を以て生れ後先代常三郎の養子となり大正十年家督を相続す現時株式會社駒田商店社長たり家族は尙四女(大七、九生)二男雄次郎(同八、一男)三男三郎(同二二、一男)あり(横濱、中、磯子町一六四八電長者町三六四一)

金納源十郎 岸和田煉瓦(株)取締役、和泉貯蓄銀行、五十一銀行、岸和田紡績各(株)監査役、大阪府在籍
 妻 明三、一〇生、和歌山、富士木種次郎姉
 長 明三、三三、大阪、河内孫兵衛
 女 千恵 大元、一二生

金萬喜人 從七位勳六等、三井(名)社員
 母 はつ 弘徳三、二生、鳥取、土、伊丹勸兵衛長女
 妻 たか 明一六、一〇生、岡山、土、吉田安治長女
 男 喜春 明三九、三三

近伊左衛門 秋田縣多額納稅者、植田銀行(株)取締役、農業、秋田縣在籍
 母 キヨ 長女
 妻 明五、一〇生、秋田、高橋多右衛門

近利左衛門 植田銀行、釜淵製材、羽後電氣、増田水力電氣各(株)取締役
 妻 フチ 明一、二生、秋田、近雄平妹
 男 久次郎 明四〇、一二生、二男久次郎妻、秋田、内藤慶蔵四女
 女 善三郎 明三九、九生
 男 聖四郎 明四一、二生
 女 文子 明四四、七生

近藤愛次郎 兵庫縣在籍
 妻 はつ 明一八、九生、兵庫、田淵郡平長女
 男 正夫 明四三、一〇生

近藤荒樹 近藤荒樹事務所、信託並金融仲介業、廣島縣在籍
 妻 伊久子 明三四、六生、廣島、三宅昌興長女
 男 荒一郎 大三、三三

近藤勝太郎 下山商店(株)監査役、近藤商店(表)代表社員、神奈川縣在籍
 妻 みよ 明一九、三三、山形、中村長吉妹
 養子 六郎 明四二、八生、山形、鹽野權之助

近藤喜惠門 近藤商會(株)代表取締役、文化欄(株)監査役、酒類商、大阪府在籍
 妻 チマ 慶應元、一〇生、大阪、近藤喜西
 養妹 明二五、七生、大阪、福田六兵衛
 女 二女、清水谷高等女學校出身

近藤勘治郎 從七位勳八等、關原銀行、六十九銀行各(株)取締役、長岡貯蓄銀行(株)取締役、新潟縣在籍
 妻 ヤチ 安政五、一二生、新潟、近藤佐治
 男 篤三郎 明四〇、一二生
 女 マサ 明四三、一〇生

近藤勝太郎 南洋貿易信用(株)取締役
 妻 てう 明八、三三、岐阜、森本安右衛門
 養子 孝 明三二、九生、群馬、土、松田欽
 養子 ひる 明四一、九生、岐阜、尾崎敏郎二女
 君は岡山縣土族伏見庄太郎の長男にして明治元年六月を以て生れ先代松太郎の養子となり同二十一年家督を相續す現時南洋貿易信用(株)取締役にして義に大日本李酒會社輸出販賣部長たり(東京、芝、二本榎町一ノ六〇電高輪七四四)

近藤勝太郎 次は嫁し弟宗南(同二四、五生)は分家し母イサノ(安政四、一〇生、廣島、陣崎十三郎二女)は弟宗南の家籍に入れり(東京、四谷、南伊賀町四三電四谷二六〇)

近藤榮一 藥劑師、藥種商
 妻 ひろ 元治元、八生、新潟、山本啓作妹
 男 良一 明一七、九生、藥學博士
 女 幸 明三四、一〇生、二男良一妻、東京、津谷字之助三女

近藤権内 千代田火災保險(株)取締役、調査部長、秋田縣在籍
 妻 忠 明一八、一〇生、東京、瀬川光行

近藤寅一郎 新潟縣多額納稅者、近藤商店(株)代表取締役、米穀商、新潟縣在籍
 父 磯吉 嘉永元、二生、現戸主
 男 磯夫 明四四、三三
 女 ミエ 明四二、八生

近三郎 從四位勳四等、東京市土木局技術長、山形縣土族
 妻 安政三、二生、山形、戸村宮次長女
 男 新一助 明一九、二生、山形、今村惟善妹
 女 新之助 明四〇、七生

近寅一郎 新潟縣多額納稅者、近藤商店(株)代表取締役、米穀商、新潟縣在籍
 父 磯吉 嘉永元、二生、現戸主
 男 磯夫 明四四、三三
 女 ミエ 明四二、八生

近熊次郎 近藤商店、越後鐵道各(株)代表取締役、新潟縣在籍
 妻 ハツ 明三六、五生、新潟、山田定吉長女
 君は新潟縣人近藤吉の二男にして同寅一郎の弟なり明治二十年六月を以て生れ同二十六年分家して一家を創立す現時近藤商店越後鐵道各(株)代表取締役たり家族は尙長女ヒサ(大九、五生)二女サト子(同三、四生)あり(新潟、北蒲原、新發田町)

近権内 千代田火災保險(株)取締役、調査部長、秋田縣在籍
 妻 忠 明一八、一〇生、東京、瀬川光行

近寅一郎 新潟縣多額納稅者、近藤商店(株)代表取締役、米穀商、新潟縣在籍
 父 磯吉 嘉永元、二生、現戸主
 男 磯夫 明四四、三三
 女 ミエ 明四二、八生

近藤之助 函館(表)株、取締役、函館船渠(株)取締役、東京府在籍
 妻 つよ 明一四、一〇生、東京、本多さく四女
 男 安吉 明三二、九生、高知、三宮精喜
 女 正 川上定次郎長女

近藤勘治郎 從七位勳八等、關原銀行、六十九銀行各(株)取締役、長岡貯蓄銀行(株)取締役、新潟縣在籍
 妻 ヤチ 安政五、一二生、新潟、近藤佐治
 男 篤三郎 明四〇、一二生
 女 マサ 明四三、一〇生

近藤喜惠門 近藤商會(株)代表取締役、文化欄(株)監査役、酒類商、大阪府在籍
 妻 チマ 慶應元、一〇生、大阪、近藤喜西
 養妹 明二五、七生、大阪、福田六兵衛
 女 二女、清水谷高等女學校出身

近藤勝太郎 南洋貿易信用(株)取締役
 妻 てう 明八、三三、岐阜、森本安右衛門
 養子 孝 明三二、九生、群馬、土、松田欽
 養子 ひる 明四一、九生、岐阜、尾崎敏郎二女
 君は岡山縣土族伏見庄太郎の長男にして明治元年六月を以て生れ先代松太郎の養子となり同二十一年家督を相續す現時南洋貿易信用(株)取締役にして義に大日本李酒會社輸出販賣部長たり(東京、芝、二本榎町一ノ六〇電高輪七四四)

近藤勝太郎 次は嫁し弟宗南(同二四、五生)は分家し母イサノ(安政四、一〇生、廣島、陣崎十三郎二女)は弟宗南の家籍に入れり(東京、四谷、南伊賀町四三電四谷二六〇)

近藤榮一 藥劑師、藥種商
 妻 ひろ 元治元、八生、新潟、山本啓作妹
 男 良一 明一七、九生、藥學博士
 女 幸 明三四、一〇生、二男良一妻、東京、津谷字之助三女

近藤権内 千代田火災保險(株)取締役、調査部長、秋田縣在籍
 妻 忠 明一八、一〇生、東京、瀬川光行

近藤寅一郎 新潟縣多額納稅者、近藤商店(株)代表取締役、米穀商、新潟縣在籍
 父 磯吉 嘉永元、二生、現戸主
 男 磯夫 明四四、三三
 女 ミエ 明四二、八生

近藤之助 函館(表)株、取締役、函館船渠(株)取締役、東京府在籍
 妻 つよ 明一四、一〇生、東京、本多さく四女
 男 安吉 明三二、九生、高知、三宮精喜
 女 正 川上定次郎長女

近藤 宏太郎 住友炭炭礦株常務取締役、湧別川水力電氣株監査役、新湯縣在籍

母 ア イ 文久元、九生、新湯、田中彌市郎
妻 た ね 明一九、五生、京都、外村宇治郎
男 弘 一 明四一、四生
女 フ サ 明四四、一一生

君は新湯縣人近藤新三郎の長男にして明治十三年二月を以て生れ同四十五年家督を相続す同三十八年東京帝國大學工科大学を卒業し住友炭炭礦株常務取締役外前記會社の重役たり家族は尙二男繁明(四二、一一生)三男綾男(六一、一一生)四男壽男(同三、八生)五男省吾(同六、二生)二女康子(同二、一一生)あり妹アキ(明一七、八生)は新湯縣人下條雲珠文宗に同ナヲ(同二八、六生)は同縣人小林作二に嫁し叔父末五郎(慶應元、三生)は同妻カメ(明六、四生、岩手、中谷カカ養子)を伴ひ分家せり(札幌、北三條西一三〇、三〇五)

近藤 幸次郎 神奈川縣多額納税者、地主

養子 士 朗 明四四、四生、神奈川、近藤榮太郎
男 明四四、四生、神奈川、近藤榮太郎
君は神奈川縣人近藤清藏の長男にして嘉永三年三月を以て生れ明治二十八年家督を相続す地主にして神奈川縣多額納税者たり(横濱、中、吉田町二、四七)

近藤 耕藏 正五位勳四等、東京女子高等師範學校教授、神奈川縣在籍

妻 テ ヲ 明一、一〇生、神奈川、佐藤政吉長女

男 俊 雄 明三五、一〇生
女 し づ 明三八、七生、府立第二高等女學校出身
女 千 枝 明四〇、四生、御茶水高等女學校出身
女 千 枝 明四二、七生、御茶水高等女學校出身

君は神奈川縣人近藤謙郎の四男にして明治六年八月を以て生れ同三十四年東京高等師範學校を卒業し兼任し井縣師範學校教諭女子高等師範學校助教諭等に在任し現時東京女子高等師範學校教授たり家族は尙二男正夫(明四四、五生)四女なほ(大三、八生)三男恭三(同二、一一生)の外兄弟太郎(安政三、三生、現戸主)あり姉リツ(明三、一〇生)は神奈川縣人瀨尾太市に妹サエ(同二、一〇生)は長野縣人小林勘一郎長男洋吉に嫁せり(東京、小石川、丸山町一)

近藤 駒次郎 愛知縣多額納税者、清駒支店、族

妻 つ う 明二四、八生

君は愛知縣人近藤駒吉の二男にして明治十七年九月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す清駒と稱し旅館業を營み現に愛知縣多額納税者たり家族は尙長女(明四六、七生)二女美雪(同八、一一生)あり(名古屋、中、笹島町二、四電本局五六一〇)

近藤 三郎 正五位勳四等、司法書記官、大臣官房會計課長、東京府在籍

妻 鉢 尾 明二〇、四生、東京、近藤貴一三女
男 晋 一 明四三、一一生
女 サ ナ ナ 明四二、一一生、九段精華高等女學校出身

君は宮城縣人後藤元城の三男にして明治十三年五月を以て生れ同四十二年近藤あさの養子となり家督を相続す同四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官高等試験に合格し専賣局書記同主事同副主事等を經て大正五年司法書記官に任じ大臣官房會計課長を命ぜられ現在に至る家族は尙三男高男(大三、一一生)二女冬子(同七、一一生)五男今夫(同八、三生)六男道夫(同二〇、四生)七男町夫(同二二、四生)三女得子(同二〇、四生)

四、二生)あり(東京、淺草、今戸町一九電淺草五九三二)

近藤 止敬 資産家

妻 ま さ 明二二、四生、茨城、渡邊治兵衛長女
男 止 武 明三九、二生
男 止 文 明四一、一一生

君は東京府人近藤幸止の長男にして明治八年七月を以て生れ同四十一年一月家督を相続す資産家として知らる家族は尙三男正(大五、五生)長女ヒロ子(同二、一一生)二女トミ(同三、二生)三女ヒサ子(同五、一一生)妹あきの(明三八、一〇生)あり姉くま(同六、一一生)は東京府士族平井政道に嫁せり(東京、芝、白金今里町八九)

近藤 茂 正五位勳四等、工學博士、大同電氣株常務取締役、神岡水電(株)取締役、福井縣在籍

妻 剛 明三三、五生、福井、山岡四女

君は福井縣人近藤實之助の長男にして明治七年十二月を以て生れ大正元年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學工科大学電氣科を卒業し選任に職を奉じ同三十四年電氣事業研究の爲め米に留學を命ぜらる歸朝するに及び通信技術師となり爾來通信技術師局審査官通信局電氣試驗所技術師臨時發電力調査局技術師電氣局技術課長心得等に歴任す又兼に倫敦に於ける電氣單本位國際會議に委員として差遣せられ次で米獨佛瑞各國を巡遊し大正四年工學博士の學位を受く後官を辭し現時大同電氣株常務取締役たる外前記會社の取締役たり家族は尙三男實(大四、六生)三女喜代(同九、六生)同妻(同二、一一生)六男亮(同二、一一生)の外兄弟明一(八、三生)同妻(同二、一一生)福井、有村七之助妹)及び其子女あり長女千代子(同三八、一一生)は宮城縣人高橋虎雄に嫁し二女照子(同四五、一一生)は東京府人小野照雄に弟外登(同五、三生)は同妻ツネ(同二七、三生)福井、土、脇谷喜知長女)及び其子女を伴ひ福井縣人中野せんに各養子となれり(東京、四谷、大番町二九)

近藤 滋彌

正五位、男爵、貴族院議員、三光紡績(株)社長、日本相互貯蓄銀行、日本光學工業各株監査役、東京府華族

妻 信 子 明二五、五生、子爵松平頼和長女
男 貞 純 大四、九生
女 多 満 子 大二、九生

當家は先代藤平より家名を揚ぐ藤平は徳島縣の醫師近藤玄泉の二男にして出で、絶家同族近藤家を繼ぐ風に榮秋郡武智尙字等に就き文武の途を學び故岩崎彌太郎の知遇を受け日本郵船會社の創立と共に入つて支配人に擧げられ理事取締役事務取締役を経て副社長に進み日清の役軍運輸の功に依り勳三等に叙す時社社長となり大に社業を擴張し日露の役亦軍運輸に力め功を以て勳二等に叙し明治四十四年時旨を以て華族に列し男爵を授けられ後貴族院議員に列す晩年日露事件の功に依り勳一等に陞叙し從三位に昇る君は藤平の三男にして明治十五年九月を以て生れ大正十年家督を相続し製糖す風に英國に留學し造船及電氣學を修め歸朝後東京市電氣局技師となり後辭して實業界に入り現時前記銀行會社の重役にして大正十四年貴族院議員に互選せらる家族は尙二女多美子(大五、九生)二男貞純(同六、一一生)三男省吾(同二、一一生)弟藤治(明二四、九生)同藤之助(同三、一一生)あり姉榮子(同二、一一生)は東京府士族大久保利武に妹八重子(同二、一一生)は伯父和歌山縣人濱口權に同タカコ(同二〇、一〇生)は伯父上杉憲章に同富路子(同二七、二生)は徳島縣人橋本敬之に同清子(同二八、一一生)は岡山縣人藤森忠一郎弟雄平に嫁せり(東京、牛込、市谷佐内町二電牛込四七二)

伯父上杉憲章、子爵松平頼和、大久保利武、近藤藤治、橋本敬之、濱口權、伯父眞田幸治、養子藤東園基光の項

近藤 繁一 愛知縣多額納税者、小間物商

妻 し ょ う 明一七、三生、愛知、淺野吉次郎
男 鏡 一 大元、一〇生

君は愛知縣人中山重兵衛の長男にして明治十二年一月を以て生れ同四十五年離籍により近藤氏を稱し一家を創立す小間物商を營み現に愛知縣多額納税者たり(名古屋、中、末廣町一ノ八三電本局八〇六)

近藤 繁八

大正産業、近藤紡績(株)社長、富士紡績(株)取締役、近藤商店(名)代表社員、愛知縣在籍

妻 と み 明一七、九生、愛知、永岡彌兵衛姉
男 信 男 明三六、七生
女 ち ゃ ょ 明三四、一一生

君は愛知縣人先代繁八の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同三十九年家督を相続し後ち前名三郎を改め繁八と稱す現に近藤商店代表社員にして大正産業會社近藤紡績所各社長たる外前記各會社の重役たり家族は尙三男賢三(明四二、七生)あり二男榮治(同三九、一一生)は愛知縣人淺井しなの養子となれり(名古屋、中、新柳町三ノ六)

參照 永岡彌兵衛の項

近藤 靜郎 安田銀行株營業部長代理兼預金課長、兵庫縣士族

妻 さ く 明二四、九生、東京、安藤浩二女
父 天 保 一 三、四生、現戸主

君は兵庫縣人近藤藤の長男にして明治十六年三月を以て生れ同三十九年早稲田大學專門政治經濟科を卒業し現時安田銀行營業部長代理兼預金課長たり妹しめ(明二〇、一一生)は東京府士族伊豆原に嫁せり(東京、小石川、原町二電小石川一八四)

參照 安藤浩二、伊豆原三郎の項

近藤 周吉 皆瀬川水力電氣株專務取締役、千葉水電、桑折電氣、兩野電氣製水、茨城製水各株取締役、植田水力電氣株取締役、福島縣在籍

妻 ナ カ 明二四、三生、神奈川、土、中野英一
男 達 雄 大三、一一生

君は福島縣人近藤周作の長男にして明治十一年十二月を以て生れ同三十八年家督を相続す曾て英京倫敦に遊び現時前記各會社の重役たり家族は尙二男勝(大七、四生)及び弟周輔(明三二、一一生)米國アイオワ州大學在學(あり同周二(同二六、一一生)は同妻リヨ(同二二、三生)福島、阿部丑雄妹)及其子女を伴ひ分家せり(東京、牛込、若松町一三)

近藤 重三郎

伊勢屋、伊豆水電氣各(株)社長、岡崎電燈、水窪川水力電氣、中部電力各(株)取締役、大八運轉倉庫、服部鐵造、鐵洋電氣、東海製菓、天龍水力電氣各(株)監査役、岡崎盲啞學校理事、愛知縣在籍

妻 た ま 明三〇、一一生、愛知、深見芳太郎長女
男 浩 一郎 大八、四生

君は愛知縣人中村慶藏の甥にして同慶助の從弟同光藏の從兄なり明治十九年六月を以て生れ先代重三郎の養子となり同四十二年家督を相続し後ち前名藤一を改め藤重と稱す東京帝國大學農科大學農藝化學科の出身にして風に實業界に入り現時伊勢屋伊豆水電氣會社各社長の外前記各會社の重役たり兼に滿鮮及支那各地を視察し又衆議院議員岡崎市議員同參事會員岡崎商業會議所議員同特別議員等に擧げらる家族は尙長女富美子(大七、二生)三男重(同二、一一生)三女喜美子(同二、一一生)は分家せり(岡崎、兩町一七)

參照 中村慶藏、中村慶助、中村光藏の項

近藤 俊次郎 岡崎石村(株)代表取締役、岡崎銀行岡崎貯蓄銀行各株監査役、愛知縣在籍

妻 そ の 嘉永六、二生、愛知、徳倉六兵衛姉
妻 や 五 明二七、六生、養父東右衛門長女
明二七、一〇生、養子道江夫、愛知、石井誠二男、明治大學商科出身
養子 道 江 明二九、一一生、養子進妻、愛知、淺井喜一、二女、岡崎高等女學校出身
淺井喜一、酒井熊吉の項

近藤 春臺 正五位勳三等、名古屋稅務監督局長、愛媛縣士族

母 マスエ 安政四、八生、愛媛、篠永甚兵衛
 妻 幾代 明一八、一生、愛媛、加藤貞三女
 男 春經 明三〇、二生
 女 敦子 明四四、二生

君は愛媛縣士族近藤春經の長男にして明治十二年九月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大蔵省となる爾來稅關監督官稅務監督官稅務監督官を歴任し大正四年更に稅務監督官に任じ後九龍本各稅務監督局長を経て現時古屋稅務監督局長の職にあり義に名古屋商業會議所特別議員に推される家族は前記の外三男春勳(大三、七生)四男春樹(同五、二生)六男春昭(同二、五生)あり長女陳子(明四二、九生)は愛媛縣人渡部七郎に嫁せり(名古屋、西、伏見町二ノ五電本局三〇一〇)

女 滋子 明四二、三生
 女 喜代子 明四四、二生

君は鳥取縣人近藤十八郎の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十三年家督を相続す現に前記諸銀行の重役にして鳥取縣多額納稅者たり家族は尙四女雅子(大八、九生)五女千枝子(同二、一〇生)あり(鳥取、日野、根雨町)

參照 近藤林貞治の項

近藤 正平 愛媛縣多額納稅者、三津濱煉瓦、山梨鐵道各株、取締役、愛媛縣在籍
 父 貞次郎 安政四、八生、現戶主
 妻 ジョウ 明一七、二生、愛媛、大野悌姉
 男 正彰 明四三、八生
 女 和子 大元、八生

君は愛媛縣人近藤貞次郎の長男にして明治十三年十二月を以て生れる現時前記會社の重役にして愛媛縣多額納稅者たり家族は尙二女富子(大三、四生)三女郁子(同四、六生)四女華子(同七、四生)二男捨夫(同九、五生)三男慶文(同二、二生)あり(愛媛、温泉、三津濱町)

參照 大野悌、近藤貞次郎、近藤廣平、近藤松太郎、※鳥居庄藏、※森三郎の項

近藤 淳直 唐津鐵工所、取締役
 父 正直 慶應元、三生、香川、大西吉久太
 母 ノブエ 慶應元、九生、養祖父源治長女
 妻 能 長女
 男 淳一 明四二、二生
 女 ヨシメ 大元、一生

君は香川縣人近藤正直の長男にして明治十八年四月を以て生れる同三十九年東京高等工業學校を卒業し現時唐津鐵工所取締役たり家族は尙四男淳三(大九、一生)三女アツミ(同二、八生)五男正和(昭二、一生)弟直(昭二、四、一生)同妻タメエ(同三、二、八生、香川、山口半平四女)及其三子あり妹和枝(同二、八、一生)は香川縣人鳥取三郎長男富士男に嫁せり(佐賀、東松浦、唐津町城内電一六)

近藤 庄七 京都府多額納稅者、袋物商
 妻 つる 明一九、一生、京都、宮澤治助長女
 男 安次郎 大元、二生

君は京都府人近藤庄七の長男にして明治十五年三月を以て生れ大正十四年家督を相続し後襲名して前名庄一郎を改む袋物商を営み京都府多額納稅者として知らる家族は尙二男庄三(昭二、六、二生)二女益美(同九、九、二生)あり妹と(昭二、五、二生)は京都府人遠藤貞吉長男藤太郎に嫁せり(京都、下京、富小路通五條上ル本神明町電下六八)

近藤 眞一 球磨川電氣株、當務取締役、藥品貿易商、東京府在籍
 母 ひろ 慶應元、三生、靜岡、遠藤周民二女
 妻 ヨシコ 明三〇、六生、山口、鮎川義介妹、豊高高等女學校出身
 男 隆彌 大八、二生

君は東京府人近藤眞一の長男にして明治二十四年六月を以て生れ大正六年家督を相続す同五年慶應義塾理財科を卒業し藥品貿易商を営み傍ら球磨川電氣會社當務取締役として知らる家族は尙二男朋郎(大〇、二生)三男彌三郎(同二、八生)四男友之助(同三、一、二生)五男幸郎(同四、一、一生)あり姉と(昭二、一、二生)は福島縣士族木部守一に嫁せり(東京市外日黒町中目黒八二六電高橋五四一九)

參照 鮎川義介、木部守一、※貝島大市、※木村久壽彌、※太久原房之助、※藤田政輔の項

近藤 順一郎 鳥取縣多額納稅者、根雨銀行、山陰銀行、山陰實業銀行各株、取締役、鳥取縣在籍
 父 千八郎 安政二、一〇生
 妻 菊野 明二一、六生、鳥取、田江泰壽妹
 男 高明 明三三、三生
 女 晴枝 明三九、五生

君は鳥取縣人近藤順一郎の長男にして明治十八年四月を以て生れる同三十九年東京高等工業學校を卒業し現時唐津鐵工所取締役たり家族は尙四男淳三(大九、一生)三女アツミ(同二、八生)五男正和(昭二、一生)弟直(昭二、四、一生)同妻タメエ(同三、二、八生、香川、山口半平四女)及其三子あり妹和枝(同二、八、一生)は香川縣人鳥取三郎長男富士男に嫁せり(佐賀、東松浦、唐津町城内電一六)

近藤 昇一 近藤權平商店、醬油醸造業、愛媛縣在籍
 母 しま 明八、一生、愛媛、日比佐吉三女

君は愛媛縣人近藤權平の弟にして同昇次郎の甥なり明治三十九年七月を以て生れ大正八年家督を相続す醬油醸造業を営み近藤權平商店を經營す家族は尙弟幹雄

近藤 達兒 東京市會副議長、日新醫學社、監査役、辯護士、東京府在籍
 妻 きく 明八、九生、東京、押尾かね長女
 養子 春雄 明四一、二生、東京、山崎晋吉二男

君は福島縣士族近藤春太郎の弟南大曹の兄にして明治八年十月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士を開設し名あり傍ら前記會社の重役にして東京市會副議長に推される衆議院議員に當選す事三回義に自耳義國開催萬國議院商會に當選し次で歐米各國を視察す(東京、日本橋、綱敷町二ノ一、電本局二四五六)

參照 南大曹の項

近藤 介五郎 信友商店(株)監査役、愛媛縣在籍
 養母 やす 萬延元、三生、岐阜、榎本兵助妹
 妻 さだ 明二一、四生、岐阜、林格姉
 男 嘉幸 大一〇、四生

君は愛媛縣人榎本兵助の三男にして明治九年四月を以て生れ同三十五年先代しつゝの夫となり家督を相続す現時信友商店監査役たり家族は尙二男隆二(大一一、二生)三男修三(同二、五、七生)あり(名古屋、東、千種町吹上六九電東二五六)

近藤 太郎 香川縣多額納稅者、讃岐貯蓄銀行、高松百十四銀行各株、取締役、農業、香川縣在籍
 妻 ヨシ 明七、一〇生、香川、近藤文平二女
 孫 清平 明四五、一生、離縁養子剛寛長男
 孫 ミツ 明二一、一〇生、離縁養子剛寛妻、香川、近藤文平四女

君は香川縣人近藤太郎の長男にして慶應三年三月を以て生れ明治十四年家督を相続す農業を営み同縣多額納稅者にして義に東讃銀行取締役たりしことあり現時前記各銀行の取締役たり家族は尙孫正平(大三、九生)、離縁養子剛寛(二、一、一生)は香川縣人石原勝二に養子カツ(明二五、四生、香川、石原勝二二女)は同縣人近藤雅雄に嫁し同壽美子(同三五、一、一生、同五女)は同縣人寒川喜三の養子となれり(香川、木田、幸禮村)

近藤 忠平 多賀銀行、玉川砂利各株、社長、多賀病院、磯原酒造各株、取締役、茨城縣士族
 妻 かつ 安政五、一生、茨城、土、穂積太郎二女

君は茨城縣人山野邊一平の二男にして明治十八年十一月を以て生れ後近藤家に入り大正六年分れて一家を創立す現に辯護士たり家族は尙長女美江(大四、一〇生)あり(東京、小石川、東青柳町一八電小石川一五五九)

參照 近藤部英男の項

近藤 清治 正五位勳五等、工學博士、東京高等工業學校教授兼特許局技師、三重縣在籍
 妻 秀 明三三、一〇生、石川、磯部昌朝長女、一生

君は三重縣人近藤甚太郎の長男にして明治十六年一月を以て生れ大正七年家督を相続す同三十九年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し同四十四年東京高等

近藤 高 東京亞鉛鍍金株、取締役兼支配人、神奈川縣士族
 妻 ヨシ 明九、一生、養父登一郎二女

君は新潟縣人星野四朗の二男にして明治七年十月を以て生れ

近藤 新十郎 田邊銀行(株)頭取、和歌山縣在籍
 妻 うしほ 明一〇、一生、和歌山、土、安藤女八郎妹
 男 米太郎 明一六、一生、東京高等商業學校出身
 女 明三、八生、長男米太郎妻、和歌山、田中宇兵衛二女

君は和歌山縣人先代新十郎の長男原吉の兄にして文久元年七月を以て生れ明治四年家督を相続し現に實業界に入り永く田邊銀行頭取たり家族は尙六男啓六(明四三、二生)三女道子(大三、七生)孫義一(大元、二生)、長男米太郎長男(同四、一、一生)、同三女(同幸子)同六、九生、同四女(同貞子)同四、九生、同五女(同禮一)同四、一、一生、二男竹次郎長男(あり)長女庫(明二一、一生)は和歌山縣人金谷治兵衛長男民藏に二女鈴子(同四〇、八生)は醫學博士伊澤好爲に嫁し四男峰四郎(同二八、一〇生)は同縣人名手由兵衛に七男八郎(同四五、七生)は叔父爲吉二男豊次郎に各養子となれり(東京市外中野町東中野一六三四電四六一〇六三)

近藤 次繁

正三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、駿河臺病院院長、醫師、東京府在籍

妻 明七、一、生、醫學博士近藤乾郎姉、明三〇、四生、文學士、劇作家、岸村久太郎庶子

男 赤子 明三二、一〇生、法學士、明三五、九生、二男、福岡、多喜家、明三六、八生

女 房子 明四二、五生、御茶水高等女學校出身

近藤 恒次郎

信友商店(株)取締役、愛知縣在籍

妻 恒一 明四二、一〇生、愛知、服部彌三郎

男 恒一 明四二、一〇生、愛知、服部彌三郎

女 きよ子 明四一、一〇生

妻 はな 明八、二生

男 精一 明四四、八生

女 きよ子 明四一、一〇生

妻 はな 明八、二生

男 精一 明四四、八生

女 きよ子 明四一、一〇生

妻 はな 明八、二生

近藤 貞次郎

三津濱銀行(株)頭取、愛媛縣農工銀行(株)取締役、伊豫米穀取引所(株)理事、愛媛縣在籍

妻 文久元、九生、徳島、坂東種太郎

男 正平 明一三、一二生

女 みさ子 明四〇、三生

妻 はな 明八、二生

男 精一 明四四、八生

女 きよ子 明四一、一〇生

妻 はな 明八、二生

男 精一 明四四、八生

女 きよ子 明四一、一〇生

妻 はな 明八、二生

男 精一 明四四、八生

女 きよ子 明四一、一〇生

妻 はな 明八、二生

男 精一 明四四、八生

女 きよ子 明四一、一〇生

妻 はな 明八、二生

近藤 東助

弘前商工會議所副頭、東北織物(株)監査役、青森縣在籍

妻 嘉永五、五生、青森、三浦儀兵衛

男 善藏 明一四、七生、青森、木村市藏三女

女 清四郎 明四一、一〇生、二男善藏妻、青森、野村晋次郎孫

妻 美恵 大二、二生

男 善藏 明一四、七生、青森、木村市藏三女

女 清四郎 明四一、一〇生、二男善藏妻、青森、野村晋次郎孫

妻 美恵 大二、二生

男 善藏 明一四、七生、青森、木村市藏三女

女 清四郎 明四一、一〇生、二男善藏妻、青森、野村晋次郎孫

妻 美恵 大二、二生

男 善藏 明一四、七生、青森、木村市藏三女

女 清四郎 明四一、一〇生、二男善藏妻、青森、野村晋次郎孫

妻 美恵 大二、二生

男 善藏 明一四、七生、青森、木村市藏三女

女 清四郎 明四一、一〇生、二男善藏妻、青森、野村晋次郎孫

妻 美恵 大二、二生

近藤 徳治郎

名古屋商工會議所常議員、福壽生命保險(株)事務取締役、山一證券(株)監査役、愛知縣在籍

妻 明三、一〇生、長女さき五女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

孫 正子 大二、三生、長女さき六女

近藤 富太郎

大阪府在籍

妻 明一〇、九生、京都、西利兵衛長女

男 健藏 明三六、四生

男 信三郎 明三八、六生

君は京都府人近藤四郎治の長男にして明治二年十月を以て生れ同三十八年家督を相続す

前記の外五男敏造(明四三、一〇生)長女シヅ(大三、九生)七男徳治(明四一、五生)は京都府人長谷川由太郎の養子となり(大阪、東、南本町二ノ二七電船場三八五)

近藤 徳八 會野商店(株)取締役、京都府在籍

妻 明一七、四生、京都、小泉仙吉長女

男 宗太郎 明四二、八生

女 勝子 明四四、一二生

君は徳島縣人近藤武八の弟にして明治六年六月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す

現に會野商店取締役たり家族は向三女政子(大六、七生)あり長女春子(明四一、三生)は京都府人福谷美代吉の養子となり(京都、上京、熱屋町通二條上ル布袋屋町四九五)

近藤 富太郎 大阪府在籍

妻 明一〇、九生、京都、西利兵衛長女

男 健藏 明三六、四生

男 信三郎 明三八、六生

君は京都府人近藤四郎治の長男にして明治二年十月を以て生れ同三十八年家督を相続す

近藤 啓之助

新潟縣多額納税者、農業

妻 明一六、三生

男 治義 明一六、三生

女 カツ 明一六、三生

君は新潟縣人近藤三榮門の長男にして文久二年八月を以て生れ明治九年家督を相続す

現に農業を営み下野の多額納税者たり家族は向七男長江(明四四、三生)孫定義(同四三、一〇生)長男治義(同四三、八生)同二男同(同四三、一〇生)同三男同(同四三、一〇生)同四男同(同四三、一〇生)同五男同(同四三、一〇生)同六男同(同四三、一〇生)同七男同(同四三、一〇生)同八男同(同四三、一〇生)同九男同(同四三、一〇生)同十男同(同四三、一〇生)同十一男同(同四三、一〇生)同十二男同(同四三、一〇生)同十三男同(同四三、一〇生)同十四男同(同四三、一〇生)同十五男同(同四三、一〇生)同十六男同(同四三、一〇生)同十七男同(同四三、一〇生)同十八男同(同四三、一〇生)同十九男同(同四三、一〇生)同二十男同(同四三、一〇生)同二十一男同(同四三、一〇生)同二十二男同(同四三、一〇生)同二十三男同(同四三、一〇生)同二十四男同(同四三、一〇生)同二十五男同(同四三、一〇生)同二十六男同(同四三、一〇生)同二十七男同(同四三、一〇生)同二十八男同(同四三、一〇生)同二十九男同(同四三、一〇生)同三十男同(同四三、一〇生)同三十一男同(同四三、一〇生)同三十二男同(同四三、一〇生)同三十三男同(同四三、一〇生)同三十四男同(同四三、一〇生)同三十五男同(同四三、一〇生)同三十六男同(同四三、一〇生)同三十七男同(同四三、一〇生)同三十八男同(同四三、一〇生)同三十九男同(同四三、一〇生)同四十男同(同四三、一〇生)同四十一男同(同四三、一〇生)同四十二男同(同四三、一〇生)同四十三男同(同四三、一〇生)同四十四男同(同四三、一〇生)同四十五男同(同四三、一〇生)同四十六男同(同四三、一〇生)同四十七男同(同四三、一〇生)同四十八男同(同四三、一〇生)同四十九男同(同四三、一〇生)同五十男同(同四三、一〇生)同五十一男同(同四三、一〇生)同五十二男同(同四三、一〇生)同五十三男同(同四三、一〇生)同五十四男同(同四三、一〇生)同五十五男同(同四三、一〇生)同五十六男同(同四三、一〇生)同五十七男同(同四三、一〇生)同五十八男同(同四三、一〇生)同五十九男同(同四三、一〇生)同六十男同(同四三、一〇生)同六十一男同(同四三、一〇生)同六十二男同(同四三、一〇生)同六十三男同(同四三、一〇生)同六十四男同(同四三、一〇生)同六十五男同(同四三、一〇生)同六十六男同(同四三、一〇生)同六十七男同(同四三、一〇生)同六十八男同(同四三、一〇生)同六十九男同(同四三、一〇生)同七十男同(同四三、一〇生)同七十一男同(同四三、一〇生)同七十二男同(同四三、一〇生)同七十三男同(同四三、一〇生)同七十四男同(同四三、一〇生)同七十五男同(同四三、一〇生)同七十六男同(同四三、一〇生)同七十七男同(同四三、一〇生)同七十八男同(同四三、一〇生)同七十九男同(同四三、一〇生)同八十男同(同四三、一〇生)同八十一男同(同四三、一〇生)同八十二男同(同四三、一〇生)同八十三男同(同四三、一〇生)同八十四男同(同四三、一〇生)同八十五男同(同四三、一〇生)同八十六男同(同四三、一〇生)同八十七男同(同四三、一〇生)同八十八男同(同四三、一〇生)同八十九男同(同四三、一〇生)同九十男同(同四三、一〇生)同九十一男同(同四三、一〇生)同九十二男同(同四三、一〇生)同九十三男同(同四三、一〇生)同九十四男同(同四三、一〇生)同九十五男同(同四三、一〇生)同九十六男同(同四三、一〇生)同九十七男同(同四三、一〇生)同九十八男同(同四三、一〇生)同九十九男同(同四三、一〇生)同百男同(同四三、一〇生)

近藤 鏡次 電氣化學工業(株)事務取締役、東京府在籍

妻 庫三 大一、二生、生母、野上タカ

君は東京府人近藤太郎の弟にして明治十五年七月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す

現に電氣化學工業(株)事務取締役たり家族は向三女政子(大六、七生)あり長女春子(明四一、三生)は京都府人福谷美代吉の養子となり(京都、上京、熱屋町通二條上ル布袋屋町四九五)

近藤 友右衛門 愛知縣多額納税者、製絲業

妻 明六、六生、愛知、野口七兵衛妹

男 洋二 明三三、二生

男 米三 明三五、三生、東京海上保險會社

君は愛知縣人近藤友右衛門の長男なり友右衛門岐阜縣高須町より名古屋に出で洋物商を営み信友と稱し

現に製絲業を営み下野の多額納税者たり家族は向三女政子(大六、七生)あり長女春子(明四一、三生)は京都府人福谷美代吉の養子となり(京都、上京、熱屋町通二條上ル布袋屋町四九五)

近藤 寅次郎 東海製鋼(株)事務取締役、愛知縣在籍

妻 元治元、九生、愛知、矢野政五郎

君は愛知縣人牛田清一郎の長男にして文久元年八月を以て生れ先代宗次郎の養子となり明治二十三年家督を相続す

近藤 尚司

藤波保商店、クラブ化粧品東部總代理店、東京府在籍

妻 明二二、三生、親松齊司二女

女 とみ 明四四、五生

君は埼玉縣人近藤宣次郎の三男にして明治十八年五月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す

現に藤波保商店(株)取締役たり家族は向三女富志(大四、二生)あり(東京、下谷、御徒町一ノ二電下谷二二三七)

近藤 寅次郎 東海製鋼(株)事務取締役、愛知縣在籍

妻 元治元、九生、愛知、矢野政五郎

君は愛知縣人牛田清一郎の長男にして文久元年八月を以て生れ先代宗次郎の養子となり明治二十三年家督を相続す

現に東海製鋼(株)事務取締役たり家族は向三女富志(大四、二生)あり(東京、下谷、御徒町一ノ二電下谷二二三七)

近藤 寅次郎 東海製鋼(株)事務取締役、愛知縣在籍

妻 元治元、九生、愛知、矢野政五郎

君は愛知縣人牛田清一郎の長男にして文久元年八月を以て生れ先代宗次郎の養子となり明治二十三年家督を相続す

現に東海製鋼(株)事務取締役たり家族は向三女富志(大四、二生)あり(東京、下谷、御徒町一ノ二電下谷二二三七)

近藤 寅次郎 東海製鋼(株)事務取締役、愛知縣在籍

妻 元治元、九生、愛知、矢野政五郎

君は愛知縣人牛田清一郎の長男にして文久元年八月を以て生れ先代宗次郎の養子となり明治二十三年家督を相続す

現に東海製鋼(株)事務取締役たり家族は向三女富志(大四、二生)あり(東京、下谷、御徒町一ノ二電下谷二二三七)

近藤 寅次郎 東海製鋼(株)事務取締役、愛知縣在籍

妻 元治元、九生、愛知、矢野政五郎

近藤 直一 日本麥酒釀造(株)取締役兼支配人
 妻 サト 明二五、七生、福島、吉田信徳三女
 女 エイ 明四三、一一生

君は福島縣人近藤喜久の弟にして明治十八年一月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治四十年早稲田大學政治經濟科を卒業し現時日本麥酒釀造會社取締役兼支配人たり(東京、四谷、永住町二電四谷六三三七)

近藤 仁兵衛 羅紗商
 妻 つる 明一、四生、京都、淺野金兵衛長女

君は京都府人近藤仁兵衛の長男にして明治九年七月を以て生れ同三十四年家督を相続し襲名して前名種之助を改む羅紗商を營む弟吟次郎(明二二、六生)は京都府人諸頭幾三郎の死跡を相続せり(京都、下京、寺町通綾小路下ル中之町五五五電下一〇五六)

近藤 半造 群馬縣多額納稅者、砂糖商
 妻 熊吉 明一八、七生
 男 明二六、九生、長男熊吉妻、群馬、矢島忠三郎三女
 女 明一五、二生
 男 明二一、九生、二男勘造妻、群馬、横室佐助二女
 孫 トキ 明三四、八生、長女てつ長男、明三三、七生、孫庄司妻、群馬、明山常吉長女
 孫 はつ 明四〇、三生、長男熊吉長女
 孫 ナツ 明四〇、三生、長男熊吉二女
 孫 カン 明二、三生、二男勘造長女

君は群馬縣人近藤龜吉の三男にして嘉永六年十二月を以て生れ明治二十九年分家して一家を創立す砂糖商を營み同縣多額納稅者たり家族は尙孫春造(明四五、三三、長女てつ二男)同善一(大六、二生、同三男)同善男(同四、三三、長男熊吉長男)同アサ子(同一〇、五生、同四女)同篤三郎(同一五、三三、同三男)同きよ子(同六、三三、二男勘造二女)同ふみ子(同一〇、六生、同三女)あり(前橋、野町)

近藤 兵三郎 正五位勳三等功五級、陸軍少將、陸軍兵器本廠長、長崎縣士族
 妻 シカ 明二五、五生、鹿兒島、前田正五郎四女
 男 平八郎 大八、五生

君は長崎縣人近藤龍治の弟にして明治九年十二月を以て生れるに陸軍士官學校を卒業し同三十一年陸軍砲兵少尉に任じ大正十二年陸軍少將に累進す現時陸軍兵器本廠長たり家族は尙長女綾子(大一一、一、一、二男毅夫(同一四、一、一)並びに兄龍治(明六、四、生、現戶主)同善クニ(同一二、一〇、生、山口、中村周(姉)弟龍(同一九、一、二生)同善齊(同三八、九、生、新潟、森田鐵三郎二女)弟一介(同三二、三、生)あり姉シズ(同一七、一、一、生)は長崎縣人中倉平十郎に同サダ(同一二、一、一)は同縣士族中島泰助に嫁せり(東京市外高田町高田一六六九電牛込三八八一)

近藤 廣吉 大塚工場(株)取締役
 妻 もと 明二一、一一生、東京、遠藤幸妹
 男 秀作 明三九、八生
 男 光治 明四一、一一生

君は北海道人宮越林之助の弟にして明治八年十一月を以て生れ同三十五年近藤じゆんの入夫となり家督を相続す現時大塚工場取締役たり家族は尙三男弘三(明四四、一〇、生)四男志郎(大三八、八、生)長女美穂子(同一二、七、生)あり(東京市外馬込村四三三電荏原三六九)

近藤 廣平 徳島縣多額納稅者
 妻 カメ 明元、八生、徳島、近藤友二郎二女
 養子 精二 明二四、一〇、生、愛媛、近藤貞次郎二男、醫學士
 婦 房子 片山省七五女

君は徳島縣人近藤廣平の長男にして安政六年十一月を以て生れ大正六年家督を相続と共に前名儀一郎を改め襲名す家督にして徳島縣多額納稅者たり家族は尙孫平一郎(大九、一、二生、養子精二長男)同善同一、八、生、同長女)同廣子(同一三、九、生、同二女)あり庶子信太郎(明二五、八、生)は其生母徳島縣人小杉イチの養子となれり(徳島、阿波、市場町)

近藤 文太郎 近藤土木(資)代表社員、土木建築
 妻 芳枝 明二六、四生、慶應義塾大學理財科出身
 男 芳枝 明三三、二生、正八位、豫備陸軍少尉、鳥取高等農業學校出身
 男 正造 明三五、七生、東京帝國大學工學部出身

君は鳥取縣人近藤喜八郎の四男にして同喜兵衛の弟なり明治二十年十月を以て生れ同三十年分家して一家を創立す現時に慶應義塾に學び現時前掲會社の重役たり家族は尙孫芳枝(大一一、二、生、長男芳枝一男)あり二女麗子(明三〇、七、生)は香川縣人安藤昌三に嫁せり(鳥取、日野、根雨村)

近藤 棟一 正八位、後備陸軍砲兵少尉、近藤
 妻 つま 明二四、一〇、生、東京、寺田春助妹
 男 一彦 明四〇、八生
 女 良子 明四二、一〇、生

當家は三河國碧海郡中養村に於て二百有餘年同代々醫を以て業としたる舊家なり父良薫祖父安仲に就き醫を學び維新前上京福澤諭吉に師事し後獨逸に航してドクトルの學位を受け明治五年横濱市に開業し同地刀圭界に令名ありき君は其長男にして明治十三年十月を以て生れ同三十五年家督を相続す現に陸軍士官學校を卒業し陸軍砲兵少尉に任じ同四十二年豫備役被仰付祖業を繼承す近藤病院を經營し又地主として知らるる家族は尙二男正二(大二、三、生)三男三郎(同四、六、生)二女澄子(同一五、一〇、生)あり姉小篠(明一〇、一、一、生、大分、藤内應學校出身)は同夫與十(文久、一、一、生、大分、藤内應學校)及其一男二女と共に弟高三(明二五、一、二、生、慶應義塾理財科出身)も亦同妻八重子(同三七、一、二、生、東京、小島完吉二女)を伴ひ各分家し同善二(同一八、七、生、醫學士)も亦分家し醫學博士田村昌雄志を迎へ妹久(同二二、九、生、横濱フエリス女學校出身)は奈良縣人萬喜八郎に養子田鶴(同三四、四、生、分家養兄與十二女)は東京府人世良延雄に嫁せり(東京、本郷、西片町一〇)

近藤 彌重 立花屋 呉服商
 妻 けい 明二一、三、生、近藤賢二女
 君は埼玉縣人村田利重の弟にして明治十六年十一月を以て生れ大正二年先代けいの入夫となり家督を相続す立花屋と稱し呉服商を營む家族は尙長女やよ(大二三、三、生)二女弘(同五、一、一、生)あり(東京、本郷、駒込東片町一〇七電小石川二二六)

近藤 有曾 日本勸業銀行(株)大阪支店長
 妻 妙子 明二五、五、生、東京、上野政雄長女
 君は群馬縣人近藤忠一の二男にして明治十五年五月を以て生れる同四十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時日本勸業銀行大阪支店長たり家族は尙長女三保子(大一一、〇、七、生)二女佐恵子(同一二、九、生)三女千香子(同一五、三、生)兄良吉(明一一、二、二、生、現戶主)あり妹さく(同一七、六、生)は東京府人原新助に嫁せり(大阪、日本勸業銀行大阪支店内)

近藤 松右衛門 農業者
 祖母 みね 慶應元、二生、愛知、太田貞成妹
 養母 さく 明一〇、七、生、愛知、平松伊助長女
 君は愛知縣人久野藤助の五男にして明治四十四年八月を以て生れ後ち先代精一の養子となり大正六年家督を相続す農業者を營む家族は尙叔母徳全(明一七、三、生)あり同鈴江(同三二、二、生)は愛知縣人磯部光治に嫁し叔父同鈴江(同二六、一、〇、生)は同妻りやう(同三二、一、一、生、父鐵二(同二六、一、〇、生)は同妻りやう(同三二、一、一、生、愛知、荒川仁三郎長女)を伴ひ分家せり(名古屋、南、瑞穂町井戸田一八六電南一九二八)

近藤 基樹 從三位勳一等功四級、工學博士、海軍造船中將、攻玉社社長
 妻 鐵子 明二六、六、生、東京、奥村段武長女
 男 雅樹 明二五、三、生
 男 信子 明三一、一〇、生、二男雅樹妻、熊本、細川興生長女
 男 信夫 明三三、二、生

君は舊志摩國鳥羽藩臣攻玉社社長近藤眞琴の長男にして元治元年三月を以て生れ明治二十年家督を相続す同十六年工部大學校同二十三年英國威爾海軍大學校を卒業し同年海軍大技士に任じ大正三年海軍造船中將に累進す其間駐英造船監督官兼政本部第三部長代理海軍艦

近藤 豐 愛知縣多額納稅者、土木建築請負
 妻 きん 明二七、一、生、岐阜、佐藤二作妹
 男 桂造 大七、七、生

君は愛知縣人近藤儀兵衛の四男にして明治十七年二月を以て生れ同三十九年分家して一家を創立す土木建築請負業を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尙二男義男

近藤 松太郎 愛知縣多額納稅者、三津濱銀行(株)取締役、三津濱魚市場、今出銀行各(株)監査役、呉服商
 妻 イシ 明三、九、生、愛媛、近藤貞次郎妹
 養子 量 明一七、一〇、生、愛媛、小池爲藏二男
 婦 ヒサエ 明一九、一、生、養子量妻、愛媛、近藤貞次郎二女
 孫 良敏 明四〇、六、生、養子量長男
 君は愛媛縣人小池四郎兵衛の五男にして文久三年三月を以て生れ近藤家の養子となり同二十九年家督を相続す呉服商を營み前記會社の重役にして愛媛縣多額納稅者たり家族は尙孫俊三(大二、三、生、養子量三男)同敦子(同五、三、生、同長女)同博(同七、二、生、同四男)同昭賢(昭元、一、二、生、同五男)あり(愛媛、温泉、三津濱町) 参照 近藤貞次郎近藤正平近藤廣平近藤島居居庄 近藤彌三郎の項

近藤 豐 愛知縣多額納稅者、土木建築請負
 妻 きん 明二七、一、生、岐阜、佐藤二作妹
 男 桂造 大七、七、生

君は愛知縣人近藤儀兵衛の四男にして明治十七年二月を以て生れ同三十九年分家して一家を創立す土木建築請負業を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尙二男義男

近藤 豐 愛知縣多額納稅者、土木建築請負
 妻 きん 明二七、一、生、岐阜、佐藤二作妹
 男 桂造 大七、七、生

君は愛知縣人近藤儀兵衛の四男にして明治十七年二月を以て生れ同三十九年分家して一家を創立す土木建築請負業を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尙二男義男

(大九、一一生)庶子とし子(同三、九生、生母、愛知、篠田わい)あり妹あきを(明二、一一生)は愛知縣人野野仙太郎に嫁せり(名古屋、西、千歳町四八電番一八六七)

近藤 與吉

愛媛縣多額納稅者、農業
祖父 與平、天保一、二生
母 ハツ 文久三、一一生、祖父與平長女
妻 イト 明二五、一〇生、愛媛、合田好松
長女、長崎縣立高等女學校出身
男 幸文 大元、一一生、愛媛縣立宇摩高等
女 明久 女學校在學

近藤 宗治郎

製織業
京都府在籍
母 ヨネ 明元、一〇生、京都、湯淺專太郎姉
妻 テル 明二八、四生、京都、奥井庄吉二女
君は京都府人先代與宗治郎の長男にして明治二十四年十一月を以て生れ大正五年家督を相続し現名として前名宗治郎を改む製織業を営む家族は尙長女佳子(大元、四生)二女庸子(同八、一一生)の外妹フク(明三三、一一生)同夫國三郎(同二六、三生、京都、原野傳兵衛弟)及其一男一女並に弟豊(同四二、一一生)あり同喜三郎(同二八、五生)は其妻定(同三三、三生、京都、岩井熊次郎長女)を伴ひ分家せり(京都、下京、烏丸通五條下大路町三六七電下一四五〇)

近藤 洋二

信友商店(株)取締役
愛知縣在籍
父 友右衛門 明七、八生、現戶主
君は愛知縣人近藤友右衛門の二男にして明治三十三年

近藤 文麿

從三位、公爵、爵香間候、貴族院議員、宗秩寮審議官、東亞同文會副會長、東亞同文書院會長、度支那協會會長、舊公卿家
母 貞子 明四、六生、侯爵前田利爲養叔母
妻 千代子 明二九、一一生、子爵毛利高範二女、學藝院女學部出身
男 文 隆 大元、四生

近藤 文麿

當家は織原原鎌足十七世の孫關白忠通の長男基實の後なり基實始めて近衛と稱すそれより世々藤氏の嫡流五攝家の筆頭として二十三世を経て先代篤磨に至り明治十七年公爵を授けらる篤磨風に獨逸に留學し歸來學習院長貴族院議員の重職に任じ又帝國教育會會長東亞同文會會長として朝野の重望を負へり君は篤磨の長男にして明治二十四年十月を以て生れ同三十七年襲爵仰付けらる大正六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し貴族院議員にして研究會に屬し華界の新人たり家族は尙長女昭子(大元、一一生)二女温子(同七、六生)二男通隆(同二一、五生)弟直廣(明三三、八生)養叔母秀山(同五、一一生)、子爵清岡長吉(同三〇、二生)は公爵大山柏に叔母泰子(慶應三、九生)は公爵德川家達に嫁し弟秀磨(明三一、一一生)は子爵を授けられて一家を創立し同忠磨(同三五、八生)は叔父父爵水谷川忠磨の養子となり襲爵し叔父忠磨(同五、三生)は常磐井家の當主たり(東京市外落合町下落合四三七電牛込二二八)

近藤 文麿

當家は織原原鎌足十七世の孫關白忠通の長男基實の後なり基實始めて近衛と稱すそれより世々藤氏の嫡流五攝家の筆頭として二十三世を経て先代篤磨に至り明治十七年公爵を授けらる篤磨風に獨逸に留學し歸來學習院長貴族院議員の重職に任じ又帝國教育會會長東亞同文會會長として朝野の重望を負へり君は篤磨の長男にして明治二十四年十月を以て生れ同三十七年襲爵仰付けらる大正六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し貴族院議員にして研究會に屬し華界の新人たり家族は尙長女昭子(大元、一一生)二女温子(同七、六生)二男通隆(同二一、五生)弟直廣(明三三、八生)養叔母秀山(同五、一一生)、子爵清岡長吉(同三〇、二生)は公爵大山柏に叔母泰子(慶應三、九生)は公爵德川家達に嫁し弟秀磨(明三一、一一生)は子爵を授けられて一家を創立し同忠磨(同三五、八生)は叔父父爵水谷川忠磨の養子となり襲爵し叔父忠磨(同五、三生)は常磐井家の當主たり(東京市外落合町下落合四三七電牛込二二八)

近藤 文麿

當家は織原原鎌足十七世の孫關白忠通の長男基實の後なり基實始めて近衛と稱すそれより世々藤氏の嫡流五攝家の筆頭として二十三世を経て先代篤磨に至り明治十七年公爵を授けらる篤磨風に獨逸に留學し歸來學習院長貴族院議員の重職に任じ又帝國教育會會長東亞同文會會長として朝野の重望を負へり君は篤磨の長男にして明治二十四年十月を以て生れ同三十七年襲爵仰付けらる大正六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し貴族院議員にして研究會に屬し華界の新人たり家族は尙長女昭子(大元、一一生)二女温子(同七、六生)二男通隆(同二一、五生)弟直廣(明三三、八生)養叔母秀山(同五、一一生)、子爵清岡長吉(同三〇、二生)は公爵大山柏に叔母泰子(慶應三、九生)は公爵德川家達に嫁し弟秀磨(明三一、一一生)は子爵を授けられて一家を創立し同忠磨(同三五、八生)は叔父父爵水谷川忠磨の養子となり襲爵し叔父忠磨(同五、三生)は常磐井家の當主たり(東京市外落合町下落合四三七電牛込二二八)

近藤 文麿

當家は織原原鎌足十七世の孫關白忠通の長男基實の後なり基實始めて近衛と稱すそれより世々藤氏の嫡流五攝家の筆頭として二十三世を経て先代篤磨に至り明治十七年公爵を授けらる篤磨風に獨逸に留學し歸來學習院長貴族院議員の重職に任じ又帝國教育會會長東亞同文會會長として朝野の重望を負へり君は篤磨の長男にして明治二十四年十月を以て生れ同三十七年襲爵仰付けらる大正六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し貴族院議員にして研究會に屬し華界の新人たり家族は尙長女昭子(大元、一一生)二女温子(同七、六生)二男通隆(同二一、五生)弟直廣(明三三、八生)養叔母秀山(同五、一一生)、子爵清岡長吉(同三〇、二生)は公爵大山柏に叔母泰子(慶應三、九生)は公爵德川家達に嫁し弟秀磨(明三一、一一生)は子爵を授けられて一家を創立し同忠磨(同三五、八生)は叔父父爵水谷川忠磨の養子となり襲爵し叔父忠磨(同五、三生)は常磐井家の當主たり(東京市外落合町下落合四三七電牛込二二八)

近藤 文麿

當家は織原原鎌足十七世の孫關白忠通の長男基實の後なり基實始めて近衛と稱すそれより世々藤氏の嫡流五攝家の筆頭として二十三世を経て先代篤磨に至り明治十七年公爵を授けらる篤磨風に獨逸に留學し歸來學習院長貴族院議員の重職に任じ又帝國教育會會長東亞同文會會長として朝野の重望を負へり君は篤磨の長男にして明治二十四年十月を以て生れ同三十七年襲爵仰付けらる大正六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し貴族院議員にして研究會に屬し華界の新人たり家族は尙長女昭子(大元、一一生)二女温子(同七、六生)二男通隆(同二一、五生)弟直廣(明三三、八生)養叔母秀山(同五、一一生)、子爵清岡長吉(同三〇、二生)は公爵大山柏に叔母泰子(慶應三、九生)は公爵德川家達に嫁し弟秀磨(明三一、一一生)は子爵を授けられて一家を創立し同忠磨(同三五、八生)は叔父父爵水谷川忠磨の養子となり襲爵し叔父忠磨(同五、三生)は常磐井家の當主たり(東京市外落合町下落合四三七電牛込二二八)

二月を以て生れ慶應義塾大學に學び現時信友商店取締役にして大正十四年以來商業視察の爲滯英す(名古屋、東、白壁町三丁目電東一六六)

近藤 義太郎

浪速貿易商會、諸機械商
新潟縣在籍
父 義門 嘉永三、一一生、新潟、近藤三省十
妻 キミエ 明一九、一一生、兵庫、士、寺島ノ
男 義郎 明四二、二生

近藤 利兵衛

東京府多額納稅者、近藤利兵衛商店(株)社長、國華火災保險(株)監査役、蜂須賀酒發賣元、東京府在籍
妻 富子 明二九、一一生、養父利兵衛四女、東京女學館出身
男 利郎 大元、一〇生、五生

近藤 利兵衛

近藤家は四代前近藤野野村に土着して農を營みたるが先々代利兵衛に江戸に出で、日本橋に酒屋を開業す是れ當家の源流なり先代利兵衛よく其後を承け自製花魁酒を發賣し又神谷傳兵衛と協力して蜂須賀酒酒の醸造販賣に成功せり君は福島縣人故自井遠平の六男にして自井傳之同五郎の弟中澤彦雄の叔父なり明治十九年三月を以て生れ先代利兵衛の養子となり大正八年家督相続と共に襲名して前名六郎を改む慶應義塾理財科を卒業し多年歸郷に留學歸朝後専ら先代の遺業を継ぎ洋酒商を營み蜂須賀酒發賣元として知らる現に東京府多額納稅者にして前記諸會社の重役たり家族は

近藤 秀磨

正五位、子爵
近衛公卿家分家
君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

尙長女千鶴子(大八、一一生)二男利夫(同二、四生)三女伊都子(昭二、九生)養妹智恵子(明三八、八生、東京女學館出身)あり同茂子(同二四、六生、伯爵佐野常羽)は分家し同保子(同三一、七生)も亦其夫七郎(同二一、六生、父遠平七男、農學士)と共に分家し同貞子(同三二、一一生、東京女學館出身)は子爵土岐章に同久子(同三六、五生、出身校同上)は實業家淺野健一郎六男義夫に嫁せり(東京、日本橋、本町二ノ九電日本橋自三二一三二三四)

近藤 廉治

東京商業貿易、尾三電力、小松製作所、甲子不動産各(株)取締役、東京計器(株)監査役、東京府華族
妻 泰子 明二八、一一生、伯爵山崎山愛輔長女、學習院女學部出身
男 尚徳 大元、一一生

近藤 廉治

君は故男爵近藤廉平の五男明治二十四年九月を以て生る大正三年東京高等工業學校機械科を卒業し米國に渡航して機械學を研究し歸朝後見滋瀧の關係会社に勤務し又横濱船渠會社重役たりしも現時前記會社の重役たり家族は尙長女多恵子(大七、一〇生)三男英男(同二一、四生)兄滋瀧(明一五、九生、現戶主)あり養子文紀(大一二、三生、東京、土、橋口兼清)は故子爵黒田清輝の死跡を相続せり(東京、麹町、永田町二ノ一電銀座二五八)

近藤 秀磨

伯備山愛輔、子爵黒田文紀、男爵近藤滋瀧
※伯備山杉憲章※大久保利武※橋本敬之※濱口清※町田吹吉の項

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

近藤 秀磨

君は公爵近衛文麿の弟にして男爵水谷川忠磨の兄男爵常磐井亮の男なり明治三十一年十一月を以て生れ大正八年一家を創立し特旨を以て華族に列し子爵を授けらる同年學習院高等科を卒業して東京帝國大學文部大學に學び同十一年獨逸に留學して音樂理論及管絃樂を研究し其間英佛伊等各地の樂界を視察して同十三年歸朝

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

近藤 親吉

鐵道商工會議所會頭、南滿精米、鐵道公益信託、滿洲製粉、木材各(株)社長、鐵道證券信託、滿洲織布、奉天信託各(株)取締役、滿洲織商品陳列館、九州骨粉肥料、滿洲證券各(株)監査役、山梨縣在籍

妻 トキエ 明一七、一一生、愛媛、太田如知君は山梨縣人星野久四郎の二男にして慶應二年一月を以て生れ明治十七年先代奉吉の養子となり同年家督を相繼す現時鐵道商工會議所會頭に於て前記諸會社の重役たり(南滿洲、鐵道元町)

權田 悅藏 日本木管(株)代表取締役、大日本木管工業、日本紡織用品各(株)常務取締役、久住電業(株)取締役大阪府在籍

權藤 傳次 正四位勳三等功三級、豫備陸軍中將、宮崎縣士族

權野 健三 東洋棉花、上海紡織各(株)取締役大阪府在籍

五月女倉藏 栃木縣多額納稅者、土木建築請負業、栃木縣在籍

サ之部

左右田信二郎 左右田企業(株)社長、横濱商品倉庫、横濱新倉庫各(株)取締役、左右田銀行、岡本銀行、太平火災海上保險各(株)監査役、神奈川縣在籍

左右田良三 左右田銀行、横濱商品倉庫(株)取締役、京濱土地(株)監査役、神奈川縣在籍

左乙女謙吉 帝國製紙(株)秘書役、債務部長、東京府士族

權藤 米藏 北野銀行(株)取締役、福岡縣士族

權野 健三 東洋棉花、上海紡織各(株)取締役大阪府在籍

左近司政三 正五位勳三等、海軍少將、海軍省軍務局長、東京府在籍

左治木清七 長野縣多額納稅者、長野商工會議所副會頭、醸造業、長野縣在籍

左乙女謙吉 帝國製紙(株)秘書役、債務部長、東京府士族

左乙女謙吉 帝國製紙(株)秘書役、債務部長、東京府士族

佐川 延治

山口縣多額納稅者、醬油商
山口縣土族
妻 明元、七生、山口、土、藤井伊兵衛妹
男 重五郎 明二〇、五生、現戸主
男 益次郎 明二四、一、二生
男 喜六郎 明三五、二生
女 セツ 明四〇、七生

佐木熊四郎

東京精米(株)取締役、鑛業
岡山縣在籍
妻 民子 明一五、六生、東京、南庭三長女
男 周夫 明三八、四生
男 秋夫 明三九、一、一生
女 豊 明四二、一生

佐久間 詮

安田銀行(株)東京精糖店主査
東京府在籍
妻 とみ 明一〇、三、東京、伊藤藤吉姉
男 孝 明三八、九生、法政大學專門部出身
女 富美子 明四二、七生、日本女子大學校英
文科在學

佐久間 衡治

秀英會(株)支配人兼商務部長
長野縣在籍
妻 ゆき 明一〇、一〇生、長野、飯井功叔
男 慶太郎 大元、一〇生
女 操子 明四一、九生

佐久間 哲郎

萬活土地起業株常務取締役
長野縣在籍
妻 かつ 明九、一〇生、福岡、石松彦六二
女 敏郎 明二七、一生
男 敏郎 明二九、一、二生、長男敏郎妻、千
葉、石井米太郎三女

佐久間 哲郎

萬活土地起業株常務取締役
長野縣在籍
妻 かつ 明九、一〇生、福岡、石松彦六二
女 敏郎 明二七、一生
男 敏郎 明二九、一、二生、長男敏郎妻、千
葉、石井米太郎三女

佐久間 貞男

東京府土族
妻 安政元、三、東京、土、保田金
三郎長女
明一九、七生、福井、和田維四郎
長女

佐久間 俊吉

岐阜縣多額納稅者、絹絲紡績商
岐阜縣在籍
妻 つや 明二七、九生、岐阜、長谷川良次
男 正秋 大五、一〇生
女 悦 明四三、一、一生

佐久間 心一郎

日本火災保險、東京アルカリ工業
各株取締役、兵庫縣在籍
妻 吉 嘉永四、一、一生、現戸主
男 志郎 明二〇、一、一生、東京、渡邊素妹
女 美佐 明四三、一、一生

佐久間 信

千葉縣多額納稅者
千葉縣在籍
妻 はな 明二八、三、生
女 富美子 明三八、九生、法政大學專門部出身
文科在學

佐久間 辰二

從五位勳五等、判事、大分地方裁
判所部長、三重縣土族
妻 きく 明二二、五、生、三重、土、大竹鐵
吉二女
女 富美子 明二二、五、生、三重、土、大竹鐵
吉二女

佐久間 帶刀

千葉縣多額納稅者、農業
千葉縣在籍
妻 はま 明六、五、生、千葉、遠山寛養子
男 靜 明二二、一、一生
女 のぶ 明二八、六、生、長男靜妻、千葉、
永野徳祐妹
女 やよ 明二五、七、生

佐久間 哲郎

萬活土地起業株常務取締役
長野縣在籍
妻 かつ 明九、一〇生、福岡、石松彦六二
女 敏郎 明二七、一生
男 敏郎 明二九、一、二生、長男敏郎妻、千
葉、石井米太郎三女

佐久間 藤吉

高根屋、魚類商
東京府在籍
妻 まさ 明八、一、生、東京、中島平兵衛妹
男 正吉 大一一、一、生、亡長男藤之助長男
明三三、一、一生
女 スズ 明三五、二、生、二男長妻、東京、
石原修吉養妹
女 春子 明三八、四、生、日本橋高等女學校
出身
女 富美子 明四〇、四、生

佐久間 徳三郎

金融業
東京府在籍
妻 きを 明一九、五、生、東京、室田半之助
姉
男 治康 明四一、八、生

佐久間 俊一

正四位、伯爵、七十七銀行、東洋
殖産各株取締役、日本放送協會
東北支部長、宮城縣土族
妻 正子 明一七、一、一生、石川、勝尾信彦
妹 明三六、八、生、從五位
女 辰雄 明四三、六、生

佐久間 久夫

佐久間製菓(株)社長、製菓業
東京府在籍
妻 さと 明四四、三、生、繼母さく私生子
明二六、四、生、千葉、山田竹三三
女 明二六、四、生、千葉、山田竹三三

佐久間平三郎

福島縣多額納稅者、白河商業銀行、白河電燈各(株)取締役、二本松銀行、白河鐵道、白清館各(株)監査役、金物商、福島縣在籍。安政三、六生、福島、遠見春吉長

佐久間政一

正五位勳六等、第二高等學校教授、千葉縣士族。文久三、二生、千葉、士、久代二

佐倉千吉

佐倉金庫店(株)専務取締役。東倉庫在籍。明三、二生、養父千吉長女

佐々木市造

室蘭市會議員、北海自動車(株)代表取締役、請負業、北海道在籍。明三、七生、養父市造長女

佐々木市太郎

秋田縣人吹浦磯吉の長男にして明治四年四月を以て生れ先代市造の養子となり同三十五年家を相続し

佐々木市右衛門

岩手縣多額納稅者、瀧澤商會事務、農業者、岩手縣在籍。安政四、三生、岩手、高橋榮八二

佐々清市

愛知縣多額納稅者。明一八、一生、愛知、加藤幸左衛門二女

佐久間義三

文運堂(株)取締役兼營業部長、大日本船隻、山本保全各(株)取締役。東京府士族。明三、七生、東京、山本留次四

佐口榮

正五位、金澤醫科大學教授。正五位、九生、現戸主

佐倉千吉

東倉庫在籍。明三、二生、養父千吉長女

佐々木市造

室蘭市會議員、北海自動車(株)代表取締役、請負業、北海道在籍。明三、七生、養父市造長女

佐々木市太郎

秋田縣人吹浦磯吉の長男にして明治四年四月を以て生れ先代市造の養子となり同三十五年家を相続し

佐々木市右衛門

岩手縣多額納稅者、瀧澤商會事務、農業者、岩手縣在籍。安政四、三生、岩手、高橋榮八二

佐々清市

愛知縣多額納稅者。明一八、一生、愛知、加藤幸左衛門二女

佐古たね

兵庫縣在籍。明三、六、二生、現戸主

佐香源一

正六位勳六等、地方技師、大阪府。明二、七生、徳島、保科彦三郎

佐郷榮一

第一銀行(株)深川支店支配人。東京府士族。明三、二生、群馬、松田豊次郎

(兼印は姻族關係)

右衛門を改む農業を営み現時津浦商會社取締役にして...

佐々木卯作

大分縣多額納稅者、農業

君は宮城縣人佐々木吉右衛門の長男にして安政五年八月...

佐々木卯太郎

岩手縣多額納稅者、第九十銀行、盛岡貯蓄銀行、盛岡倉庫、盛岡信託各(株)取締役、小間物洋品商、岩手縣在籍

君は岩手縣人先代卯太郎の長男にして同仙助の養明なり...

佐々木榮介

宮城縣多額納稅者、宮城縣農工銀行、江合水電、宮城送電興業、東北板紙、仙北鐵道各(株)取締役、仙北信託(株)監査役、宮城縣在籍

君は長野縣人先代喜助の長男にして明治十三年十二月...

佐々木喜代治

秋田縣多額納稅者、植田銀行、横莊鐵道、横手織物各(株)取締役、秋田縣在籍

君は秋田縣人佐々木文左衛門の三男にして安政三年五月...

佐々木吉郎右衛門

秋田縣多額納稅者、農業

君は宮城縣人佐々木吉右衛門の長男にして安政五年八月...

君は青森縣人佐々木眞平の長男にして先代嘉太郎の孫...

佐々木嘉吉

大日本特許肥料(株)常務取締役

君は東京府士族農學博士佐々木善次郎の三男にして明治...

佐々木嘉太郎

青森縣多額納稅者、佐々木銀行(株)頭取、第五十九銀行、五所川原銀行、津輕酒造、弘前電燈、青森電燈各(株)取締役、青森縣在籍

君は秋田縣人先代吉郎右衛門の長男にして元治元年一月...

佐々木久二

衆議院議員、福井縣選出、京濱電力(株)常務取締役、中央電力、北電力、千曲川電力各(株)取締役、福井縣在籍

君は福井縣人佐々木又左衛門の二男にして明治十一年...

佐々木清麿

東洋生命保險(株)取締役、朝鮮興業(株)監査役、三重縣在籍

住職たり君は先代狂介の弟にして慶應二年八月を以て...

君は和歌山縣人佐々木眞平の長男にして先代嘉太郎の孫...

佐々木紀綱

臺灣鳳梨罐詰、臺灣製鹽、臺灣煉瓦各(株)社長、臺灣製糖、臺灣合電、拓殖各(株)監査役、和歌山縣士族

君は和歌山縣人佐々木眞平の長男にして先代嘉太郎の孫...

佐々木喜助

岩手縣多額納稅者、合融業

君は岩手縣人佐々木喜代治の長男にして明治十二年一月...